

江戸時代の動物観 - 『誹風柳多留』を中心に -

筑波大学

図書館情報メディア研究科

2018年9月

横田 茜

## 目次

1 研究背景・目的 .....	5
2 先行研究 .....	5
3 研究对象・方法 .....	6
4 結果 .....	8
1 篇 .....	9
2 篇 .....	11
3 篇 .....	13
4 篇 .....	15
5 篇 .....	17
7 篇 .....	19
8 篇 .....	21
9 篇 .....	23
10 篇 .....	25
11 篇 .....	27
12 篇 .....	29
13 篇 .....	31
14 篇 .....	33
15 篇 .....	35
16 篇 .....	37
17 篇 .....	39
18 篇 .....	41
19 篇 .....	43
20 篇 .....	45
21 篇 .....	47
22 篇 .....	49
23 篇 .....	51
24 篇 .....	53
25 篇 .....	55
26 篇 .....	56
27 篇 .....	59
28 篇 .....	61
29 篇 .....	63
30 篇 .....	65

31 篇	67
33 篇	68
36 篇	70
41 篇	73
47 篇	75
49 篇	77
50 篇	79
59 篇	80
63 篇	82
65 篇	84
67 篇	87
69 篇	89
70 篇	91
71 篇	92
72 篇	95
73 篇	97
74 篇	99
76 篇	100
79 篇	103
82 篇	105
89 篇	106
92 篇	109
97 篇	111
106 篇	113
110 篇	115
112 篇	117
116 篇	119
121 篇	120
129 篇	123
138 篇	125
143 篇	127
145 篇	129
146 篇	131
5 考察	133
5.1 詠まれた動物の種類	133

5.2 多く詠まれた動物.....	134
6 結論.....	137
7 参考文献.....	137
付録 川柳一覧.....	138
1 篇.....	138
2 篇.....	140
3 篇.....	141
4 篇.....	142
5 篇.....	143
7 篇.....	144
8 篇.....	145
9 篇.....	146
10 篇.....	147
11 篇.....	148
12 篇.....	149
13 篇.....	150
14 篇.....	152
15 篇.....	153
16 篇.....	154
17 篇.....	156
18 篇.....	157
19 篇.....	158
20 篇.....	160
21 篇.....	161
22 篇.....	162
23 篇.....	164
24 篇.....	165
25 篇.....	166
26 篇.....	168
27 篇.....	170
28 篇.....	172
29 篇.....	174
30 篇.....	176
31 篇.....	177
33 篇.....	179

36 篇	181
41 篇	183
47 篇	185
49 篇	186
50 篇	188
59 篇	190
63 篇	192
65 篇	194
67 篇	196
69 篇	198
70 篇	199
71 篇	200
72 篇	203
73 篇	205
74 篇	208
76 篇	210
79 篇	212
82 篇	215
89 篇	217
92 篇	219
97 篇	221
106 篇	223
110 篇	225
112 篇	228
116 篇	230
121 篇	232
129 篇	234
138 篇	236
143 篇	238
145 篇	240
146 篇	242

## 1 研究背景・目的

江戸時代は、人と動物との関係に変化のあった時代である。

自然という視点から見ると、古代、中世が自然優位の時代であったのに対して、近現代では人間の力の増大が顕著となる。そして近世は、この両者の間に位置づけられ、人間の力が自然の力に対抗できるまで増大した時代である<sup>1</sup>。現代から見ると、江戸時代の都市は自然に溢れているように感じられるが、実際は、人の手の加わっていない全き自然は存在しない。徹底的に、人工的に整備されている<sup>23</sup>。このような状況の中で、動物と人との関係も変化していった。例えば、18世紀以降、鳥や虫などの野生動物をペットとして飼育することが社会の広い層で盛んになるが、このことには、都市生活が野生の動物との接触機会を薄くしていたことの代償を求めて、という要素もあったと考えられる。自然の人間生活への取り込みであったとともに、自然のままの動物との交歓を願ってのものであった可能性があるのである<sup>4</sup>。

また、西欧から新たな動物を見る視点が輸入されたのも、この時代であった。博物学がもたらされたことによって、科学的な見方を取り入れて、動物としてあるがままに見る動物観が普及するのである<sup>5</sup>。

例えば江戸中期には、それまでとは違う形態の動物画が描かれるようになった。それまでは、決められた花鳥を図面に配置する花鳥画が主であったが、写生を重視した動物画が描かれるようになる。西欧から博物学がもたらされたことによって、写生・観察対象としての動物、という視点が現れたのである<sup>6</sup>。

ではこのように変化する状況の中で、一般の人々は、動物とどのように関わっていたのだろうか。その一端を明らかにしたいと考える。

## 2 先行研究

まず、江戸時代の人と動物との関わりについての研究は、塚本学の『江戸時代人と動物』<sup>7</sup>が挙げられる。この研究は、江戸時代の人々がどのような動物とどのように関わっていたのかを明らかにしている。

次に、川柳から読み取ることができる江戸の庶民文化についての研究は、渡辺信一郎の

---

<sup>1</sup>水本邦彦.人々の営みと近世の自然.吉川弘文館,2013,288p.

<sup>2</sup>田中優子.”江戸の自然”.つくられた自然.小森陽一編.岩波書店,2003,p.43-66.

<sup>3</sup>青木宏一郎.江戸時代の自然.都市文化社,1999,299p.

<sup>4</sup>塚本学.”江戸の風流一虫とりの愛好文化”.鳥かご・虫かごー風流と美のかたち.大西成明編. INAX 出版,1996,

<sup>5</sup>白幡洋三郎.”日本文化の中の動物”.動物文化と表象.奥野卓司編. 岩波書店,2009,p.175-191.

<sup>6</sup>今橋理子.江戸の動物画. 東京大学出版,2004,344p.

<sup>7</sup>塚本学.江戸時代人と動物.日本エディタースクール出版部,1995,328p.

『江戸の知られざる風俗』<sup>8</sup>、『江戸川柳』<sup>9</sup>がある。こちらは、川柳の例を数多く挙げながら、江戸の庶民の日常生活を描き出した研究である。また動物についても、『江戸川柳』の中に「生物を見つめる博物詩」という章があり、動物を詠んだいくつかの川柳について、解説している。

最後に、川柳から見る江戸時代の動物観についての研究として、安田容子の「川柳にみる江戸時代の人と野生動物観」<sup>10</sup>を挙げる。ここでは、『誹風柳多留』に収録された川柳を中心に、錦絵などの絵画と合わせて見ることで、江戸時代の人々が野生動物をどのように見、表現したか、ということを示している。特に、狼、熊、狐と狸、猪の五種についての動物観について、川柳や錦絵の作品を示しながら概説し、江戸時代の人々が野生動物を人にはない力をもった恐ろしい存在と認識しながら、一方では擬人化し、親しみのあるキャラクターとしてのイメージを持っていた、と結論付けている。この研究においては、動物への視点の経年変化や、野生動物以外の動物については考察されていない。

このように、江戸時代の動物観についての研究は、ある程度進んでいるが、一つの史料を網羅的に調べた研究や、年代による変化についての研究はなされていない。

### 3 研究対象・方法

『誹風柳多留』を対象とした文献調査を行う。『誹風柳多留』は、明和二年（1765）から天保十一年（1840）にかけて編纂された川柳集である。川柳とは、一七音を基準として機智的な表現によって、人事、風俗、世相などを鋭くとらえた短詩型文学<sup>11</sup>で、江戸時代の中期頃から爆発的に流行した。和歌や俳諧が主に「晴」の世界を詠題としているのに対し、川柳は「褻」の世界、つまり人間生活には不可欠であっても決して公表しない部分、閨房や排泄などを奔放に描いている。川柳には当時の庶民の生活の種々相が表れており、風俗史の資料としては絶好のもの<sup>12</sup>である。

この『誹風柳多留』の中から、動物の詠み込まれている句を調査し、当時の人々と動物との関わり方や、その変化について考察する。年ごとの変化を見るため、調査するのは一年につき一篇とし、同年に何篇も刊行されている場合は、最初に刊行された1篇のみを調査する。『誹風柳多留』のそれぞれの篇の刊行年は、以下の通りである。

---

<sup>8</sup>渡辺信一郎.江戸の知られざる風俗. 筑摩書房,2001,238p.

<sup>9</sup>渡辺信一郎.江戸川柳. 岩波書店,1998年,222p.

<sup>10</sup> 安田容子.”川柳にみる江戸時代の人と野生動物観”.動物反乱と森の崩壊. 森林環境研究会.朝日新聞社,2007,p.102-112.

<sup>11</sup>日本大辞典刊行会.日本国語大辞典.第2版,小学館,2002,

<sup>12</sup>渡辺信一郎.江戸川柳. 岩波書店,1998年,222p.

篇	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
刊行年	1764	1767	1768	1769	1771	1771	1772	1773	1774	1775	1776
篇	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
刊行年	1777	1778	1779	1780	1781	1782	1783	1784	1785	1786	1788
篇	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
刊行年	1789	1791	1794	1796	1798	1799	1800	1804	1805	1805	1806
篇	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44
刊行年	1806	1806	1807	1807	1807	1807	1807	1808	1808	1808	1808
篇	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55
刊行年	1808	1808	1809	1809	1810	1811	1811	1811	1811	1811	1811
篇	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66
刊行年	1811	1811	1811	1812	1812	1812	1812	1813	1813	1814	1814
篇	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77
刊行年	1815	1815	1817	1818	1819	1820	1821	1822	1822	1823	1823
篇	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88
刊行年	1823	1824	1824	1824	1825	1825	1825	1825	1825	1825	1825
篇	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99
刊行年	1826	1826	1826	1827	1827	1827	1827	1827	1828	1828	1828
篇	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110
刊行年	1828	1828	1828	1828	1828	1828	1829	1829	1829	1829	1830
篇	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121
刊行年	1830	1831	1831	1831	1831	1832	1832	1832	1832	1832	1833
篇	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132
刊行年	1833	1833	1833	1833	1833	1833	1833	1834	1834	1834	1834
篇	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143
刊行年	1834	1834	1834	1834	1834	1835	1835	1835	1835	1835	1836
篇	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154
刊行年	1846	1837	1838	1838	1838	1838	1838	1838	1838	1838	1838
篇	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165
刊行年	1838	1838	1838	1838	1838	1838	1838	1838	1838	1838	1838
篇	166	167									
刊行年	1838	1838									

取り上げるのは、動物が読み込まれている句である。動物の加工品（鯉節等）、動物に関する動作や行動（落馬や狐釣り等）、動物を扱う職業（馬士や魚屋等）については除外した。



また想像上の動物については、当時の一般的な百科事典である『和漢三才図会』<sup>13 14</sup>に収録されている物を取り上げている。

#### 4 結果

調査した篇の川柳に表れる動物の種類と数は、以下の通りであった。集計する際、単純に毛の色が違うのみと考えられる動物は一つにまとめ（例えばシロネコはネコ、クロイヌはイヌとして集計する）、別の生き物を指す可能性がある動物（クロネズミとシロネズミ等）は別の動物として集計した。

---

<sup>13</sup>寺島良安.和漢三才図会 6.平凡社,1987,388p.

<sup>14</sup>寺島良安.和漢三才図会 7.平凡社,1987,442p.

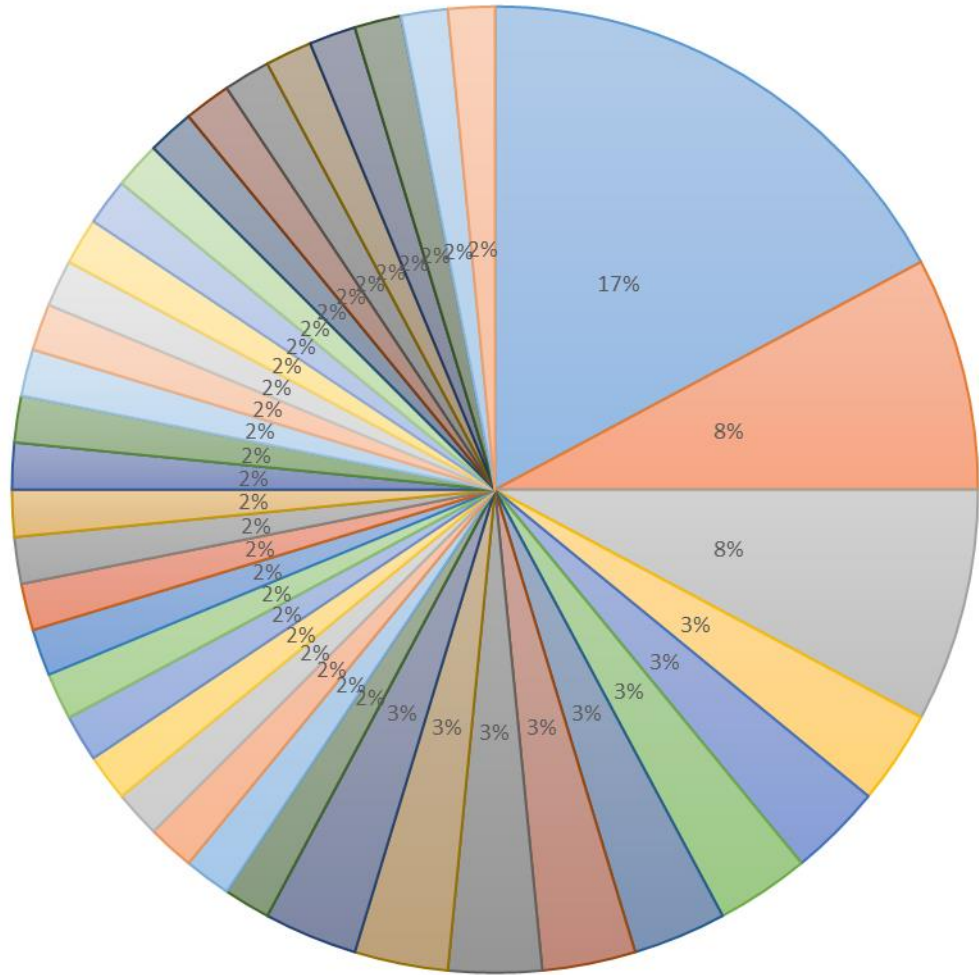
1 篇

1 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、1 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

1篇(1765年)	
動物	数
ウマ	11
イヌ	5
カツオ	5
ウシ	2
カ	2
キツネ	2
スッポン	2
ツル	2
ネコ	2
ハエ	2
フグ	2
アカンボ	1
アサリ	1
アブラムシ	1
アリ	1
ウ	1
ウナギ	1
カイ	1
カエル	1
カニ	1
カモ	1
ケムシ	1
シジミ	1
シラウオ	1
セミ	1
タヌキ	1
ドジョウ	1
トンボ	1
ニワトリ	1
ネズミ	1
ノミ	1
ハジロ	1
ブタ	1
フナ	1
ホタル	1
ホトギス	1
ムクドリ	1
ワニ	1
計38種	64

篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
1	756	64	8.5

1篇に表れる動物



- |       |       |        |         |        |         |        |        |
|-------|-------|--------|---------|--------|---------|--------|--------|
| ■ ウマ  | ■ イヌ  | ■ カツオ  | ■ ウシ    | ■ カ    | ■ キツネ   | ■ スッポン | ■ ツル   |
| ■ ネコ  | ■ ハエ  | ■ フグ   | ■ アカトンボ | ■ アサリ  | ■ アブラムシ | ■ アリ   | ■ ウ    |
| ■ ウナギ | ■ カイ  | ■ カエル  | ■ カニ    | ■ カモ   | ■ ケムシ   | ■ シジミ  | ■ シラウオ |
| ■ セミ  | ■ タヌキ | ■ ドジョウ | ■ トンボ   | ■ ニワトリ | ■ ネズミ   | ■ ノミ   | ■ ハジロ  |
| ■ ブタ  | ■ フナ  | ■ ホタル  | ■ ホトギス  | ■ ムクドリ | ■ ワニ    |        |        |

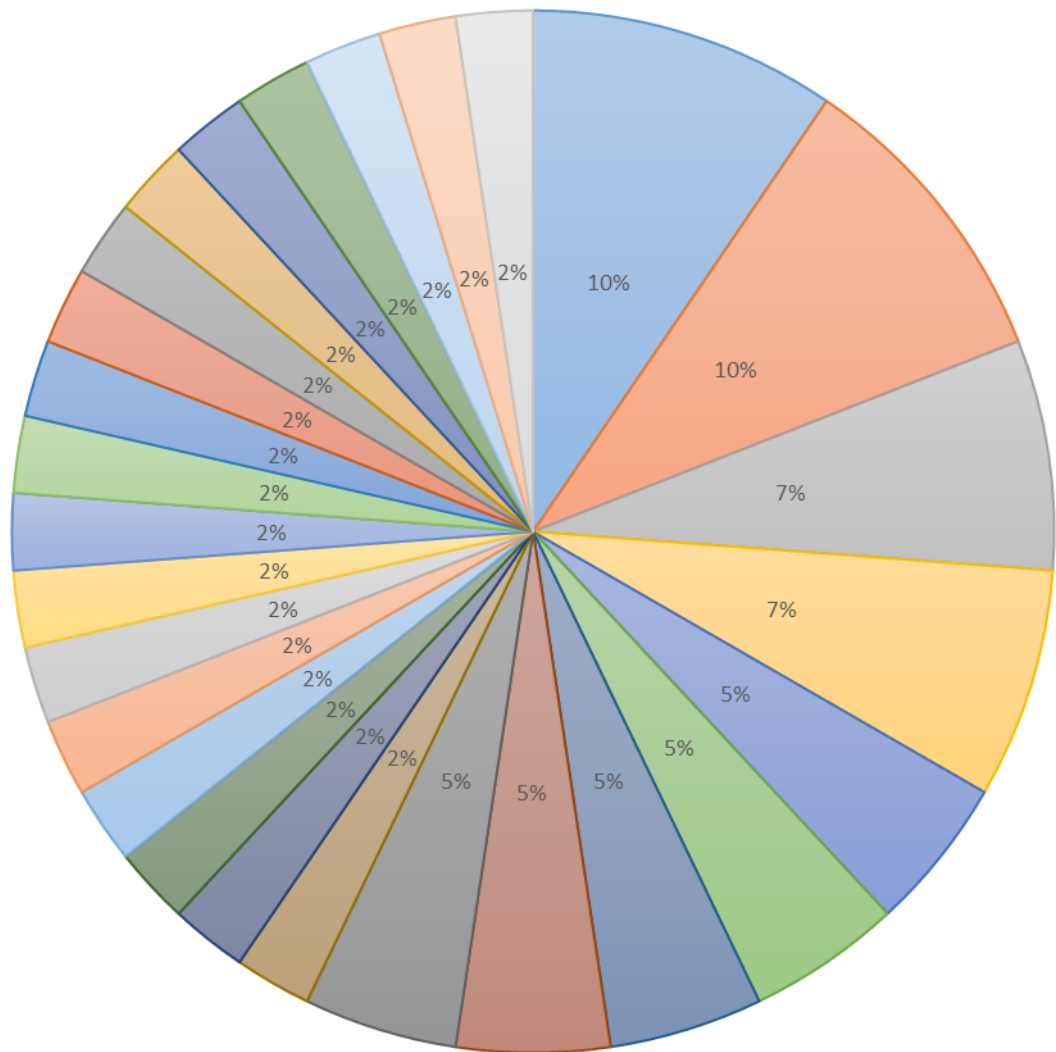
上記から、ウマやイヌ、ウシ等の家畜、食料であるカツオが多く詠まれていることが分かる。

## 2 篇

2 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、2 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

2篇(1767年)					
動物	数				
ウマ	4				
カツオ	4				
ネズミ	3				
ハエ	3				
イヌ	2				
キリギリス	2				
クモ	2				
ネコ	2				
ハマグリ	2				
アカカエル	1				
アブラムシ	1				
アリ	1				
ウグイス	1				
カ	1				
カエル	1				
カモメ	1				
ゲジゲジ	1				
ケムシ	1				
シカ	1				
スズメ	1				
セミ	1				
トリ	1				
ニワトリ	1				
ノミ	1				
ヒツジ	1				
ホトギス	1				
ムシ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計27種	42	2	624	42	6.7

2篇に表れる動物



- ウマ ■カツオ ■ネズミ ■ハエ ■イヌ ■キリギリス ■クモ
- ネコ ■ハマグリ ■アカカエル ■アブラムシ ■アリ ■ウグイス ■カ
- カエル ■カモメ ■ゲジゲジ ■ケムシ ■シカ ■スズメ ■セミ
- トリ ■ニワトリ ■ノミ ■ヒツジ ■ホトギス ■ムシ

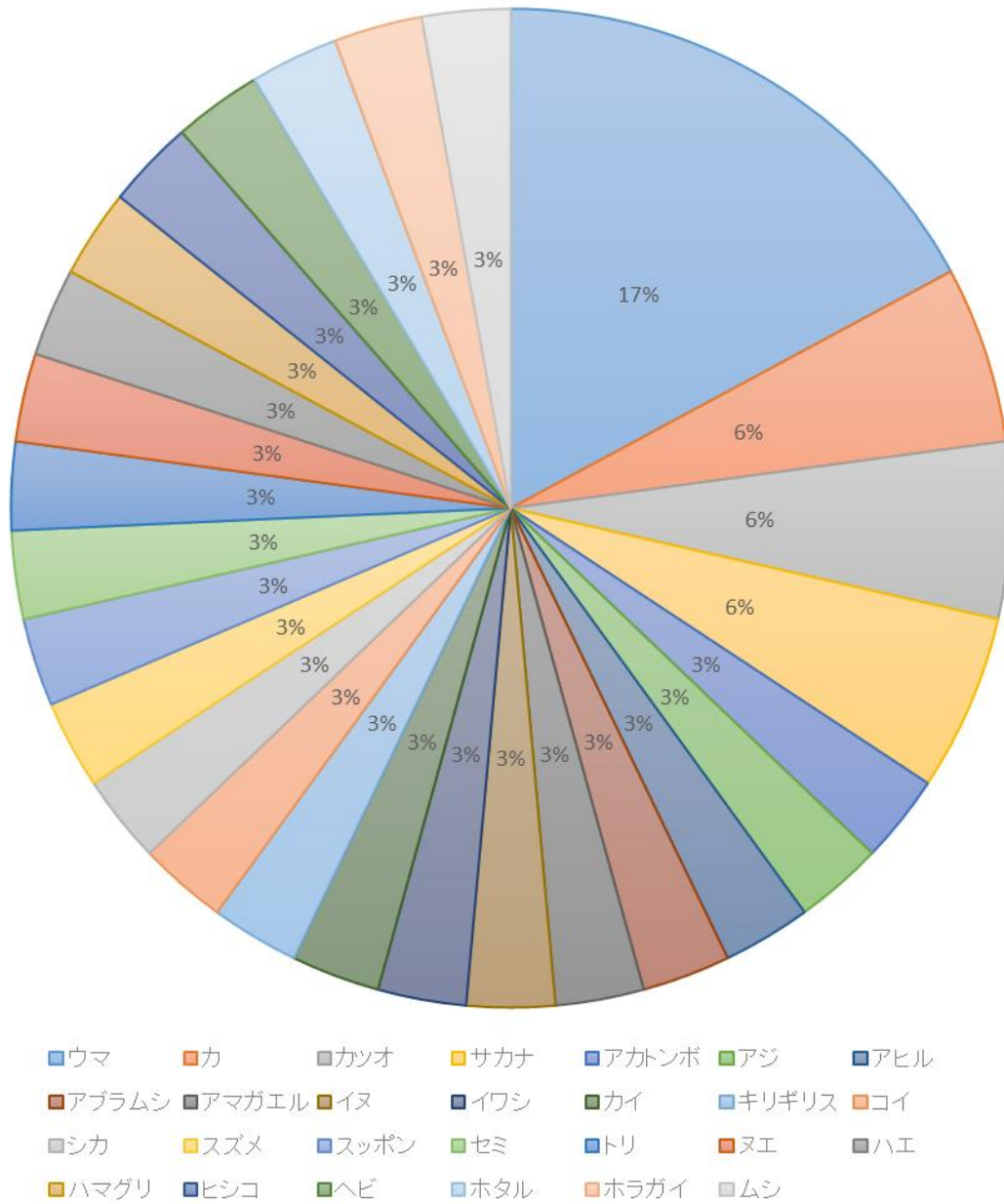
2篇も1篇と同様に家畜であるウマ、食料であるカツオが多く詠まれているが、ウシは詠まれていない。庶民にとって身近な動物であった、イヌやハエの割合が多くなっている。また、動物の種類や動物の詠まれている句の割合が1篇よりやや減り、動物の種類が減っている。

### 3 篇

3 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、3 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

3篇(1768年)					
動物	数				
ウマ	6				
カ	2				
カツオ	2				
サカナ	2				
アカトンボ	1				
アジ	1				
アヒル	1				
アブラムシ	1				
アマガエル	1				
イヌ	1				
イワシ	1				
カイ	1				
キリギリス	1				
コイ	1				
シカ	1				
スズメ	1				
スッポン	1				
セミ	1				
トリ	1				
ヌエ	1				
ハエ	1				
ハマグリ	1				
ヒシコ	1				
ヘビ	1				
ホタル	1				
ホラガイ	1				
ムシ	1				
計27種	35	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
		3	747	35	4.7

3篇に表れる動物



これまでの篇と同様、ウシの数が多く、食料であるカツオやサカナ、身近な動物であるカの割合が多い。それ以外の動物の数は割れている。

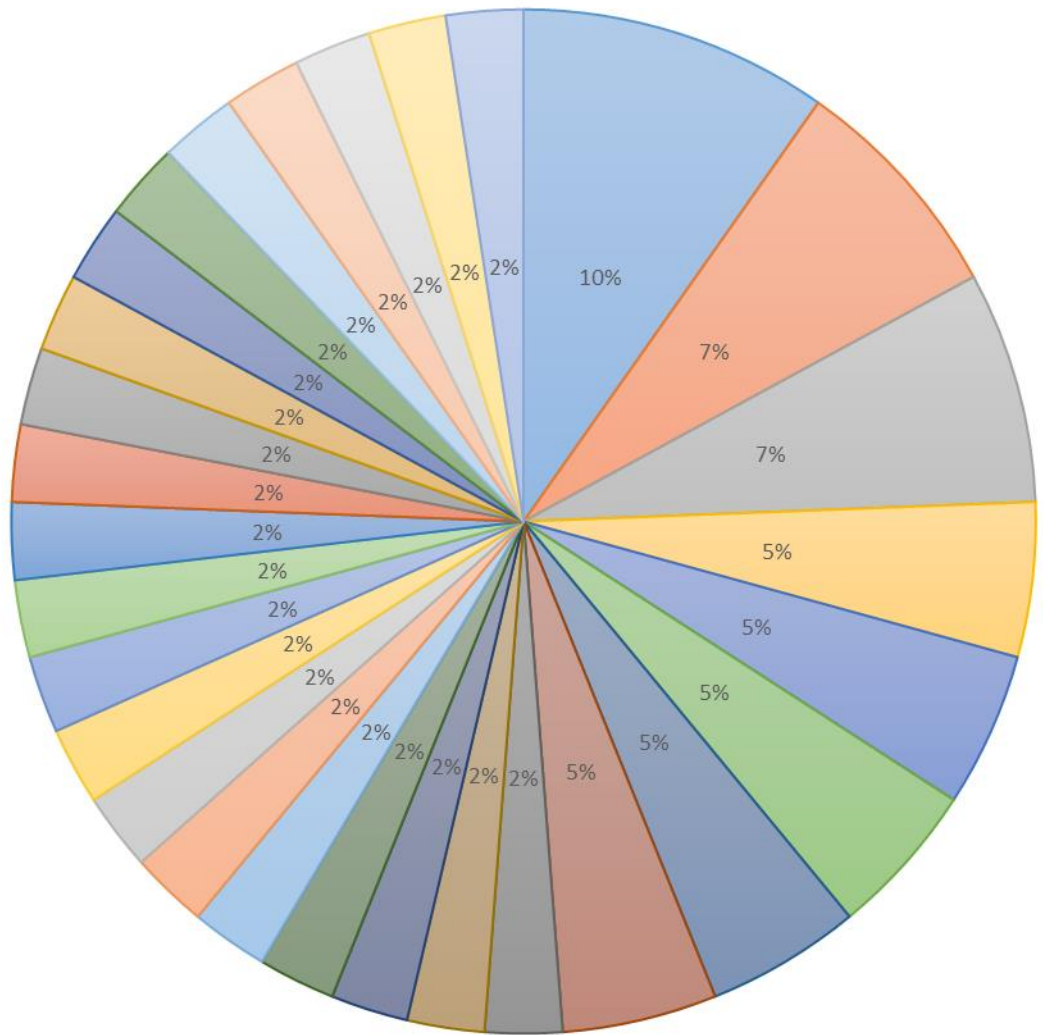
#### 4 篇

4 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、4 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

4篇(1769年)					
動物	数				
ウマ	4				
カツオ	3				
ネコ	3				
アユ	2				
カモ	2				
クツワムシ	2				
トリ	2				
ネズミ	2				
アカガエル	1				
アカハラ	1				
イヌ	1				
イノシシ	1				
ウシ	1				
ウワバミ	1				
カ	1				
ケムシ	1				
コイ	1				
シタビラメ	1				
シラトリ	1				
シラミ	1				
チドリ	1				
チン	1				
トラ	1				
ニワトリ	1				
ブタ	1				
ヘビ	1				
ホトギス	1				
ミヤコドリ	1				
ムシ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計29種	41	4	720	41	5.7



4篇に表れる動物



- |        |        |       |        |      |        |     |       |
|--------|--------|-------|--------|------|--------|-----|-------|
| ■ウマ    | ■カツオ   | ■ネコ   | ■アユ    | ■カモ  | ■クツワムシ | ■トリ | ■ネズミ  |
| ■アカガエル | ■アカハラ  | ■イヌ   | ■イノシシ  | ■ウシ  | ■ウワバミ  | ■カ  | ■ケムシ  |
| ■コイ    | ■シタビラメ | ■シラトリ | ■シラミ   | ■チドリ | ■チン    | ■トラ | ■ニワトリ |
| ■ブタ    | ■ヘビ    | ■ホトギス | ■ミヤコドリ | ■ムシ  |        |     |       |

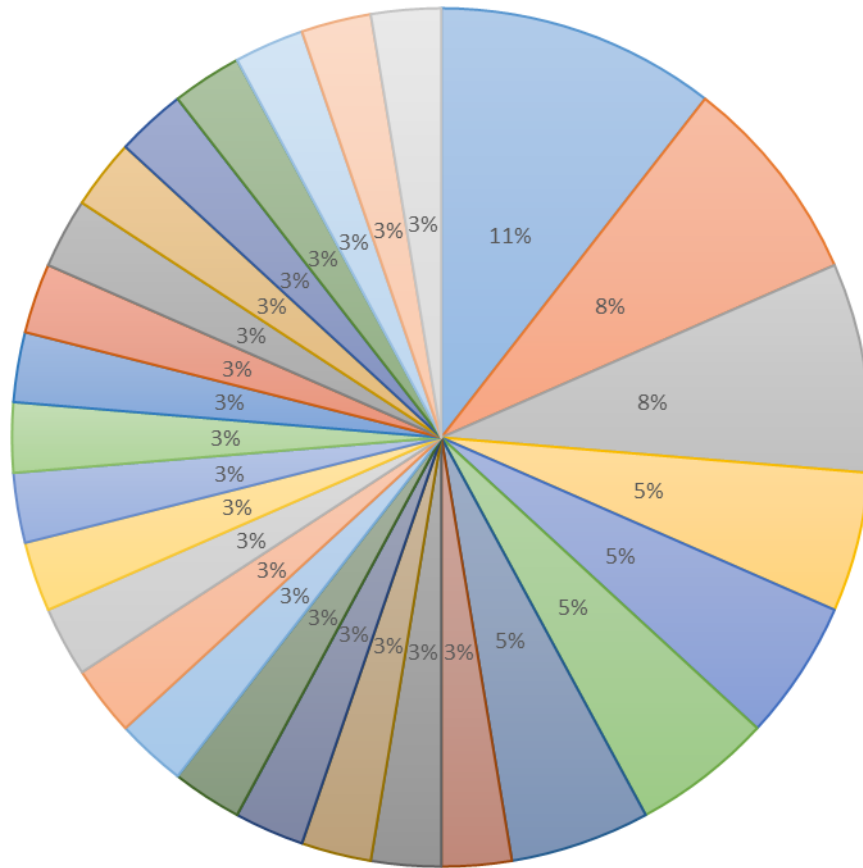
これまでと同様、ウマとカツオの数が多い。また4篇ではペットであるネコと、食料であるアユの数が多くなっている。

5 篇

5 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、5 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

5篇(1771年)					
動物	数				
カツオ	4				
ハマグリ	3				
ホトギス	3				
ウシ	2				
カモ	2				
キリギリス	2				
トリ	2				
イノシシ	1				
ウグイス	1				
ウナギ	1				
ウマ	1				
カ	1				
カイ	1				
クモ	1				
コイ	1				
コウノトリ	1				
コノシロ	1				
スッポン	1				
タヌキ	1				
チドリ	1				
ツル	1				
トラ	1				
トンビ	1				
ナマズ	1				
ネコ	1				
ミミズ	1				
ヨシキリ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計27種	38	5	737	38	5.2

5篇に表れる動物



- |      |       |        |       |      |        |     |
|------|-------|--------|-------|------|--------|-----|
| ■カツオ | ■ハマグリ | ■ホトトギス | ■ウシ   | ■カモ  | ■キリギリス | ■トリ |
| ■イナシ | ■ウグイス | ■ウナギ   | ■ウマ   | ■カ   | ■カイ    | ■クモ |
| ■コイ  | ■コウトリ | ■コシロ   | ■スッポン | ■タヌキ | ■チドリ   | ■ツル |
| ■トラ  | ■トンビ  | ■ナマズ   | ■ネコ   | ■ミミズ | ■ヨシキリ  |     |

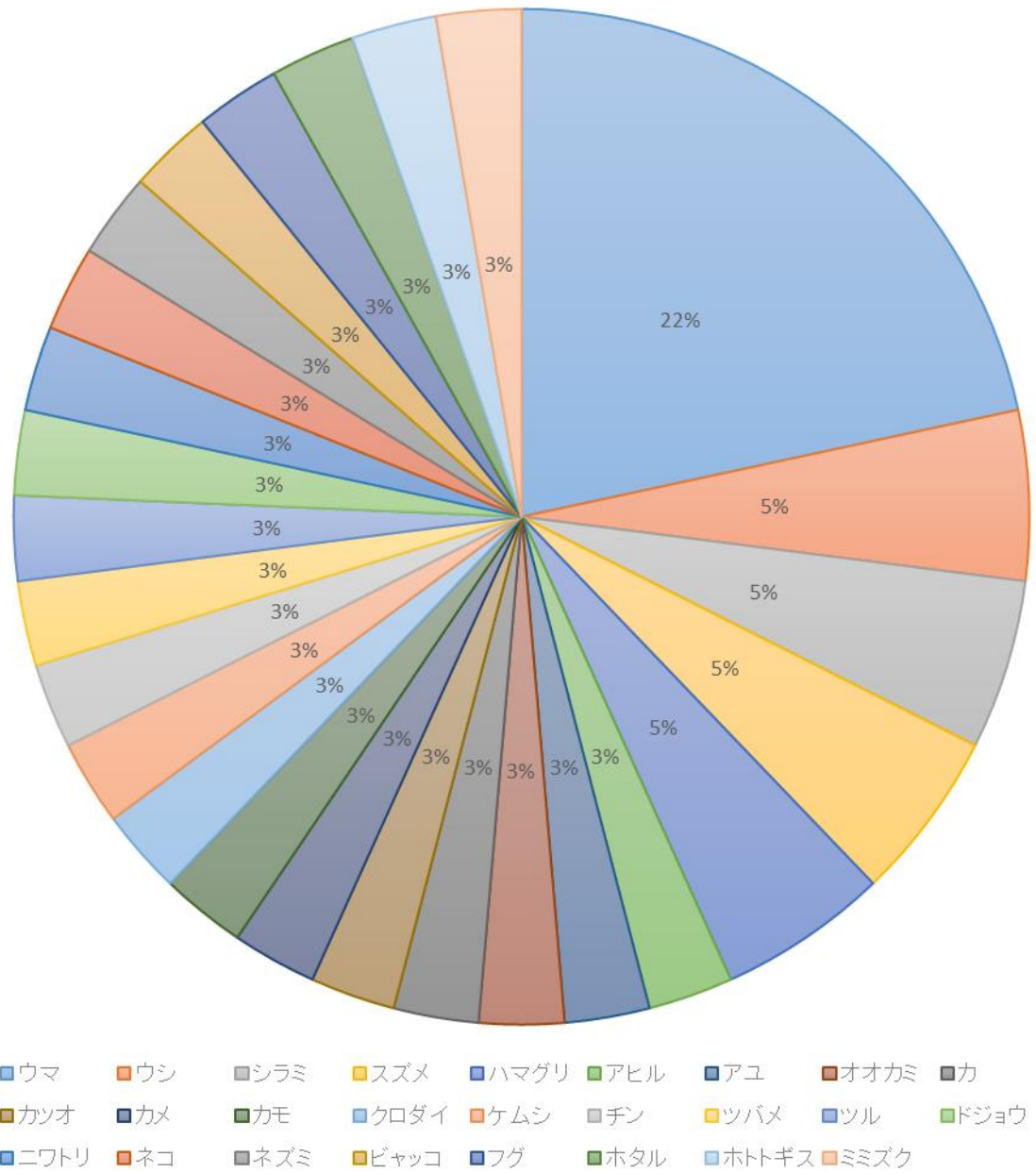
5篇では今まで多かったウマの数が減り、カツオやハマグリといった食料である動物が多くなっている。また文学によく登場するホトトギスの数が増えている。全体的には、詠まれる鳥の種類が多くなっている。

7 篇

7 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、7 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

7篇(1722年)					
動物	数				
ウマ	8				
ウシ	2				
シラミ	2				
スズメ	2				
ハマグリ	2				
アヒル	1				
アユ	1				
オオカミ	1				
カ	1				
カツオ	1				
カメ	1				
カモ	1				
クロダイ	1				
ケムシ	1				
チン	1				
ツバメ	1				
ツル	1				
ドジョウ	1				
ニワトリ	1				
ネコ	1				
ネズミ	1				
ビヤッコ	1				
フグ	1				
ホタル	1				
ホトギス	1				
ミミズク	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計26種	37	7	738	37	5

7篇に表れる動物



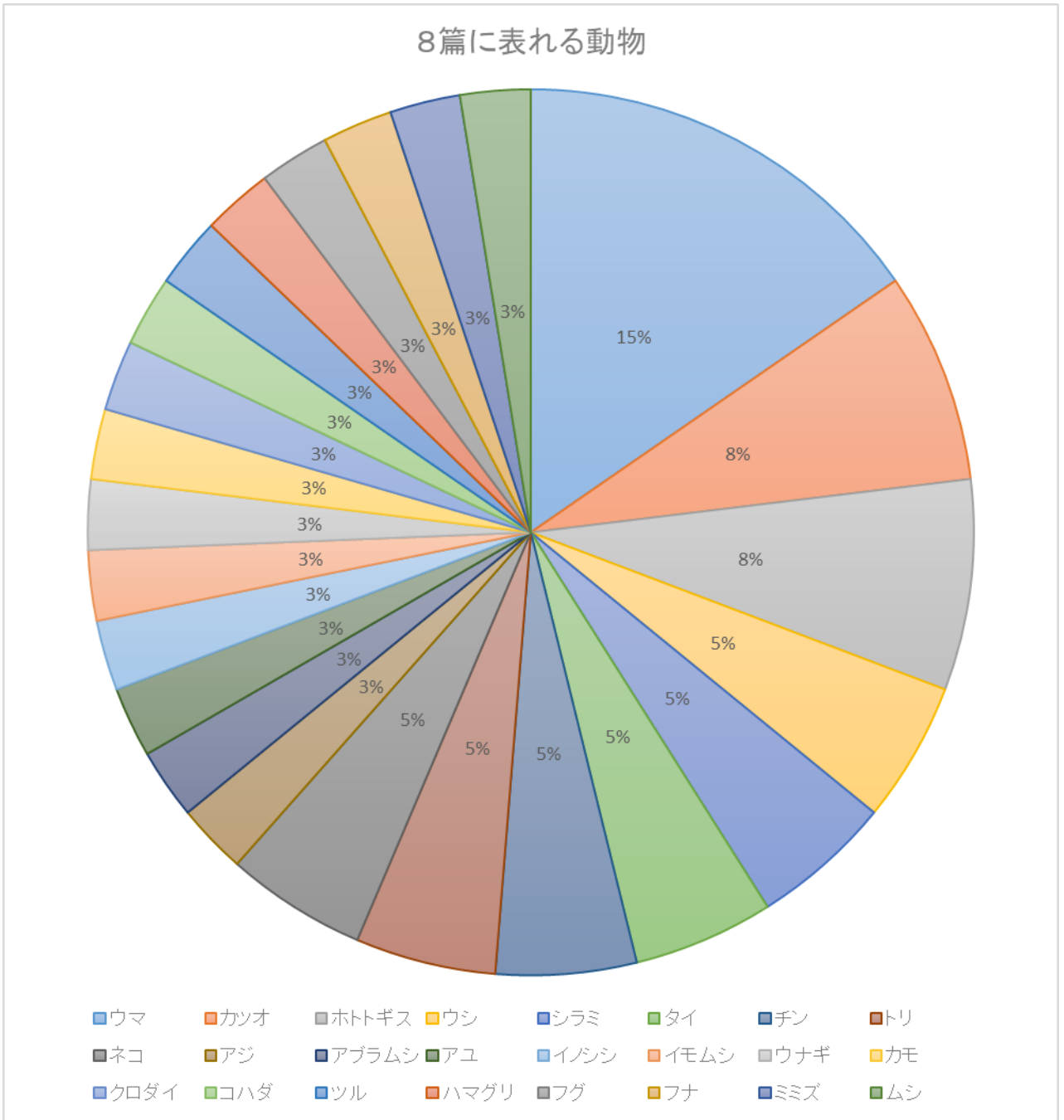
7篇はウマの割合が多くなり、これまで多かったカツオが減る。その他に割合が多いのは、身近な動物であるシラミとスズメ、食料であるハマグリである。7篇はこれまでの篇より、やや表れる動物の割合に偏りがある。

8 篇

8 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、8 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

8篇(1773年)					
動物	数				
ウマ	6				
カツオ	3				
ホトギス	3				
ウシ	2				
シラミ	2				
タイ	2				
チン	2				
トリ	2				
ネコ	2				
アジ	1				
アブラムシ	1				
アユ	1				
イノシシ	1				
イモムシ	1				
ウナギ	1				
カモ	1				
クロダイ	1				
コハダ	1				
ツル	1				
ハマグリ	1				
フグ	1				
フナ	1				
ミミズ	1				
ムシ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計24種	39	8	728	39	5.4

8篇に表れる動物



8篇ではこれまでの篇とほぼ同様に、ウマとカツオ、ホトギスの割合が多くなっている。

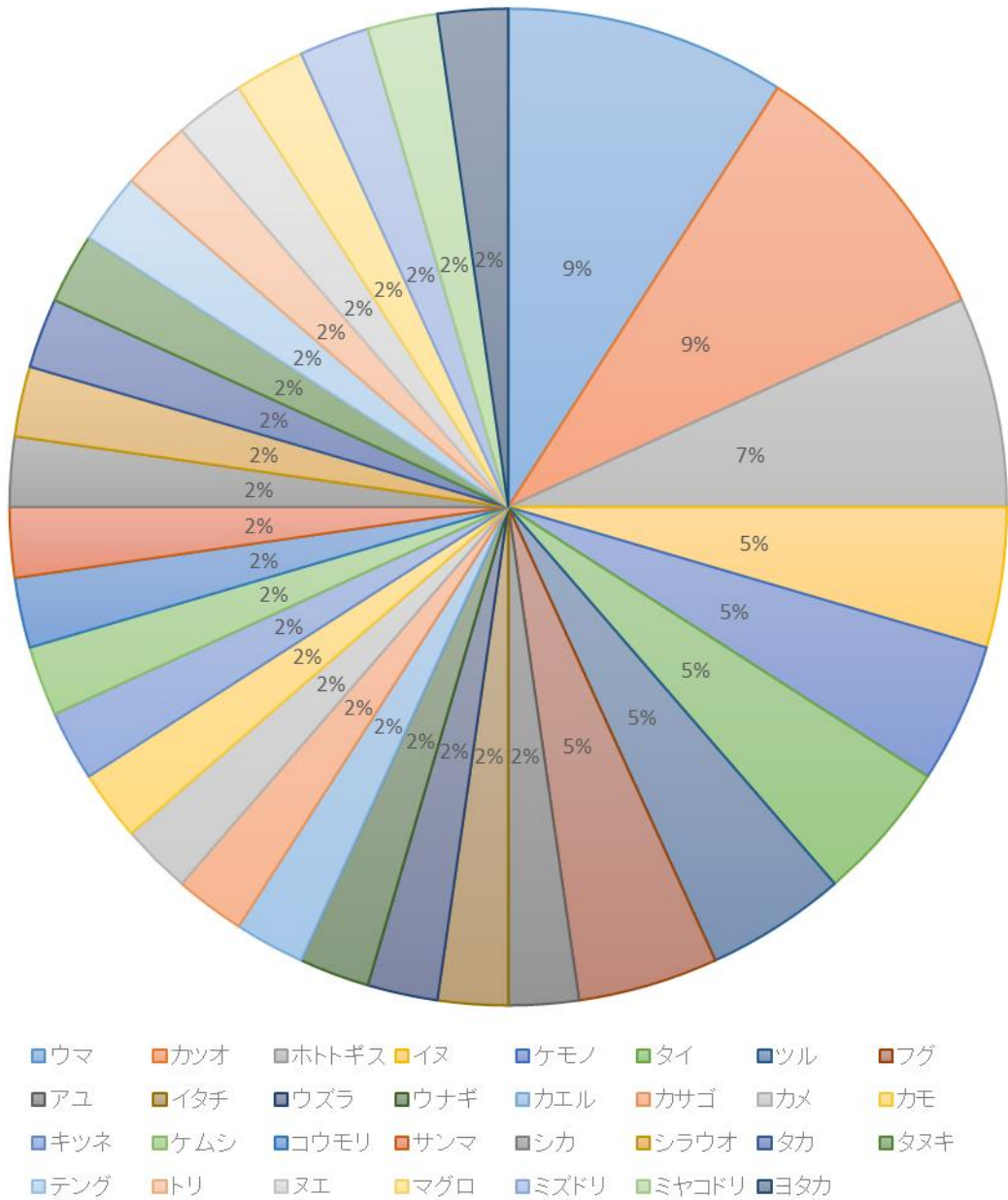
9 篇

9 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、9 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

9篇(1774年)					
動物	数				
ウマ	4				
カツオ	4				
ホトギス	3				
イヌ	2				
ケモノ	2				
タイ	2				
ツル	2				
フグ	2				
アユ	1				
イタチ	1				
ウズラ	1				
ウナギ	1				
カエル	1				
カサゴ	1				
カメ	1				
カモ	1				
キツネ	1				
ケムシ	1				
コウモリ	1				
サンマ	1				
シカ	1				
シラウオ	1				
タカ	1				
タヌキ	1				
テング	1				
トリ	1				
ヌエ	1				
マグロ	1				
ミズドリ	1				
ミヤコドリ	1				
ヨタカ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計31種	44	9	751	44	5.9



9篇に表れる動物



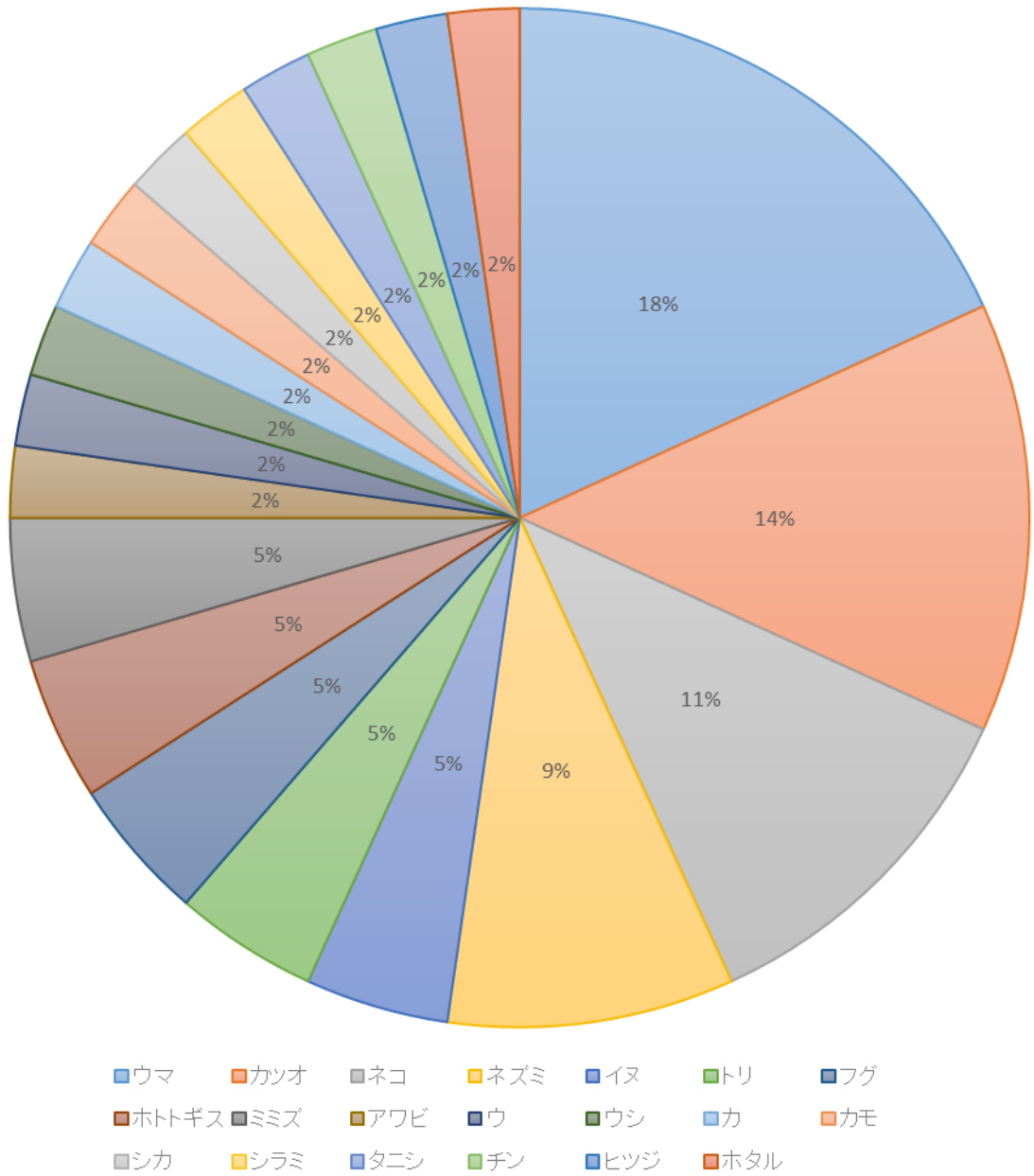
9篇はウマ、カツオ、ホトトギス、イヌの割合が多くなっている。食料であるタイやフグも増えている。また、表れる動物の割合が、これまでより偏りが少なくなっている。

10 篇

10 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、10 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

10篇(1775年)					
動物	数				
ウマ	8				
カツオ	6				
ネコ	5				
ネズミ	4				
イヌ	2				
トリ	2				
フグ	2				
ホトギス	2				
ミミズ	2				
アワビ	1				
ウ	1				
ウシ	1				
カ	1				
カモ	1				
シカ	1				
シラミ	1				
タニシ	1				
チン	1				
ヒツジ	1				
ホタル	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計20種	44	10	711	44	6.7

10篇に表れる動物の割合



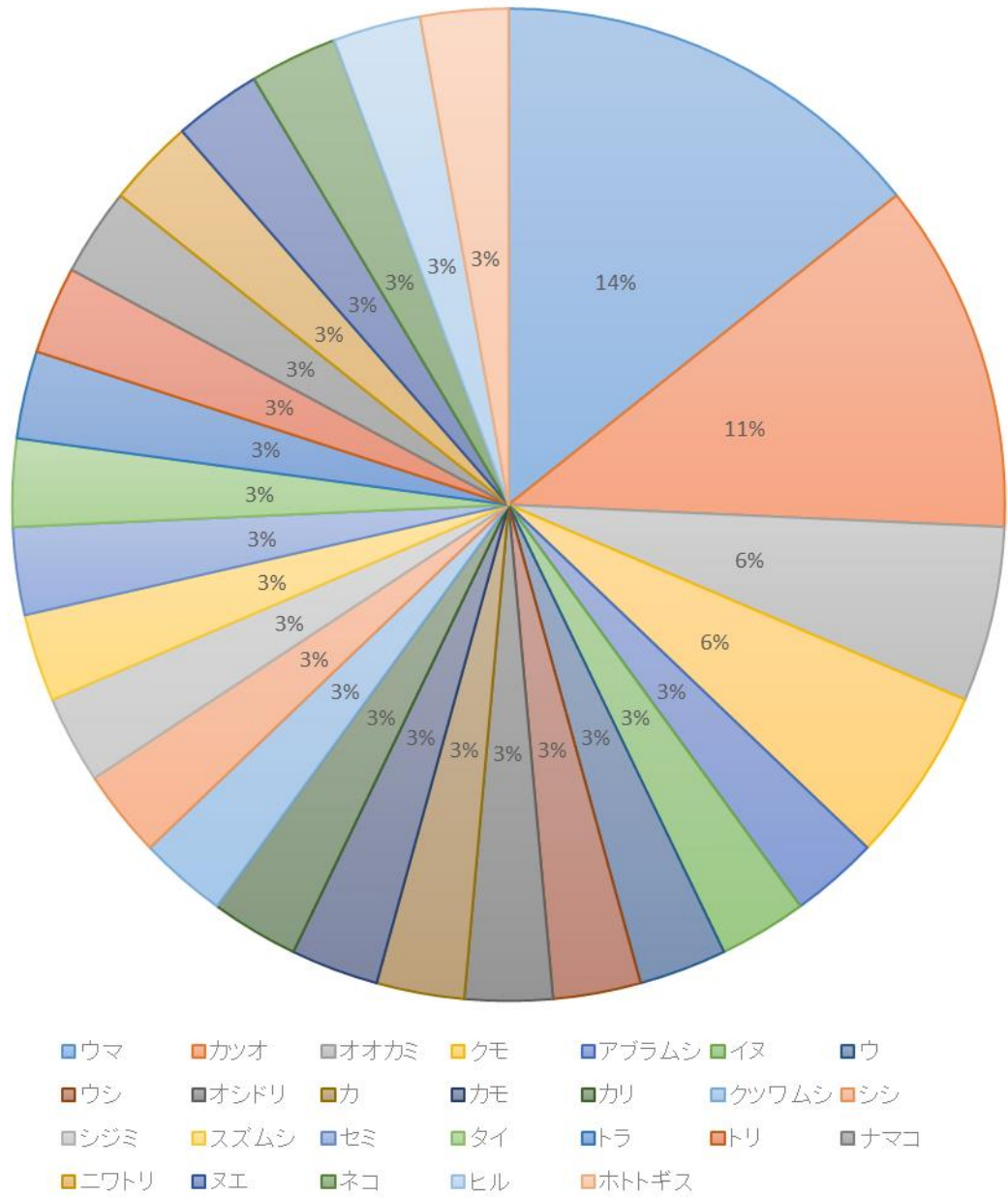
動物が詠まれている句の割合が増えているが、種類は減っている。また、偏りも大きく、ウマが最も割合が多く、カツオ、ネコ、ネズミが続いている。詠まれた割合が多い動物の種類は、これまでとほぼ同様である。

11 篇

11 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、11 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

11篇(1776年)					
動物	数				
ウマ	5				
カツオ	4				
オオカミ	2				
クモ	2				
アブラムシ	1				
イヌ	1				
ウ	1				
ウシ	1				
オシドリ	1				
カ	1				
カモ	1				
カリ	1				
クツワムシ	1				
シシ	1				
シジミ	1				
スズムシ	1				
セミ	1				
タイ	1				
トラ	1				
トリ	1				
ナマコ	1				
ニワトリ	1				
ヌエ	1				
ネコ	1				
ヒル	1				
ホトトギス	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計26種	35	11	745	35	4.7

11篇に表れる動物



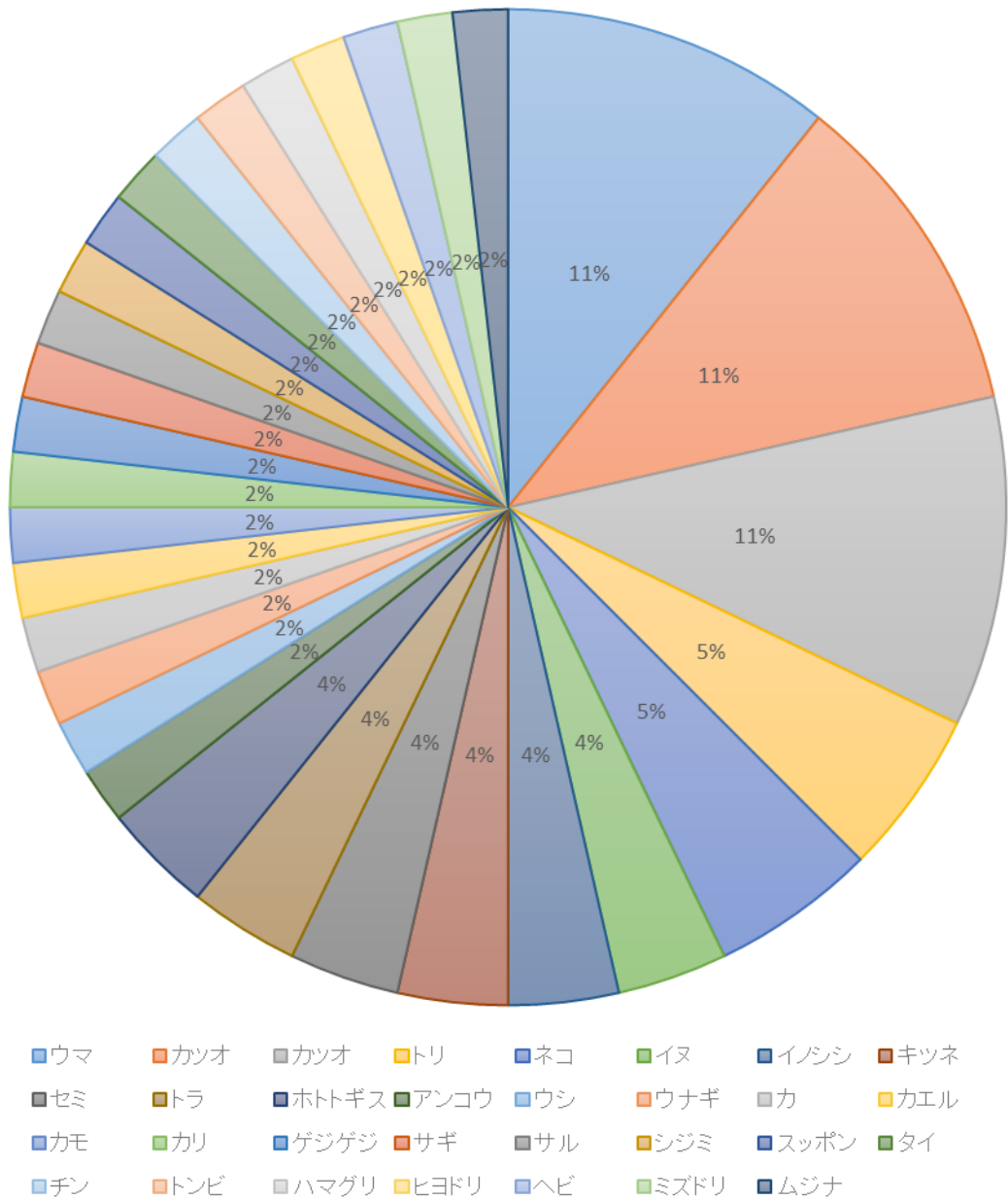
詠まれた動物の種類、動物が詠まれた句の割合がやや少ない。割合は、これまでとほぼ同様、ウマやカツオが多い。

12 篇

12 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、12 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

12篇(1777年)								
動物	数							
ウマ	6							
カツオ	6							
トリ	3							
ネコ	3							
イヌ	2							
イノシシ	2							
キツネ	2							
セミ	2							
トラ	2							
ホトギス	2							
アッコウ	1							
ウシ	1							
ウナギ	1							
カ	1							
カエル	1							
カモ	1							
カリ	1							
ゲジゲジ	1							
サギ	1							
サル	1							
シジミ	1							
スッポン	1							
タイ	1							
チン	1							
トンビ	1							
ハマグリ	1							
ヒヨドリ	1							
ヘビ	1							
ミズドリ	1							
ムジナ	1							
計30種	50	12 篇	全句数	763	動物が詠まれている句	50	割合(%)	6.6

12篇に表れる動物



動物が詠まれている句の割合、数が増えている。詠まれている動物の割合は、これまでとほぼ同様、ウマとカツオが多くなっているが、それ以外の動物の割合は割れている。

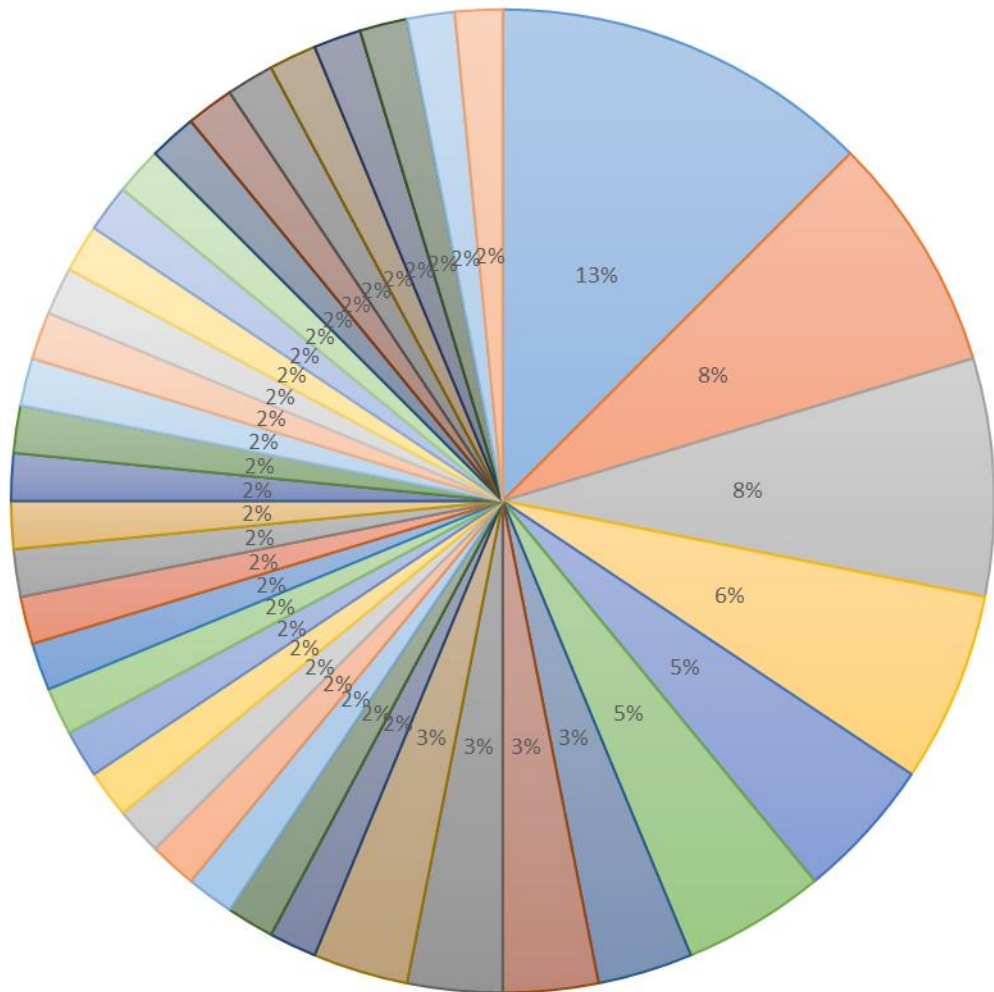
13 篇

13 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、13 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

13篇(1778年)					
動物	数				
ウマ	8				
ウシ	5				
カツオ	5				
ネコ	4				
サカナ	3				
シカ	3				
キツネ	2				
シラウオ	2				
ツル	2				
トリ	2				
ウグイス	1				
オシドリ	1				
カエル	1				
カメ	1				
カラシシ	1				
キリン	1				
ケムシ	1				
ケモノ	1				
サル	1				
サンマ	1				
シシ	1				
スッポン	1				
セミ	1				
ゾウ	1				
タカ	1				
タヌキ	1				
ダボハセ	1				
チン	1				
ドジョウ	1				
ニンギョ	1				
ヌエ	1				
ネズミ	1				
ハマグリ	1				
ヒツジ	1				
ヘビ	1				
ホタル	1				
ホトギス	1				
ミノムシ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計38種	64	13	748	64	8.6



13篇に表れる動物



- |       |      |       |       |       |       |       |       |
|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| ■ウマ   | ■ウシ  | ■カツオ  | ■ネコ   | ■サカナ  | ■シカ   | ■キツネ  | ■シラウオ |
| ■ツル   | ■トリ  | ■ウグイス | ■オシドリ | ■カエル  | ■カメ   | ■カラシシ | ■キリン  |
| ■ケムシ  | ■ケモノ | ■サル   | ■サンマ  | ■シシ   | ■スッポン | ■セミ   | ■ゾウ   |
| ■タカ   | ■タヌキ | ■ダボハセ | ■チン   | ■ドジョウ | ■ニンギョ | ■ヌエ   | ■ネズミ  |
| ■ハマグリ | ■ヒツジ | ■ヘビ   | ■ホタル  | ■ホトギス | ■ミノムシ |       |       |

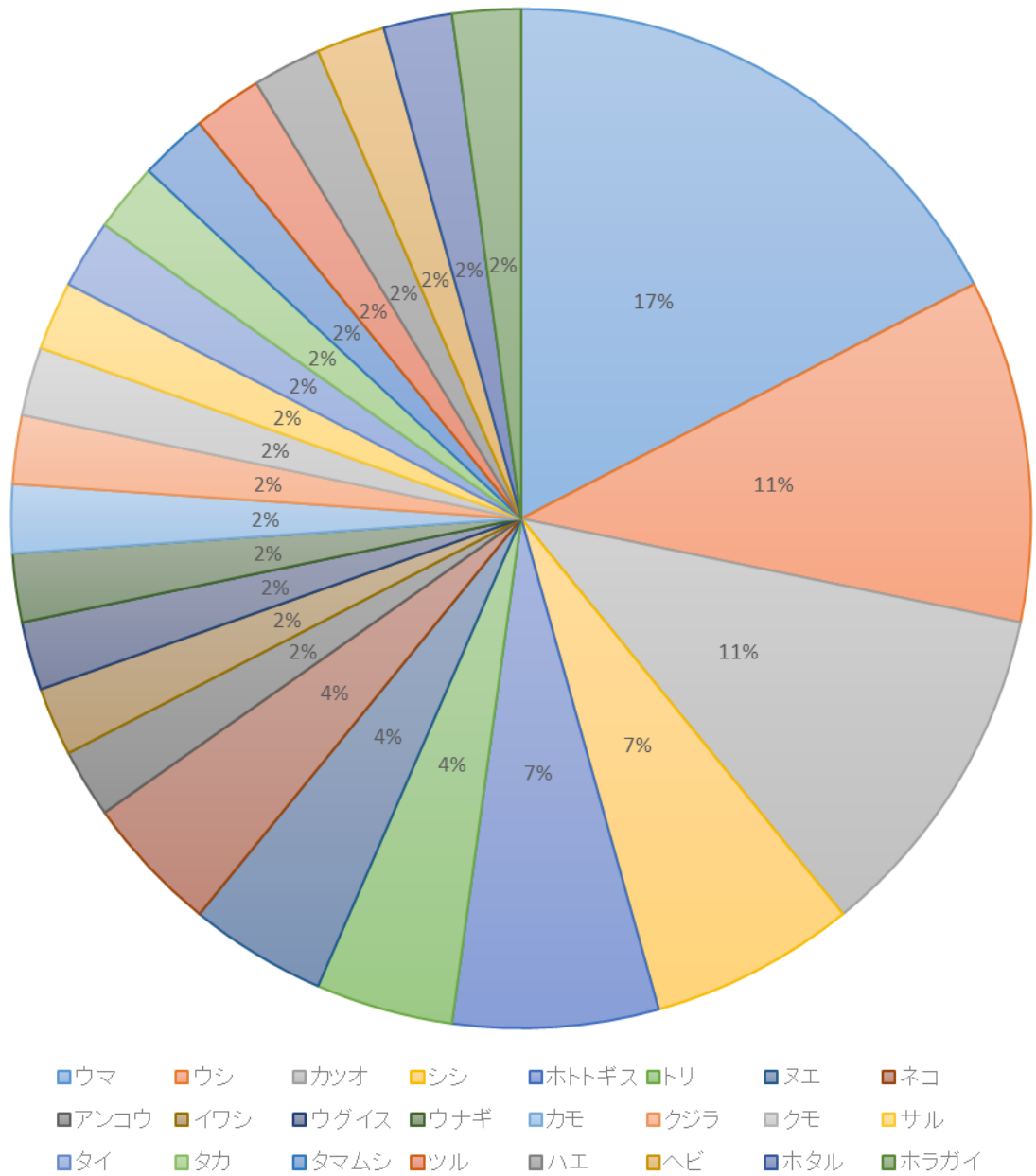
詠まれている動物の種類、動物が詠まれた句の割合が、これまでで最も多くなっている。多く詠まれている動物は、ウマやウシ、カツオやネコが多く、割合はやや偏っている。

14 篇

14 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、14 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

14篇(1779年)					
動物	数				
ウマ	8				
ウシ	5				
カツオ	5				
シシ	3				
ホトギス	3				
トリ	2				
ヌエ	2				
ネコ	2				
アンコウ	1				
イワシ	1				
ウグイス	1				
ウナギ	1				
カモ	1				
クジラ	1				
クモ	1				
サル	1				
タイ	1				
タカ	1				
タマムシ	1				
ツル	1				
ハエ	1				
ヘビ	1				
ホタル	1				
ホラガイ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計24種	46	14	772	46	6

14篇に表れる動物篇



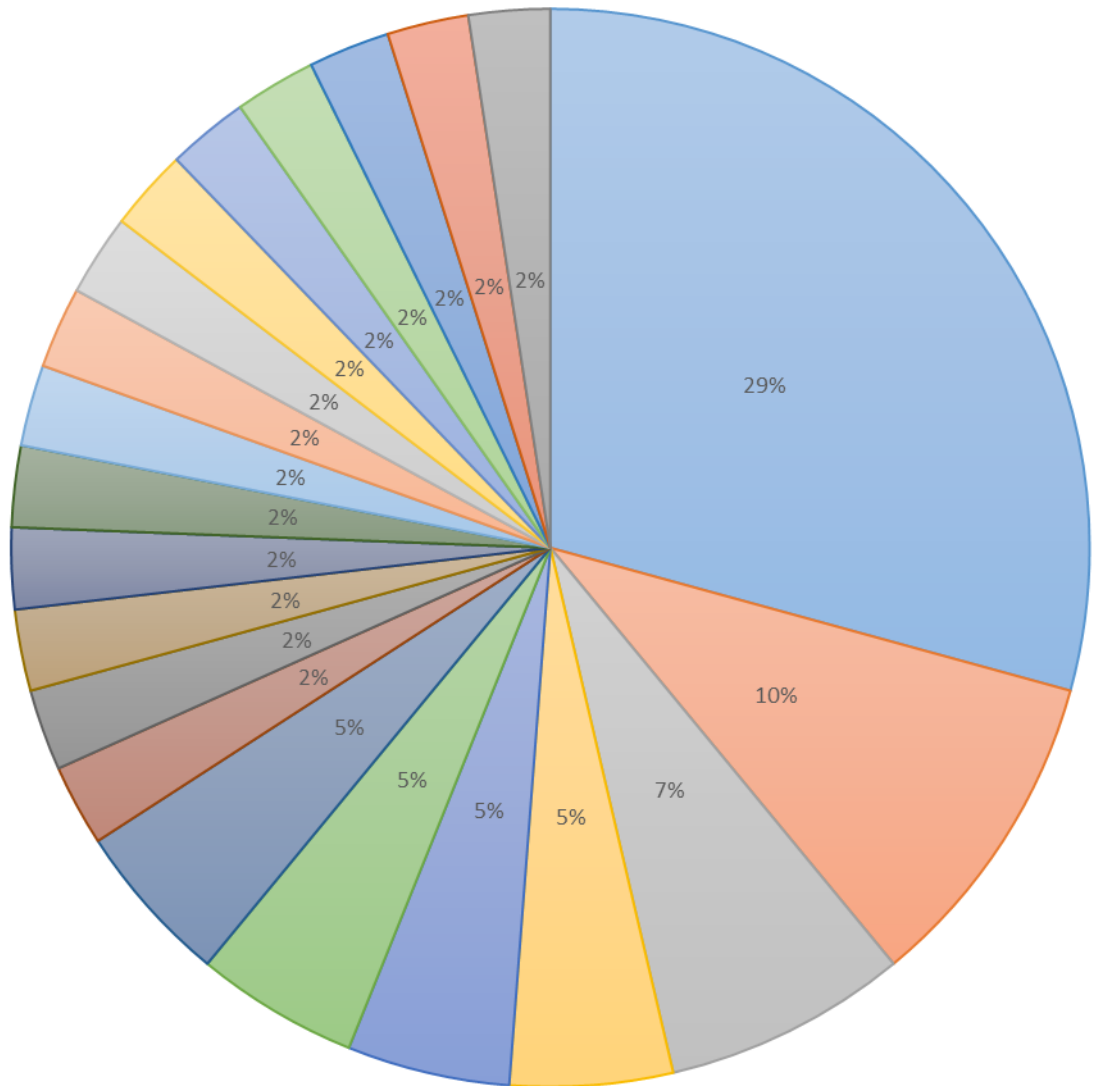
ウマ、ウシ、カツオ、ホトトギスはこれまで同様に多く詠まれており、またシシやトリがやや増えている。詠まれた動物の種類は少なく、割合も偏っている。

15 篇

15 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、15 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

15篇(1780年)					
動物	数				
ウマ	12				
ネコ	4				
イヌ	3				
コイ	2				
サル	2				
トリ	2				
ムシ	2				
アワビ	1				
ウグイス	1				
ウリボウ	1				
カ	1				
カツオ	1				
サメ	1				
シラミ	1				
セミ	1				
テング	1				
ヌエ	1				
フグ	1				
ホウオウ	1				
ホトギス	1				
ヤマンバ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計21種	41	15	750	41	5.5

15篇に表れる動物



- ウマ
- ネコ
- イヌ
- コイ
- サル
- トリ
- ムシ
- アワビ
- ウグイス
- ウリボウ
- カ
- カツオ
- サメ
- シラミ
- セミ
- テング
- ヌエ
- フグ
- ホウオウ
- ホトギス
- ヤマンバ

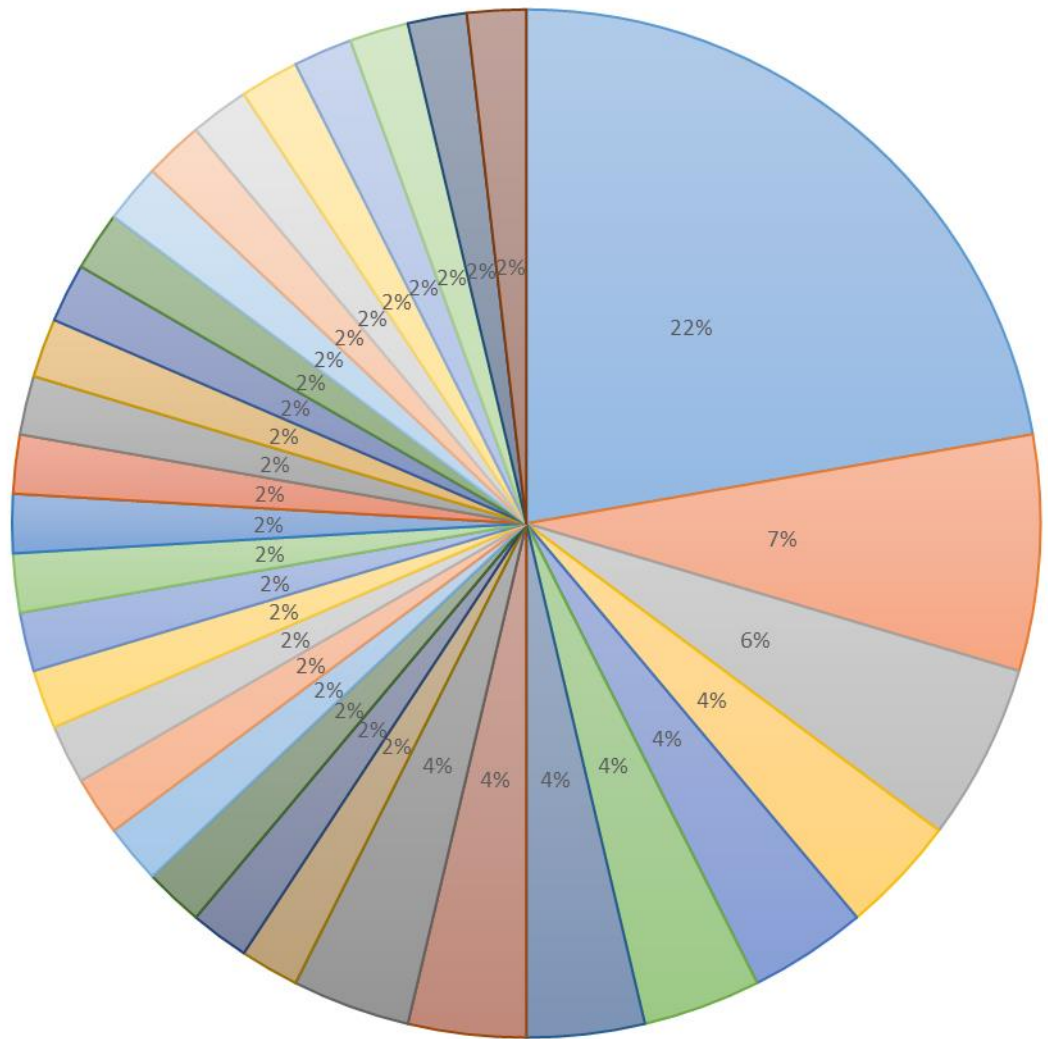
詠まれた動物の種類がこれまでで最も少なく、また割合も大きく偏っている。ウマの割合が最も多く、次にネコが多い。ホトギスは減り、ウシは詠まれていない。

16 篇

16 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、16 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

16篇(1781年)					
動物	数				
ウマ	12				
ネコ	4				
キツネ	3				
ウシ	2				
カツオ	2				
サカナ	2				
サル	2				
ツル	2				
トリ	2				
アブラムシ	1				
アワビ	1				
イヌ	1				
ウグイス	1				
カイク	1				
カメ	1				
カモ	1				
クモ	1				
シラトリ	1				
スッポン	1				
セミ	1				
タイ	1				
タチウオ	1				
チン	1				
ヌエ	1				
ネズミ	1				
ハエ	1				
ハマグリ	1				
ヒキガエル	1				
フグ	1				
ホトギス	1				
ホラガイ	1				
モモンガ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計32種	54	16	746	54	7.2

16篇に表れる動物



- |      |        |       |        |       |       |       |       |
|------|--------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|
| ■ウマ  | ■ネコ    | ■キツネ  | ■ウシ    | ■カサオ  | ■サカナ  | ■サル   | ■ツル   |
| ■トリ  | ■アブラムシ | ■アワビ  | ■イヌ    | ■ウグイス | ■カイコ  | ■カメ   | ■カモ   |
| ■クモ  | ■シラトリ  | ■スッポン | ■セミ    | ■タイ   | ■タチウオ | ■チン   | ■ヌエ   |
| ■ネズミ | ■ハエ    | ■ハマグリ | ■ヒキガエル | ■フグ   | ■ホトギス | ■ホラガイ | ■モモンガ |

詠まれた動物の種類、動物が詠まれた句の割合ともに多くなっているが、種類の割合は偏っており、ウマが最も多い。ウマの次にネコが多く、キツネやサルもやや多くなっている。

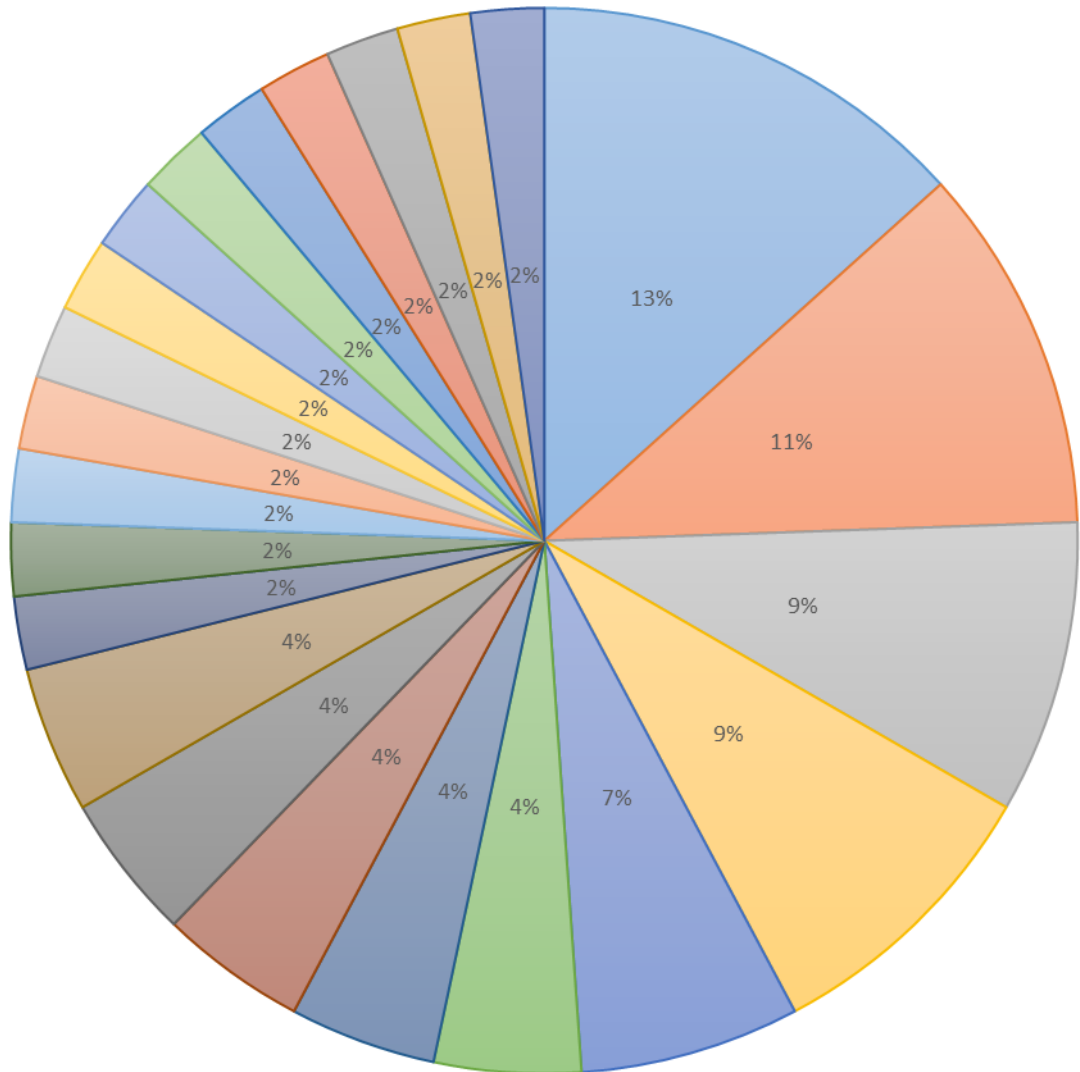
17 篇

17 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、17 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

17篇(1782年)					
動物	数				
カツオ	6				
ウマ	5				
イヌ	4				
ホトギス	4				
ネズミ	3				
アンコウ	2				
イワシ	2				
カラス	2				
クモ	2				
トリ	2				
カイコ	1				
カニ	1				
カモ	1				
キツネ	1				
コイ	1				
サンマ	1				
シシ	1				
チン	1				
ネコ	1				
ネコマタ	1				
ヒグラシ	1				
ホラガイ	1				
ムシ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計23種	45	17	699	45	6.4



17篇に表れる動物



- |      |     |      |        |       |       |      |      |
|------|-----|------|--------|-------|-------|------|------|
| ■カツオ | ■ウマ | ■イヌ  | ■ホトトギス | ■ネズミ  | ■アンコウ | ■イワシ | ■カラス |
| ■クモ  | ■トリ | ■カイコ | ■カニ    | ■カモ   | ■キツネ  | ■コイ  | ■サンマ |
| ■シシ  | ■チン | ■ネコ  | ■ネコマタ  | ■ヒグラシ | ■ホラガイ | ■ムシ  |      |

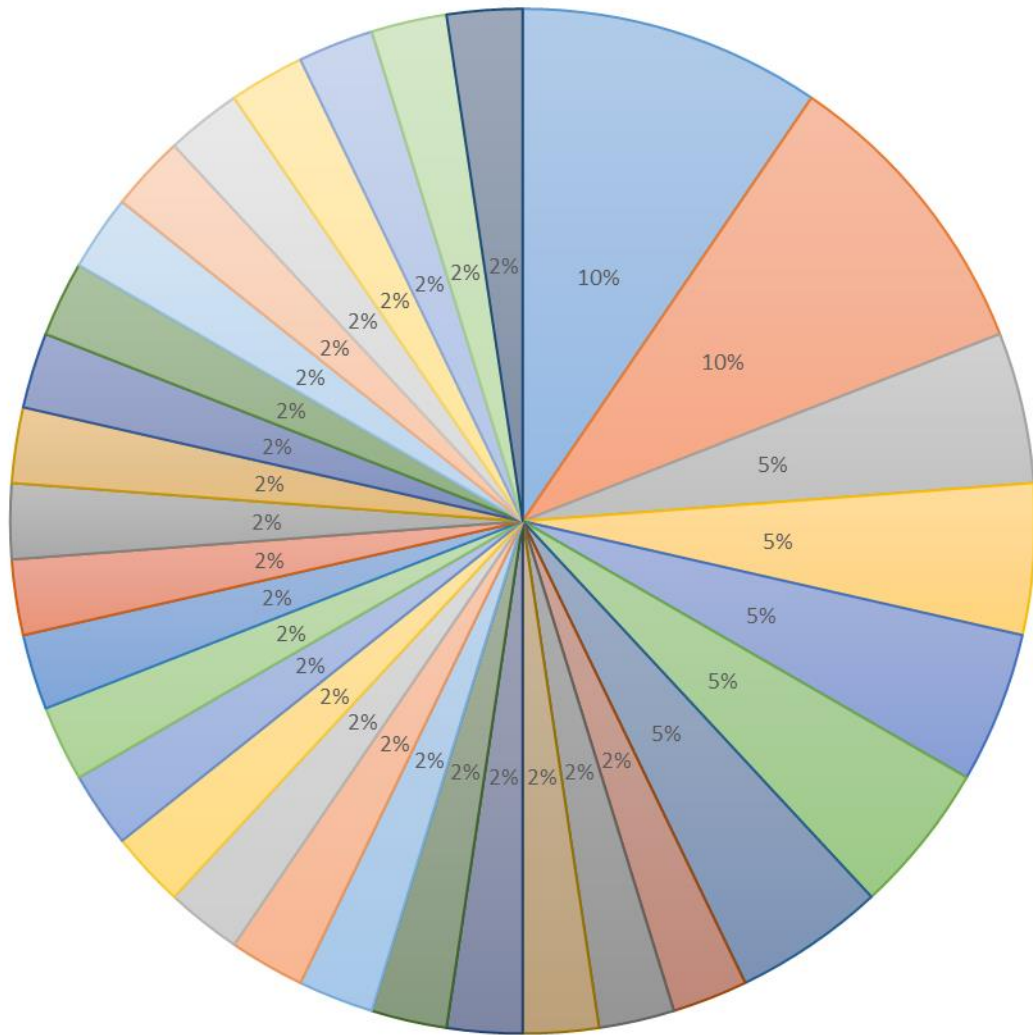
カツオの数がウマより多くなっている。次にイヌ、ホトトギスが続いている。詠まれた動物の種類はこれまでとほぼ同様である。

18 篇

18 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、18 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

18篇(1783年)					
動物	数				
ウマ	4				
ネコ	4				
ウグイス	2				
キツネ	2				
スッポン	2				
ツル	2				
トンビ	2				
アワビ	1				
イヌ	1				
イワシ	1				
ウシ	1				
ウナギ	1				
エビ	1				
オオカミ	1				
カ	1				
カツオ	1				
カメ	1				
カモ	1				
クロカモ	1				
サカナ	1				
サギ	1				
サンマ	1				
シシ	1				
タカ	1				
チドリ	1				
チン	1				
テング	1				
トリ	1				
トンボ	1				
又エ	1				
ムシ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計31種	42	18	746	42	5.7

18篇に表れる動物



- |      |      |       |      |       |       |      |      |
|------|------|-------|------|-------|-------|------|------|
| ■ウマ  | ■ネコ  | ■ウグイス | ■キツネ | ■スッポン | ■ツル   | ■トンビ | ■アワビ |
| ■イヌ  | ■イワシ | ■ウシ   | ■ウナギ | ■エビ   | ■オオカミ | ■カ   | ■カツオ |
| ■カメ  | ■カモ  | ■クロカモ | ■サカナ | ■サギ   | ■サンマ  | ■シシ  | ■タカ  |
| ■チドリ | ■チン  | ■テング  | ■トリ  | ■トンボ  | ■ヌエ   | ■ムシ  |      |

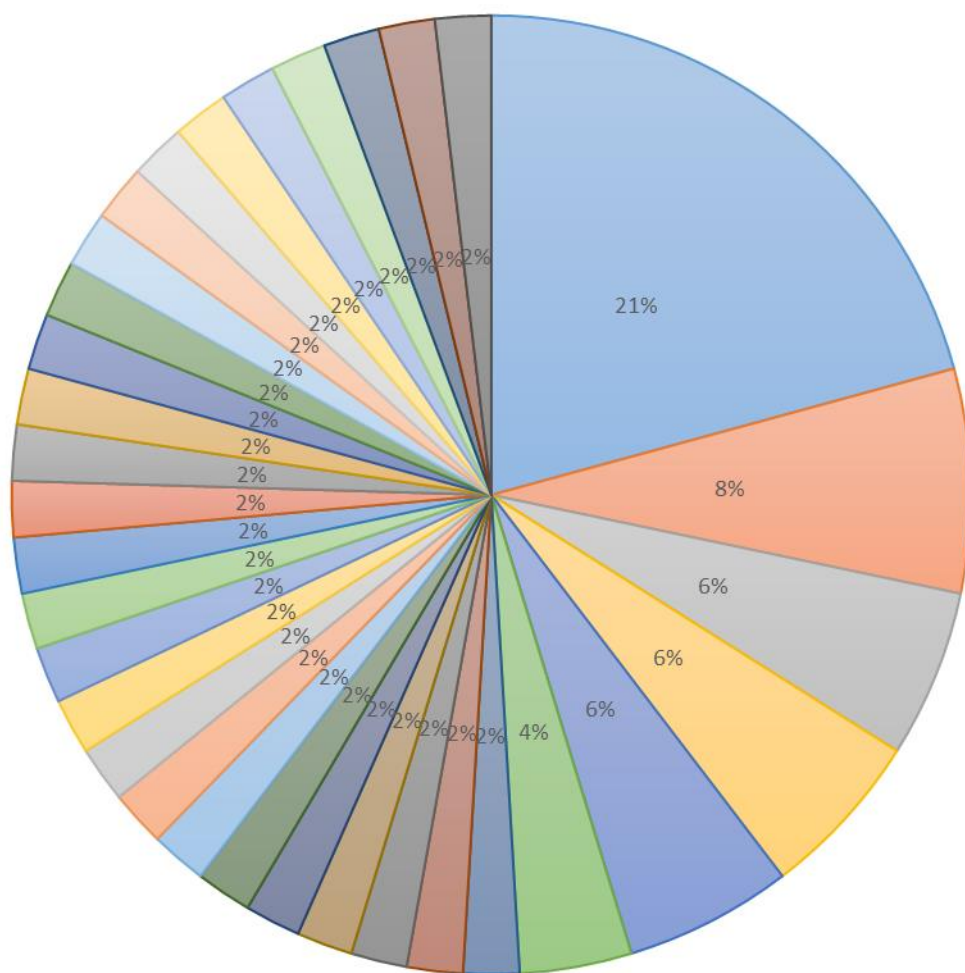
ウマとネコの数が最も多く、イヌやウシは減り、ホトトギスは詠まれていない。また、詠まれた動物の種類は割れている。

19 篇

19 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、19 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

19篇(1784年)					
動物	数				
ウマ	11				
ヘビ	4				
カツオ	3				
タイ	3				
サカナ	3				
ネコ	2				
イタチ	1				
イノ	1				
ウシ	1				
オシドリ	1				
オナガ	1				
カ	1				
カエル	1				
カメ	1				
カラス	1				
カリ	1				
キツネ	1				
クジャク	1				
コイ	1				
シラトリ	1				
スズムシ	1				
ツバメ	1				
ツル	1				
トリ	1				
ネズミ	1				
ヒツジ	1				
フグ	1				
ブタ	1				
ヘラサギ	1				
ホトギス	1				
ミミズ	1				
ムシ	1				
ヤモリ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計33種	53	19	705	53	7.5

19篇に表れる動物



- ウマ   ■ ヘビ   ■ カツオ   ■ タイ   ■ サカナ   ■ ネコ   ■ イタチ   ■ イワ   ■ ウシ
- オシドリ   ■ オナガ   ■ カ   ■ カエル   ■ カメ   ■ カラス   ■ カリ   ■ キツネ   ■ クジャク
- コイ   ■ シラトリ   ■ スズムシ   ■ ツバメ   ■ ツル   ■ トリ   ■ ネズミ   ■ ヒツジ   ■ フグ
- ブタ   ■ へらサギ   ■ ホトギス   ■ ミミズ   ■ ムシ   ■ ヤモリ

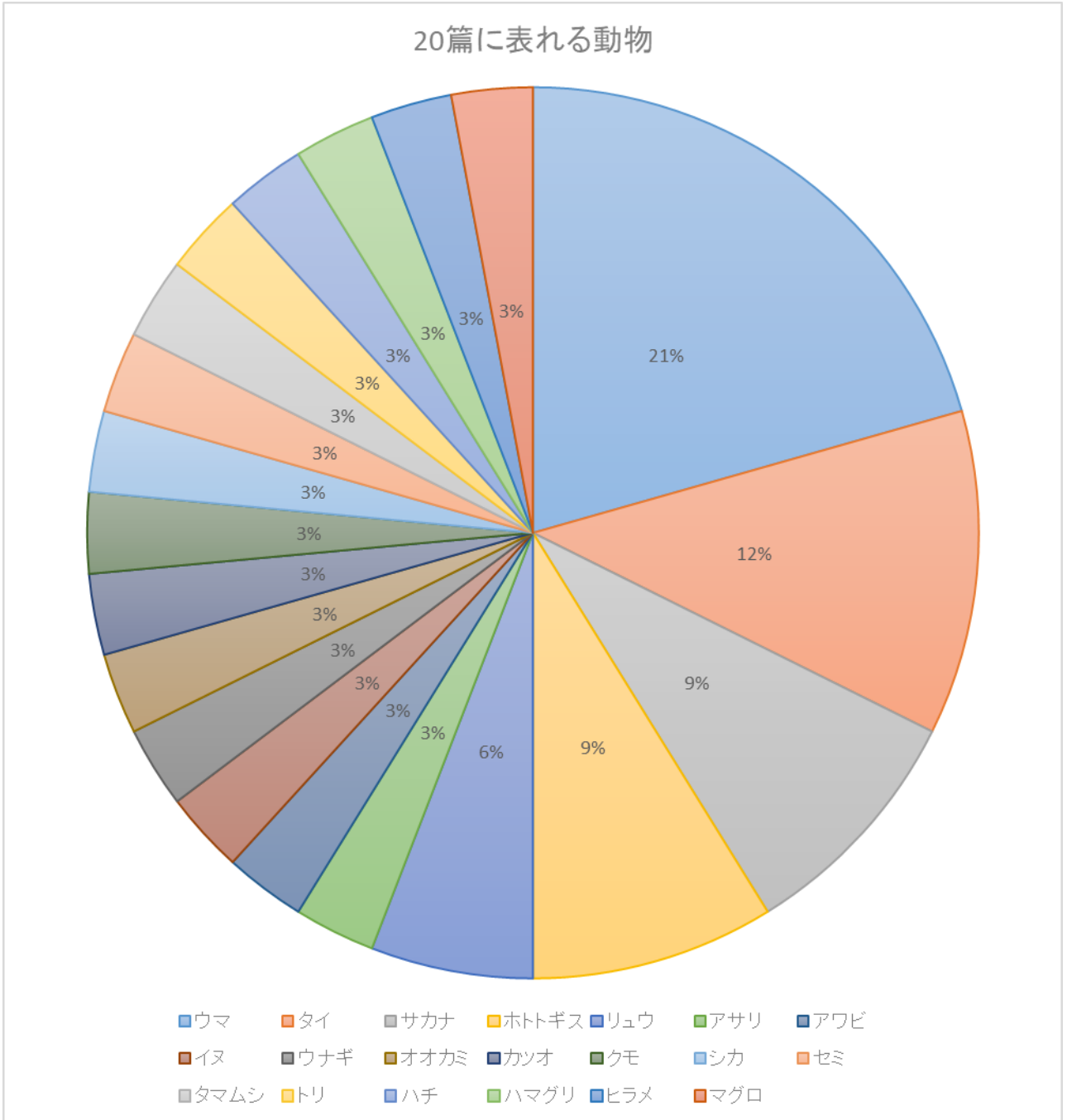
他の篇と同様、ウマが最も多くなっているが、その次にヘビが多くなっている。詠まれた動物の種類は多いが、ヘビ以外の割合上位を占める動物は、これまでとほぼ同様である。

20 篇

20 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、20 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

20篇(1785年)					
動物	数				
ウマ	7				
タイ	4				
サカナ	3				
ホトギス	3				
リュウ	2				
アサリ	1				
アワビ	1				
イヌ	1				
ウナギ	1				
オオカミ	1				
カツオ	1				
クモ	1				
シカ	1				
セミ	1				
タマムシ	1				
トリ	1				
ハチ	1				
ハマグリ	1				
ヒラメ	1				
マグロ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計20種	34	20	683	34	5

20篇に表れる動物



詠まれた動物の種類が最も少ない。動物が詠まれた句が全体に占める割合も少なく、また動物の割合も割れている。最も多いのはウマであり、詠まれた数が多い動物の種類は他とほぼ同様で、そこにリュウが加わっている。

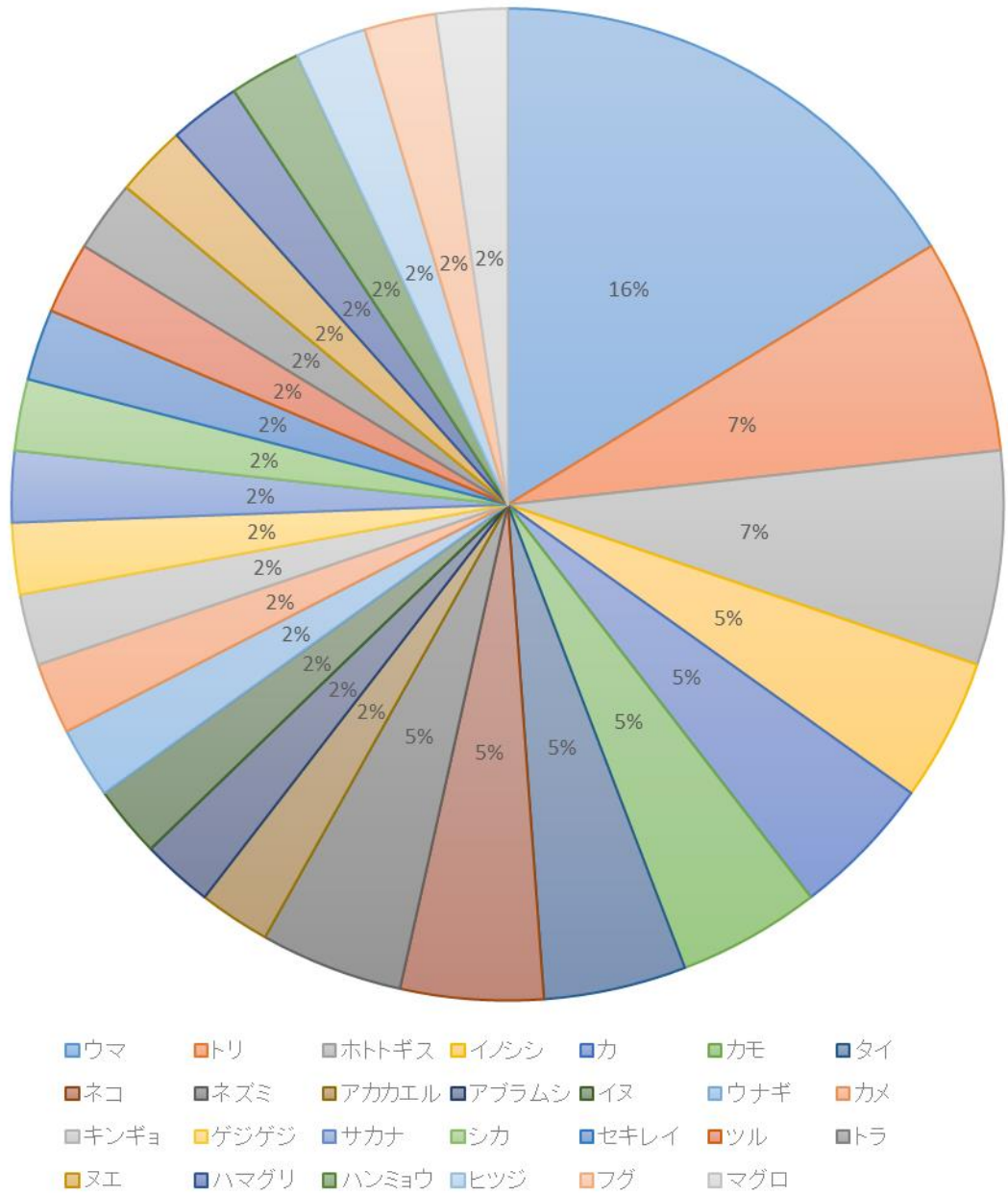
21 篇

21 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、21 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

21篇(1786年)					
動物	数				
ウマ	7				
トリ	3				
ホトギス	3				
イノシシ	2				
カ	2				
カモ	2				
タイ	2				
ネコ	2				
ネズミ	2				
アカカエル	1				
アブラムシ	1				
イヌ	1				
ウナギ	1				
カメ	1				
キンギョ	1				
ゲジゲジ	1				
サカナ	1				
シカ	1				
セキレイ	1				
ツル	1				
トラ	1				
ヌエ	1				
ハマグリ	1				
ハンミョウ	1				
ヒツジ	1				
フグ	1				
マグロ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計27種	43	21	743	43	6.4



21篇に表れる動物



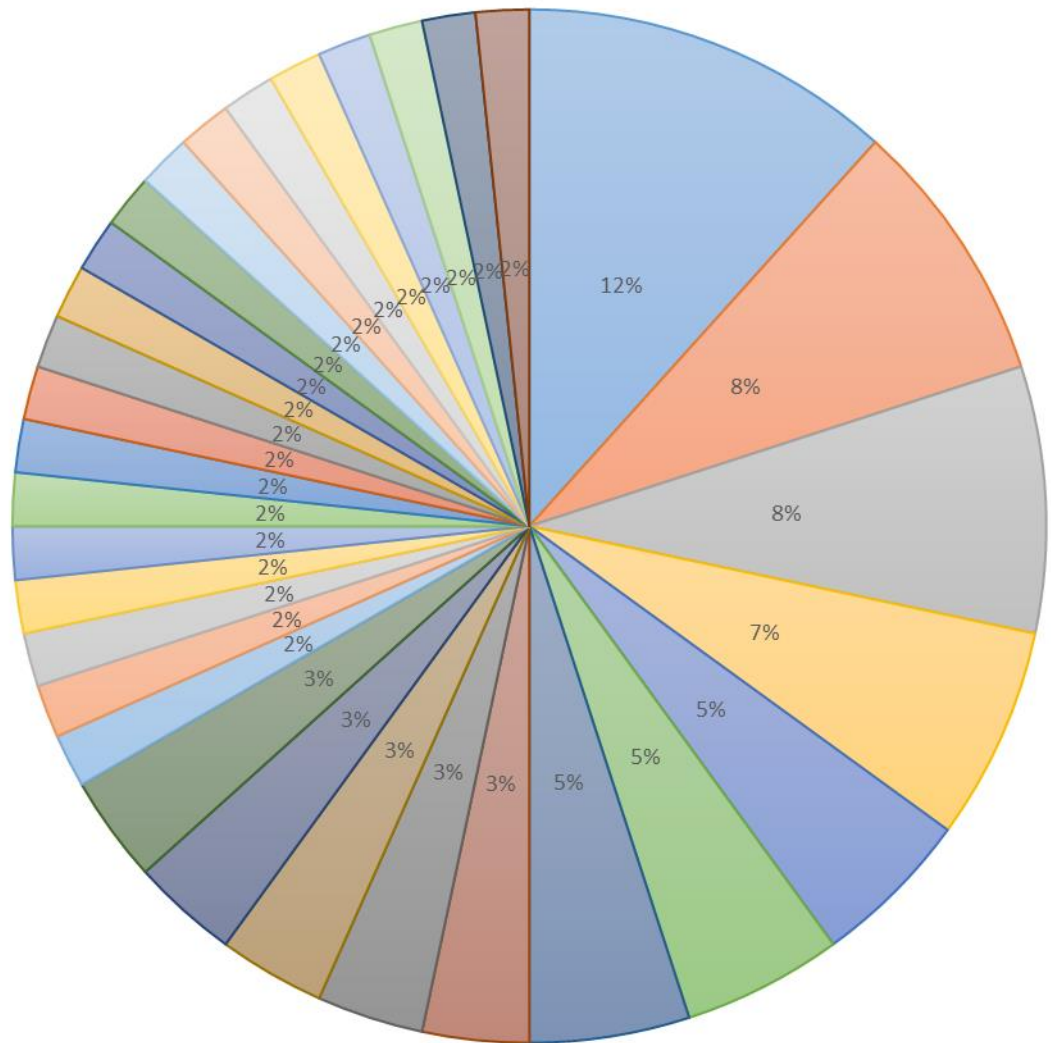
他の篇とほぼ同様にウマが最も多く、次にトリとホトトギスが多い。

22 篇

22 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、22 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

22篇(1788年)					
動物	数				
ホトギス	7				
ウマ	5				
ネコ	5				
カツオ	4				
サカナ	3				
トリ	3				
ムシ	3				
イワシ	2				
カメ	2				
カリ	2				
ネズミ	2				
ハマグリ	2				
イタチ	1				
イヌ	1				
ウナギ	1				
カエル	1				
カラス	1				
キジ	1				
キツネ	1				
ケモノ	1				
コヤスガイ	1				
サケ	1				
サル	1				
スズムシ	1				
スッポン	1				
セミ	1				
チョウ	1				
テング	1				
トンボ	1				
ナマズ	1				
ハエ	1				
ハト	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計32種	60	22	743	60	8.1

22篇に表れる動物



- |        |     |      |       |        |      |      |       |
|--------|-----|------|-------|--------|------|------|-------|
| ■ホトトギス | ■ウマ | ■ネコ  | ■カエルの | ■サカナ   | ■トリ  | ■ムシ  | ■イワシ  |
| ■カメ    | ■カリ | ■ネズミ | ■ハマグリ | ■イタチ   | ■イヌ  | ■ウナギ | ■カエル  |
| ■カラス   | ■キジ | ■キツネ | ■ケモノ  | ■コヤスガイ | ■サケ  | ■サル  | ■スズムシ |
| ■スッポン  | ■セミ | ■チョウ | ■テング  | ■トンボ   | ■ナマズ | ■ハエ  | ■ハト   |

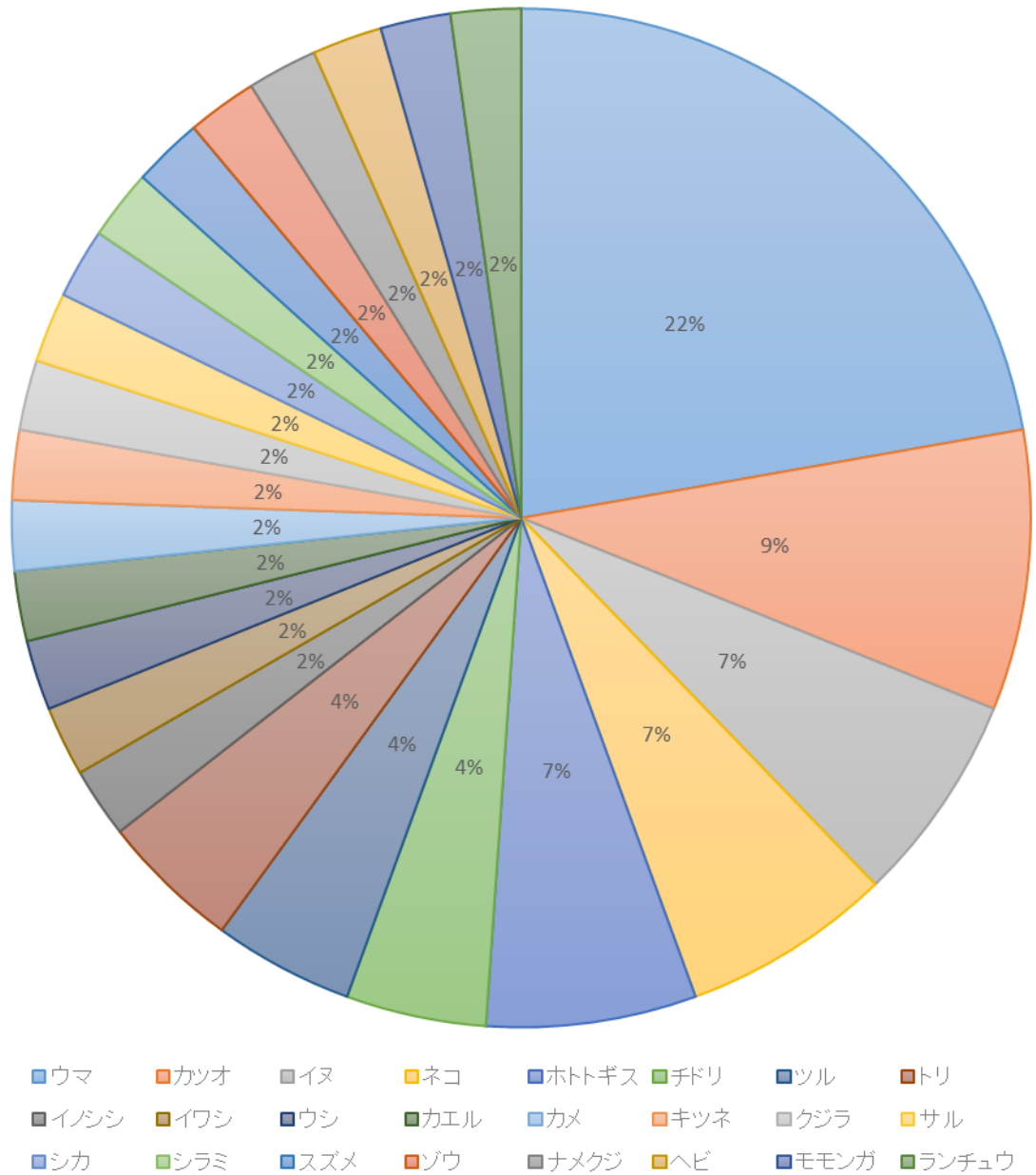
詠まれている動物の種類、動物が詠まれた句の割合ともに多くなっている。ホトトギスが最も多く、次にウマが多い。詠まれた数の上位を占める動物は、これまでとほぼ同様だが、イワシカメ、カリが多くなっている。また、種類が多いため、割合も割れている。

23 篇

23 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、23 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

23篇(1789年)					
動物	数				
ウマ	10				
カツオ	4				
イヌ	3				
ネコ	3				
ホトギス	3				
チドリ	2				
ツル	2				
トリ	2				
イノシシ	1				
イワシ	1				
ウシ	1				
カエル	1				
カメ	1				
キツネ	1				
クジラ	1				
サル	1				
シカ	1				
シラミ	1				
スズメ	1				
ゾウ	1				
ナメクジ	1				
ヘビ	1				
モモンガ	1				
ランチュウ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計24種	45	23	741	45	6.1

23篇に表れる動物



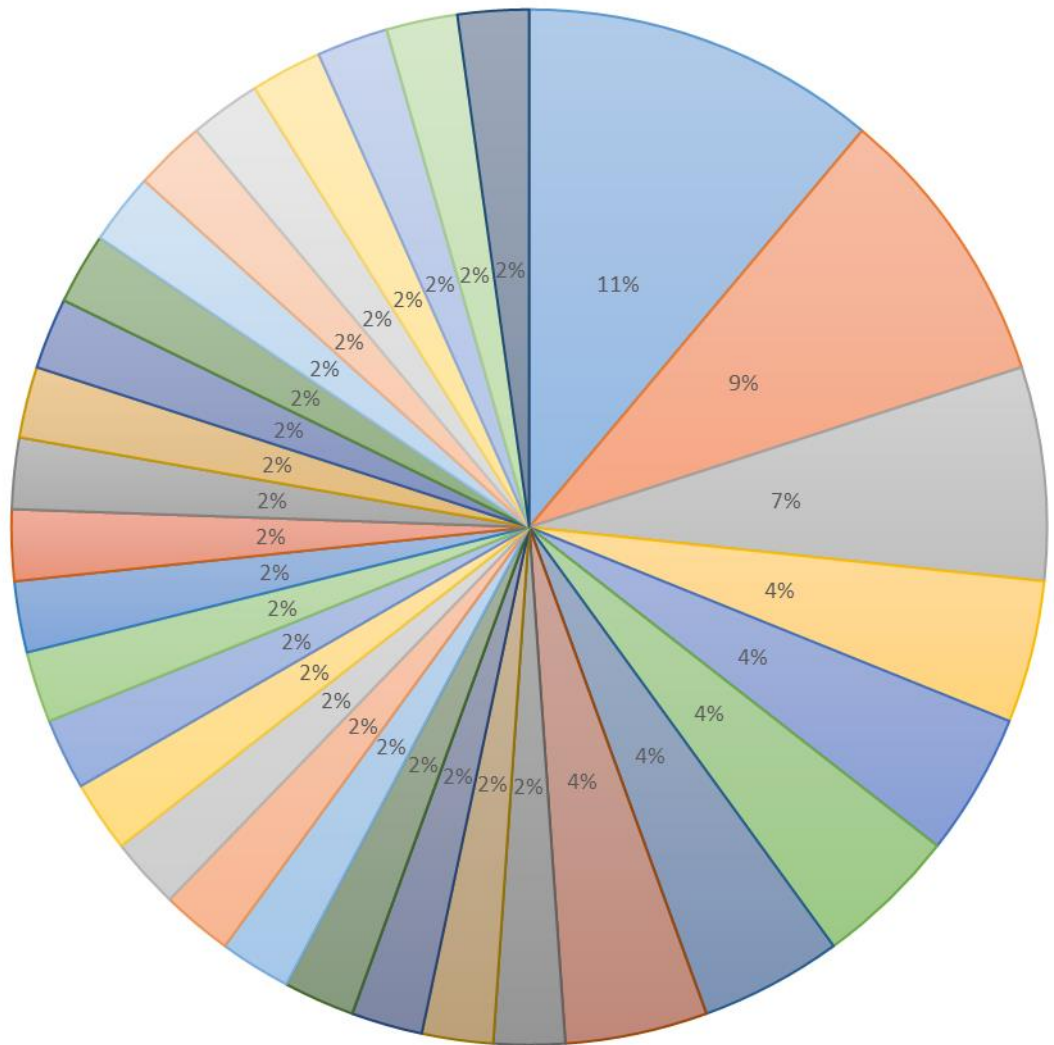
最も多い動物はウマであり、その他の上位を占める動物の種類もこれまでとほぼ同様である。表れる動物の種類はやや少なく、割合も偏りがある。

24 篇

24 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、24 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

24篇(1791年)					
動物	数				
カツオ	5				
ヘビ	4				
ネコ	3				
オオカミ	2				
カ	2				
サンマ	2				
シラミ	2				
トリ	2				
アブラムシ	1				
イヌ	1				
ウナギ	1				
ウマ	1				
カメ	1				
カラス	1				
カリ	1				
ケモノ	1				
スズメ	1				
セミ	1				
ゾウ	1				
タマムシ	1				
ツル	1				
テング	1				
トンビ	1				
ヌエ	1				
フグ	1				
ホタテ	1				
ホタル	1				
ホトギス	1				
マグロ	1				
ムシ	1				
ヤマネコ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計31種	45	24	692	45	6.5

24篇に表れる動物



- |        |      |      |        |      |      |       |      |
|--------|------|------|--------|------|------|-------|------|
| ■カツオ   | ■ヘビ  | ■ネコ  | ■オオカミ  | ■カ   | ■サンマ | ■シラミ  | ■トリ  |
| ■アブラムシ | ■イヌ  | ■ウナギ | ■ウマ    | ■カメ  | ■カラス | ■カリ   | ■ケモノ |
| ■スズメ   | ■セミ  | ■ゾウ  | ■タマムシ  | ■ツル  | ■テング | ■トンビ  | ■ヌエ  |
| ■フグ    | ■ホタテ | ■ホタル | ■ホトトギス | ■マグロ | ■ムシ  | ■ヤマネコ |      |

カツオ、ヘビ、ネコの順で多く、ウマは少なくなっている。割合も割れている。

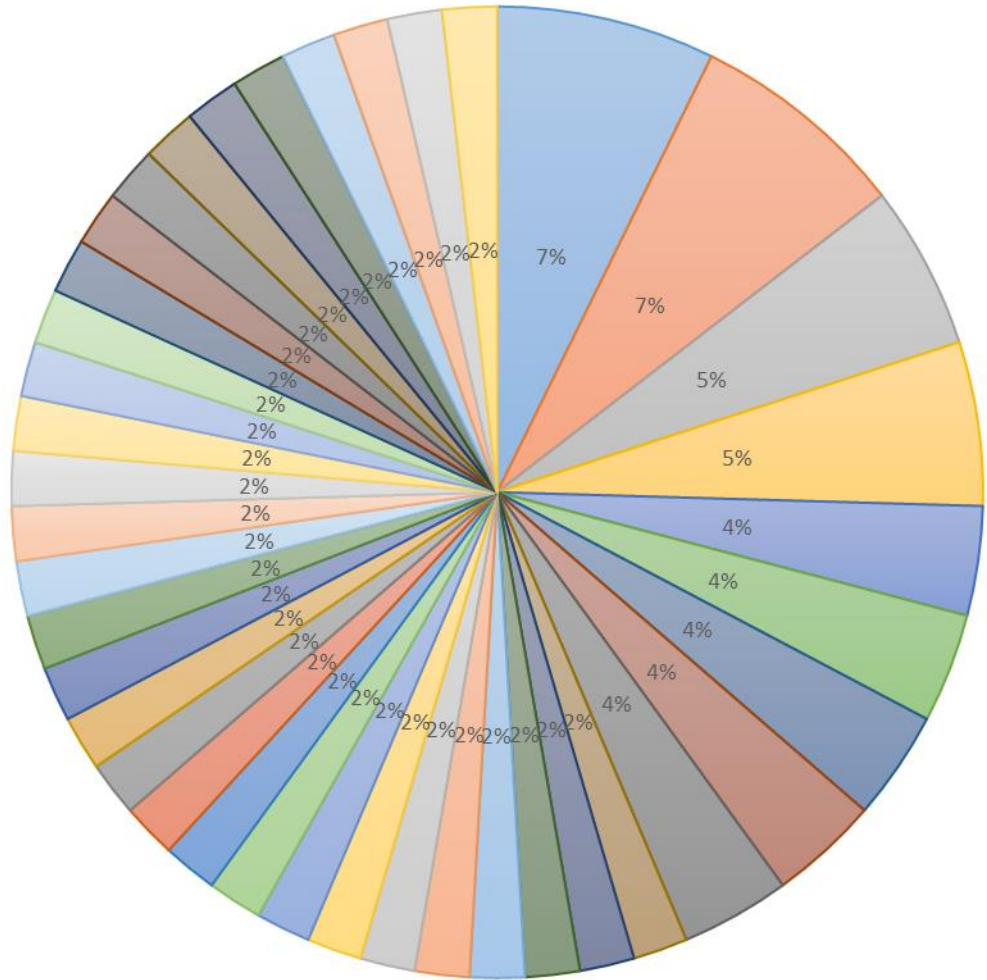
25 篇

25 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、25 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

25篇(1794年)					
動物	数				
カツオ	4				
ツル	4				
ネコ	3				
ホタル	3				
カエル	2				
チョウ	2				
トラ	2				
ホトギス	2				
ムシ	2				
アブラムシ	1				
イヌ	1				
ウグイス	1				
ウマ	1				
カ	1				
カイ	1				
カニ	1				
カメ	1				
カモ	1				
カラス	1				
キス	1				
クマ	1				
クモ	1				
ケムシ	1				
サカナ	1				
サバ	1				
サル	1				
スッポン	1				
セミ	1				
ゾウ	1				
タイマイ	1				
タコ	1				
チドリ	1				
チン	1				
トビウオ	1				
トリ	1				
トンビ	1				
ハチ	1				
ハネムシ	1				
フグ	1				
ヘビ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計40種	55	25	570	55	9.6



25篇に表れる動物



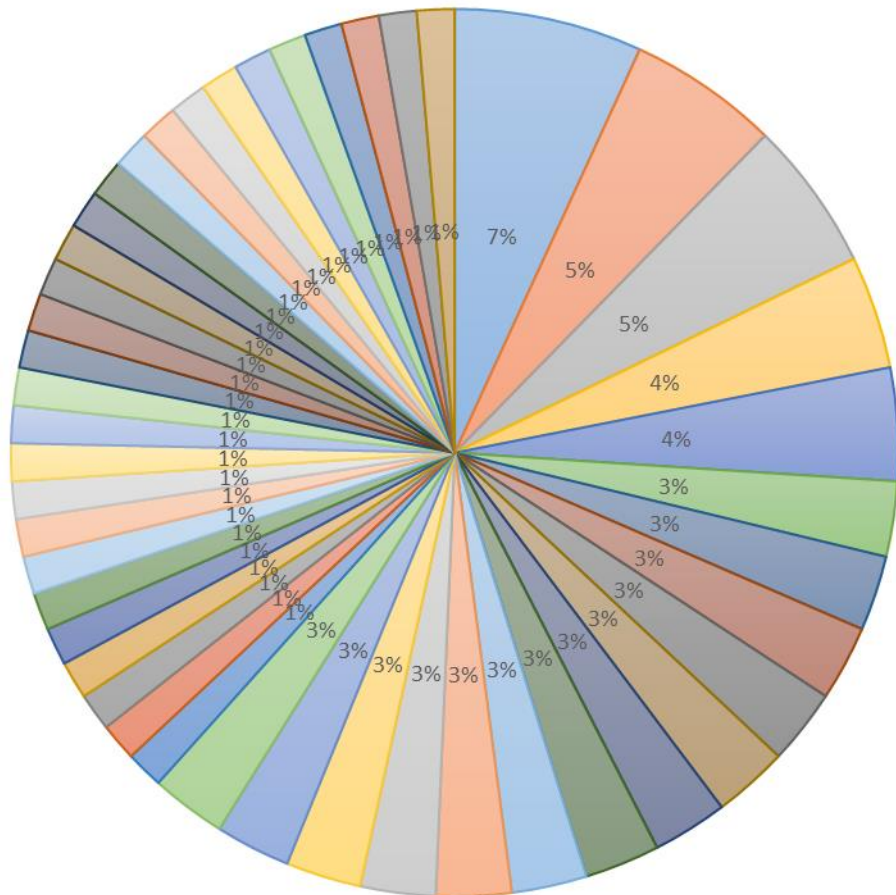
カツオとツルの数が最も多く、ウマは少なくなっている。詠まれている動物の種類、動物が詠まれた句の割合も多くなっており、表れる動物の割合はかなり割れている。

## 26 篇

26 で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、26 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

26篇(1796年)					
動物	数				
トリ	5				
タカ	4				
ネコ	4				
サカナ	3				
シラウオ	3				
ウシ	2				
ウマ	2				
キツネ	2				
ケムシ	2				
サル	2				
シカ	2				
スッポン	2				
ツル	2				
テング	2				
ヘビ	2				
ホトギス	2				
ミヤコドリ	2				
ムシ	2				
イヌ	1				
イワシ	1				
ウ	1				
ウグイス	1				
カエル	1				
カツオ	1				
カミキリムシ	1				
カリ	1				
キス	1				
クリムシ	1				
ケモノ	1				
シシ	1				
シャチホコ	1				
スズキ	1				
セミ	1				
タイマイ	1				
タコ	1				
タヌキ	1				
チクショウ	1				
ハエ	1				
ハト	1				
ハマグリ	1				
ヒヨドリ	1				
ヒラメ	1				
ホタル	1				
ミミズク	1				
モグラ	1				
ワシ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計46種	73	26	727	73	10

26篇に表れる動物



- |       |        |        |         |       |       |       |
|-------|--------|--------|---------|-------|-------|-------|
| ■トリ   | ■タカ    | ■ネコ    | ■サカナ    | ■シラウオ | ■ウシ   | ■ウマ   |
| ■キツネ  | ■ケムシ   | ■サル    | ■シカ     | ■スッポン | ■ツル   | ■テング  |
| ■ヘビ   | ■ホトギス  | ■ミヤコドリ | ■ムシ     | ■イヌ   | ■イワシ  | ■ウ    |
| ■ウグイス | ■カエル   | ■カツオ   | ■カミキリムシ | ■カリ   | ■キス   | ■クリムシ |
| ■ケモノ  | ■シシ    | ■シャチホコ | ■スズキ    | ■セミ   | ■タイマイ | ■タコ   |
| ■タヌキ  | ■チクショウ | ■ハエ    | ■ハト     | ■ハマグリ | ■ヒヨドリ | ■ヒラメ  |
| ■ホタル  | ■ミミズク  | ■モグラ   | ■ワシ     |       |       |       |

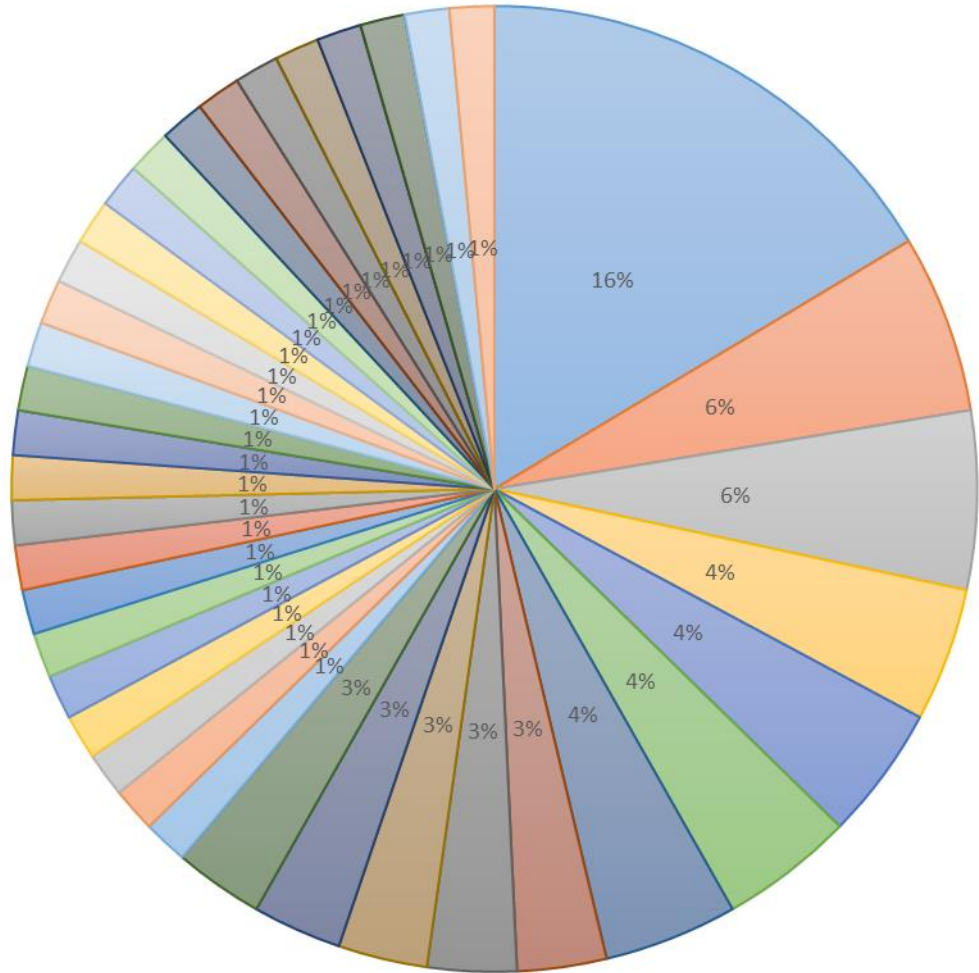
これまでの篇とは違い、トリの割合が最も多くなっている。タカ、ネコ、サカナ、シラウオが続く。ウマは2句、カツオは1句のみ詠まれている。詠まれている動物の種類、動物が詠まれた句の割合は多く、種類の割合も割れている。

27 篇

27 で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、27 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

27篇(1798年)					
動物	数				
ホトギス	11				
カツオ	4				
ツル	4				
カエル	3				
カメ	3				
ネコ	3				
ハト	3				
ウシ	2				
ウマ	2				
キツネ	2				
シラウオ	2				
ヒラメ	2				
アメンボ	1				
ウグイス	1				
キジ	1				
コイ	1				
サカナ	1				
シシ	1				
シジミ	1				
スイギュウ	1				
スズムシ	1				
スズメ	1				
ゾウ	1				
タイ	1				
タコ	1				
チドリ	1				
チン	1				
トリ	1				
ナマコ	1				
ニワトリ	1				
ヌエ	1				
ネズミ	1				
ハマグリ	1				
ホウオウ	1				
ホタル	1				
ミヤコドリ	1				
ヤブカ	1				
ヤマドリ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計38種	67	27	750	67	9

27篇に表れる動物



- |        |       |       |        |       |       |     |      |
|--------|-------|-------|--------|-------|-------|-----|------|
| ■ホトトギス | ■カツオ  | ■ツル   | ■カエル   | ■カメ   | ■ネコ   | ■ハト | ■ウシ  |
| ■ウマ    | ■キツネ  | ■シラウオ | ■ヒラメ   | ■アメンボ | ■ウグイス | ■キジ | ■コイ  |
| ■サカナ   | ■シシ   | ■シジミ  | ■スイギュウ | ■スズムシ | ■スズメ  | ■ゾウ | ■タイ  |
| ■タコ    | ■チドリ  | ■チン   | ■トリ    | ■ナマコ  | ■ニワトリ | ■ヌエ | ■ネズミ |
| ■ハマグリ  | ■ホウオウ | ■ホテル  | ■ミヤコドリ | ■ヤブカ  | ■ヤマドリ |     |      |

ホトトギスが最も多くなっている。カツオ、ツルが続き、ウマは2句のみである。詠まれた動物の種類は多く、最も多いホトトギス以外の動物の割合は割れている。

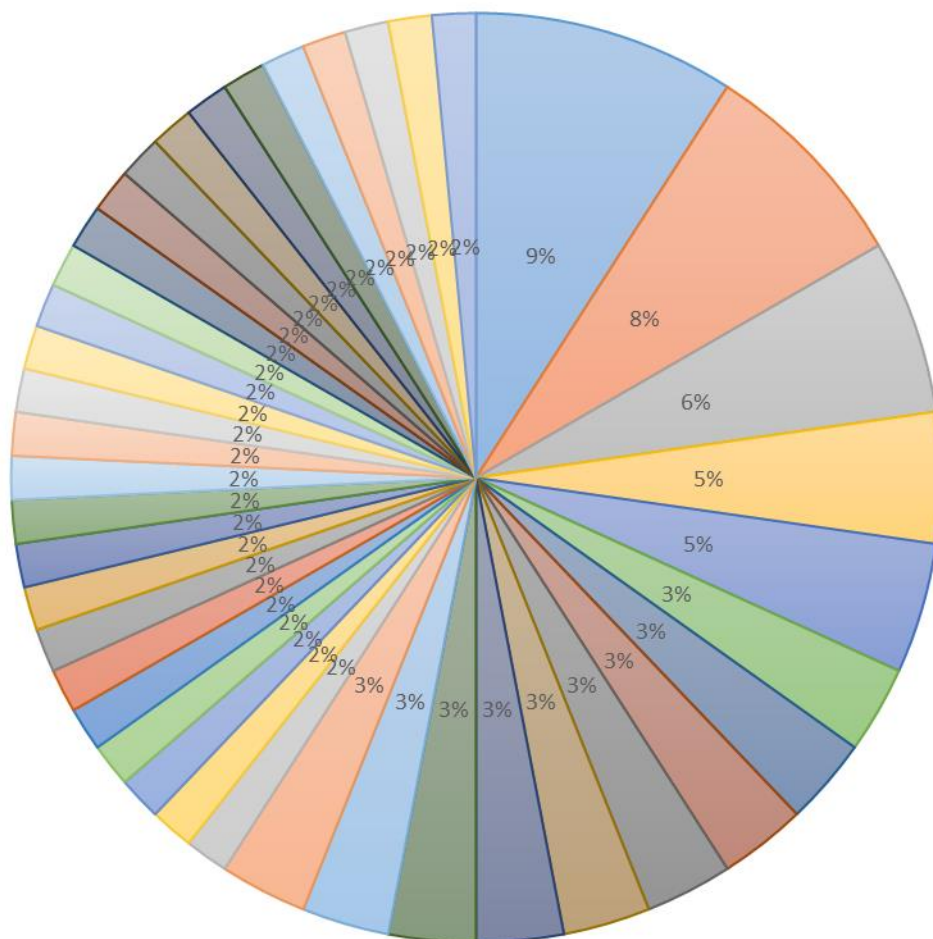
28 篇

28 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、28 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

28篇(1799年)					
動物	数				
ホトギス	6				
トリ	5				
ネコ	4				
ウマ	3				
ムシ	3				
ウシ	2				
カツオ	2				
キツネ	2				
ケムシ	2				
コイ	2				
シカ	2				
シシ	2				
ニワトリ	2				
ハウオウ	2				
アカガエル	1				
アユ	1				
エビ	1				
カッコウ	1				
カラス	1				
キジ	1				
クジラ	1				
クモ	1				
クロダイ	1				
サギ	1				
サル	1				
サンマ	1				
シラトリ	1				
スズメ	1				
スッポン	1				
タヌキ	1				
チョウ	1				
ツル	1				
トンビ	1				
ハマグリ	1				
ヒヨコ	1				
フナ	1				
ホタル	1				
マツムシ	1				
ミミズ	1				
ヤマドリ	1				
ヨタカ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計41種	66	28	590	66	11.1



28篇に表れる動物



- |        |       |       |       |       |       |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| ■ホトトギス | ■トリ   | ■ネコ   | ■ウマ   | ■ムシ   | ■ウシ   | ■カツオ  |
| ■キツネ   | ■ケムシ  | ■コイ   | ■シカ   | ■シシ   | ■ニワトリ | ■ホウオウ |
| ■アカガエル | ■アユ   | ■エビ   | ■カッコウ | ■カラス  | ■キジ   | ■クジラ  |
| ■クモ    | ■クロダイ | ■サギ   | ■サル   | ■サンマ  | ■シラトリ | ■スズメ  |
| ■スッポン  | ■タヌキ  | ■チョウ  | ■ツル   | ■トンビ  | ■ハマグリ | ■ヒヨコ  |
| ■フナ    | ■ホタル  | ■マツムシ | ■ミミズ  | ■ヤマドリ | ■ヨタカ  |       |

ホトトギスが最も多く、トリ、ネコと続く。上位を占める動物の割合はそれほど変わらないが、動物が詠まれた句の割合が多くなっている。詠まれた動物の種類も多く、割合も割れている。

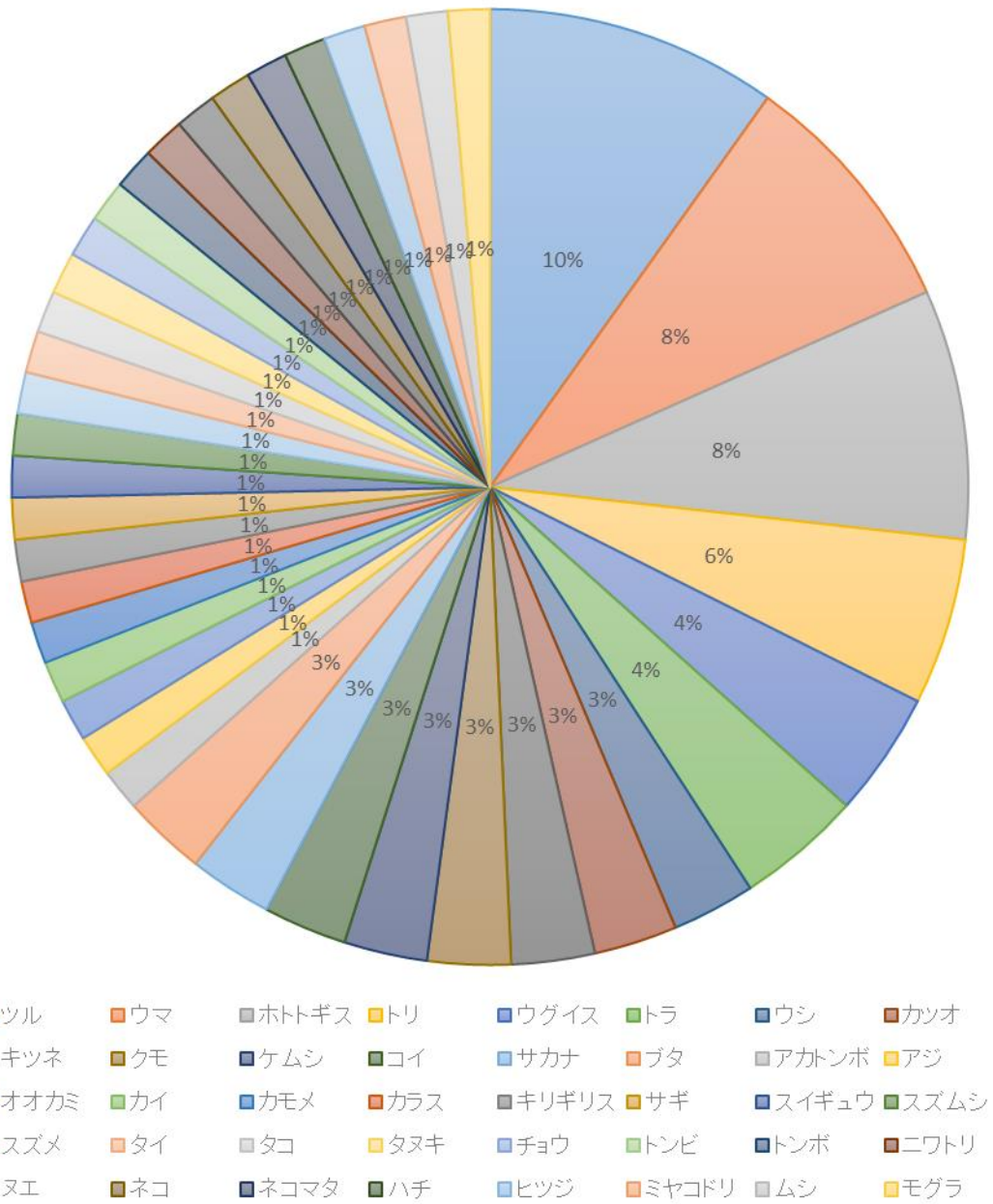
29 篇

29 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、29 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

29篇(1800年)					
動物	数				
ツル	7				
ウマ	6				
ホトギス	6				
トリ	4				
ウグイス	3				
トラ	3				
ウシ	2				
カツオ	2				
キツネ	2				
クモ	2				
ケムシ	2				
コイ	2				
サカナ	2				
ブタ	2				
アカトンボ	1				
アジ	1				
オオカミ	1				
カイ	1				
カモメ	1				
カラス	1				
キリギリス	1				
サギ	1				
スイギュウ	1				
スズムシ	1				
スズメ	1				
タイ	1				
タコ	1				
タヌキ	1				
チョウ	1				
トンビ	1				
トンボ	1				
ニワトリ	1				
ヌエ	1				
ネコ	1				
ネコマタ	1				
ハチ	1				
ヒツジ	1				
ミヤコドリ	1				
ムシ	1				
モグラ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計40種	71	29	770	71	9.2



29篇に表れる動物



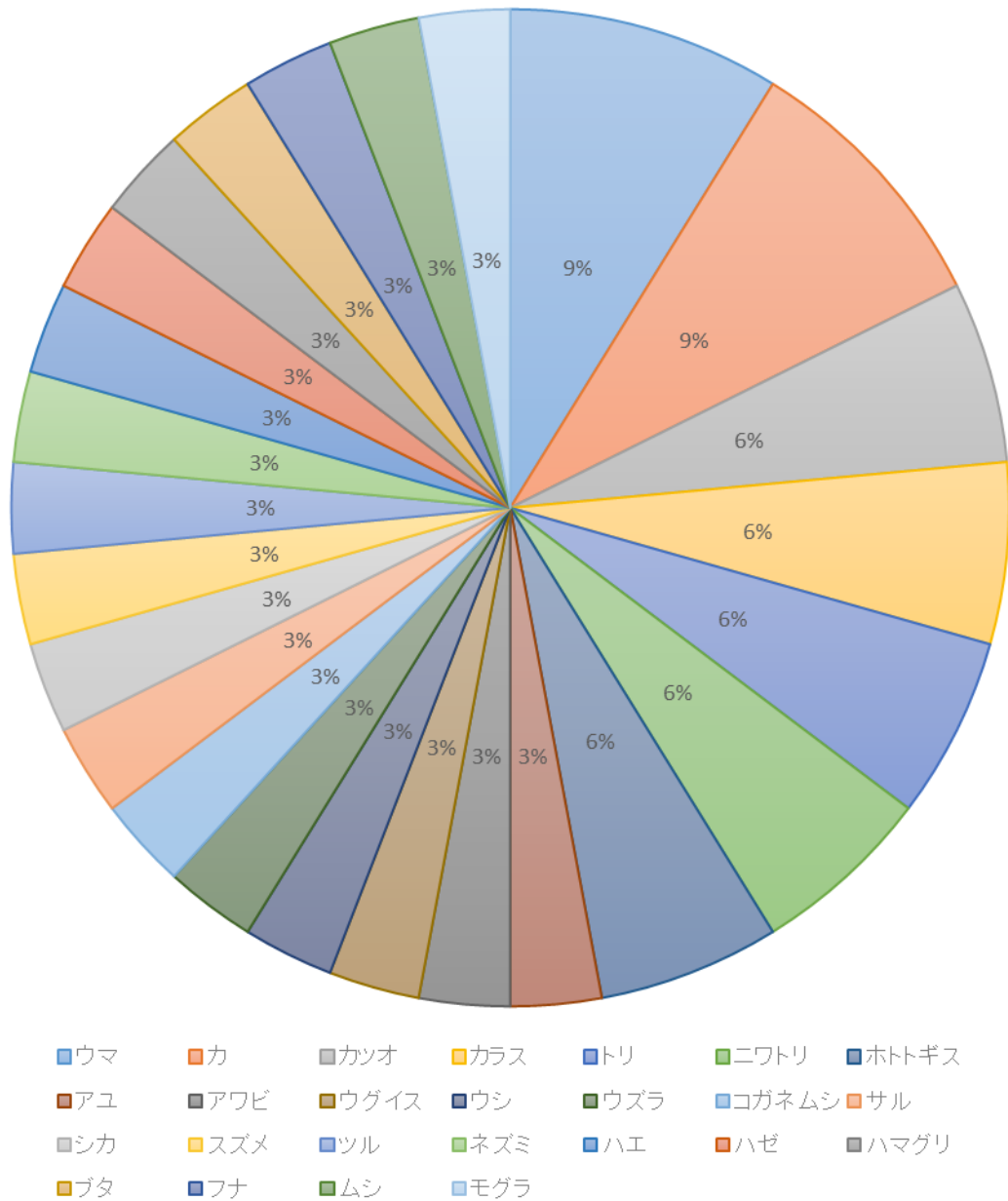
ツルの数が最も多く、ウマ、ホトトギスが続く。詠まれた動物の種類、動物が詠まれている句の割合、ともに多い。

### 30 篇

30 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、30 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

30篇(1804年)					
動物	数				
ウマ	3				
カ	3				
カツオ	2				
カラス	2				
トリ	2				
ニワトリ	2				
ホトギス	2				
アユ	1				
アワビ	1				
ウグイス	1				
ウシ	1				
ウズラ	1				
コガネムシ	1				
サル	1				
シカ	1				
スズメ	1				
ツル	1				
ネズミ	1				
ハエ	1				
ハゼ	1				
ハマグリ	1				
ブタ	1				
フナ	1				
ムシ	1				
モグラ	1				
計25種	34	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
		30	630	34	5.4

30篇に表れる動物

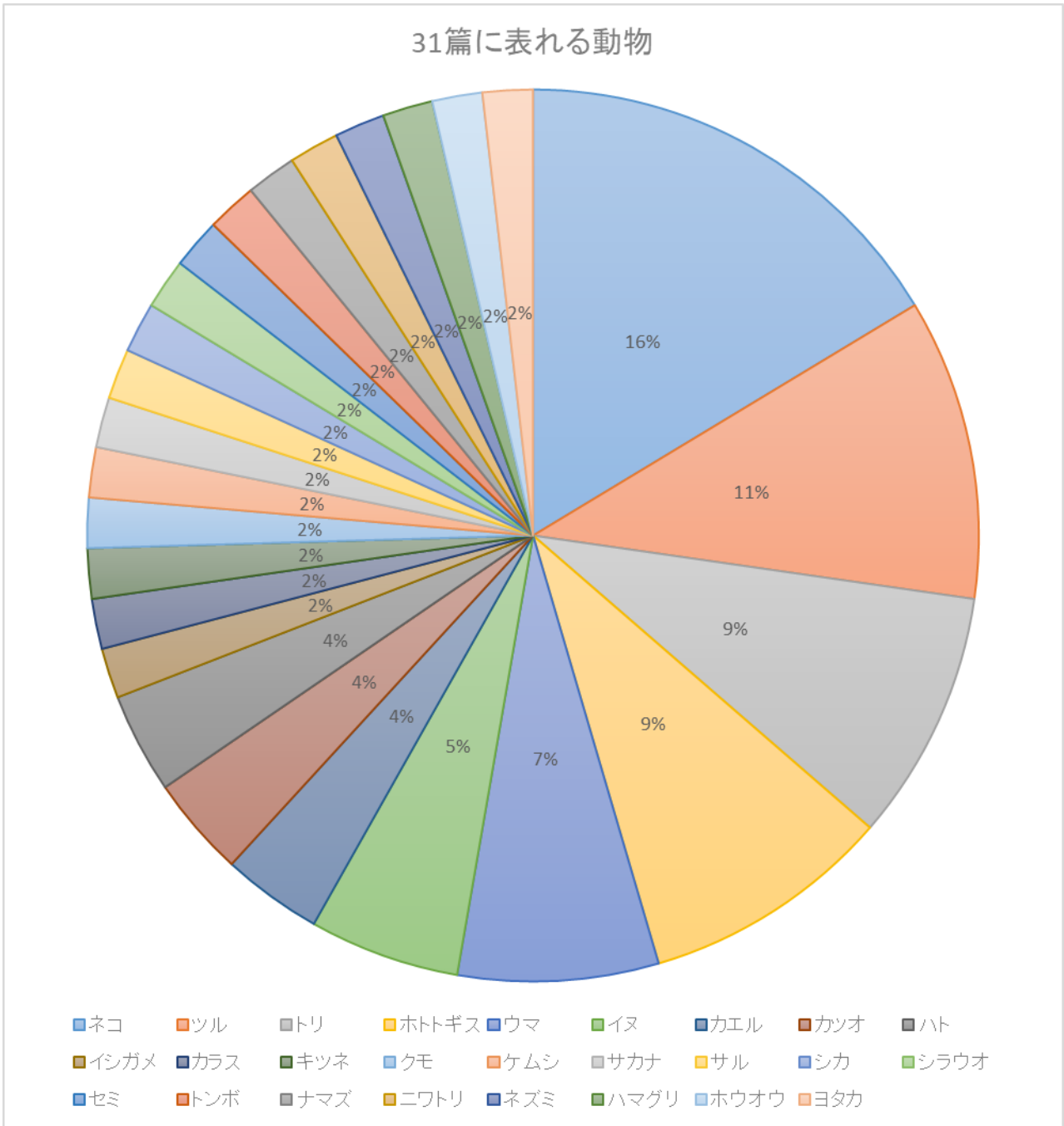


詠まれた動物の種類、動物が詠まれた句の割合ともに少なくなっている。また、ウマ、カ  
 の数が最も多く、カツオ、カラス、トリ、ニワトリ、ホトトギスが続く。詠まれた動物の割  
 合は割れている。

### 31 篇

31 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、31 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

31 篇(1805年)					
動物	数				
ネコ	9				
ツル	6				
トリ	5				
ホトギス	5				
ウマ	4				
イヌ	3				
カエル	2				
カツオ	2				
ハト	2				
イシガメ	1				
カラス	1				
キツネ	1				
クモ	1				
ケムシ	1				
サカナ	1				
サル	1				
シカ	1				
シラウオ	1				
セミ	1				
トンボ	1				
ナマズ	1				
ニワトリ	1				
ネズミ	1				
ハマグリ	1				
ホウオウ	1				
ヨタカ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計26種	55	31	651	55	8.4



詠まれた動物の種類、詠まれた句の割合がやや減っている。最も多く詠まれた動物はネコで、ツル、トリ、ホトトギス、ウマと続く。動物の種類割合はやや偏っている。

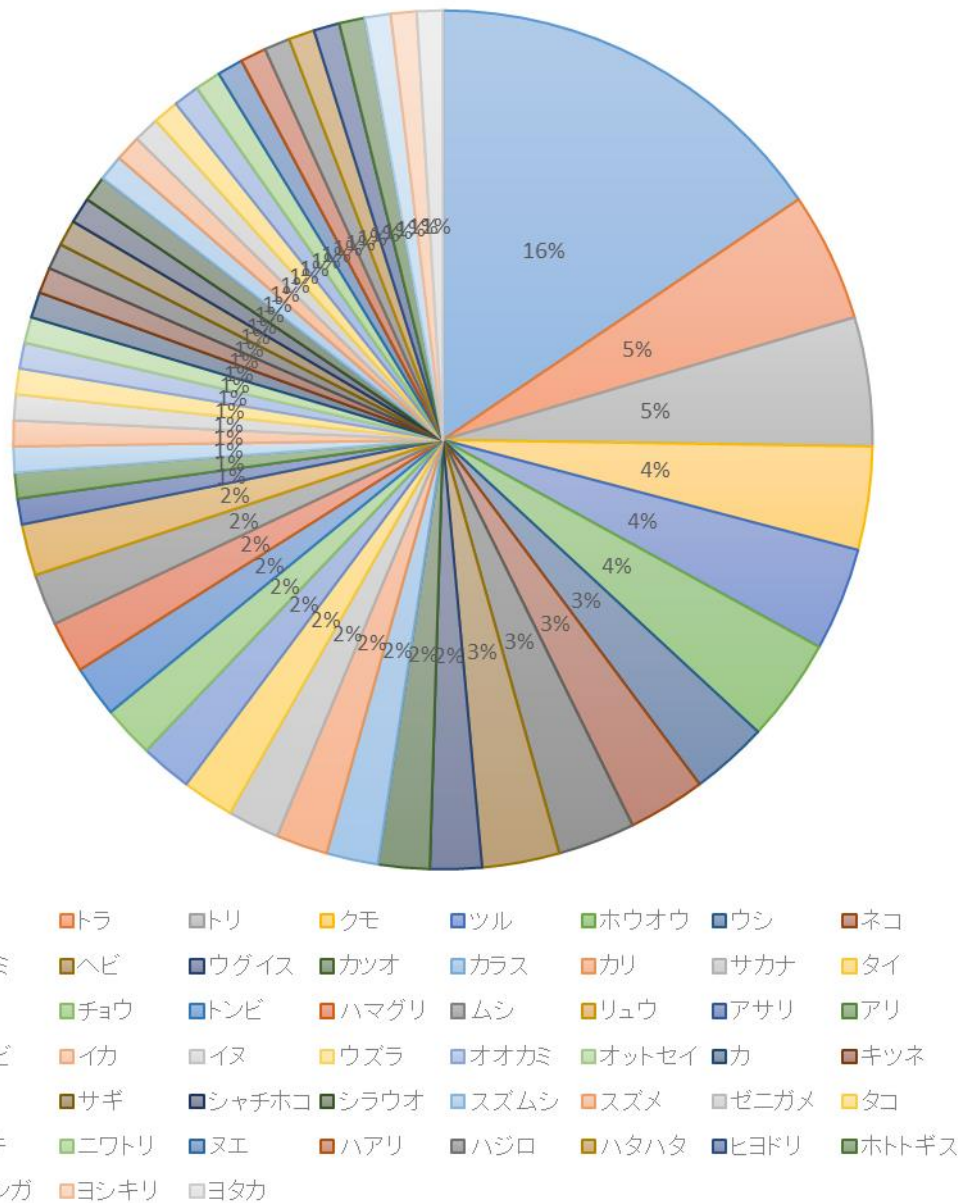
**33 篇**

33 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、33 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

33篇(1806年)		スズムシ	1
動物	数	スズメ	1
ウマ	16	ゼニガメ	1
トラ	5	タコ	1
トリ	5	タヌキ	1
クモ	4	ニワトリ	1
ツル	4	ヌエ	1
ホウオウ	4	ハアリ	1
ウシ	3	ハジロ	1
ネコ	3	ハタハタ	1
ネズミ	3	ヒヨドリ	1
ヘビ	3	ホトギス	1
ウグイス	2	モモンガ	1
カツオ	2	ヨシキリ	1
カラス	2	ヨタカ	1
カリ	2	計51種	103
サカナ	2		
タイ	2		
タカ	2		
チョウ	2		
トンビ	2		
ハマグリ	2		
ムシ	2		
リュウ	2		
アサリ	1		
アリ	1		
アワビ	1		
イカ	1		
イヌ	1		
ウズラ	1		
オオカミ	1		
オットセイ	1		
カ	1		
キツネ	1		
クマ	1		
サギ	1		
シャチホコ	1		
シラウオ	1		

篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
33	694	103	14.8

33篇に表れる動物



動物の種類、動物の詠まれた句の割合、ともにかなり多くなっている。ウマが最も数が多く、動物の種類割合はやや偏っている。

### 36 篇

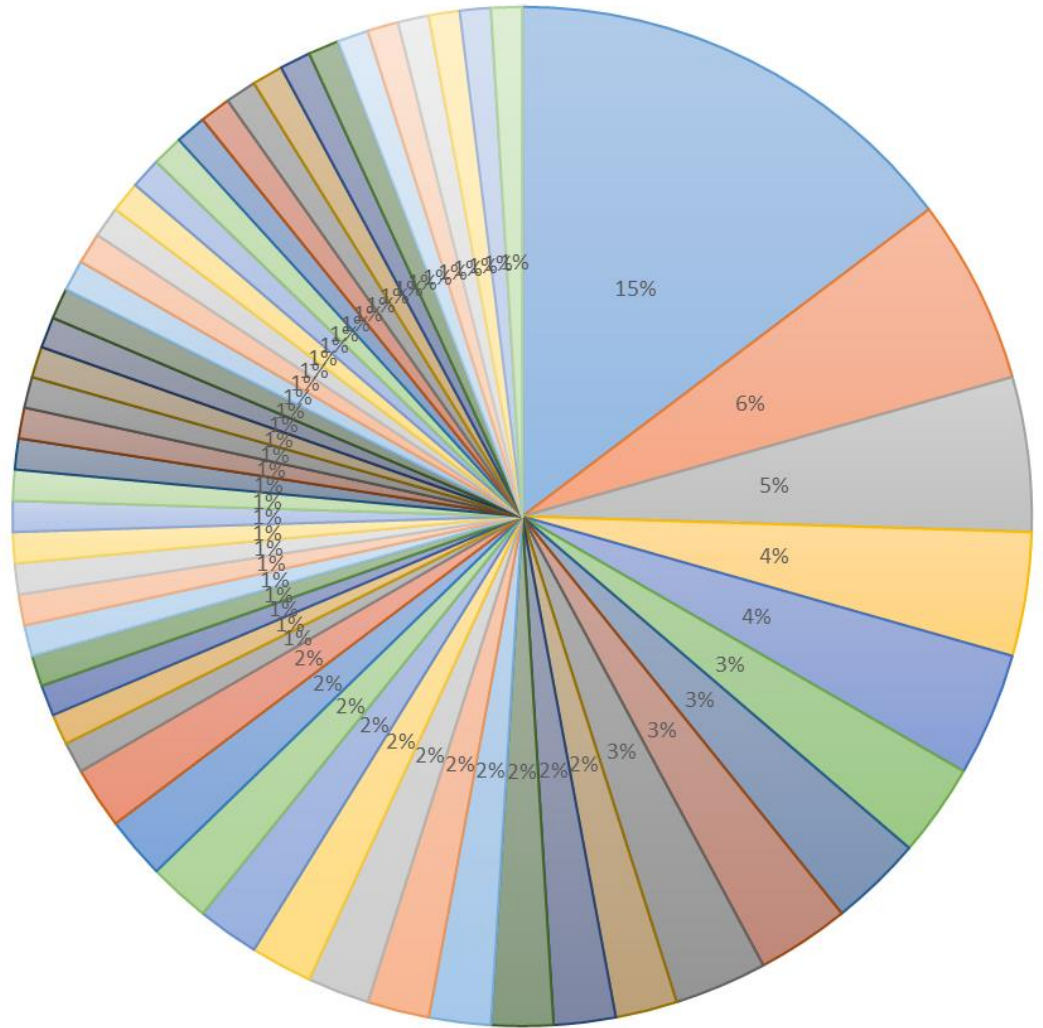
36 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、36 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

36篇(1807年)		カラス	1
動物	数	キリン	1
ウマ	15	クジャク	1
トリ	6	コイ	1
リュウ	5	サル	1
ウグイス	4	シカ	1
ネズミ	4	ジュウイチ	1
カメ	3	スイギュウ	1
サカナ	3	スイリュウ	1
ツル	3	スッポン	1
ネコ	3	セキレイ	1
イノシシ	2	ゾウ	1
ウシ	2	タカ	1
カ	2	タコ	1
カエル	2	テング	1
カツオ	2	トンボ	1
キツネ	2	ナマズ	1
クマ	2	ニワトリ	1
スズメ	2	ハト	1
トラ	2	ヒヨドリ	1
ホウオウ	2	フグ	1
ホトギス	2	ブッポウソ	1
アカガイ	1	ヘイケガニ	1
アカトンボ	1	ヘビ	1
イワシ	1	ホタル	1
ウ	1	ムシ	1
ウサギ	1	ワシ	1
カッコウ	1	計55種	102
カモ	1		

篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
36	731	102	14



36篇に表れる動物



- |         |        |        |        |       |        |       |     |
|---------|--------|--------|--------|-------|--------|-------|-----|
| ■ウマ     | ■トリ    | ■リュウ   | ■ウグイス  | ■ネズミ  | ■カメ    | ■サカナ  | ■ツル |
| ■ネコ     | ■イノシシ  | ■ウシ    | ■カ     | ■カエル  | ■カツオ   | ■キツネ  | ■クマ |
| ■スズメ    | ■トラ    | ■ホウオウ  | ■ホトギス  | ■アカガイ | ■アカトンボ | ■イワシ  | ■ウ  |
| ■ウサギ    | ■カッコウ  | ■カモ    | ■カラス   | ■キリン  | ■クジャク  | ■コイ   | ■サル |
| ■シカ     | ■ジュウイチ | ■スイギュウ | ■スイリュウ | ■スッポン | ■セキレイ  | ■ゾウ   | ■タカ |
| ■タコ     | ■テング   | ■トンボ   | ■ナマズ   | ■ニワトリ | ■ハト    | ■ヒヨドリ | ■フグ |
| ■ブッポウソウ | ■ヘイケガニ | ■ヘビ    | ■ホタル   | ■ムシ   | ■ワシ    |       |     |

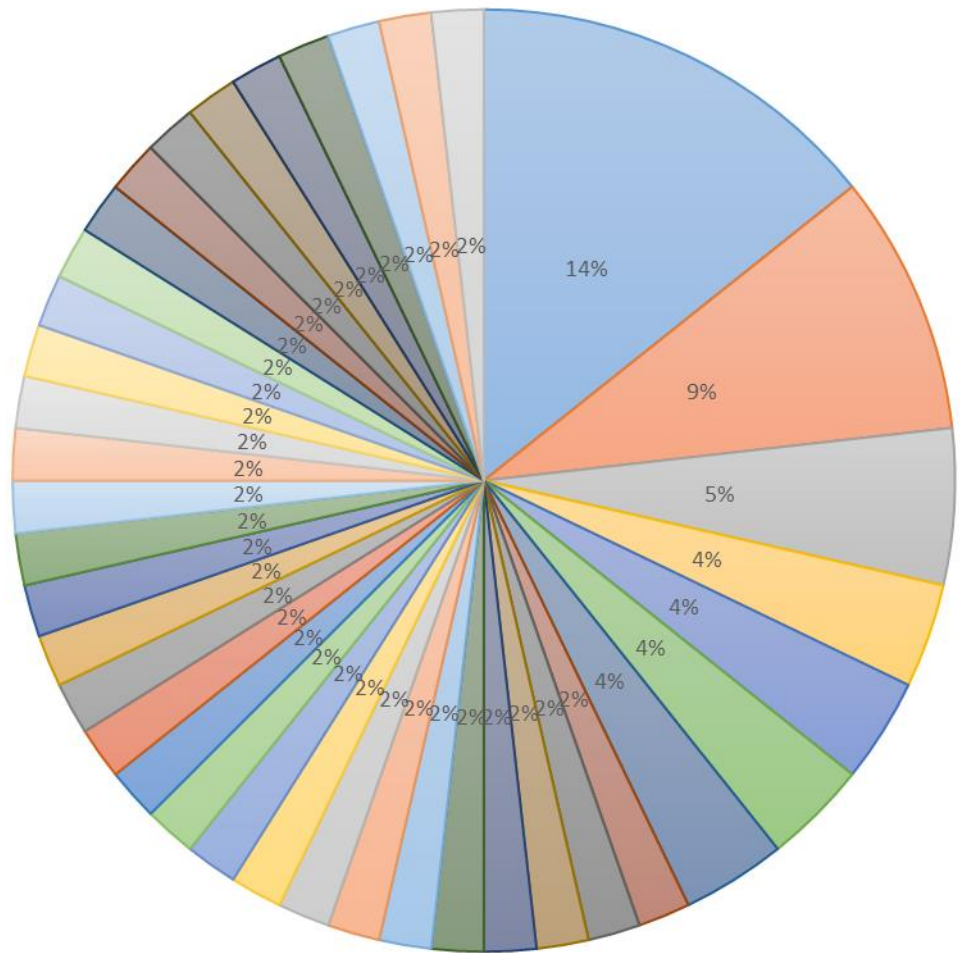
ウマの数が最も多く、トリ、リュウ、ウグイス、ネズミと続く。詠まれた動物の数、種類共に多く、ウマ以外の動物の割合は割れている。

41 篇

41 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、41 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

41篇(1808年)					
動物	数				
ウマ	8				
ツル	5				
ネコ	3				
カエル	2				
トリ	2				
又エ	2				
ホウオウ	2				
アカガイ	1				
アシカ	1				
イヌ	1				
イノシシ	1				
ウ	1				
ウシ	1				
オオカミ	1				
カツオ	1				
カメ	1				
キツネ	1				
クジャク	1				
クモ	1				
サカナ	1				
シカ	1				
シシ	1				
スズメ	1				
タヌキ	1				
チョウ	1				
ツバメ	1				
テング	1				
ドジョウ	1				
トラ	1				
トンビ	1				
トンボ	1				
ハゼ	1				
ハト	1				
フグ	1				
ブッポウソウ	1				
ヘビ	1				
ホトギス	1				
ムシ	1				
ヤマドリ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
全39種	56	41	717	56	7.8

41篇に表れる動物



- |        |         |       |        |       |       |          |
|--------|---------|-------|--------|-------|-------|----------|
| ■ ウマ   | ■ ツル    | ■ ネコ  | ■ カエル  | ■ トリ  | ■ ヌエ  | ■ ホウオウ   |
| ■ アマガイ | ■ アシカ   | ■ イヌ  | ■ イノシシ | ■ ウ   | ■ ウシ  | ■ オオカミ   |
| ■ カツオ  | ■ カメ    | ■ キツネ | ■ クジャク | ■ クモ  | ■ サカナ | ■ シカ     |
| ■ シシ   | ■ スズメ   | ■ タヌキ | ■ チョウ  | ■ ツバメ | ■ テング | ■ ドジョウ   |
| ■ トラ   | ■ トンビ   | ■ トンボ | ■ ハゼ   | ■ ハト  | ■ フグ  | ■ ブッポウソウ |
| ■ ヘビ   | ■ ホトトギス | ■ ムシ  | ■ ヤマドリ |       |       |          |

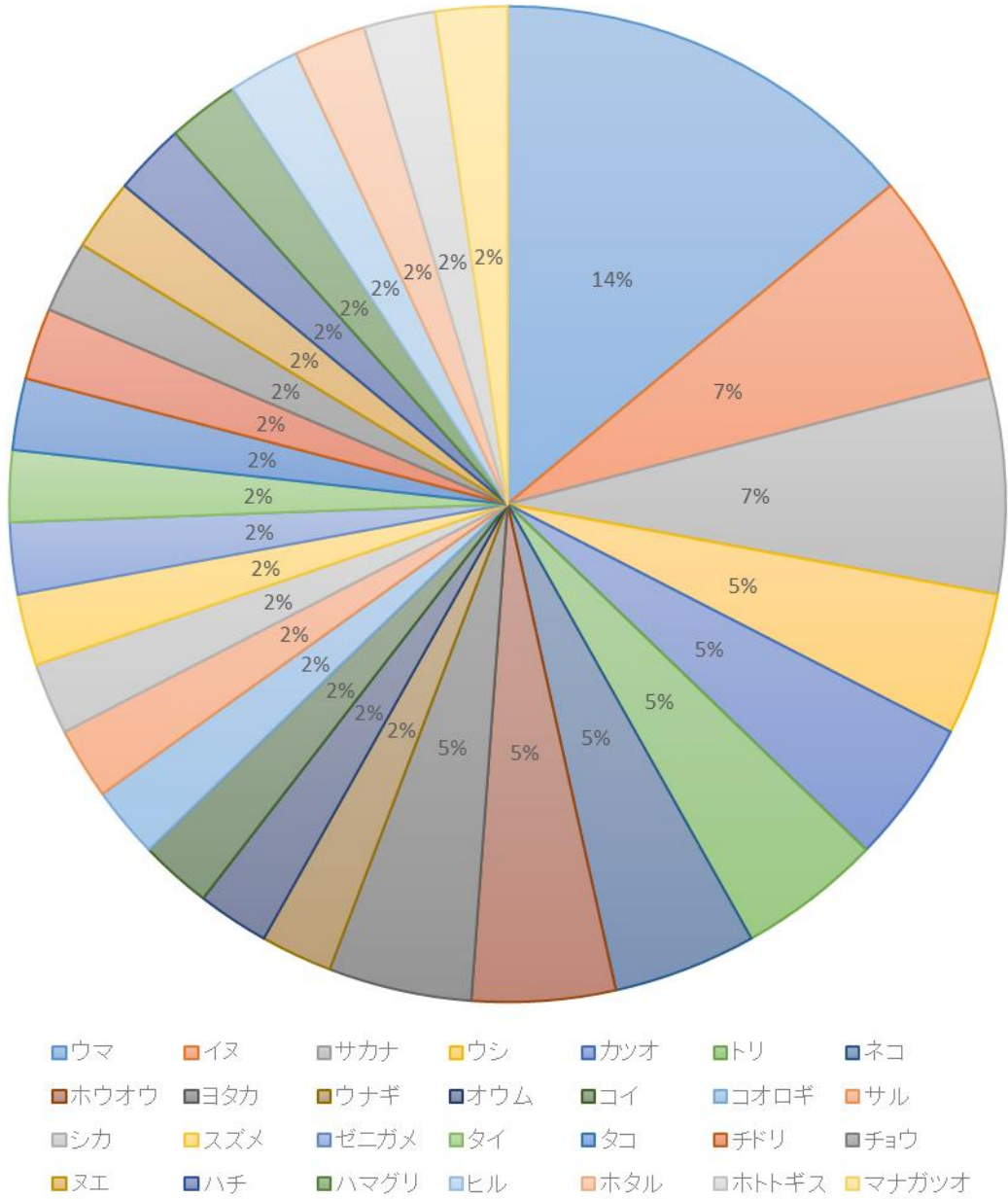
41篇もウマが多く、ツル、ネコと続く。動物の種類、動物が詠まれている句の割合がやや少なくなっている。

47 篇

47 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、47 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

47篇(1809年)					
動物	数				
ウマ	6				
イヌ	3				
サカナ	3				
ウシ	2				
カツオ	2				
トリ	2				
ネコ	2				
ハウオウ	2				
ヨタカ	2				
ウナギ	1				
オウム	1				
コイ	1				
コオロギ	1				
サル	1				
シカ	1				
スズメ	1				
ゼニガメ	1				
タイ	1				
タコ	1				
チドリ	1				
チョウ	1				
ヌエ	1				
ハチ	1				
ハマグリ	1				
ヒル	1				
ホタル	1				
ホトギス	1				
マナガツオ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
全28種	43		47	707	43
					6

47篇に表れる動物



動物の種類、動物が詠まれている句の割合ともに少なくなっている。ウマが最も多く、イヌ、サカナと続く。

## 49 篇

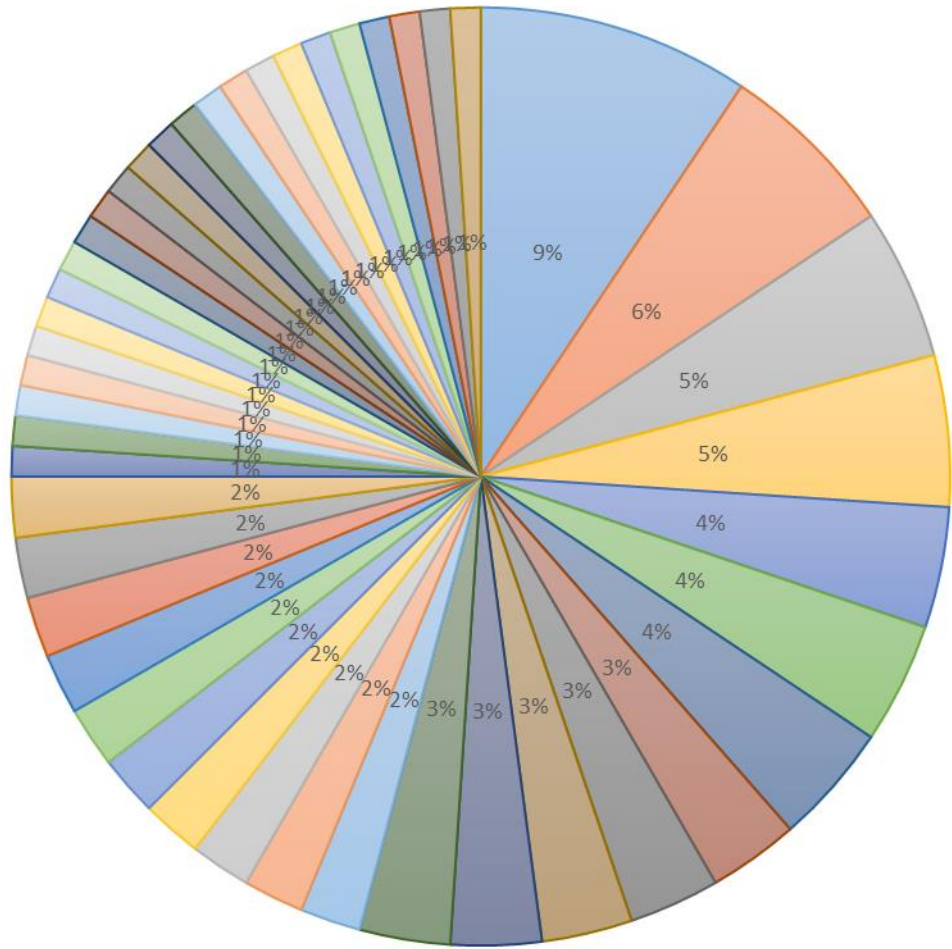
49 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、49 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

49篇(1810年)		オオカミ	1
動物	数	カイコ	1
ウマ	9	カラス	1
トリ	6	カリ	1
クモ	5	キリギリス	1
サル	5	クイナ	1
トラ	4	クジラ	1
トンビ	4	クマ	1
ネコ	4	コイ	1
キツネ	3	サカナ	1
スズメ	3	シカ	1
チョウ	3	タイ	1
ツル	3	チドリ	1
ネズミ	3	ニワトリ	1
イヌ	2	ハエ	1
オシドリ	2	ハマグリ	1
カ	2	ハムシ	1
シャチホコ	2	ホタテ	1
セキレイ	2	ホタル	1
タカ	2	計46種	98
ハト	2		
ハウオウ	2		
ミミズ	2		
リュウ	2		
アブ	1		
アンコウ	1		
イシモチ	1		
ウ	1		
ウナギ	1		

篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
49	734	98	13.3



49篇に表れる動物



- |       |      |       |       |      |       |     |        |
|-------|------|-------|-------|------|-------|-----|--------|
| ■ウマ   | ■トリ  | ■クモ   | ■サル   | ■トラ  | ■トンビ  | ■ネコ | ■キツネ   |
| ■スズメ  | ■チョウ | ■ツル   | ■ネズミ  | ■イヌ  | ■オシドリ | ■カ  | ■シャチホコ |
| ■セキレイ | ■タカ  | ■ハト   | ■ホウオウ | ■ミミズ | ■リュウ  | ■アブ | ■アンコウ  |
| ■イシモチ | ■ウ   | ■ウナギ  | ■オオカミ | ■カイコ | ■カラス  | ■カリ | ■キリギリス |
| ■クイナ  | ■クジラ | ■クマ   | ■コイ   | ■サカナ | ■シカ   | ■タイ | ■チドリ   |
| ■ニワトリ | ■ハエ  | ■ハマグリ | ■ハムシ  | ■ホタテ | ■ホタル  |     |        |

41篇、47篇で減った動物の種類、動物が詠まれている句の割合が多くなっている。一番多い動物はウマで、トリ、クモ、サルと続く。詠まれた動物の種類割合は割れている。

## 50 篇

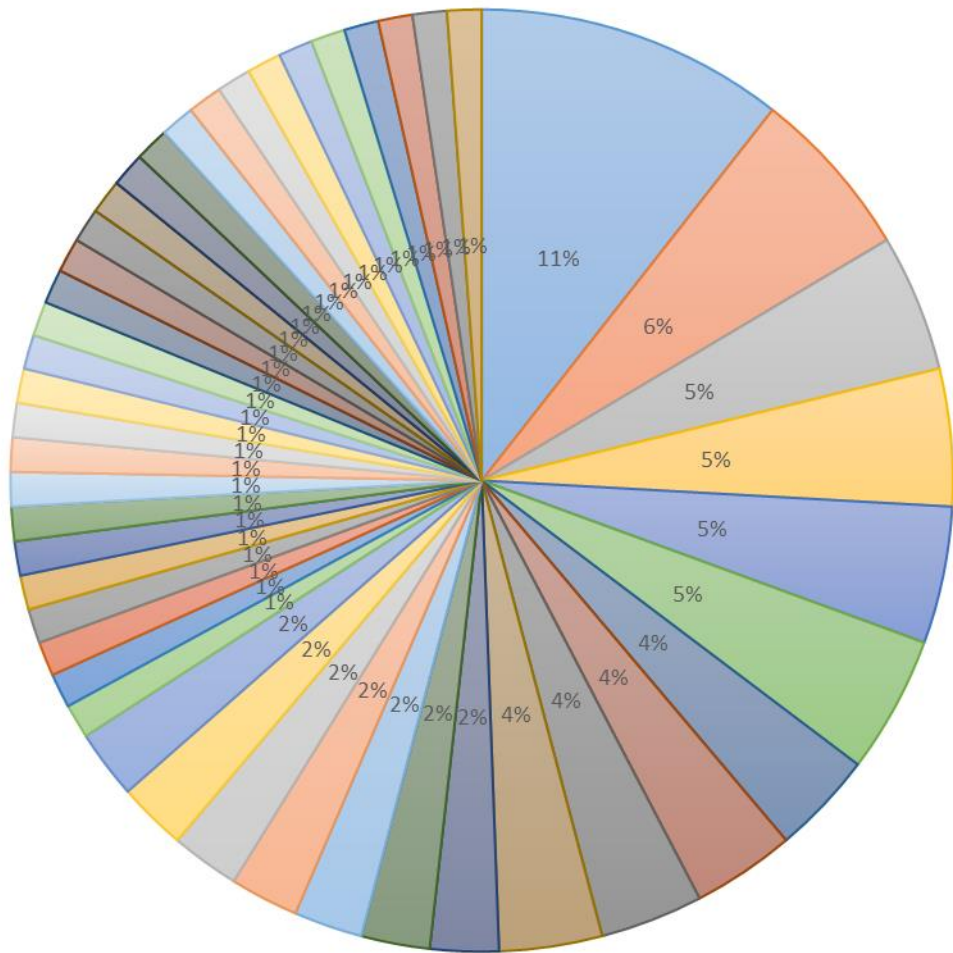
50 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、50 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

50篇(1811年)		サギ	1
動物	数	サクラガイ	1
タカ	9	サル	1
ホトギス	5	シラサギ	1
ウマ	4	スイギユウ	1
タコ	4	スッポン	1
ツル	4	セキレイ	1
ネコ	4	タヌキ	1
イヌ	3	チドリ	1
ウシ	3	トビウオ	1
カメ	3	トラ	1
フグ	3	トリ	1
ウグイス	2	トンビ	1
スズメ	2	ニワトリ	1
ネズミ	2	ネキリムシ	1
ハチ	2	フナ	1
ハマグリ	2	ヘビ	1
ホウオウ	2	ホタル	1
ワシ	2	全46種	85
アカガイ	1		
アワビ	1		
イカ	1		
イワシ	1		
ウサギ	1		
オウム	1		
オオカミ	1		
カエル	1		
カツオ	1		
クジラ	1		
コハダ	1		

篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
50	690	85	12.3



50篇に表れる動物



- |         |        |         |       |       |         |        |        |
|---------|--------|---------|-------|-------|---------|--------|--------|
| ■ タカ    | ■ ホトギス | ■ ウマ    | ■ タコ  | ■ ツル  | ■ ネコ    | ■ イヌ   | ■ ウシ   |
| ■ カメ    | ■ フグ   | ■ ウグイス  | ■ スズメ | ■ ネズミ | ■ ハチ    | ■ ハマグリ | ■ ホウオウ |
| ■ ワシ    | ■ アカガイ | ■ アワビ   | ■ イカ  | ■ イワシ | ■ ウサギ   | ■ オウム  | ■ オオカミ |
| ■ カエル   | ■ カツオ  | ■ クジラ   | ■ コハダ | ■ サギ  | ■ サクラガイ | ■ サル   | ■ シラサギ |
| ■ スイギュウ | ■ スッポン | ■ セキレイ  | ■ タヌキ | ■ チドリ | ■ トビウオ  | ■ トラ   | ■ トリ   |
| ■ トンビ   | ■ ニワトリ | ■ ネキリムシ | ■ フナ  | ■ ヘビ  | ■ ホタル   |        |        |

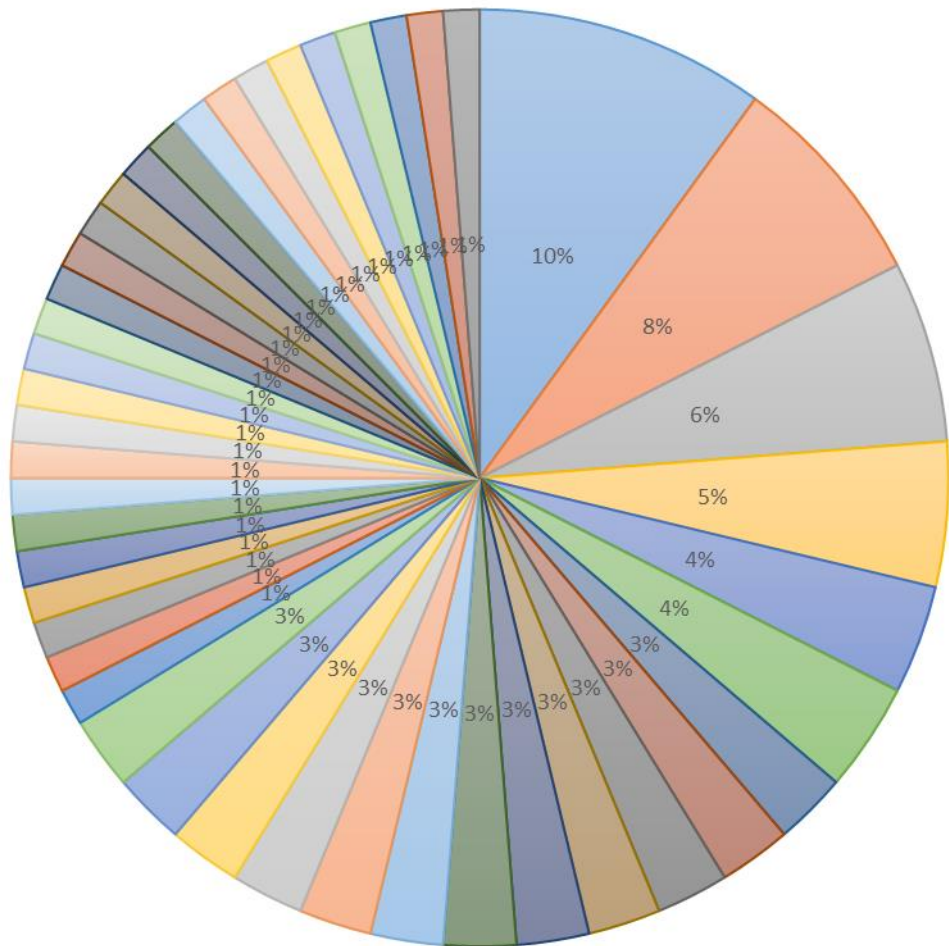
50 篇ではタカが最も多くなり、ホトギスが続く。動物の種類割合は割れている。詠まれた動物の種類数、動物が詠まれた句の割合は前年とほぼ変わらない。

### 59 篇

59 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、59 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

59篇(1812年)					
動物	数				
ウマ	8				
ホトギス	6				
ツル	5				
カツオ	4				
カ	3				
バク	3				
ウグイス	2				
カメ	2				
カモメ	2				
タカ	2				
トリ	2				
ヌエ	2				
ネコ	2				
ネズミ	2				
ハエ	2				
ヘビ	2				
ミミズ	2				
リュウ	2				
アヒル	1				
イヌ	1				
イノシシ	1				
ウナギ	1				
カエル	1				
カッコウ	1				
キジ	1				
キリン	1				
クイナ	1				
クツワムシ	1				
クモ	1				
サカナ	1				
サメ	1				
サル	1				
シカ	1				
シラミ	1				
スズメ	1				
セキレイ	1				
チドリ	1				
ツバメ	1				
トラ	1				
フグ	1				
ホウオウ	1				
ホタル	1				
ミヤコドリ	1				
ムカデ	1				
ヨタカ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
全45種	80	59	659	80	12.1

59篇に表れる動物



- |       |        |        |        |       |      |       |       |
|-------|--------|--------|--------|-------|------|-------|-------|
| ■ウマ   | ■ホトトギス | ■ツル    | ■カツオ   | ■カ    | ■バク  | ■ウグイス | ■カメ   |
| ■カモメ  | ■タカ    | ■トリ    | ■ヌエ    | ■ネコ   | ■ネズミ | ■ハエ   | ■ヘビ   |
| ■ミミズ  | ■リュウ   | ■アヒル   | ■イヌ    | ■イノシシ | ■ウナギ | ■カエル  | ■カッコウ |
| ■キジ   | ■キリン   | ■クイナ   | ■クツワムシ | ■クモ   | ■サカナ | ■サメ   | ■サル   |
| ■シカ   | ■シラミ   | ■スズメ   | ■セキレイ  | ■チドリ  | ■ツバメ | ■トラ   | ■フグ   |
| ■ホウオウ | ■ホタル   | ■ミヤコドリ | ■ムカデ   | ■ヨタカ  |      |       |       |

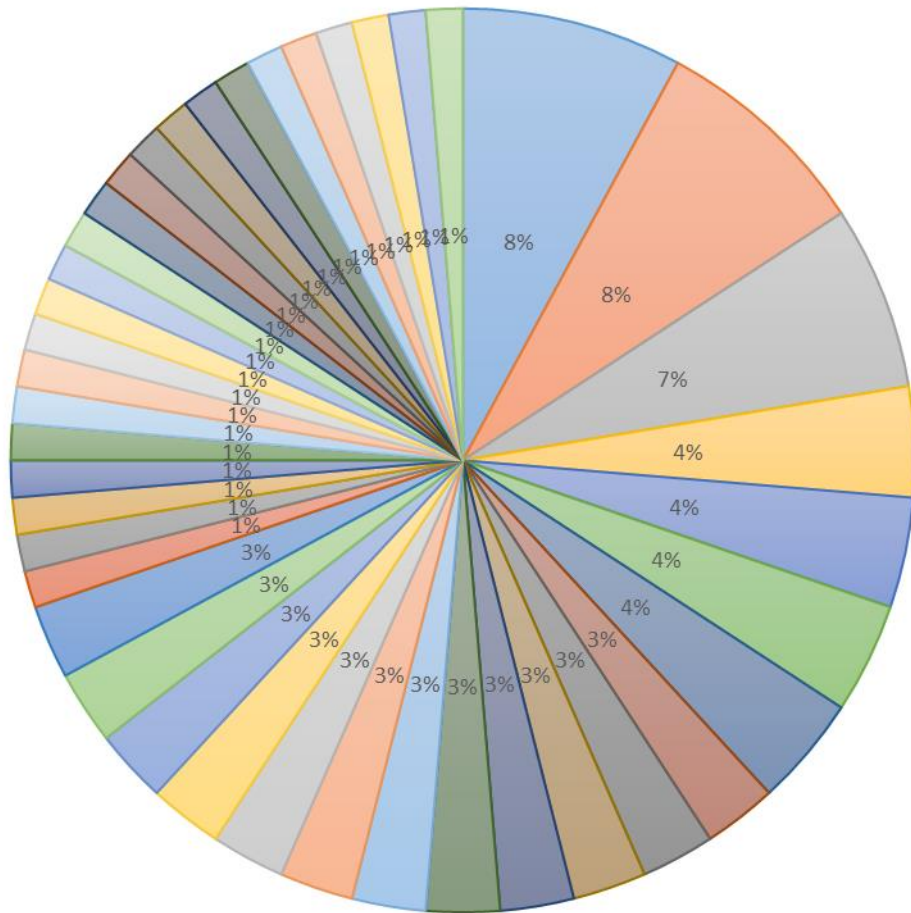
再びウマが最も多くなり、ホトトギス、ツル、カツオと続く。動物の種類割合は割れている。詠まれた動物の種類の数、動物が詠まれている句の割合は前年とほぼ同じである。

63 篇

63 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、63 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

63篇(1813年)					
動物	数				
ウマ	6				
トリ	6				
ホトギス	5				
カ	3				
カツオ	3				
サカナ	3				
チョウ	3				
イヌ	2				
コイ	2				
シャチホコ	2				
セミ	2				
タイ	2				
タコ	2				
タヌキ	2				
チン	2				
ニワトリ	2				
ネコ	2				
ハマグリ	2				
ムシ	2				
アカガイ	1				
ウシ	1				
ウナギ	1				
オシドリ	1				
カジキ	1				
カタツムリ	1				
カッコウ	1				
キツネ	1				
クジラ	1				
クモ	1				
コウモリ	1				
サル	1				
シラミ	1				
シロネズミ	1				
ツバメ	1				
ツル	1				
トラ	1				
トンボ	1				
ニンギョ	1				
ネズミ	1				
ハウオウ	1				
モグラ	1				
リュウ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
全42種	76	63	526	76	14.4

63篇に表れる動物



- |       |        |         |         |         |        |       |
|-------|--------|---------|---------|---------|--------|-------|
| ■ ウマ  | ■ トリ   | ■ ホトトギス | ■ カ     | ■ カツオ   | ■ サカナ  | ■ チヨウ |
| ■ イヌ  | ■ コイ   | ■ シャチホコ | ■ セミ    | ■ タイ    | ■ タコ   | ■ タヌキ |
| ■ チン  | ■ ニワトリ | ■ ネコ    | ■ ハマグリ  | ■ ムシ    | ■ アカガイ | ■ ウシ  |
| ■ ウナギ | ■ オシドリ | ■ カジキ   | ■ カタツムリ | ■ カッコウ  | ■ キツネ  | ■ クジラ |
| ■ クモ  | ■ コウモリ | ■ サル    | ■ シラミ   | ■ シロネズミ | ■ ツバメ  | ■ ツル  |
| ■ トラ  | ■ トンボ  | ■ ニンギョ  | ■ ネズミ   | ■ ホウオウ  | ■ モグラ  | ■ リュウ |

ウマとトリが同数で一番多く、ホトトギスが続く。種類は前年とほぼ同数で、動物が詠まれた句の割合がやや増えている。

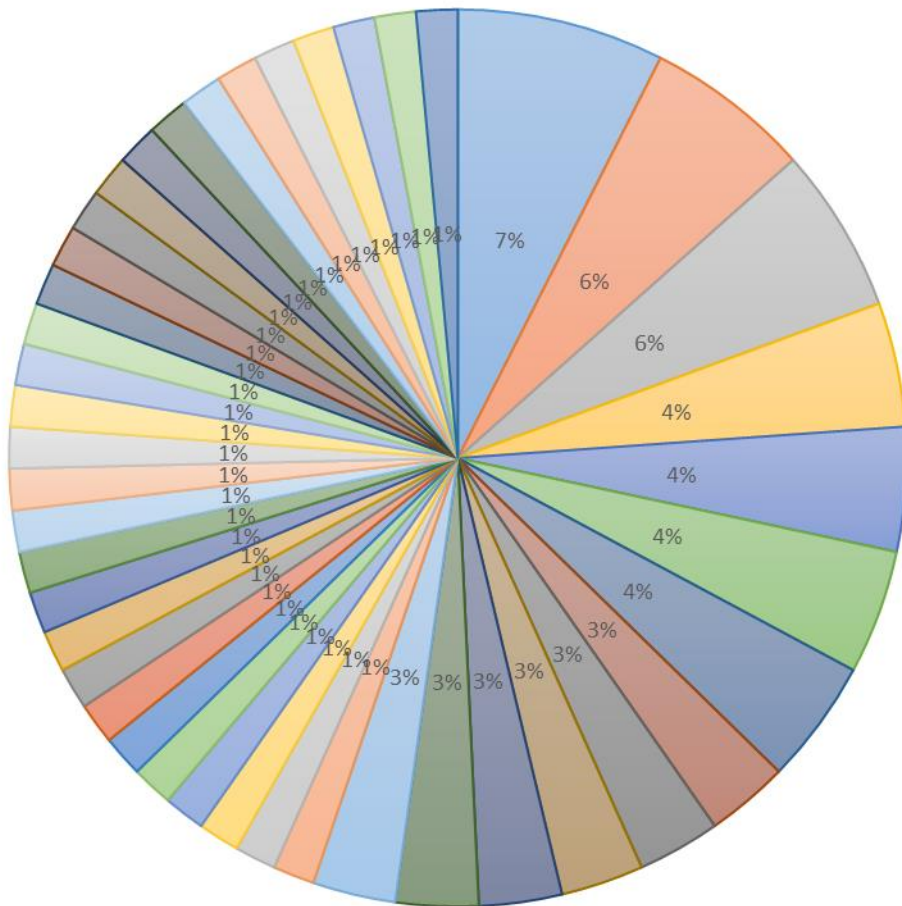
### 65 篇

65 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、65 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

65篇(1814年)					
動物	数				
ウマ	5				
カ	4				
ホトギス	4				
ウシ	3				
ネズミ	3				
ホウオウ	3				
ヨタカ	3				
カツオ	2				
キツネ	2				
コイ	2				
シジミ	2				
トリ	2				
ネコ	2				
アヒル	1				
アユ	1				
アワビ	1				
イスカ	1				
ウジムシ	1				
カエル	1				
カリ	1				
クイナ	1				
クモ	1				
サル	1				
シカ	1				
ジョロウグモ	1				
シラウオ	1				
シラミ	1				
ゾウ	1				
タイ	1				
タカ	1				
タヌキ	1				
ツル	1				
ニワトリ	1				
バク	1				
ハチ	1				
ハト	1				
ハムシ	1				
ヒツジ	1				
フナ	1				
ヘビ	1				
ホタル	1				
ミミズク	1				
リュウ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計43種	67	65	570	67	11.7



65篇に表れる動物



- |       |      |        |         |       |       |       |
|-------|------|--------|---------|-------|-------|-------|
| ■ウマ   | ■カ   | ■ホトトギス | ■ウシ     | ■ネズミ  | ■ホウオウ | ■ヨタカ  |
| ■カッタオ | ■キツネ | ■コイ    | ■シジミ    | ■トリ   | ■ネコ   | ■アヒル  |
| ■アユ   | ■アワビ | ■イスカ   | ■ウジムシ   | ■カエル  | ■カリ   | ■クイナ  |
| ■クモ   | ■サル  | ■シカ    | ■ジョロウグモ | ■シラウオ | ■シラミ  | ■ゾウ   |
| ■タイ   | ■タカ  | ■タヌキ   | ■ツル     | ■ニワトリ | ■バク   | ■ハチ   |
| ■ハト   | ■ハムシ | ■ヒツジ   | ■フナ     | ■ヘビ   | ■ホタル  | ■ミミズク |
| ■リュウ  |      |        |         |       |       |       |

ウマが最も多く、カ、ホトトギスが続く。動物の種は同数で、動物が詠まれた句の割合はやや減っている。詠まれた動物の割合は割れている。

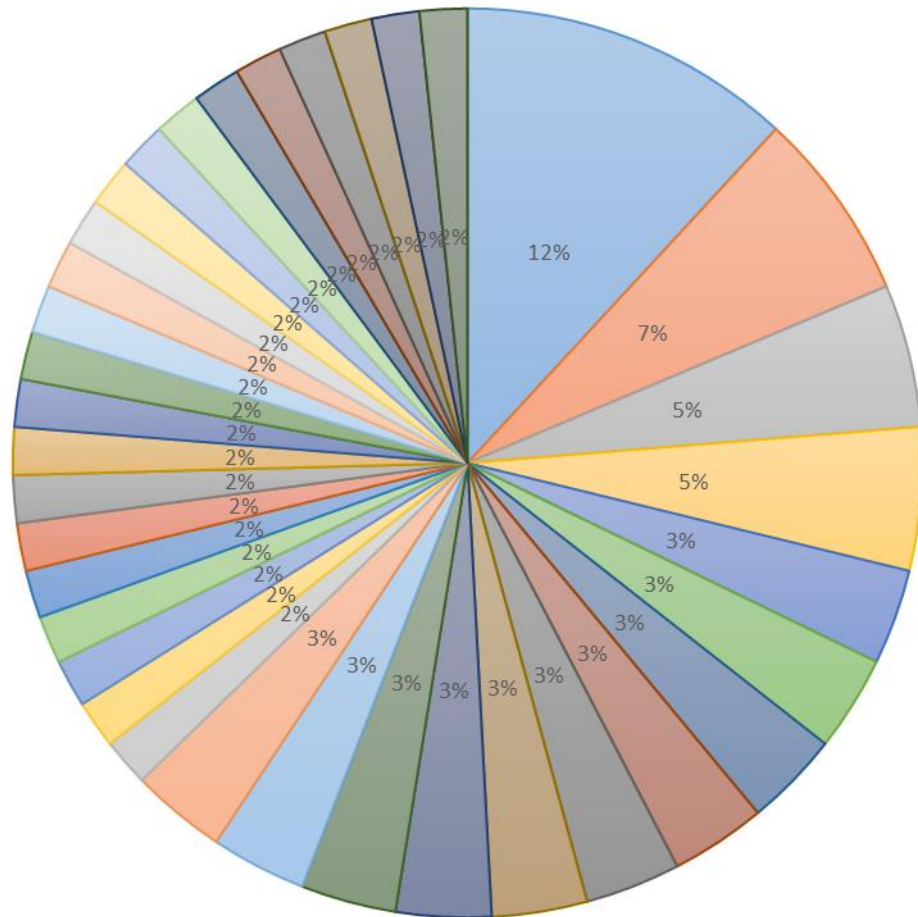
## 67 篇

67 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、67 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

67篇(1815年)					
動物	数				
ホトギス	7				
カ	4				
ウマ	3				
カツオ	3				
エビ	2				
カメ	2				
キツネ	2				
サカナ	2				
タコ	2				
タヌキ	2				
ツル	2				
ネコ	2				
ムシ	2				
モグラ	2				
アヒル	1				
イヌ	1				
ウグイス	1				
ウズラ	1				
キジ	1				
キス	1				
コイ	1				
サクラダイ	1				
サザエ	1				
シカ	1				
シヨウジョウ	1				
タカ	1				
チドリ	1				
トリ	1				
トンビ	1				
フグ	1				
ブッポウソウ	1				
ハウオウ	1				
ホタル	1				
ボラ	1				
マツムシ	1				
ヨタカ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計36種	59	67	601	59	9.8



67篇に表れる動物



- |         |       |      |        |       |      |
|---------|-------|------|--------|-------|------|
| ■ホトギス   | ■カ    | ■ウマ  | ■カツオ   | ■エビ   | ■カメ  |
| ■キツネ    | ■サカナ  | ■タコ  | ■タヌキ   | ■ツル   | ■ネコ  |
| ■ムシ     | ■モグラ  | ■アヒル | ■イヌ    | ■ウグイス | ■ウズラ |
| ■キジ     | ■キス   | ■コイ  | ■サクラダイ | ■サザエ  | ■シカ  |
| ■ショウジョウ | ■タカ   | ■チドリ | ■トリ    | ■トンビ  | ■フグ  |
| ■ブッポウソウ | ■ホウオウ | ■ホタル | ■ボラ    | ■マツムシ | ■ヨタカ |

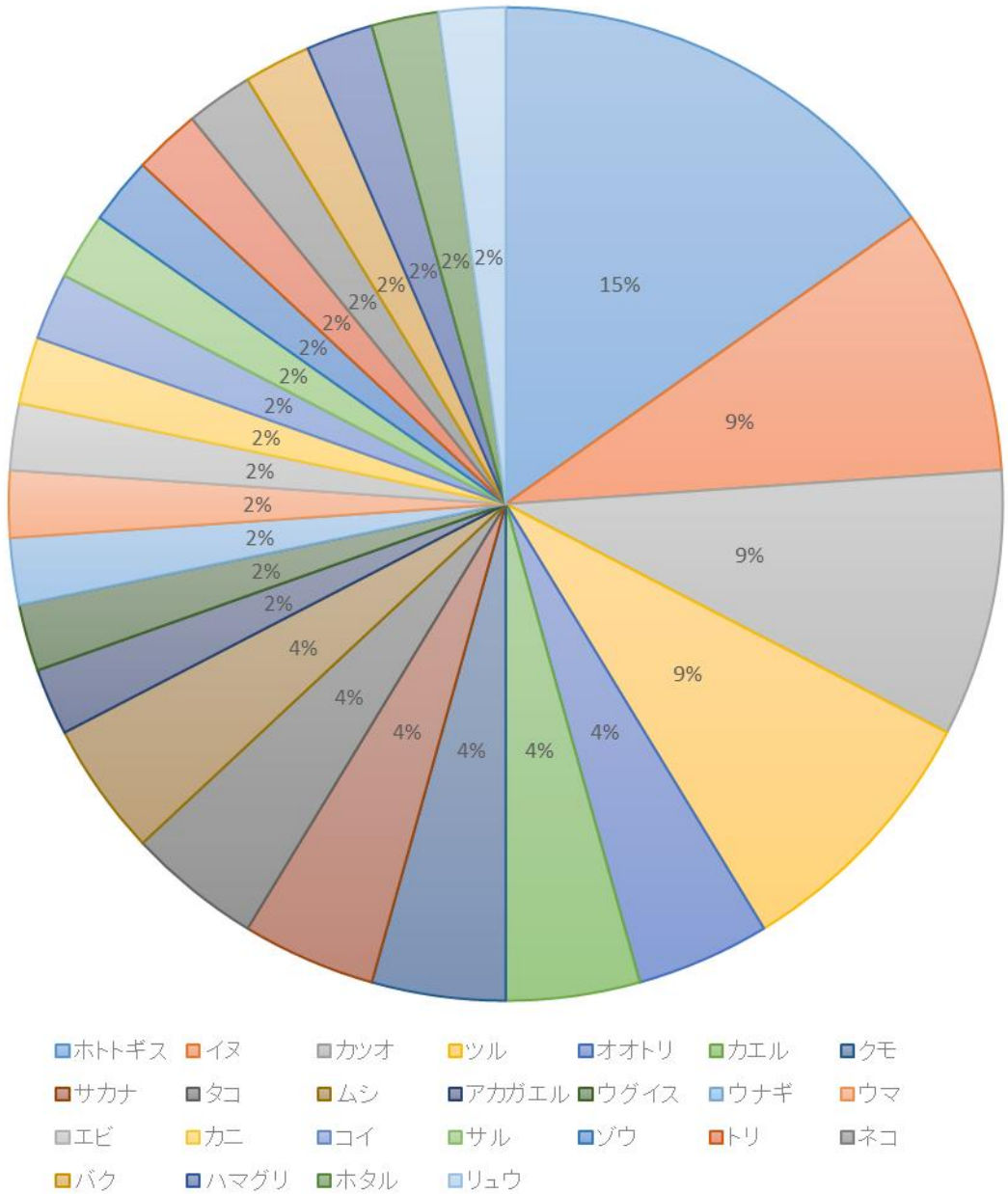
動物の種類の数、動物が詠まれた句の割合ともに、前年よりやや少なくなっている。ホトギスが最も多く、カ、ウマ、カツオと続く。

69 篇

69 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、69 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

69篇(1817年)					
動物	数				
ホトギス	7				
イヌ	4				
カツオ	4				
ツル	4				
オオトリ	2				
カエル	2				
クモ	2				
サカナ	2				
タコ	2				
ムシ	2				
アカガエル	1				
ウグイス	1				
ウナギ	1				
ウマ	1				
エビ	1				
カニ	1				
コイ	1				
サル	1				
ゾウ	1				
トリ	1				
ネコ	1				
バク	1				
ハマグリ	1				
ホタル	1				
リュウ	1				
計25種	46	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
		69	568	46	8

69篇に表れる動物



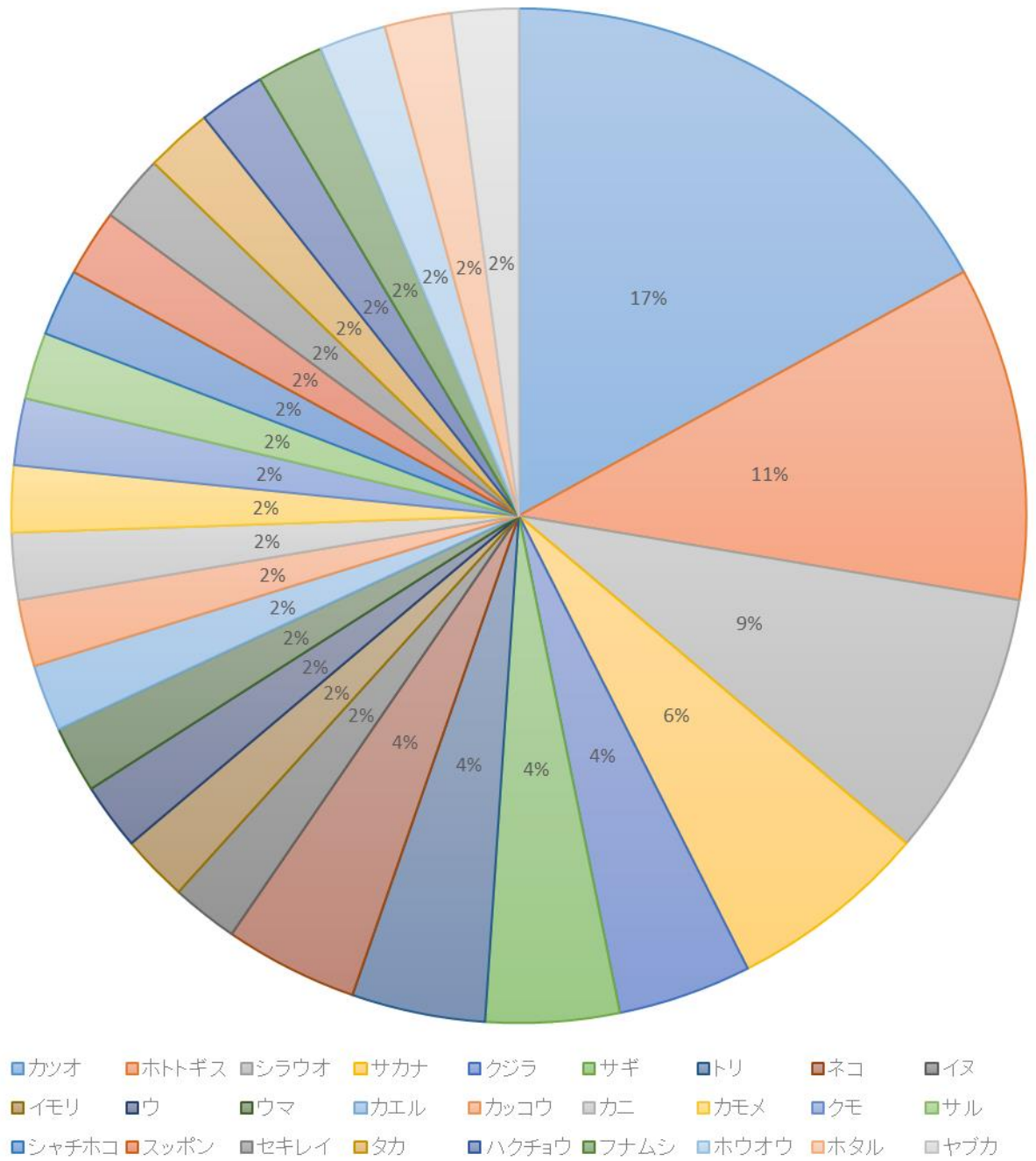
動物の種類の数、動物が詠まれた句の割合ともに、前年よりさらに少なくなっている。ホトギスの数が最も多く、イヌ、カツオ、ツルが続く。動物の種類割合はやや偏っている。

70 篇

70 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、70 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

70篇(1818年)					
動物	数				
カツオ	8				
ホトトギス	5				
シラウオ	4				
サカナ	3				
クジラ	2				
サギ	2				
トリ	2				
ネコ	2				
イヌ	1				
イモリ	1				
ウ	1				
ウマ	1				
カエル	1				
カッコウ	1				
カニ	1				
カモメ	1				
クモ	1				
サル	1				
シャチホコ	1				
スッポン	1				
セキレイ	1				
タカ	1				
ハクチョウ	1				
フナムシ	1				
ホウオウ	1				
ホタル	1				
ヤブカ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計27種	47	70	607	47	7.7

70篇に表れる動物



カツオが最も多く、ホトトギス、シラウオと続く。種類は前年より若干増えたが、動物が詠まれた句の割合はやや減っている。割合はやや偏っている。

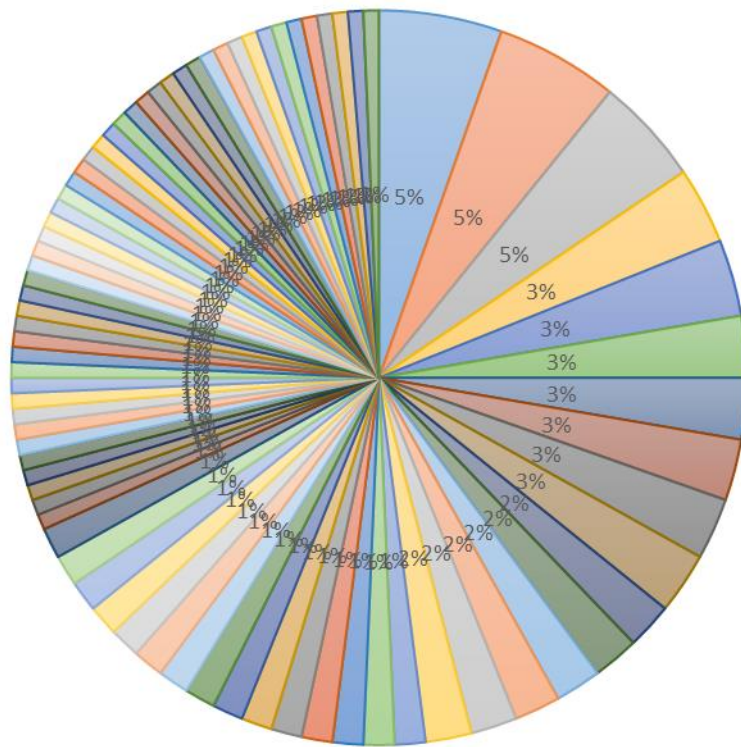
71 篇

71 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、71 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

71篇(1819年)		オウム	1
動物	数	オオカミ	1
ウマ	8	オシドリ	1
ネコ	8	カジキ	1
ツル	7	カモメ	1
ウシ	5	カリ	1
ムシ	5	カレイ	1
コイ	4	キリン	1
シラウオ	4	クイナ	1
タカ	4	クジラ	1
トリ	4	クツワムシ	1
ハト	4	ケモノ	1
カメ	3	コオロギ	1
カラス	3	サクラダイ	1
キツネ	3	サザエ	1
サカナ	3	シギ	1
ノミ	3	シジミ	1
ホトギス	3	ショウジョウ	1
イワシ	2	スズメ	1
ウグイス	2	セキレイ	1
カ	2	タイホウ	1
カエル	2	タコ	1
カツオ	2	ダチョウ	1
カッパ	2	タヌキ	1
カモ	2	ツバメ	1
キリギリス	2	トンビ	1
クモ	2	トンボ	1
サル	2	ナメクジ	1
チドリ	2	ニワトリ	1
チョウ	2	ハチ	1
ネズミ	2	ハマグリ	1
ヒキガエル	2	ヒツジ	1
ハウオウ	2	フグ	1
アジ	1	ブッポウソウ	1
アブラムシ	1	ヘビ	1
アユ	1	ホタル	1
アンコウ	1	ミヤコドリ	1
イセエビ	1	ライジュウ	1
イヌ	1	リュウ	1
ウブメ	1	計79種	148
エビ	1		

篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
71	637	148	23.2

## 71篇に表れる動物



- |         |        |         |        |        |        |        |
|---------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|
| ■ウマ     | ■ネコ    | ■ツル     | ■ウシ    | ■ムシ    | ■コイ    | ■シラウオ  |
| ■タカ     | ■トリ    | ■ハト     | ■カメ    | ■カラス   | ■キツネ   | ■サカナ   |
| ■ノミ     | ■ホトギス  | ■イワシ    | ■ウグイス  | ■カ     | ■カエル   | ■カツオ   |
| ■カッパ    | ■カモ    | ■キリギリス  | ■クモ    | ■サル    | ■チドリ   | ■チョウ   |
| ■ネズミ    | ■ヒキガエル | ■ホウオウ   | ■アジ    | ■アブラムシ | ■アユ    | ■アンコウ  |
| ■イセエビ   | ■イヌ    | ■ウブメ    | ■エビ    | ■オウム   | ■オオカミ  | ■オシドリ  |
| ■カジキ    | ■カモメ   | ■カリ     | ■カレイ   | ■キリン   | ■クイナ   | ■クジラ   |
| ■クツワムシ  | ■ケモノ   | ■コオロギ   | ■サクラダイ | ■サザエ   | ■シギ    | ■シジミ   |
| ■ショウジョウ | ■スズメ   | ■セキレイ   | ■タイホウ  | ■タコ    | ■ダチョウ  | ■タヌキ   |
| ■ツバメ    | ■トンビ   | ■トンボ    | ■ナメクジ  | ■ニワトリ  | ■ハチ    | ■ハマグリ  |
| ■ヒツジ    | ■フグ    | ■ブッポウソウ | ■ヘビ    | ■ホタル   | ■ミヤコドリ | ■ライジュウ |
| ■リュウ    |        |         |        |        |        |        |

動物の種類、動物が詠まれた句の割合ともかなり多くなっている。ウマとネコが同数で最も多く、ツル、ウシ、ムシと続く。動物の種類は割れている。



## 72 篇

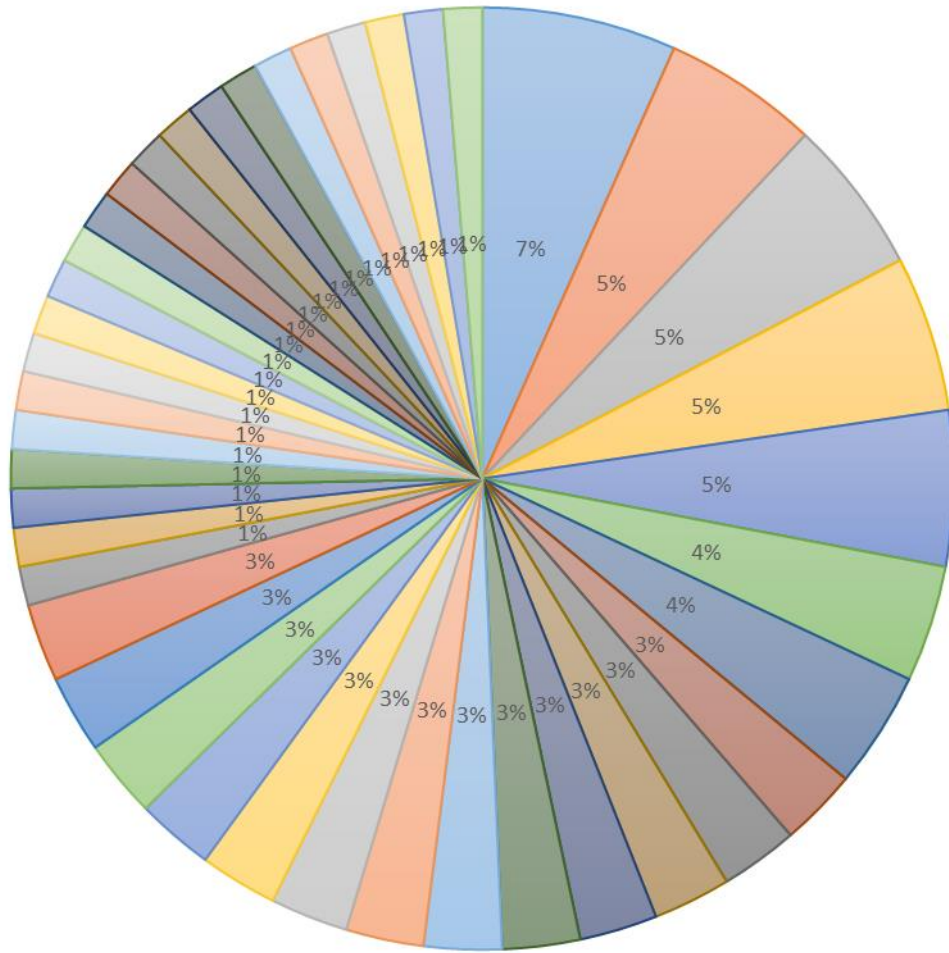
72 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、72 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

72篇(1820年)		カツオ	1
動物	数	クルマエビ	1
ウマ	5	サギ	1
チドリ	4	サメ	1
ツル	4	シラウオ	1
トリ	4	スズメ	1
ホウオウ	4	ゾウ	1
タカ	3	タイ	1
トラ	3	タニシ	1
イヌ	2	チョウ	1
イワシ	2	トンビ	1
カ	2	ネコマタ	1
カエル	2	ハマグリ	1
カラス	2	フグ	1
カリ	2	ブタ	1
クジャク	2	ホタテ	1
クモ	2	ホタル	1
サカナ	2	ミミズ	1
サル	2	モモンガ	1
シカ	2	計42種	75
タヌキ	2		
ヨシキリ	2		
アヒル	1		
アリ	1		
ウシ	1		

篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
72	574	75	13



72篇に表れる動物



- |        |       |       |         |        |        |        |
|--------|-------|-------|---------|--------|--------|--------|
| ■ ウマ   | ■ チドリ | ■ ツル  | ■ トリ    | ■ ホウオウ | ■ タカ   | ■ トラ   |
| ■ イヌ   | ■ イワシ | ■ カ   | ■ カエル   | ■ カラス  | ■ カリ   | ■ クジャク |
| ■ クモ   | ■ サカナ | ■ サル  | ■ シカ    | ■ タヌキ  | ■ ヨシキリ | ■ アヒル  |
| ■ アリ   | ■ ウシ  | ■ カツオ | ■ クルマエビ | ■ サギ   | ■ サメ   | ■ シラウオ |
| ■ スズメ  | ■ ゾウ  | ■ タイ  | ■ タニシ   | ■ チョウ  | ■ トンビ  | ■ ネコマタ |
| ■ ハマグリ | ■ フグ  | ■ ブタ  | ■ ホタテ   | ■ ホタル  | ■ ミミズ  | ■ モモンガ |

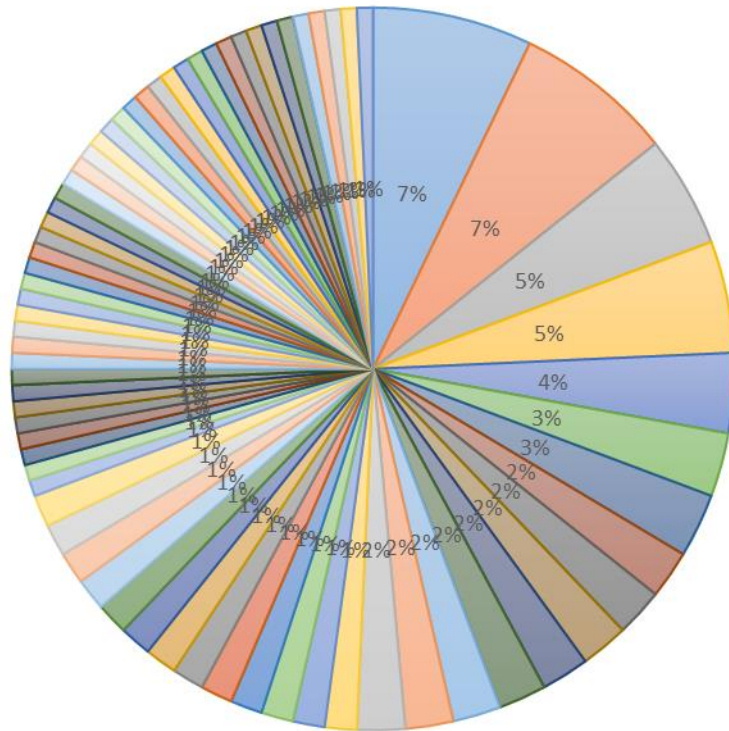
動物の種類、動物が詠まれた句の割合は前年よりは少なくなっている。ウマが最も多く、チドリ、ツル、トリ、ホウオウと続く。動物の種類は割れている。

## 73 篇

73 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、73 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

73篇(1821年)		カッコウ	1
動物	数	カブトムシ	1
トリ	10	キリギリス	1
ムシ	10	キンギョ	1
コイ	7	クジラ	1
ウマ	7	クツワムシ	1
カツオ	5	クモ	1
ネコ	4	クロウマ	1
ハウオウ	4	ケムシ	1
アユ	3	ケモノ	1
イノシシ	3	コオロギ	1
キツネ	3	サギ	1
サル	3	シギ	1
シカ	3	ジョロウグモ	1
ネズミ	3	スズムシ	1
フグ	3	スズメ	1
ヘビ	3	セミ	1
イヌ	2	タイ	1
イワシ	2	タカ	1
カエル	2	タコ	1
カニ	2	ツル	1
カメ	2	ドジョウ	1
サカナ	2	トビウオ	1
シャチホコ	2	ニワトリ	1
チョウ	2	ハマグリ	1
トラ	2	ヒヨドリ	1
トンボ	2	フナ	1
ハサミムシ	2	フナムシ	1
ハト	2	ホタル	1
ヒバリ	2	ホトギス	1
アオサギ	1	ミミズ	1
アブラムシ	1	ミヤコドリ	1
アリ	1	ムクドリ	1
イカ	1	リュウ	1
ウグイス	1	計71種	140
ウジムシ	1		
ウナギ	1		
エビ	1		
カ	1		
カジキ	1		
篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
73	649	140	21.5

### 73篇に表れる動物



- |         |          |        |        |         |         |        |
|---------|----------|--------|--------|---------|---------|--------|
| ■ トリ    | ■ ムシ     | ■ コイ   | ■ ウマ   | ■ カツオ   | ■ ネコ    | ■ ホウオウ |
| ■ アユ    | ■ イノシシ   | ■ キツネ  | ■ サル   | ■ シカ    | ■ ネズミ   | ■ フグ   |
| ■ ヘビ    | ■ イヌ     | ■ イワシ  | ■ カエル  | ■ カニ    | ■ カメ    | ■ サカナ  |
| ■ シャチホコ | ■ チョウ    | ■ トラ   | ■ トンボ  | ■ ハサミムシ | ■ ハト    | ■ ヒバリ  |
| ■ アオサギ  | ■ アブラムシ  | ■ アリ   | ■ イカ   | ■ ウグイス  | ■ ウジムシ  | ■ ウナギ  |
| ■ エビ    | ■ カ      | ■ カジキ  | ■ カッコウ | ■ カブトムシ | ■ キリギリス | ■ キンギョ |
| ■ クジラ   | ■ クツワムシ  | ■ クモ   | ■ ケムシ  | ■ ケモノ   | ■ コオロギ  | ■ サギ   |
| ■ シギ    | ■ ジョロウグモ | ■ スズムシ | ■ スズメ  | ■ セミ    | ■ タイ    | ■ タカ   |
| ■ タコ    | ■ ツル     | ■ ドジョウ | ■ トビウオ | ■ ニワトリ  | ■ ハマグリ  | ■ ヒヨドリ |
| ■ フナ    | ■ フナムシ   | ■ ホタル  | ■ ホトギス | ■ ミミズ   | ■ ミヤコドリ | ■ ムクドリ |
| ■ リュウ   |          |        |        |         |         |        |

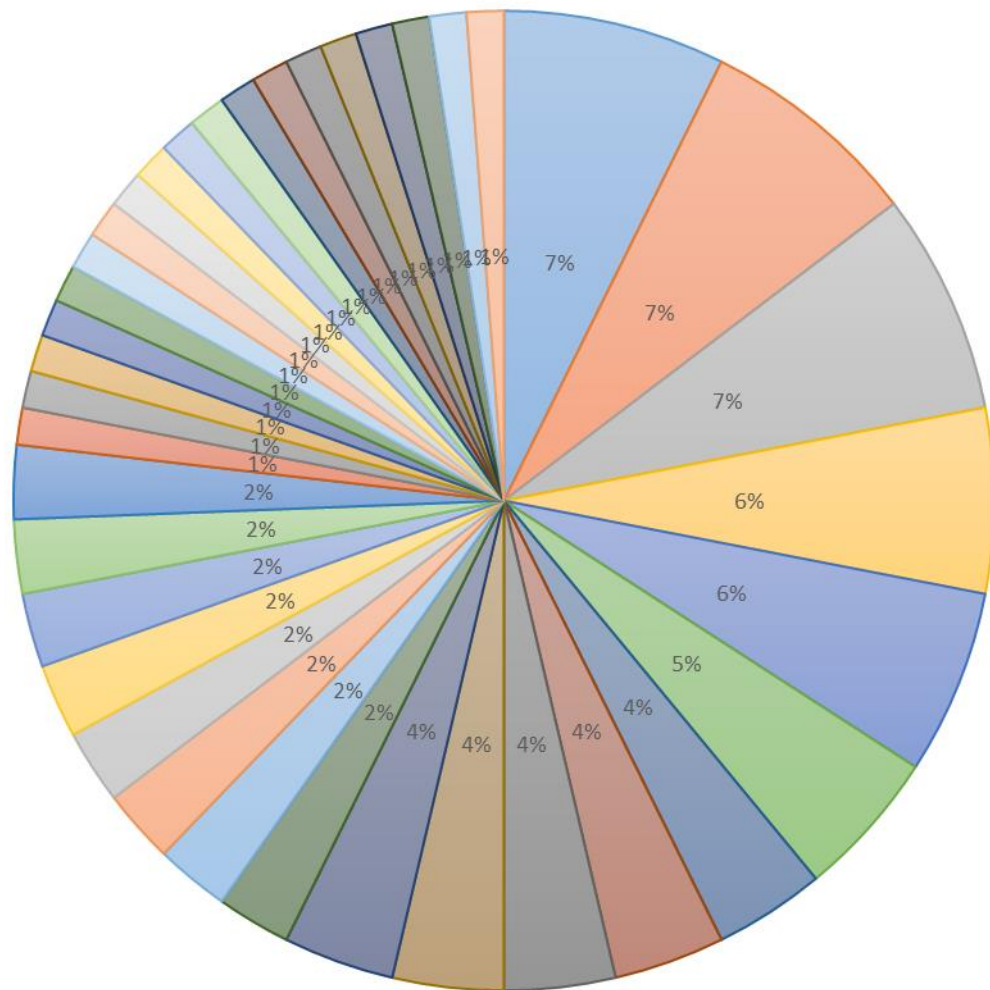
詠まれた動物の種類、動物が詠まれた句の割合は多くなっている。トリ、ムシが同数で最も多く、コイ、ウマが続く。詠まれた動物の種類は割れている。

74 篇

74 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、74 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

74篇(1822年)					
動物	数				
ウマ	6				
カ	6				
カツオ	6				
ネズミ	5				
ホトギス	5				
キツネ	4				
ウグイス	3				
エビ	3				
トリ	3				
ニワトリ	3				
ネコ	3				
カエル	2				
キリギリス	2				
サル	2				
シカ	2				
チョウ	2				
テング	2				
ハマグリ	2				
ムシ	2				
アオサギ	1				
アマガエル	1				
カッパ	1				
カニ	1				
カモ	1				
カラス	1				
カリ	1				
クジラ	1				
コイ	1				
サメ	1				
シラトリ	1				
タヌキ	1				
トラ	1				
ヌエ	1				
バク	1				
ホタル	1				
ボラ	1				
ホラガイ	1				
ミズドリ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計38種	82	74	634	82	12.9

74篇に表れる動物



- |      |       |      |       |        |       |       |      |
|------|-------|------|-------|--------|-------|-------|------|
| ■ウマ  | ■カ    | ■カツオ | ■ネズミ  | ■ホトギス  | ■キツネ  | ■ウグイス | ■エビ  |
| ■トリ  | ■ニワトリ | ■ネコ  | ■カエル  | ■キリギリス | ■サル   | ■シカ   | ■チョウ |
| ■テング | ■ハマグリ | ■ムシ  | ■アオサギ | ■アマガエル | ■カッパ  | ■カニ   | ■カモ  |
| ■カラス | ■カリ   | ■クジラ | ■コイ   | ■サメ    | ■シラトリ | ■タヌキ  | ■トラ  |
| ■ヌエ  | ■バク   | ■ホタル | ■ボラ   | ■ホラガイ  | ■ミズドリ |       |      |

ウマ、カ、カツオが同数で最も多くなっている。詠まれた動物の種類、動物が詠まれた句の割合はやや減っている。詠まれた動物の種類は割れている。

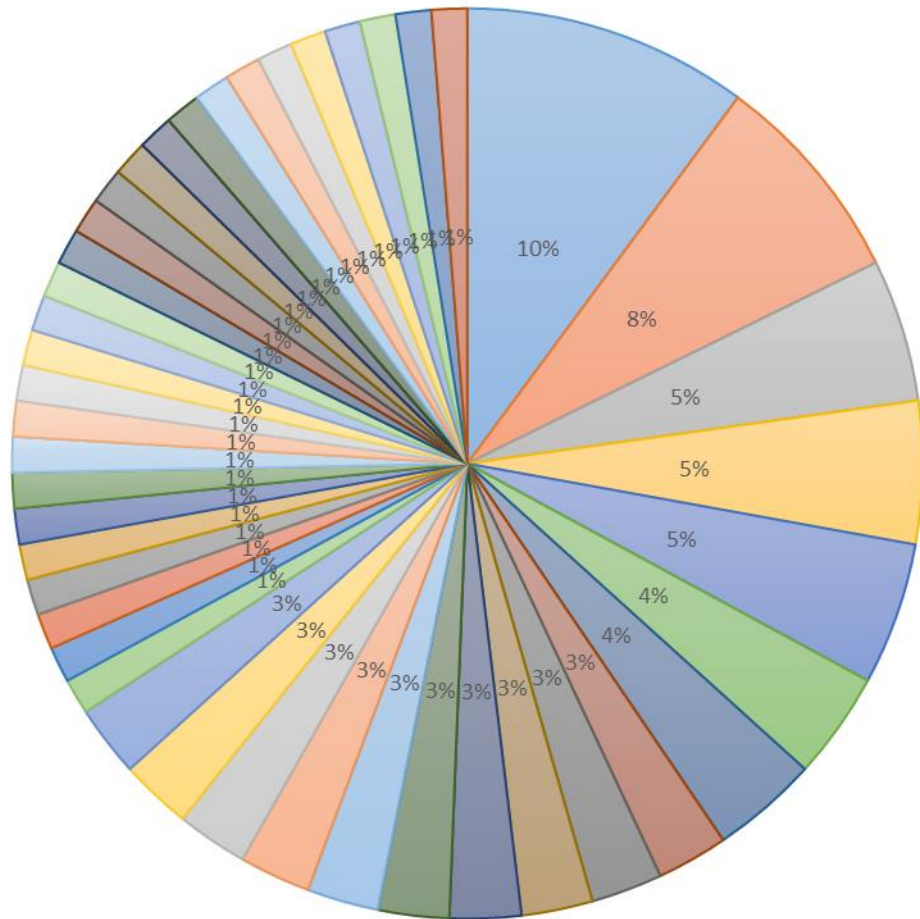
76 篇

76 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、76 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

76篇(1823年)					
動物	数				
ウマ	8				
サル	6				
イヌ	4				
ツル	4				
ネコ	4				
トリ	3				
ネズミ	3				
エビ	2				
オオカミ	2				
カメ	2				
クロネズミ	2				
サカナ	2				
シカ	2				
タヌキ	2				
ハト	2				
ハマグリ	2				
フグ	2				
アヒル	1				
ウシ	1				
カッパ	1				
カラス	1				
キツネ	1				
クイナ	1				
コイ	1				
シギ	1				
シシ	1				
シバエビ	1				
シャチホコ	1				
シロネズミ	1				
スイギュウ	1				
スズメ	1				
ゾウ	1				
タカ	1				
タチウオ	1				
チョウ	1				
テング	1				
トラ	1				
ヘイケガニ	1				
ホトギス	1				
マグロ	1				
ムクドリ	1				
ムシ	1				
ヤマンバ	1				
リュウ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
全44種	79	76	593	79	13.3



### 76篇に表れる動物



- |       |       |        |        |        |        |       |       |
|-------|-------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|
| ■ウマ   | ■サル   | ■イヌ    | ■ツル    | ■ネコ    | ■トリ    | ■ネズミ  | ■エビ   |
| ■オオカミ | ■カメ   | ■クロネズミ | ■サカナ   | ■シカ    | ■タヌキ   | ■ハト   | ■ハマグリ |
| ■フグ   | ■アヒル  | ■ウシ    | ■カッパ   | ■カラス   | ■キツネ   | ■クイナ  | ■コイ   |
| ■シギ   | ■シシ   | ■シバエビ  | ■シャチホコ | ■シロネズミ | ■スイギュウ | ■スズメ  | ■ゾウ   |
| ■タカ   | ■タチウオ | ■チョウ   | ■テング   | ■トラ    | ■ヘイケガニ | ■ホトギス | ■マグロ  |
| ■ムクドリ | ■ムシ   | ■ヤマンバ  | ■リュウ   |        |        |       |       |

ウマが最も多く、次にサル、さらにイヌ、ツル、ネコと続く。

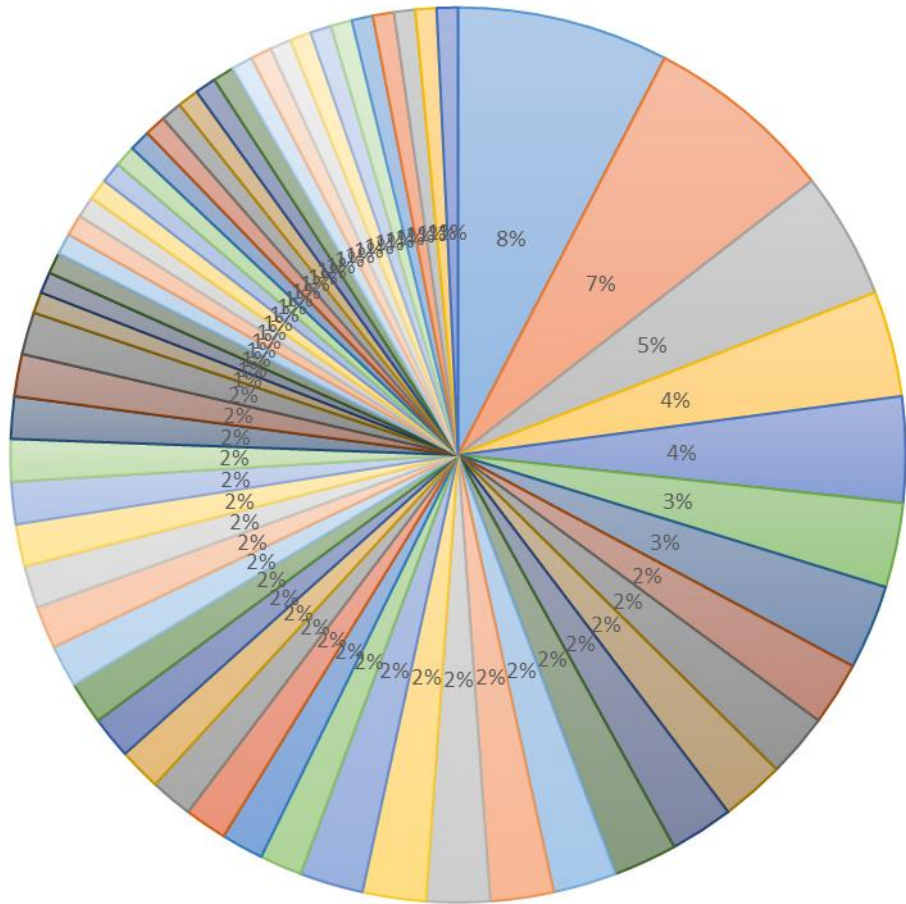
## 79 篇

79 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、79 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

79篇(1824年)		ウサギ	1
動物	数	カエル	1
ウマ	10	カブトガイ	1
トリ	9	キジ	1
ツル	6	クマ	1
サル	5	サイ	1
ネコ	5	シラサギ	1
タヌキ	4	セキレイ	1
トラ	4	ゾウ	1
ウシ	3	タチウオ	1
ウナギ	3	ツバメ	1
カニ	3	トンビ	1
キツネ	3	ヒヨドリ	1
シシ	3	ブタ	1
スズメ	3	ヘビ	1
チドリ	3	ホラガイ	1
ニワトリ	3	ヤマバト	1
ホウオウ	3	ヨタカ	1
ホタル	3	ヨブコドリ	1
アユ	2	レイチョウ	1
イヌ	2	ワシ	1
ウソ	2	計59種	131
カ	2		
カモ	2		
カラス	2		
クイナ	2		
シカ	2		
タカ	2		
チョウ	2		
トビウオ	2		
ネズミ	2		
ハエ	2		
ハマグリ	2		
ムシ	2		
ムジナ	2		
アカガイ	1		
アヒル	1		
イイダコ	1		
イノシシ	1		
イワシ	1		
篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
79	645	131	20.3



79篇に表れる動物



- |       |      |        |        |        |       |       |      |       |
|-------|------|--------|--------|--------|-------|-------|------|-------|
| ■ウマ   | ■トリ  | ■ツル    | ■サル    | ■ネコ    | ■タヌキ  | ■トラ   | ■ウシ  | ■ウナギ  |
| ■カニ   | ■キツネ | ■シシ    | ■スズメ   | ■チドリ   | ■ニワトリ | ■ホウオウ | ■ホタル | ■アユ   |
| ■イヌ   | ■ウソ  | ■カ     | ■カモ    | ■カラス   | ■クイナ  | ■シカ   | ■タカ  | ■チョウ  |
| ■トビウオ | ■ネズミ | ■ハエ    | ■ハマグリ  | ■ムシ    | ■ムジナ  | ■アカガイ | ■アヒル | ■イイダコ |
| ■イノシシ | ■イワシ | ■ウサギ   | ■カエル   | ■カブトガイ | ■キジ   | ■クマ   | ■サイ  | ■シラサギ |
| ■セキレイ | ■ゾウ  | ■タチウオ  | ■ツバメ   | ■トンビ   | ■ヒヨドリ | ■ブタ   | ■ヘビ  | ■ホラガイ |
| ■ヤマバト | ■ヨタカ | ■ヨブコドリ | ■レイチョウ | ■ワシ    |       |       |      |       |

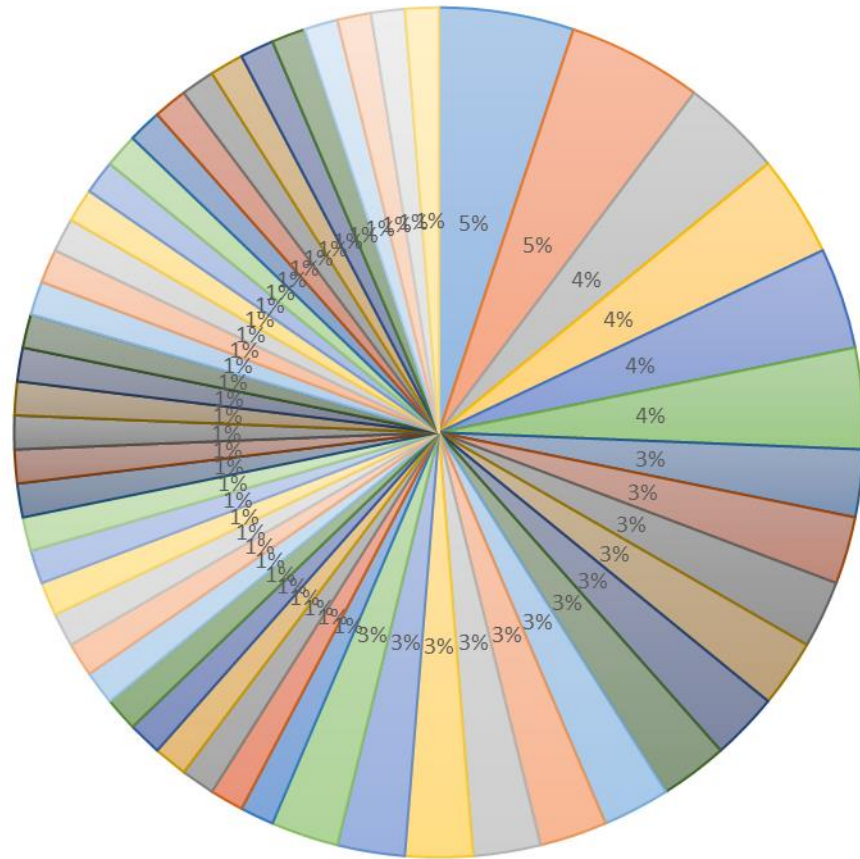
詠まれた動物の種類、動物が詠まれた句の割合は多くなっている。ウマが最も多く、トリが続く。

## 82 篇

82 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、82 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

82篇(1835年)		タカ	1
動物	数	タコ	1
ウマ	4	チドリ	1
サル	4	チョウ	1
カ	3	ツル	1
サカナ	3	ネコ	1
シカ	3	ノミ	1
ハト	3	ハジロ	1
アヒル	2	ハマグリ	1
ウサギ	2	フゲ	1
ウシ	2	マツムシ	1
カツオ	2	ミヤコドリ	1
カラス	2	ムシ	1
クモ	2	ヤブカ	1
スズメ	2	全52種	78
チャタテムシ	2		
トリ	2		
ネズミ	2		
ミノムシ	2		
ラクダ	2		
アカニシ	1		
アユ	1		
アリ	1		
イヌ	1		
イノシシ	1		
カイヌ	1		
カエル	1		
カタツムリ	1		
カッコウ	1		
カッパ	1		
カニ	1		
カネタタキ	1		
キジ	1		
キツネ	1		
クツワムシ	1		
クマ	1		
クルマエビ	1		
クロガモ	1		
コイ	1		
シャチホコ	1		
篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
82	709	78	11

82篇に表れる動物



- |        |        |        |      |        |       |         |
|--------|--------|--------|------|--------|-------|---------|
| ■ウマ    | ■サル    | ■カ     | ■サカナ | ■シカ    | ■ハト   | ■アヒル    |
| ■ウサギ   | ■ウシ    | ■カツオ   | ■カラス | ■クモ    | ■スズメ  | ■チャタテムシ |
| ■トリ    | ■ネズミ   | ■ミノムシ  | ■ラクダ | ■アカニシ  | ■アユ   | ■アリ     |
| ■イヌ    | ■イバシ   | ■カイイヌ  | ■カエル | ■カタツムリ | ■カッコウ | ■カッパ    |
| ■カニ    | ■カネタタキ | ■キジ    | ■キツネ | ■クツワムシ | ■クマ   | ■クルマエビ  |
| ■クロガモ  | ■コイ    | ■シャチホコ | ■タカ  | ■タコ    | ■チドリ  | ■チョウ    |
| ■ツル    | ■ネコ    | ■ノミ    | ■ハジロ | ■ハマグリ  | ■フグ   | ■マツムシ   |
| ■ミヤコドリ | ■ムシ    | ■ヤブカ   |      |        |       |         |

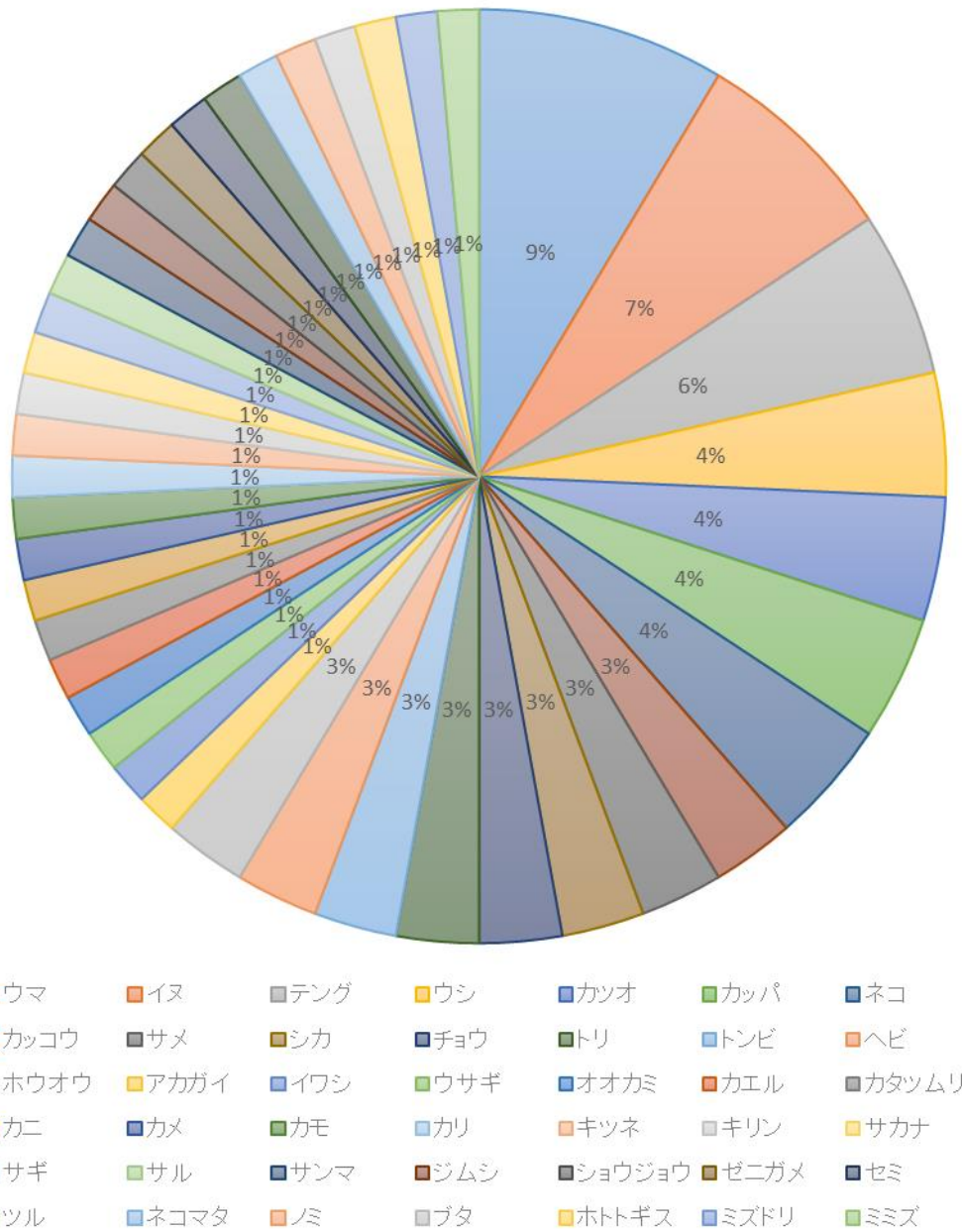
ウマとサルが同数で最も多く、カ、サカナ、シカ、ハトが続く。詠まれた動物の種類割合はかなり割れている。

### 89 篇

89 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、89 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

89篇(1826年)					
動物	数				
ウマ	6				
イヌ	5				
テング	4				
ウシ	3				
カツオ	3				
カッパ	3				
ネコ	3				
カッコウ	2				
サメ	2				
シカ	2				
チョウ	2				
トリ	2				
トンビ	2				
ヘビ	2				
ホウオウ	2				
アカガイ	1				
イワシ	1				
ウサギ	1				
オオカミ	1				
カエル	1				
カタツムリ	1				
カニ	1				
カメ	1				
カモ	1				
カリ	1				
キツネ	1				
キリン	1				
サカナ	1				
サギ	1				
サル	1				
サンマ	1				
ジムシ	1				
ショウジョウ	1				
ゼニガメ	1				
セミ	1				
ツル	1				
ネコマタ	1				
ノミ	1				
ブタ	1				
ホトギス	1				
ミズドリ	1				
ミミズ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
全43種	70	89	747	70	9.3

89篇に表れる動物



ウマが最も多く、イヌ、テングと続く。詠まれた動物の種類、動物が詠まれた句の割合はやや少なくなっている。

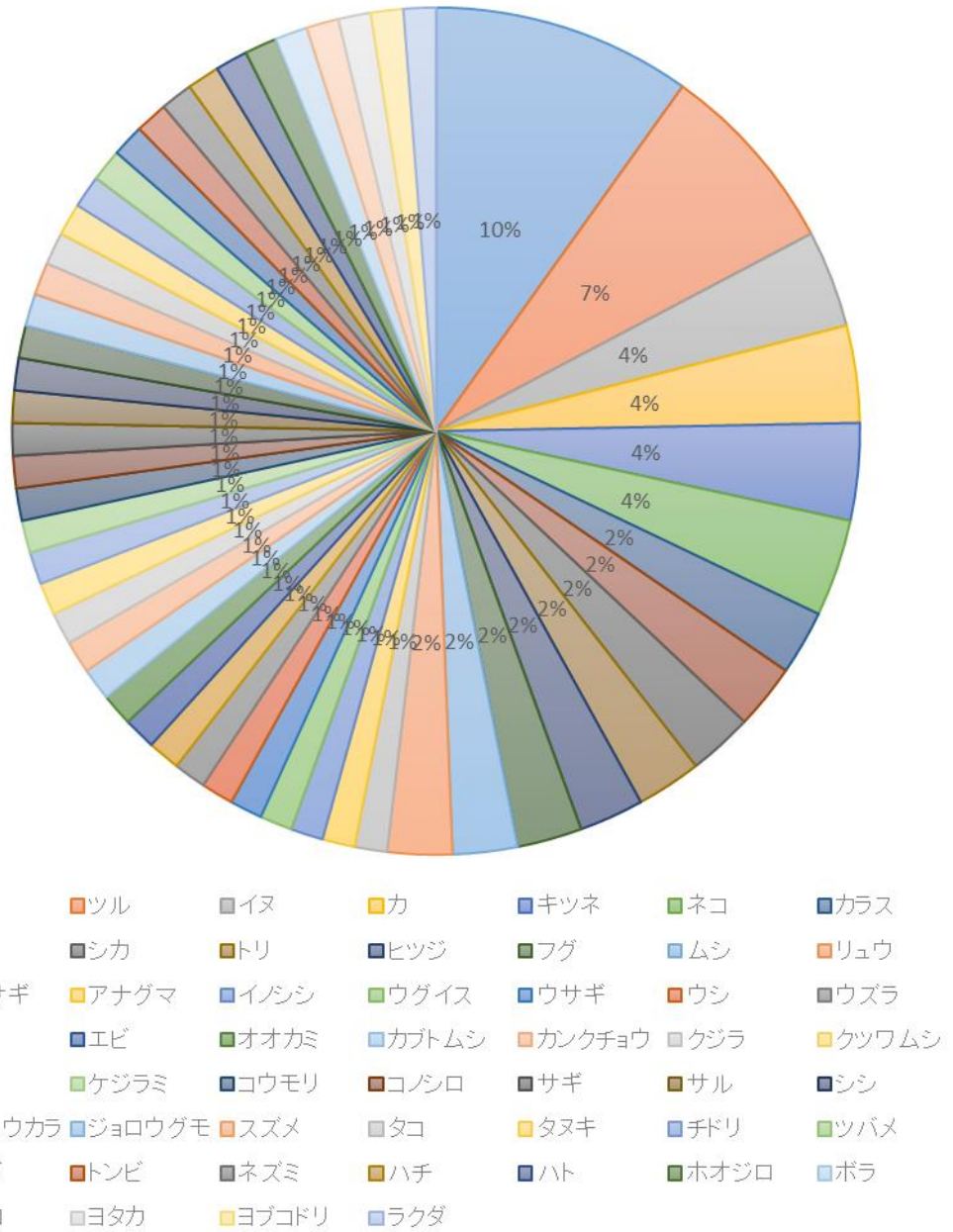
## 92 篇

92 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、92 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

92篇(1827年)		タコ	1
動物	数	タヌキ	1
ウマ	8	チドリ	1
ツル	6	ツバメ	1
イヌ	3	テング	1
カ	3	トンビ	1
キツネ	3	ネズミ	1
ネコ	3	ハチ	1
カラス	2	ハト	1
カリ	2	ホオジロ	1
シカ	2	ボラ	1
トリ	2	マグロ	1
ヒツジ	2	ヨタカ	1
フグ	2	ヨブコドリ	1
ムシ	2	ラクダ	1
リュウ	2	全53種	81
アオサギ	1		
アナグマ	1		
イノシシ	1		
ウグイス	1		
ウサギ	1		
ウシ	1		
ウズラ	1		
ウソ	1		
エビ	1		
オオカミ	1		
カブトムシ	1		
カンクチョウ	1		
クジラ	1		
クツワムシ	1		
クモ	1		
ケジラミ	1		
コウモリ	1		
コノシロ	1		
サギ	1		
サル	1		
シシ	1		
シジュウカラ	1		
ジョロウグモ	1		
スズメ	1		
篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
92	657	81	12.3



92篇に表れる動物



詠まれた動物の種類、動物が詠まれている句の割合はやや多くなっている。ウマが最も多く、ツルが続く。

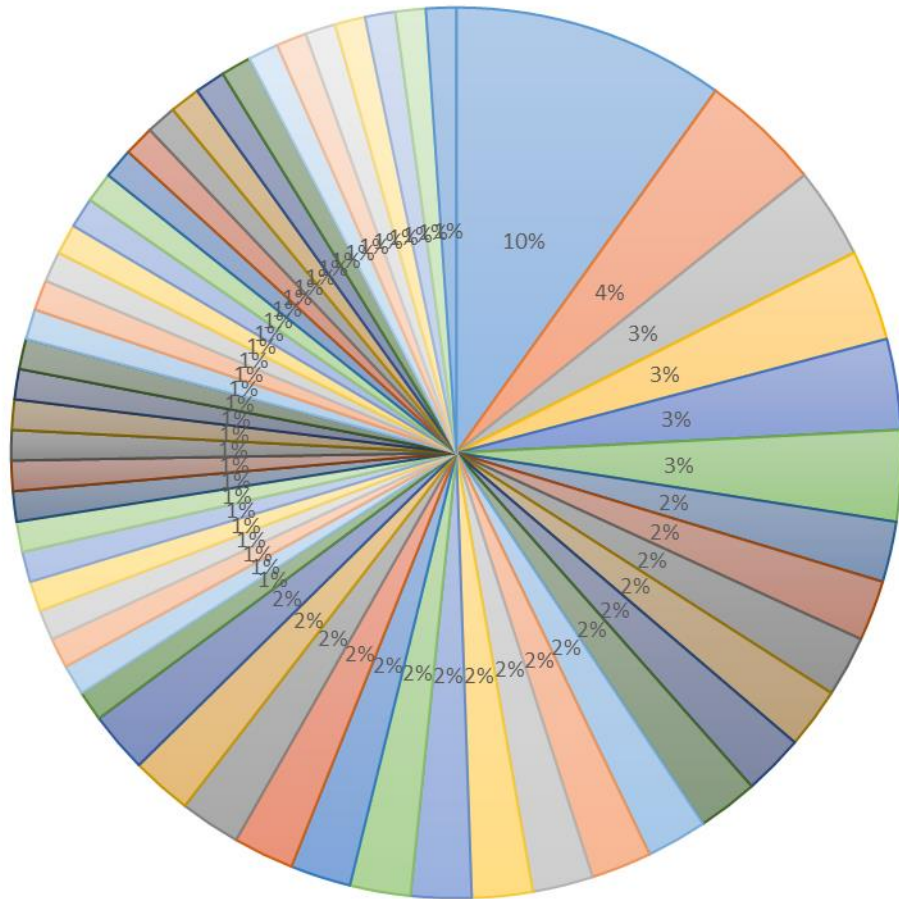
## 97 篇

97 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、97 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

97篇(1828年)		サカナ	1
動物	数	サギ	1
ウマ	9	シカ	1
トリ	4	シラウオ	1
キツネ	3	シラミ	1
ツル	3	スズキ	1
ネコ	3	タカ	1
ムシ	3	タコ	1
アリ	2	タヌキ	1
ウグイス	2	チョウ	1
ウシ	2	ツバメ	1
カツオ	2	トモエガモ	1
カニ	2	トラ	1
カラス	2	ニワトリ	1
カリ	2	ハマグリ	1
クジラ	2	ヨブコドリ	1
シャチホコ	2	リュウ	1
ネズミ	2	計55種	91
ハエ	2		
ハト	2		
ヘビ	2		
ハウオウ	2		
ホタル	2		
ホトギス	2		
ヨタカ	2		
アジ	1		
アワビ	1		
イカ	1		
イスカ	1		
イヌ	1		
イノシシ	1		
ウマオイ	1		
オシドリ	1		
カエル	1		
カッパ	1		
カメ	1		
キンギョ	1		
クモ	1		
コウモリ	1		
コバ	1		
篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
97	709	91	12.8



97篇に表れる動物



- |      |        |       |       |       |        |        |       |
|------|--------|-------|-------|-------|--------|--------|-------|
| ■ウマ  | ■トリ    | ■キツネ  | ■ツル   | ■ネコ   | ■ムシ    | ■アリ    | ■ウグイス |
| ■ウシ  | ■カツオ   | ■カニ   | ■カラス  | ■カリ   | ■クジラ   | ■シャチホコ | ■ネズミ  |
| ■ハエ  | ■ハト    | ■ヘビ   | ■ホウオウ | ■ホタル  | ■ホトギス  | ■ヨタカ   | ■アジ   |
| ■アワビ | ■イカ    | ■イスカ  | ■イヌ   | ■インシシ | ■ウマオイ  | ■オシドリ  | ■カエル  |
| ■カッパ | ■カメ    | ■キングョ | ■クモ   | ■コウモリ | ■コバ    | ■サカナ   | ■サギ   |
| ■シカ  | ■シラウオ  | ■シラミ  | ■スズキ  | ■タカ   | ■タコ    | ■タヌキ   | ■チョウ  |
| ■ツバメ | ■トモエガモ | ■トラ   | ■ニワトリ | ■ハマグリ | ■ヨブコドリ | ■リュウ   |       |

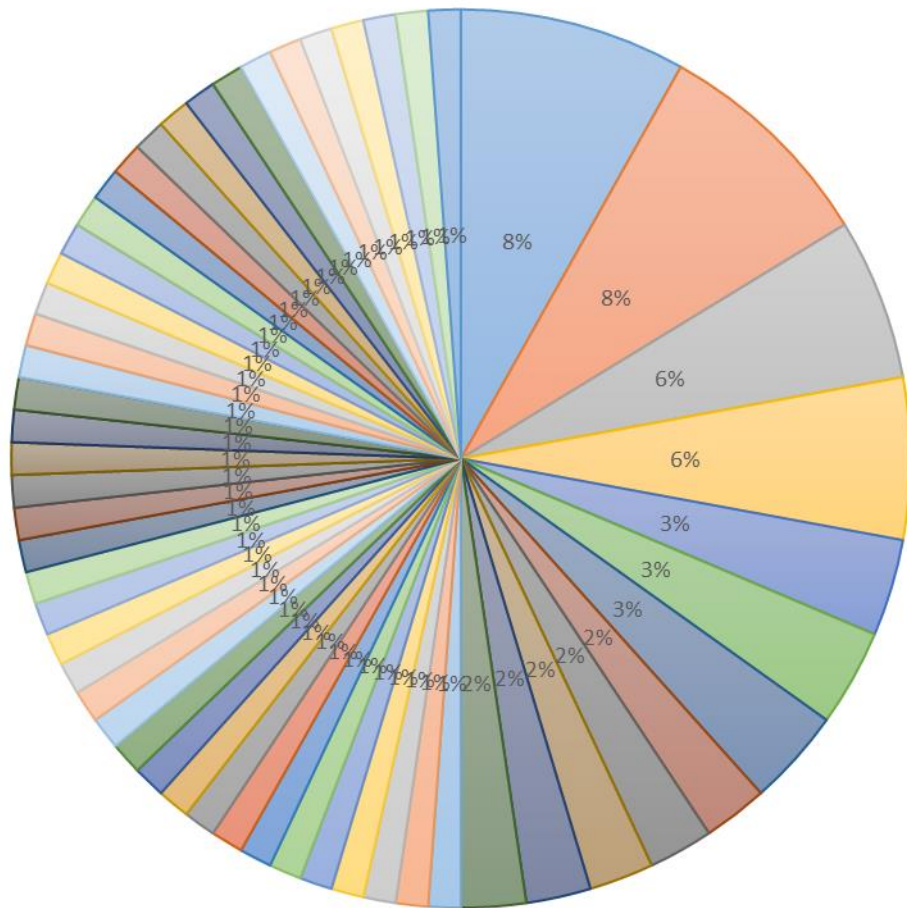
ウマが最も多く、次にトリ、キツネ、ツル、ネコ、ムシと続く。詠まれた動物の種類の数、動物が詠まれた句の割合ともあまり変わらない。

106 篇

106 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、106 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

106篇(1829年)		トカゲ	1
動物	数	トラ	1
チョウ	7	ニワトリ	1
トリ	7	ニンギョ	1
ウマ	5	ネコ	1
サル	5	ノミ	1
カニ	3	ヒツジ	1
シラミ	3	ヘヒリムシ	1
ヘビ	3	ホウオウ	1
カエル	2	ホタル	1
カツオ	2	ホトギス	1
コイ	2	ミヤコドリ	1
シジミ	2	ムシ	1
タコ	2	ヤマドリ	1
アブ	1	ヨブコドリ	1
アリ	1	リュウ	1
アワビ	1	ワシ	1
イヌ	1	全55種	86
イワシ	1		
ウサギ	1		
ウシ	1		
ウジ	1		
ウソ	1		
ウナギ	1		
エビ	1		
オオカミ	1		
オシドリ	1		
カラス	1		
クマ	1		
クモ	1		
クラゲ	1		
サカナ	1		
サメ	1		
サワガニ	1		
シャチホコ	1		
セミ	1		
タニシ	1		
チドリ	1		
チン	1		
ツル	1		
篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
106	744	86	11.5

106篇に表れる動物



- |         |         |       |        |         |         |        |        |
|---------|---------|-------|--------|---------|---------|--------|--------|
| ■ チョウ   | ■ トリ    | ■ ウマ  | ■ サル   | ■ カニ    | ■ シラミ   | ■ ヘビ   | ■ カエル  |
| ■ カツオ   | ■ コイ    | ■ シジミ | ■ タコ   | ■ アブ    | ■ アリ    | ■ アワビ  | ■ イヌ   |
| ■ イワシ   | ■ ウサギ   | ■ ウシ  | ■ ウジ   | ■ ウン    | ■ ウナギ   | ■ エビ   | ■ オオカミ |
| ■ オシドリ  | ■ カラス   | ■ クマ  | ■ クモ   | ■ クラゲ   | ■ サカナ   | ■ サメ   | ■ サワガニ |
| ■ シャチホコ | ■ セミ    | ■ タニシ | ■ チドリ  | ■ チン    | ■ ツル    | ■ トカゲ  | ■ トラ   |
| ■ ニワトリ  | ■ ニンギョ  | ■ ネコ  | ■ ノミ   | ■ ヒツジ   | ■ ヘビリムシ | ■ ホウオウ | ■ ホタル  |
| ■ ホトトギス | ■ ミヤコドリ | ■ ムシ  | ■ ヤマドリ | ■ ヨブコドリ | ■ リュウ   | ■ ワシ   |        |

チョウ、トリが同数で最も多く、ウマ、サルが続く。詠まれた動物の種類の数、動物が詠まれた句の割合はほぼ変わらない。

110 篇

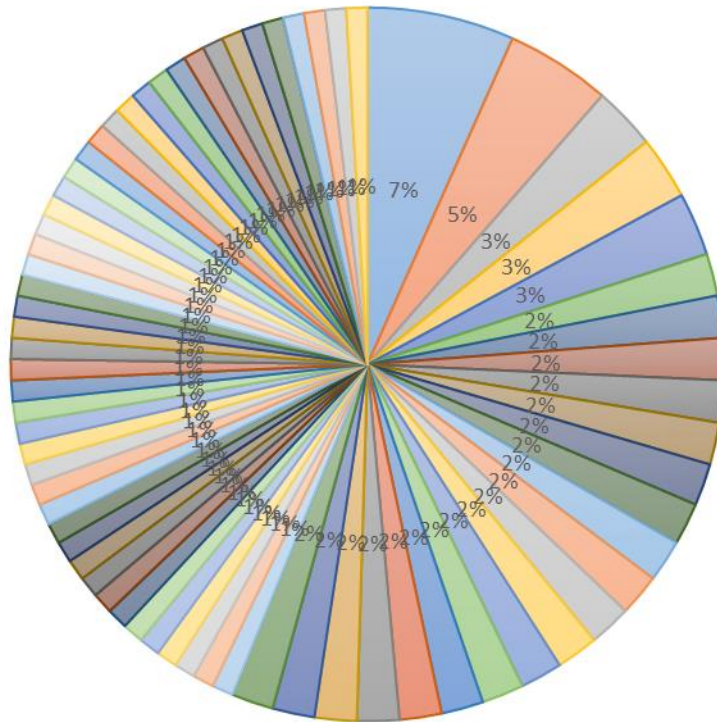
110 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、110 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

110篇(1830年)		キンギョ	1
動物	数	クマ	1
ネコ	7	ケムシ	1
ウマ	5	サギ	1
イヌ	3	サメ	1
クモ	3	サル	1
ムシ	3	シカ	1
アワビ	2	シギ	1
ウ	2	シャクトリムシ	1
ウナギ	2	シャチホコ	1
カエル	2	シラサギ	1
カツオ	2	スズメ	1
カメ	2	ゾウ	1
カリ	2	タイ	1
キツネ	2	タマムシ	1
キリギリス	2	チョウ	1
クイナ	2	ツバメ	1
クジラ	2	ツル	1
シラウオ	2	テング	1
タヌキ	2	トド	1
トラ	2	トリ	1
トンボ	2	ナマコ	1
ネズミ	2	ナメクジ	1
ノミ	2	ハチ	1
ハエ	2	ハマグリ	1
リュウ	2	ヒツジ	1
アカガイ	1	フクログモ	1
アリ	1	ホタテ	1
イセエビ	1	ボラ	1
イナゴ	1	ミズドリ	1
ウグイス	1	ミノムシ	1
ウサギ	1	ヤブカ	1
ウシ	1	全70種	105
ウズラ	1		
ウソ	1		
オシドリ	1		
カイ	1		
カタツムリ	1		
カッパ	1		
カレイ	1		

篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
110	717	105	14.6

### 110篇に表れる動物



- |       |        |       |       |          |        |
|-------|--------|-------|-------|----------|--------|
| ■ネコ   | ■ウマ    | ■イヌ   | ■クモ   | ■ムシ      | ■アワビ   |
| ■ウ    | ■ウナギ   | ■カエル  | ■カツオ  | ■カメ      | ■カリ    |
| ■キツネ  | ■キリギリス | ■クイナ  | ■クジラ  | ■シラウオ    | ■タヌキ   |
| ■トラ   | ■トンボ   | ■ネズミ  | ■ノミ   | ■ハエ      | ■リュウ   |
| ■アカガイ | ■アリ    | ■イセエビ | ■イナゴ  | ■ウグイス    | ■ウサギ   |
| ■ウシ   | ■ウズラ   | ■ウン   | ■オシドリ | ■カイ      | ■カタツムリ |
| ■カッパ  | ■カレイ   | ■キンギョ | ■クマ   | ■ケムシ     | ■サギ    |
| ■サメ   | ■サル    | ■シカ   | ■シギ   | ■シャクトリムシ | ■シャチホコ |
| ■シラサギ | ■スズメ   | ■ゾウ   | ■タイ   | ■タマムシ    | ■チョウ   |
| ■ツバメ  | ■ツル    | ■テング  | ■トド   | ■トリ      | ■ナマコ   |
| ■ナメクジ | ■ハチ    | ■ハマグリ | ■ヒツジ  | ■フクログモ   | ■ホタテ   |
| ■ボラ   | ■ミズドリ  | ■ミノムシ | ■ヤブカ  |          |        |

詠まれた動物の種類の数も多く、動物が詠まれている句の割合もやや増えている。数はネコが最も多く、ウマ、イヌ、クモ、ムシが続く。

112 篇

112 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、112 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

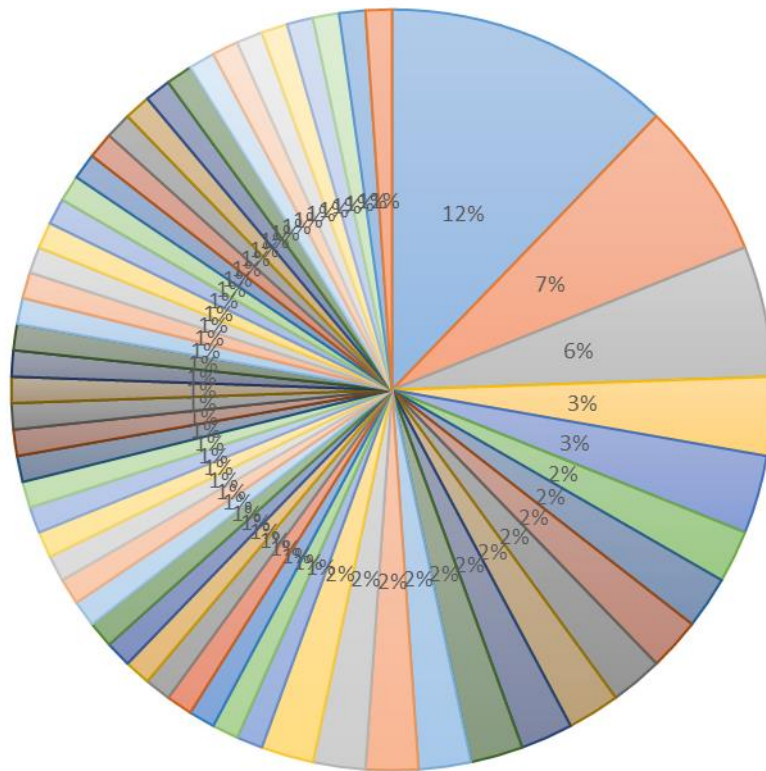
112篇(1831年)		シラミ	1
動物	数	スズメ	1
ウマ	11	タヌキ	1
ツル	6	チドリ	1
サル	5	チョウ	1
カツオ	3	チン	1
シカ	3	テナガエビ	1
イヌ	2	ニワトリ	1
カエル	2	ハエ	1
コイ	2	ハゼ	1
サカナ	2	ハト	1
タカ	2	ヒラタグモ	1
トリ	2	フグ	1
ネコ	2	ヘビ	1
ホタル	2	ホウオウ	1
ムシ	2	ホタテ	1
ヨタカ	2	モグラ	1
リュウ	2	ヤマドリ	1
アリ	1	全56種	90
アンコウ	1		
ウ	1		
ウシ	1		
ウナギ	1		
ウマオイ	1		
ウミアヒル	1		
オシドリ	1		
カタツムリ	1		
カッパ	1		
カメ	1		
カモ	1		
カラス	1		
キツネ	1		
クイナ	1		
クジラ	1		
クツワムシ	1		
クマ	1		
クモ	1		
ケジラミ	1		
サンショウウオ	1		
ジュウイチ	1		

篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
112	677	90	13.2



### 112篇に表れる動物



- |           |         |         |        |         |        |
|-----------|---------|---------|--------|---------|--------|
| ■ ウマ      | ■ ツル    | ■ サル    | ■ カソオ  | ■ シカ    | ■ イヌ   |
| ■ カエル     | ■ コイ    | ■ サカナ   | ■ タカ   | ■ トリ    | ■ ネコ   |
| ■ ホタル     | ■ ムシ    | ■ ヨタカ   | ■ リュウ  | ■ アリ    | ■ アンコウ |
| ■ ウ       | ■ ウシ    | ■ ウナギ   | ■ ウマオイ | ■ ウミアヒル | ■ オシドリ |
| ■ カタツムリ   | ■ カッパ   | ■ カメ    | ■ カモ   | ■ カラス   | ■ キツネ  |
| ■ クイナ     | ■ クジラ   | ■ クソワムシ | ■ クマ   | ■ クモ    | ■ ケジラミ |
| ■ サンショウウオ | ■ ジュウイチ | ■ シラミ   | ■ スズメ  | ■ タヌキ   | ■ チドリ  |
| ■ チョウ     | ■ チン    | ■ テナガエビ | ■ ニワトリ | ■ ハエ    | ■ ハゼ   |
| ■ ハト      | ■ ヒラタグモ | ■ フグ    | ■ ヘビ   | ■ ホウオウ  | ■ ホタテ  |
| ■ モグラ     | ■ ヤマドリ  |         |        |         |        |

ウマが最も多く、ツル、サルと続く。詠まれた動物の種類割合はやや偏っている。

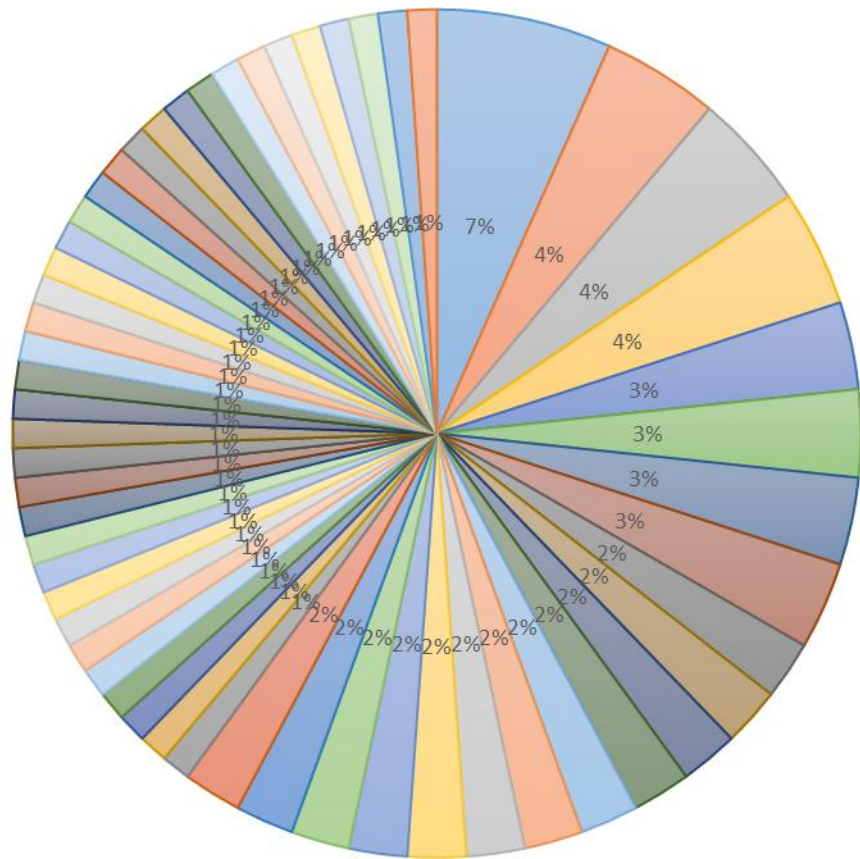
116 篇

116 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、116 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

116篇(1832年)		ゾウ	1
動物	数	タコ	1
ネコ	6	タチウオ	1
カツオ	4	タンチョウ	1
キツネ	4	チョウ	1
ニワトリ	4	ツル	1
ウマ	3	ナメクジ	1
カラス	3	ニンギョ	1
クモ	3	ネズミ	1
サル	3	ハエ	1
イカ	2	ハジラミ	1
カ	2	ハムシ	1
コウモリ	2	ハラカ	1
サギ	2	ヒバリ	1
チドリ	2	フナムシ	1
トラ	2	ホタル	1
トリ	2	ミミズ	1
バク	2	ヤツメウナギ	1
ハト	2	計56種	90
ホトギス	2		
マツムシ	2		
ムシ	2		
アカンボ	1		
アワビ	1		
イヌ	1		
ウグイス	1		
ウナギ	1		
オシドリ	1		
オニヤンマ	1		
カニ	1		
カブトムシ	1		
カレイ	1		
クマ	1		
サカナ	1		
サケ	1		
ジグモ	1		
ジャコウネコ	1		
ショウジョウ	1		
シラウオ	1		
スズムシ	1		
篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
116	661	90	24



116篇に表れる動物



- |         |       |       |       |       |        |         |
|---------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|
| ■ネコ     | ■カツオ  | ■キツネ  | ■ニワトリ | ■ウマ   | ■カラス   | ■クモ     |
| ■サル     | ■イカ   | ■カ    | ■コウモリ | ■サギ   | ■チドリ   | ■トラ     |
| ■トリ     | ■バク   | ■ハト   | ■ホトギス | ■マツムシ | ■ムシ    | ■アカトンボ  |
| ■アワビ    | ■イヌ   | ■ウグイス | ■ウナギ  | ■オシドリ | ■オニヤンマ | ■カニ     |
| ■カブトムシ  | ■カレイ  | ■クマ   | ■サカナ  | ■サケ   | ■ジグモ   | ■ジャコウネコ |
| ■ショウジョウ | ■シラウオ | ■スズムシ | ■ゾウ   | ■タコ   | ■タチウオ  | ■タンチョウ  |
| ■チョウ    | ■ツル   | ■ナメクジ | ■ニンギョ | ■ネズミ  | ■ハエ    | ■ハジラミ   |
| ■ハムシ    | ■ハラカ  | ■ヒバリ  | ■フナムシ | ■ホタル  | ■ミミズ   | ■ヤツメウナギ |

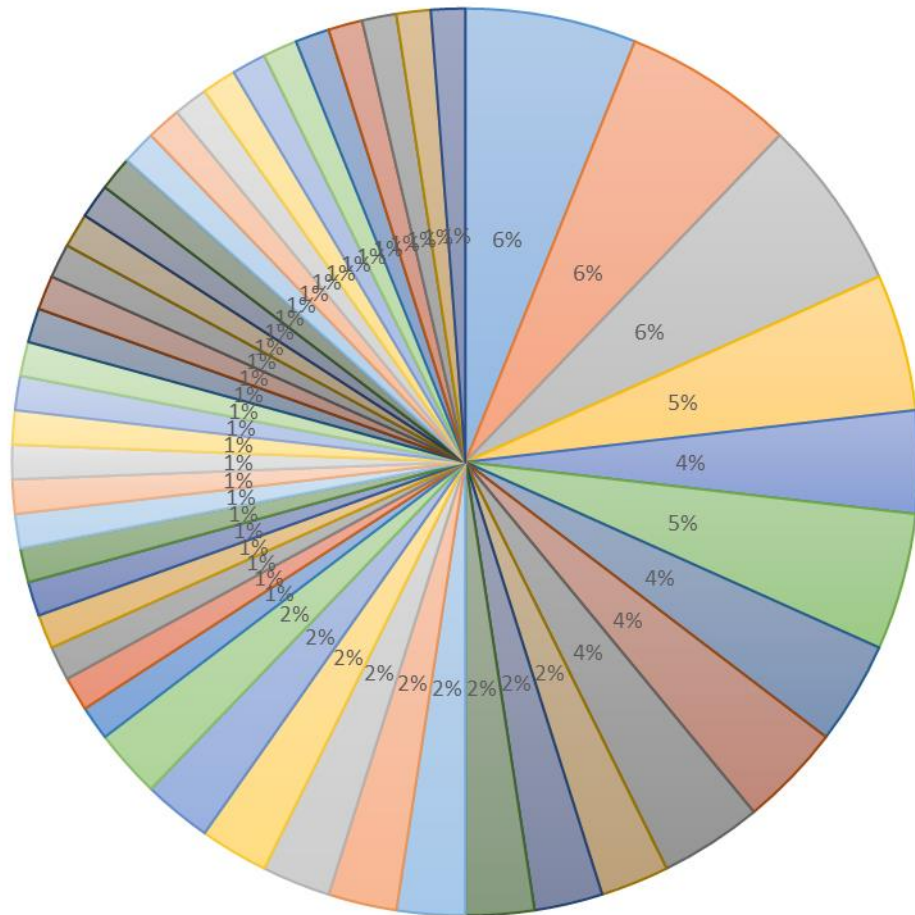
詠まれた動物の種類数は変わらないが、動物が詠まれている句の割合は増えている。ネコが最も多く、カツオ、キツネ、ニワトリが続く。

### 121 篇

121 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、121 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

121篇(1833年)					
動物	数				
ウマ	5				
カツオ	5				
ハエ	5				
キツネ	4				
ネコ	4				
ウグイス	3				
シカ	3				
シラウオ	3				
トリ	3				
カエル	2				
コウモリ	2				
サカナ	2				
タヌキ	2				
ニワトリ	2				
ハマグリ	2				
ヒツジ	2				
ミヤコドリ	2				
リュウ	2				
アカガイ	1				
イセエビ	1				
ウナギ	1				
カッパ	1				
カモ	1				
カラス	1				
カワザカナ	1				
クモ	1				
シギ	1				
シバエビ	1				
シャチホコ	1				
ショウジョウ	1				
スズメ	1				
スッポン	1				
ゼニガメ	1				
ゾウ	1				
タイホウ	1				
タカ	1				
ツバメ	1				
ツル	1				
トラ	1				
トンビ	1				
ニンギョ	1				
ハト	1				
ヘビ	1				
ホタル	1				
ホトギス	1				
ムシ	1				
ヨブコドリ	1	篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
計47種	82	121	620	82	13.2

121篇



- |        |         |        |        |        |       |       |
|--------|---------|--------|--------|--------|-------|-------|
| ■ウマ    | ■カツオ    | ■ハエ    | ■ネコ    | ■ウグイス  | ■キツネ  | ■シカ   |
| ■シラウオ  | ■トリ     | ■カエル   | ■コウモリ  | ■サカナ   | ■タヌキ  | ■ニワトリ |
| ■ハマグリ  | ■ヒツジ    | ■ミヤコドリ | ■リュウ   | ■アカガイ  | ■イセエビ | ■ウナギ  |
| ■カッパ   | ■カモ     | ■カラス   | ■カワザカナ | ■クモ    | ■シギ   | ■シバエビ |
| ■シャチホコ | ■ショウジョウ | ■スズメ   | ■スッポン  | ■ゼニガメ  | ■ゾウ   | ■タイホウ |
| ■タカ    | ■ツバメ    | ■ツル    | ■トラ    | ■トンビ   | ■ニンギョ | ■ハト   |
| ■ヘビ    | ■ホタル    | ■ホトギス  | ■ムシ    | ■ヨブコドリ |       |       |

ウマ、カツオ、ハエが同数で最も多く、キツネ、ネコが続く。詠まれた動物の種類割合は割れている。詠まれた動物の種類の数、動物が詠まれた句の割合は減っている。

## 129 篇

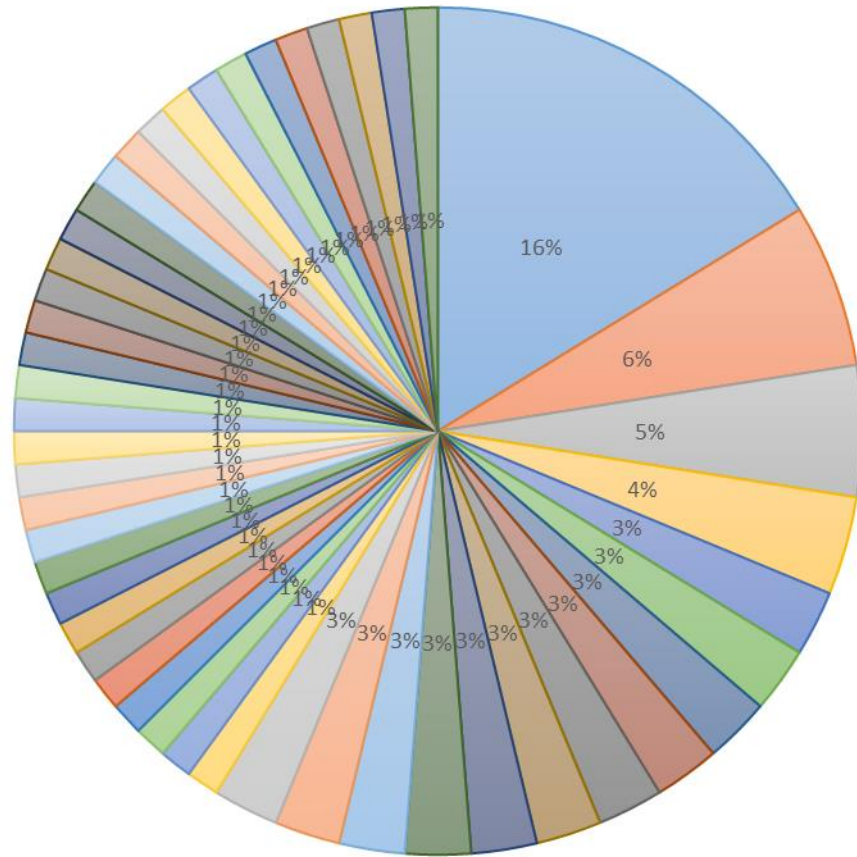
129 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、129 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

129篇(1834年)		ヒツジ	1
動物	数	フグ	1
ウマ	13	ブタ	1
ネコ	5	ホウオウ	1
ネズミ	4	ホシザメ	1
ツル	3	ホタテ	1
イヌ	2	ボラ	1
エビ	2	マグロ	1
オシドリ	2	ムシ	1
カニ	2	モグラ	1
スズメ	2	全48種	80
チドリ	2		
ツバメ	2		
トリ	2		
ホタル	2		
ホトギス	2		
ミヤコドリ	2		
アワビ	1		
ウズラ	1		
ウナギ	1		
カエル	1		
カマキリ	1		
カメ	1		
カモ	1		
カラス	1		
キツネ	1		
クツワムシ	1		
ケモノ	1		
サギ	1		
シカ	1		
シジミ	1		
シャクトリムシ	1		
シラウオ	1		
スッポン	1		
ゾウ	1		
タイ	1		
タヌキ	1		
トンボ	1		
ニンギョ	1		
ノミ	1		

篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
129	616	80	12.9

129篇に表れる動物



- |        |       |        |      |      |          |
|--------|-------|--------|------|------|----------|
| ■ウマ    | ■ネコ   | ■ネズミ   | ■ツル  | ■イヌ  | ■エビ      |
| ■オシドリ  | ■カニ   | ■スズメ   | ■チドリ | ■ツバメ | ■トリ      |
| ■ホタル   | ■ホトギス | ■ミヤコドリ | ■アワビ | ■ウズラ | ■ウナギ     |
| ■カエル   | ■カマキリ | ■カメ    | ■カモ  | ■カラス | ■キツネ     |
| ■クツワムシ | ■ケモノ  | ■サギ    | ■シカ  | ■シジミ | ■シャクトリムシ |
| ■シラウオ  | ■スッポン | ■ゾウ    | ■タイ  | ■タヌキ | ■トンボ     |
| ■ニンギョ  | ■ノミ   | ■ヒツジ   | ■フグ  | ■ブタ  | ■ホウオウ    |
| ■ホシザメ  | ■ホタテ  | ■ボラ    | ■マグロ | ■ムシ  | ■モグラ     |

詠まれた動物の種類の数、動物が詠まれた句の割合はほぼ変わらない。ウマが最も多く、ネコ、ネズミが続く。動物の種類割合はやや割れている。

## 138 篇

138 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、138 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

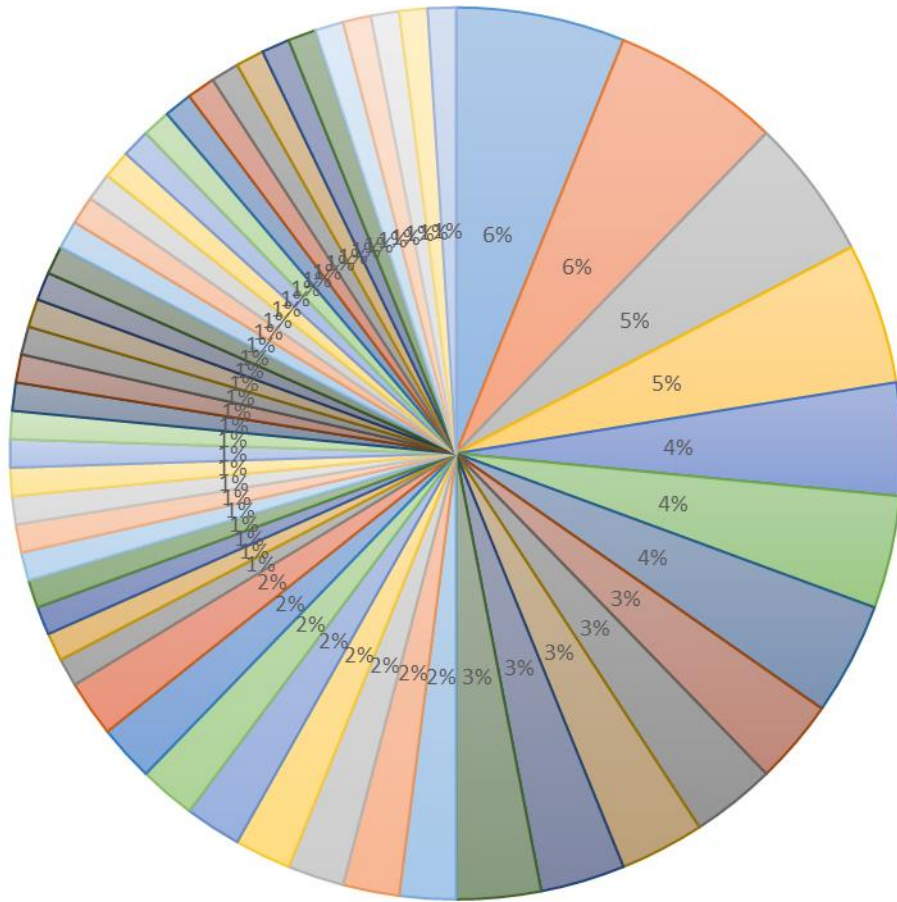
138篇(1835年)			
動物	数		
		チドリ	1
		ツバメ	1
イヌ	6	ツル	1
カモ	6	ナメクジ	1
トリ	5	ニオ	1
リュウ	5	ニワトリ	1
ウシ	4	ノミ	1
カリ	4	ハエ	1
ネコ	4	ヒキガエル	1
ウマ	3	ヒツジ	1
コイ	3	ヒヒ	1
サル	3	ホウオウ	1
シカ	3	ヤブカ	1
ムシ	3	ヤマバト	1
ウナギ	2	ヨシキリ	1
オウム	2	全53種	98
カキ	2		
カニ	2		
カメ	2		
スズメ	2		
トンビ	2		
ヘビ	2		
アブ	1		
イナゴ	1		
エビ	1		
オシドリ	1		
カ	1		
カイ	1		
キュウビ	1		
クジラ	1		
クモ	1		
サケ	1		
シャチホコ	1		
シャモ	1		
シラトリ	1		
シロネズミ	1		
セキレイ	1		
ゼニガメ	1		
タコ	1		
タヌキ	1		

篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
138	765	98	12.8



138篇に表れる動物



- |        |         |        |        |        |       |         |        |
|--------|---------|--------|--------|--------|-------|---------|--------|
| ■ イヌ   | ■ カモ    | ■ トリ   | ■ リュウ  | ■ ウシ   | ■ カリ  | ■ ネコ    | ■ ウマ   |
| ■ コイ   | ■ サル    | ■ シカ   | ■ ムシ   | ■ ウナギ  | ■ オウム | ■ カキ    | ■ カニ   |
| ■ カメ   | ■ スズメ   | ■ トンビ  | ■ ヘビ   | ■ アブ   | ■ イナゴ | ■ エビ    | ■ オシドリ |
| ■ カ    | ■ カイ    | ■ キュウビ | ■ クジラ  | ■ クモ   | ■ サケ  | ■ シャチホコ | ■ シャモ  |
| ■ シラトリ | ■ シロネズミ | ■ セキレイ | ■ ゼニガメ | ■ タコ   | ■ タヌキ | ■ チドリ   | ■ ツバメ  |
| ■ ツル   | ■ ナメクジ  | ■ ニオ   | ■ ニワトリ | ■ ノミ   | ■ ハエ  | ■ ヒキガエル | ■ ヒツジ  |
| ■ ヒビ   | ■ ホウオウ  | ■ ヤブカ  | ■ ヤマバト | ■ ヨシキリ |       |         |        |

イヌ、カモが同数で最も多く、トリ、リュウが続く。割合は割れている。

143 篇

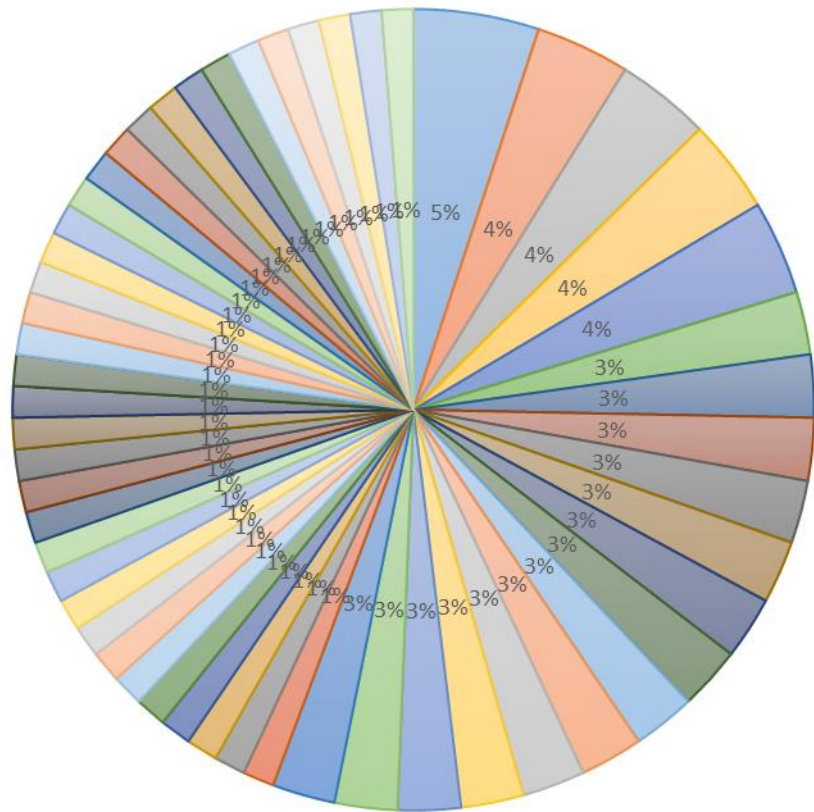
143 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、143 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

143篇(1836年)		サンショウウオ	1
動物	数	シカ	1
ネコ	4	シシ	1
ウマ	3	シジミ	1
シラミ	3	ショウジョウ	1
トラ	3	スズメ	1
ネズミ	3	タコ	1
イヌ	2	チン	1
カ	2	ツバメ	1
カメ	2	ハマグリ	1
クモ	2	フグ	1
サギ	2	ホトギス	1
チョウ	2	マグロ	1
ツル	2	ムシ	1
テング	2	ヤマガラ	1
ドジョウ	2	リュウ	1
トリ	2	ワシ	1
トンビ	2	計54種	79
ハエ	2		
フナ	2		
ヘビ	2		
アメンボ	1		
イカ	1		
イノシシ	1		
イモムシ	1		
ウグイス	1		
ウナギ	1		
カタツムリ	1		
カツオ	1		
カニ	1		
カラス	1		
カリ	1		
キサゴ	1		
クイナ	1		
ケムシ	1		
ケモノ	1		
コイ	1		
サカナ	1		
サル	1		

篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
143	559	79	14.1



143篇に表れる動物



- |       |          |      |       |       |         |
|-------|----------|------|-------|-------|---------|
| ■ネコ   | ■ウマ      | ■シラミ | ■トラ   | ■ネズミ  | ■イヌ     |
| ■カ    | ■カメ      | ■クモ  | ■サギ   | ■チョウ  | ■ツル     |
| ■テング  | ■ドジョウ    | ■トリ  | ■トンビ  | ■ハエ   | ■フナ     |
| ■ヘビ   | ■アメンボ    | ■イカ  | ■イノシシ | ■イモムシ | ■ウグイス   |
| ■ウナギ  | ■カタツムリ   | ■カツオ | ■カニ   | ■カラス  | ■カリ     |
| ■キサゴ  | ■クイナ     | ■ケムシ | ■ケモノ  | ■コイ   | ■サカナ    |
| ■サル   | ■サンショウウオ | ■シカ  | ■シシ   | ■シジミ  | ■ショウジョウ |
| ■スズメ  | ■タコ      | ■チン  | ■ツバメ  | ■ハマグリ | ■フグ     |
| ■ホトギス | ■マグロ     | ■ムシ  | ■ヤマガラ | ■リュウ  | ■ワシ     |

ネコが最も多く、ウマ、シラミ、トラ、ネズミと続く。詠まれた動物の種類割合はかなり割れている。

## 145 篇

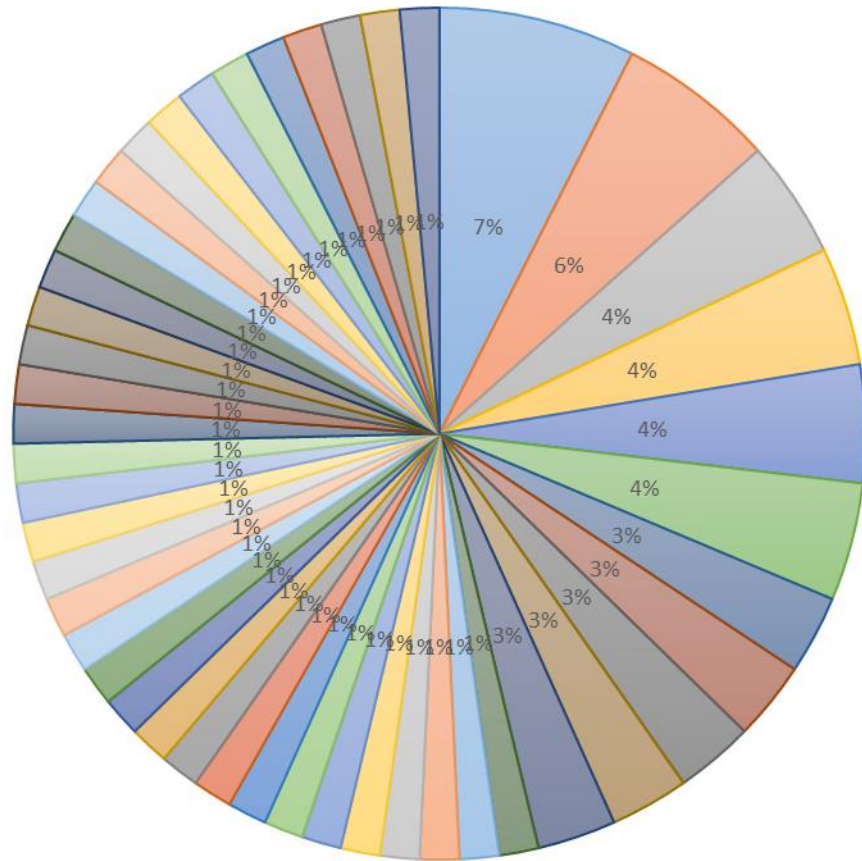
145 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、145 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

145篇(1837年)		ハエ	1
動物	数	ハト	1
ネズミ	5	ヒバリ	1
フグ	4	ヘビ	1
ウシ	3	ホウオウ	1
ウマ	3	マツムシ	1
シカ	3	ムカデ	1
ツル	3	ヤマドリ	1
イヌ	2	ヤマンバ	1
カイツブリ	2	全47種	67
クマ	2		
サル	2		
チョウ	2		
アシカ	1		
アリ	1		
ウグイス	1		
ウズラ	1		
ウナギ	1		
カタツムリ	1		
カツオ	1		
カッパ	1		
キツネ	1		
キリギリス	1		
サザエ	1		
シジミ	1		
シャクトリムシ	1		
シャチホコ	1		
ショウジョウ	1		
スズメ	1		
タイ	1		
タカ	1		
タニシ	1		
タヌキ	1		
ツチクモ	1		
ツバメ	1		
テング	1		
ドジョウ	1		
トラ	1		
トリ	1		
ネコ	1		

篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
145	609	67	11

145篇に表れる動物



- |        |         |        |       |        |          |
|--------|---------|--------|-------|--------|----------|
| ■ネズミ   | ■フグ     | ■ウシ    | ■ウマ   | ■シカ    | ■ツル      |
| ■イヌ    | ■カイツブリ  | ■クマ    | ■サル   | ■チョウ   | ■アシカ     |
| ■アリ    | ■ウグイス   | ■ウズラ   | ■ウナギ  | ■カタツムリ | ■カッパ     |
| ■カッパ   | ■キツネ    | ■キリギリス | ■サザエ  | ■シジミ   | ■シャクトリムシ |
| ■シャチホコ | ■ショウジョウ | ■スズメ   | ■タイ   | ■タカ    | ■タニシ     |
| ■タヌキ   | ■ツチクモ   | ■ツバメ   | ■テング  | ■ドジョウ  | ■トラ      |
| ■トリ    | ■ネコ     | ■ハエ    | ■ハト   | ■ヒバリ   | ■ヘビ      |
| ■ホウオウ  | ■マツムシ   | ■ムカデ   | ■ヤマドリ | ■ヤマンバ  |          |

145 篇は詠まれた動物の種類、動物が詠まれた句の割合ともにやや少なくなっている。最も数が多いのはネズミ、次いでフグ、その後にウシ、ウマ、シカ、ツルが続く。

## 146 篇

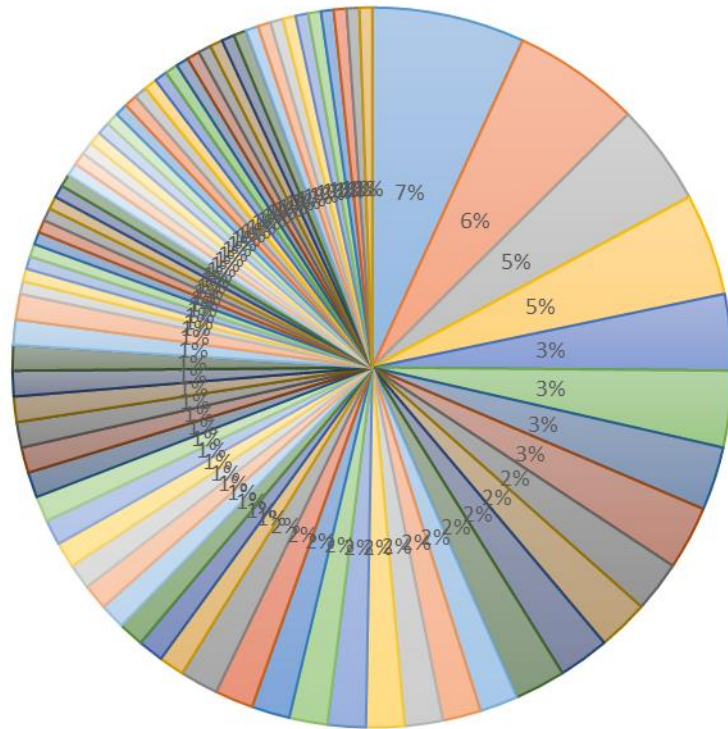
146 篇で詠まれていた動物の種類とその割合、動物が詠まれていた句の数、146 篇に収録された全ての句のうち動物が詠まれていた句の割合は以下の通りである。

146篇(1838年)			
動物	数		
		アズマムシ	1
		アヒル	1
サル	12	アユ	1
ムシ	10	イカ	1
ニワトリ	8	イヌ	1
ヨタカ	8	イワシ	1
トリ	6	ウグイス	1
ホタル	6	ウマ	1
カ	5	オシドリ	1
クモ	5	ガチョウ	1
ウ	4	カブトムシ	1
シラミ	4	ガマガエル	1
チドリ	4	カモ	1
チョウ	4	キツツキ	1
オウム	3	キツネ	1
タカ	3	キリギリス	1
タコ	3	クツワムシ	1
ツル	3	クリムシ	1
トラ	3	コウモリ	1
トンボ	3	コガネムシ	1
ネコ	3	サザエ	1
ハエ	3	シギ	1
ヘビ	3	シシ	1
ウシ	2	ジジイムシ	1
カツオ	2	シジミ	1
クジャク	2	シラサギ	1
クマ	2	セキレイ	1
コイ	2	セミ	1
コオロギ	2	チャテテムシ	1
シカ	2	ドジョウ	1
スズムシ	2	トンビ	1
スズメ	2	ナメクジ	1
スッポン	2	ネズミ	1
ゾウ	2	ハマグリ	1
ダチョウ	2	フクロウ	1
ハチ	2	ブタ	1
ハト	2	ミズドリ	1
フナムシ	2	ムクドリ	1
マツムシ	2	計76種	175
ムカデ	2		

篇	全句数	動物が詠まれている句	割合(%)
146	710	175	24.6

### 146篇に表れる動物



- |        |        |       |         |        |        |        |
|--------|--------|-------|---------|--------|--------|--------|
| ■サル    | ■ムシ    | ■ニワトリ | ■ヨタカ    | ■トリ    | ■ホタル   | ■カ     |
| ■クモ    | ■ウ     | ■シラミ  | ■チドリ    | ■チョウ   | ■オウム   | ■タカ    |
| ■タコ    | ■ツル    | ■トラ   | ■トンボ    | ■ネコ    | ■ハエ    | ■ヘビ    |
| ■ウシ    | ■カツオ   | ■クジャク | ■クマ     | ■コイ    | ■コオロギ  | ■シカ    |
| ■スズムシ  | ■スズメ   | ■スッポン | ■ゾウ     | ■ダチョウ  | ■ハチ    | ■ハト    |
| ■フナムシ  | ■マツムシ  | ■ムカデ  | ■アズマムシ  | ■アヒル   | ■アユ    | ■イカ    |
| ■イヌ    | ■イワシ   | ■ウグイス | ■ウマ     | ■オシドリ  | ■ガチョウ  | ■カブトムシ |
| ■ガマガエル | ■カモ    | ■キツキ  | ■キツネ    | ■キリギリス | ■クツワムシ | ■クリムシ  |
| ■コウモリ  | ■コガネムシ | ■サザエ  | ■シギ     | ■シシ    | ■ジジイムシ | ■シジミ   |
| ■シラサギ  | ■セキレイ  | ■セミ   | ■チャテテムシ | ■ドジョウ  | ■トンビ   | ■ナメクジ  |
| ■ネズミ   | ■ハマグリ  | ■フクロウ | ■ブタ     | ■ミズドリ  | ■ムクドリ  |        |

詠まれた動物の種類、動物が詠まれた句の割合ともに多くなっている。最も多いのはサル、次いでムシ、その後にニワトリ、ヨタカが続く。

## 5 考察

### 5.1 詠まれた動物の種類

今回の調査結果から、各篇で詠まれた動物の種類のみを抽出すると、次の図となる。

篇(出版年)	1篇(1765年)	2篇(1767年)	3篇(1768年)	4篇(1769年)	5篇(1770年)
種類	38	27	27	29	27

篇(出版年)	7篇(1772年)	8篇(1773年)	9篇(1774年)	10篇(1775年)	11篇(1776年)
種類	26	24	31	20	26

篇(出版年)	11篇(1776年)	12篇(1777年)	13篇(1778年)	14篇(1779年)	15篇(1780年)
種類	26	30	38	24	21

篇(出版年)	16篇(1781年)	17篇(1782年)	18篇(1783年)	19篇(1784年)	20篇(1785年)
種類	32	23	31	33	20

篇(出版年)	21篇(1786年)	22篇(1788年)	23篇(1789年)	24篇(1791年)	25篇(1794年)
種類	27	32	24	31	40

篇(出版年)	26篇(1796年)	27篇(1798年)	28篇(1799年)	29篇(1800年)	30篇(1804年)
種類	46	38	41	40	25

篇(出版年)	31篇(1805年)	33篇(1806年)	36篇(1807年)	41篇(1808年)	47篇(1809年)
種類	26	51	54	39	28

篇(出版年)	49篇(1810年)	50篇(1811年)	59篇(1812年)	63篇(1813年)	65篇(1814年)
種類	46	47	46	44	43

篇(出版年)	67篇(1815年)	69篇(1817年)	70篇(1818年)	71篇(1819年)	72篇(1820年)
種類	36	25	27	78	42

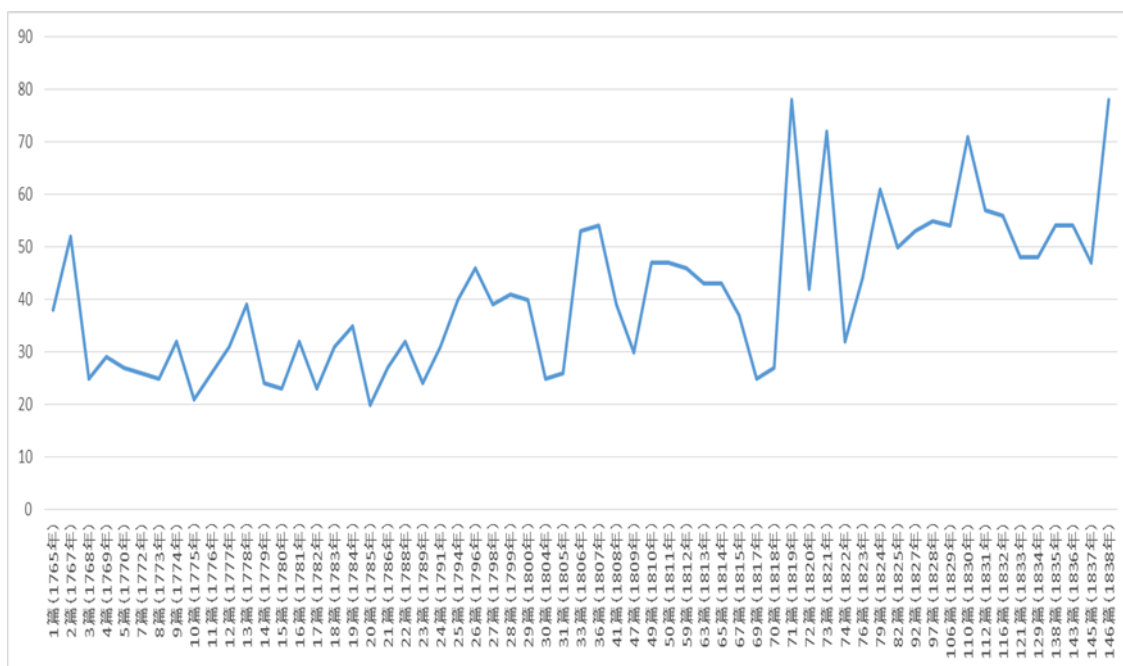
篇(出版年)	89篇(1826年)	92篇(1827年)	97篇(1828年)	106篇(1829年)	110篇(1830年)
種類	43	53	55	55	70

篇(出版年)	112篇(1831年)	116篇(1832年)	121篇(1833年)	129篇(1834年)	138篇(1835年)
種類	56	56	48	48	53

篇(出版年)	143篇(1836年)	145篇(1837年)	146篇(1838年)
種類	54	47	76

以下は、上記の表をグラフにしたものである。年代ごとの増減は大きいものの、『俳風柳多留』の刊行開始時よりも、後期の方が詠まれる動物の種類がやや増える傾向がある。





## 5.2 多く詠まれた動物

また下記の図は、今回調査した篇に詠まれていた動物の種類と、詠まれていた数を示した表である。動物の種類は全 282 種、動物が詠まれていた句は 4037 句であった。

詠まれた数はウマが圧倒的に多く、その後にネコ、カツオ、トリ、ホトトギスが続く形である。

ウマの詠まれる数が多いのは、江戸の庶民にとって身近な存在だったからであると考えられる。馬士などのウマを扱う職業も多く、江戸の人々にとっては重要な家畜であった。

次に多く詠まれたネコも、やはりペットとして、また野良猫として街に住み、人と生活を共にする身近な存在であったと考えられる。

カツオは江戸の人々にとって、季節を感じる重要な食物であった。初鰹はその高価さから、滑稽味のあるエピソードも多い。このことから、川柳として詠みやすい題材であったと考えられる。

トリは個別の動物名ではないため、数も多くなったと考えられるが、やはり食物として、また江戸の街に人とともに暮らす動物として身近であったと考えられる。

ホトトギスもまた、万葉集の時代から続く初鳴きを聞く習慣や、その鳴き声を農事を始める合図とする習慣から、季節を告げる動物として江戸の人々に意識されていたと考えられる。

このように、多く詠まれた動物は、家畜やペット、または生活圏を共にする動物として身近であること、また季節を感じさせる動物であることが分かる。

動物	合計	ヌエ	19	アンコウ	7	アサリ	3
ウマ	378	オオカミ	18	イモムシ	7	アブ	3
ネコ	165	シラミ	18	ウズラ	7	イセエビ	3
カツオ	152	イワシ	17	カイ	7	イタチ	3
トリ	141	ケムシ	17	カタツムリ	7	カイコ	3
ホトギス	136	サギ	17	キジ	7	カジキ	3
ツル	127	シャチホコ	17	クジャク	7	カレイ	3
イヌ	95	チン	17	ショウジョウ	7	キス	3
ムシ	82	アユ	16	ホタテ	7	クロダイ	3
ウシ	80	エビ	16	ヤマドリ	7	ゲジゲジ	3
ネズミ	75	オシドリ	16	ワシ	7	サケ	3
キツネ	73	キリギリス	16	シギ	6	シャクトリムシ	3
サル	69	クジラ	16	シラトリ	6	ジョロウグモ	3
カ	67	スッポン	16	ニンギョ	6	シロネズミ	3
サカナ	65	トンボ	16	ヒヨドリ	6	ナマコ	3
シカ	57	アワビ	15	ホラガイ	6	ハジロ	3
トラ	56	クマ	15	マツムシ	6	ハゼ	3
クモ	51	ゾウ	15	ミズドリ	6	ハムシ	3
カエル	48	ツバメ	15	アカガエル	5	ヒキガエル	3
ホウオウ	47	ヒツジ	15	アカトンボ	5	ムジナ	3
ハマグリ	45	ミミズ	15	アジ	5	ヤマンバ	3
ヘビ	45	ミヤコドリ	15	キリン	5	ラクダ	3
ウグイス	44	カッパ	13	コオロギ	5	アシカ	2
コイ	44	ウ	12	スイギュウ	5	アマガエル	2
カメ	43	クツワムシ	12	ゼニガメ	5	アメンボ	2
タカ	43	ノミ	12	トビウオ	5	イスカ	2
チョウ	43	アヒル	11	ネコマタ	5	イナゴ	2
スズメ	40	アブラムシ	11	ボラ	5	ウマオイ	2
カラス	38	アリ	11	ヨシキリ	5	オオトリ	2
フグ	36	カッコウ	11	ヨブコドリ	5	カキ	2
カモ	35	クイナ	11	ウジムシ	4	クリムシ	2
ホタル	35	シジミ	11	ウソ	4	クルマエビ	2
リュウ	35	セキレイ	11	カブトムシ	4	クロカモ	2
タヌキ	34	ブタ	11	カモメ	4	ケジラミ	2
ニワトリ	34	ウサギ	10	キンギョ	4	コガネムシ	2
タイ	31	ケモノ	10	サザエ	4	コノシロ	2
ハエ	31	ハチ	10	シラサギ	4	コハダ	2
ハト	31	イカ	9	タチウオ	4	サクラダイ	2
ウナギ	30	コウモリ	9	タニシ	4	サンショウウオ	2
チドリ	29	サメ	9	タマムシ	4	シバエビ	2
タコ	27	ドジョウ	9	ナマズ	4	ジュウイチ	2
カリ	26	フナ	9	ヒバリ	4	スズキ	2
シラウオ	25	アカガイ	8	ヒラメ	4	タイホウ	2
ヨタカ	25	オウム	8	ブッポウソウ	4	タイマイ	2
カニ	23	サンマ	8	ミノムシ	4	チャタテムシ	2
トンビ	23	スズムシ	8	ムカデ	4	ハサミムシ	2
セミ	21	ナメクジ	8	ムクドリ	4	ヒシコ	2
テング	21	バク	8	モモンガ	4	ヒル	2
イノシシ	20	マグロ	8	ヤブカ	4	フナムシ	2
シシ	19	モグラ	8	アオサギ	3	ヘイケガニ	2



ミミズク	2	ツチグモ	1
アカニシ	1	テナガエビ	1
アカハラ	1	トカゲ	1
アズマムシ	1	トド	1
アナグマ	1	トモエガモ	1
イイダコ	1	ニオ	1
イシガメ	1	ネキリムシ	1
イシモチ	1	ハアリ	1
ウブメ	1	ハジラミ	1
ウミアヒル	1	ハタハタ	1
ウリボウ	1	ハネムシ	1
オットセイ	1	ハラカ	1
オナガ	1	ハンミョウ	1
オニヤンマ	1	ヒグラシ	1
カイヌ	1	ヒヒ	1
カイツブリ	1	ビャッコ	1
カサゴ	1	ヒヨコ	1
ガチョウ	1	ヒラタグモ	1
カネタタキ	1	フクロウ	1
カブトガイ	1	フクログモ	1
ガマガエル	1	ヘヒリムシ	1
カマキリ	1	ホオジロ	1
カミキリムシ	1	ホシザメ	1
カラシシ	1	マナガツオ	1
カワザカナ	1	ヤツメウナギ	1
カンクチョウ	1	ヤマガラ	1
キサゴ	1	ヤマネコ	1
キツツキ	1	ヤマバト	1
キュウビ	1	ヤモリ	1
クラゲ	1	ライジュウ	1
クロネズミ	1	ランチュウ	1
コウノトリ	1	レイチョウ	1
コバ	1	ワニ	1
コヤスガイ	1	計282種	4037
サイ	1		
サクラガイ	1		
サバ	1		
サワガニ	1		
ジグモ	1		
ジジイムシ	1		
シジュウカラ	1		
シタビラメ	1		
ジムシ	1		
ジャコウネコ	1		
シャモ	1		
スイリュウ	1		
ダチョウ	1		
ダボハゼ	1		
タンチョウ	1		
チクショウ	1		

## 6 結論

『誹風柳多留』に詠まれる動物の種類は、刊行当初よりも後期の方がやや多くなること、多く詠まれた動物は、家畜やペット、または生活圏を共にする動物として身近であること、また季節を感じさせる動物であることが分かった。これらのことは、江戸の庶民文化の中で、動物への注目が増したこと、また季節を感じさせる動物を強く意識して生活していたことを示しているのではないだろうか。

## 7 参考文献

- 青木宏一郎『江戸時代の自然』（1999年、都市文化社）  
今橋理子『江戸の動物画』（2004年、東京大学出版会）  
岡田甫校訂『誹風柳多留全集』1～12（1999年、三省堂）  
白幡洋三郎「日本文化の中の動物」（奥野卓司編『動物文化と表象』2009年、岩波書店）  
田中優子「江戸の自然」（小森陽一『つくられた自然』2003年、岩波書店）  
塚本学『江戸時代人と動物』（1995年、日本エディタースクール出版部）  
塚本学「江戸の風流一虫とりの愛好文化」（大西成明『鳥かご・虫かご一風流と美のかたち』1996年、INAX出版）  
寺島良安『和漢三才図会』6、7（1987年、平凡社）  
西村在我『川柳動物誌』（1985年、雄山閣出版株式会社）  
水本邦彦『環境の日本史4 人々の営みと近世の自然』（2013年、吉川弘文館）  
安田容子「川柳にみる江戸時代の人と野生動物観」（森林環境研究会『動物反乱と森の崩壊』2007年、朝日新聞社）  
渡辺信一郎『江戸の知られざる風俗』（2001年、筑摩書房）  
渡辺信一郎『江戸川柳』（1998年、岩波書店）

付録 川柳一覧

1 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
1	1	伴頭ハ内の羽白をしめたがり	ハジロ	羽白
	2	すつぽんに拝まれた夜のあたゝかさ	スッポン	すつぽん
	2	使者ハまづ馬からおりて鼻をかみ	ウマ	馬
	2	こわそうに鯀の舁を持ツ女	ドジョウ	鯀
	3	赤とんほ空を流るゝ龍田川	アカトンボ	赤とんほ
	4	煮うり屋の柱ハ馬に喰れけり	ウマ	馬
	4	弁天の貝とハしやれたみやけもの	カイ	貝
	5	國はなしつきれハ猫の蚤をとり	ネコ	猫
	5	國はなしつきれハ猫の蚤をとり	ノミ	蚤
	5	白魚の子にまよふ頃角田川	シラウオ	白魚
	7	鶏の何か言ひたい足つかい	ニワトリ	鶏
	7	すつぽんをりやうれは母は舞をまい	スッポン	すつぽん
	7	むく鳥か来てハ格子をあつからせ	ムクドリ	むく鳥
	8	菅笠て犬にも旅のいとまこい	イヌ	犬
	8	跡乗の馬ハ尾斗ふつて居ル	ウマ	馬
	10	義貞の勢ハあさをふみつづし	アサリ	あさり
	10	関寺て勅使を見ると犬がほへ	イヌ	犬
	10	めいわくな顔ハ祭で牛斗	ウシ	牛
	11	ゆうれいに成てもやはり鶉を遣ひ	ウ	鶉
	12	源左衛門鎧を着ルと犬がほへ	イヌ	犬
	12	箱王か両の袂に蝉の声	セミ	蝉
	12	蚊を焼いた跡を女房にいやがらせ	カ	蚊
	13	太神樂ぐるりハみんな油むし	アブラムシ	油むし
	13	日本の狸ハしんて風おこし	タヌキ	狸
	14	屋敷替白狐の言ひおくり	キツネ	狐
	14	蟻ほどに千畳敷の畳さし	アリ	蟻
	14	山のいもうなぎに化る法事をし	ウナギ	うなぎ
	18	吉治か荷おろせは馬ハかいて見	ウマ	馬
	20	霊棚の牛ハはたけの鼻まがり	ウシ	牛
	21	御てい主の留主て鯉を手負にし	カツオ	鯉
	22	別当ハ馬や狐て茶をわかし	ウマ	馬
	22	別当ハ馬や狐て茶をわかし	キツネ	狐
	22	初かつほ家内残らす見た斗	カツオ	かつほ
	22	神奈川の文ハ鯉の片便	カツオ	鯉
	23	はねむしる鴨に手の込ム長局	カモ	鴨
	23	新造のやつかいにする鼠の子	ネズミ	鼠
	25	御伝馬て行ッハやたらに腹を立	ウマ	馬
	26	飼鶴ハ袴着て居る人へ行	ツル	鶴
	26	昼買った螢を隅へ持てゆき	ホタル	螢
	27	飛鳥山毛虫と成て見かきられ	ケムシ	毛虫
	27	片棒をかつぐゆふべの鯉仲間	フグ	鯉
	27	初鯉薬のやうにもりさばき	カツオ	鯉
	28	ゑり元のうつとうしそうな田舎馬	ウマ	馬
	29	鯉買って余所のながしへ持てゆき	フグ	鯉

	29	針仕事手のかるく成ほとゝきす	ホトギス	ほとゝきす
	33	長嘶とんぼのとまる鐘の先	トンボ	とんぼ
	33	佐野ゝ馬扱首をたれ尻をすかし	ウマ	馬
	33	御婚礼蛙の声をみやげにし	カエル	蛙
	34	蠅打てかき寄て取ル関手形	ハエ	蠅
	35	佐野の馬かんろのやうな豆を喰ヒ	ウマ	馬
	36	出女の鏡へうつる馬の面	ウマ	馬
	37	黒犬を挑灯にする雪のみち	イヌ	犬
	37	たきもりのわりなき無心鮒一ツ	フナ	鮒
	37	居酒屋に馬と車の払もの	ウマ	馬
	38	舞鶴に水をもらせる殿づくり	ツル	鶴
	39	初かつほふん込の衆天窓わり	カツオ	かつほ
	39	引越の跡から娘猫を抱	ネコ	猫
	41	病犬ちつと追ッてハたんと逃	イヌ	犬
	41	丸山へはまつて髭で蠅を追ひ	ハエ	蠅
	42	一ト網に打ッれた禿蚊にくわれ	カ	蚊
	42	外科殿のぶたハ死ニ身で飼ハれて居	ブタ	ぶた
	42	吉原の鰐が見入ッて紙が散リ	ワニ	鰐
	43	船の子へ蟹なげて遣蜆とり	カニ	蟹
	43	船の子へ蟹なげて遣蜆とり	シジミ	蜆

## 2 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
2	1	うつゝにも団扇のうごく蠅ざらひ	ハエ	蠅
	1	はな紙へ蛙だきつくうばか池	カエル	蛙
	1	見附番蠅をうつしてかハリ合	ハエ	蠅
	2	薬取やつびし犬に手をもらひ	イヌ	犬
	2	御りんじう二月に虫の声を聞	ムシ	虫
	2	たがかけに四五間先 <sub>キ</sub> で犬がじやれ	イヌ	犬
	3	御神馬にちよびくじきをさせて置	ウマ	御神馬
	7	金持を鶯といふ音羽町	ウグイス	鶯
	9	草の庵はいとりもちにきりくす	キリギリス	きりくす
	9	後添ハ鼠が出てもびつくりし	ネズミ	鼠
	9	せいもんの度 <sub>ニ</sub> に水打 <sub>ッ</sub> 初かつほ	カツオ	かつほ
	9	鳥の毛を捨るに風を見すまして	トリ	鳥
	12	けちくハ貳疋ならんだやうな紋	ゲジゲジ	けちく
	12	腰越 <sub>テ</sub> てももの喰ふものハ馬斗	ウマ	馬
	16	地女に毛むしニツで化 <sub>ケ</sub> られず	ケムシ	毛むし
	16	出格子で鰹買日は旦那が来	カツオ	鰹
	16	そば切のあかりをかする夜はまぐり	ハマグリ	はまぐり
	16	油むし折く湯屋の桶をつみ	アブラムシ	油むし
	17	にわ鳥ハ何さくでもらわれる	ニワトリ	にわ鳥
	18	神楽堂蠅を追 <sub>ッ</sub> のがいとまごひ	ハエ	蠅
	19	長生 <sub>キ</sub> をする足軽は馬に乗	ウマ	馬
	19	蚊の中に坊主禿のあハれなり	カ	蚊
	19	角田川所の人ハかもめ也	カモメ	かもめ
	20	通 <sub>リ</sub> 丁うろたへて来た蝉の声	セミ	蝉
	20	突出しのひつじほど喰ふ恥かしさ	ヒツジ	ひつじ
	21	蟻一ツ娘ざかりをはだかにし	アリ	蟻
	23	ちらき書田舎へ行くときもがおり	クモ	くも
	24	むごらしくも <sub>レ</sub> 立をとる赤がいる	アカカエル	赤がいる
	25	ゑり人で鰹をりやうる長局	カツオ	鰹
	25	水引で蛤を釣 <sub>ル</sub> ひな祭	ハマグリ	蛤
	27	神馬ひき節のめしをも喰た貞	ウマ	神馬
	28	狐つき鼠とまではのぞみかね	ネズミ	鼠
	29	雷もす <sub>レ</sub> めがなけばしまいな	スズメ	す <sub>レ</sub> め
	30	禅僧は座ぜんが済とのみを取	ノミ	のみ
	30	小侍蜘蛛と下水で日をくらし	クモ	蜘蛛
	31	よし盛へ鰹がとれておしよせる	カツオ	カツオ
	32	折くハ口書に乗 <sub>ル</sub> 奈良の鹿	シカ	鹿
	34	ごまめうり猫に一疋けいはくし	ネコ	猫
	35	母親の訴詔(訟)で鼠尾をもらい	ネズミ	鼠
	36	ねこのめし入 <sub>レ</sub> 添て遣 <sub>ル</sub> 花さかり	ネコ	ねこ
	36	草市にうろたへてなくきりくす	キリギリス	きりくす
	39	ほと <sub>レ</sub> ぎす聞かぬといへば恥のやう	ホトギス	ほと <sub>レ</sub> ぎす

## 3 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
3	2	鯨の声日もしやうじんも落る頃	アジ	鯨
	3	すほまつて馬からおりる宿下り	ウマ	馬
	4	すゝはきに玄関で肴直ができる	サカナ	肴
	5	仲人も夜ふけて呼べば虫をやみ	ムシ	虫
	6	すつほんの首を関守見て通し	スッポン	すつほん
	8	鯉の直居風呂でする面白さ	カツオ	鯉
	8	物さしてひるねの蠅を追ってやり	ハエ	蠅
	9	生いわし見切に売て水をまき	イワシ	鰯
	12	女房持山を見いく鹿を追ひ	シカ	鹿
	13	しやうじん日肴が来ると時を聞	サカナ	肴
	14	ひしこの直つるさつてする縄すだれ	ヒシコ	ひしこ
	16	犬を追ふ棒ハなけるが仕廻也	イヌ	犬
	16	八文が呑内馬はたれて居る	ウマ	馬
	17	帰ルちよき赤とんぼうと行違ひ	アカトンボ	赤とんぼう
	18	あつけない壹分が蛍飛しまひ	ホタル	蛍
	20	張物の大蛇に見へるつむじ風	ヘビ	大蛇
	20	貳三步がすゝめを納所買に出る	スズメ	すゝめ
	21	料理人とぐ内鯉をおよがせる	コイ	鯉
	21	かきつばたぬすめば昼も蚊に喰れ	カ	蚊
	22	踊子は一ぱちぬいて蚊をはらい	カ	蚊
	24	ふじみやげしたつたらずのきりくす	キリギリス	きりくす
	25	妹のおかげで馬におふつさり	ウマ	馬
	25	ぬす人にほら貝をふく在郷等	ホラガイ	ほら貝
	26	鳥のほねたゝいた札に首をやり	トリ	鳥
	26	すりこ木であひるを仕廻ふ鳥や見世	アヒル	あひる
	27	品川で見事な貝ハみなにされ	カイ	貝
	27	十斗あかるみへ出す夜蛤	ハマグリ	夜蛤
	29	とむらいの供ハはか所でせみを取	セミ	せみ
	34	雨蛙すぐに其角がわきをつけ	アマガエル	雨蛙
	35	初かつほ是も左のみゝで聞	カツオ	初かつほ
	35	あべ川で馬ハきなこをあびて行	ウマ	馬
	37	馬の尻たのんで姫は通りぬけ	ウマ	馬
	38	大一座多芸なやつは油むし	アブラムシ	油むし
	40	馬に水のませる家来たつしや者	ウマ	馬
	40	やうくわいの中でもぬゑは細工過	ヌエ	ぬゑ

## 4 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
4	1	奥のちん木綿ものさへ見るとほへ	チン	ちん
	4	はつ鯉旦那ははねがもげてから	カツオ	はつ鯉
	4	青首で猫などおどすりやうり人	カモ	青首
	4	青首で猫などおどすりやうり人	ネコ	猫
	5	三郎ハ毛虫を筆ではらひのけ	ケムシ	毛虫
	7	はつ鯉一口のめと下女へさし	カツオ	はつ鯉
	7	聞わけもなく又来てハ蚊をいれる	カ	蚊
	7	品川ハ鳥よりつらい馬の声	トリ	鳥
	7	品川ハ鳥よりつらい馬の声	ウマ	馬
	8	もちつとの事で鮎迄みなごろし	アユ	鮎
	11	くつわ虫寝しなに一ツゆすぶられ	クツワムシ	くつわ虫
	13	あかはらを釣て箱王しかられる	アカハラ	あかはら
	14	湯殿山くつわ虫ほど音をさせ	クツワムシ	くつわ虫
	14	しんぞうの鼠をたいこつんにがし	ネズミ	鼠
	15	八瀬小原きれいに牛をしかる所	ウシ	牛
	16	へびぜめをあぐらで嘸すかゝとき	ヘビ	へび
	20	犬がほえますと産婦におこされる	イヌ	犬
	20	した平目御乳母はふてゝくわぬ也	シタビラメ	した平目
	21	かもにせり出せば御しまいよかつたの	カモ	かも
	22	美しひ顔でやうきひぶたをくい	ブタ	ぶた
	23	江戸中を数とりになくほとゝきす	ホトトギス	ほとゝきす
	23	うわばみの大がいをいふせうゆ樽	ウワバミ	うわばみ
	23	一さすりさすつて鳥の直を付る	トリ	鳥
	25	東帯で見るがまことのみやこ鳥	ミヤコドリ	みやこ鳥
	26	壱人いる内義鼠の引の也	ネズミ	鼠
	27	和国とハ虎とあらそふ家名也	トラ	虎
	29	舟ベリでしらみをつぶすうらゝかさ	シラミ	しらみ
	32	いのしゝにくさめをさせる糸すゝき	イノシシ	いのしゝ
	33	桃の花下女がむかひの馬につけ	ウマ	馬
	33	樽ひろいにわとりしめたそにんをし	ニワトリ	にわとり
	33	鯉迄もむらさきに成る江戸の水	コイ	鯉
	34	法花経へ鮎の子をひるいさわ川	アユ	鮎
	34	大門をうちわと虫が入かわり	ムシ	虫
	34	初かつほ内義こわく百に付	カツオ	初かつほ
	35	馬士の名を呼ふのは通し馬と知れ	ウマ	通し馬
	35	おふくびで見るのが馬の女房也	ウマ	馬
	36	ぶちまけるやうに千鳥ハおりる也	チドリ	千鳥
	37	くどかれて娘は猫にものをいひ	ネコ	猫
	38	兎こうあん斗ねはんに猫が見へ	ネコ	猫
	39	白鳥かないてさびれる根津の里	シラトリ	白鳥
	40	赤がいるごぜハかすかにあぢを知	アカガエル	赤がいる

## 5 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
5	3	初かつほあつかましくも百につけ	カツオ	初かつほ
	3	じやうだんをしいく捨る鳥のはね	トリ	鳥
	4	何事ぞおこつたやうにちどり立ッ	チドリ	ちどり
	5	白酒屋などハ戸をさす手負猪	イノシシ	猪
	6	初鯉めしのさうぶハおぢきなし	カツオ	初鯉
	6	みゝづでもほるやうに見る払蔵	ミミズ	みゝづ
	8	きやうこつなお子だと遣リ手蜘蛛をすて	クモ	蜘蛛
	9	手を取て子になでさせる鴨のはら	カモ	鴨
	12	すつこんで居やれとていしゆ牛を見世	ウシ	牛
	12	きりくす禿にいぢりころされる	キリギリス	きりくす
	13	鉄砲の間へト声ほとゝぎす	ホトギス	ほとゝぎす
	18	蛤てあけるがむすめ氣にいらす	ハマグリ	蛤
	19	はき溜へ鶴のおりたハ小松どの	ツル	鶴
	19	初鯉ばゝあぐらいハおつこちる	カツオ	初鯉
	22	四ツ打造うなぎにてのんでいる	ウナギ	うなぎ
	22	虎のいを五種香うりもちつとかり	トラ	虎
	23	番つゝらしよつてこのしろさげて来ル	コノシロ	このしろ
	24	おさへればすゝきはなせばきりくす	キリギリス	きりくす
	25	狐つり思ひかけない鶯をつり	トンビ	鶯
	27	手のひらへ銭をつかせる夜蛤	ハマグリ	夜蛤
	28	蚊のくつた迄を恨の数に入れ	カ	蚊
	29	すつぽんがいやすと顔ニツ出し	スッポン	すつぽん
	30	ニツ三ツあかるみへ出す夜はまぐり	ハマグリ	夜はまぐり
	31	ふぐりより余程向ふで牛ハたれ	ウシ	牛
	33	鶯に出て谷汲のほとゝぎす	ウグイス	鶯
	33	鶯に出て谷汲のほとゝぎす	ホトギス	ほとゝぎす
	34	馬で来るのでよめん女とはねる也	ウマ	馬
	34	貝ひろふ右と左は千代万	カイ	貝
	35	手紙には狸台にハ鯉をのせ	タヌキ	狸
	35	手紙には狸台にハ鯉をのせ	コイ	鯉
	37	よしきりに地をうたわせてほとゝぎす	ヨシキリ	よしきり
	37	よしきりに地をうたわせてほとゝぎす	ホトギス	ほとゝぎす
	38	きぬ川にかさねこのかた鯰出来	ナマズ	鯰
	38	古寺にこいつと思ふ猫ひとつ	ネコ	猫
	38	黒がもと旦那ならぶ能きげん	カモ	黒がも
	40	こうの鳥びんぼう寺はきらい也	コウノトリ	こうの鳥
	40	はなし鳥そばでほしかる後生楽	トリ	はなし鳥
	41	初かつほ煮て喰ふ氣でハ直がならず	カツオ	初かつほ



## 7 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
7	4	五丁殿にゑんじやく付まとい	ツバメ	ゑんじやく
	4	五丁殿にゑんじやく付まとい	スズメ	ゑんじやく
	6	宇治川のそこには馬のわなをかけ	ウマ	馬
	6	はねの有いひわけ程はあひるとぶ	アヒル	あひる
	7	ほとゝきす二十六字ハあんじさせ	ホトギス	ほとゝきす
	8	青首をさかさになでゝしかれるる	カモ	青首
	11	かみさまじや出来ぬとにげるはつ鯉	カツオ	はつ鯉
	11	にわ鳥はおつつめられて五尺とび	ニワトリ	にわ鳥
	12	鰻も喰ゝますと花嫁しやれたもの	フグ	鰻
	13	はなし亀元ハは鶴から思ひつき	カメ	亀
	13	はなし亀元ハは鶴から思ひつき	ツル	鶴
	14	もちつとでほたるへとゝく禿の手	ホタル	ほたる
	14	はまぐりがすゝめに成ルと寝るの也	ハマグリ	はまぐり
	14	はまぐりがすゝめに成ルと寝るの也	スズメ	すゝめ
	14	土手で売ルやつは白狐のやうに見へ	ビヤッコ	白狐
	16	鯰をばおまへころせと女房いひ	ドジョウ	鯰
	17	初会にはよくほへたなどちんをなで	チン	ちん
	19	にわか後家大ぜいつれで牛をよけ	ウシ	牛
	20	おどり子にたのんではいる馬の口	ウマ	馬
	20	いきづへではねのけて行馬のうつ	ウマ	馬
	21	御来迎程なく通る馬の声	ウマ	馬
	23	馬ほどななりでおどり子よばりなり	ウマ	馬
	25	しらみをは先ぬがしやうとぜげんいひ	シラミ	しらみ
	26	昼のやうだと蛤のからを捨	ハマグリ	蛤
	28	くらやみへ牛を引出す十五日	ウシ	牛
	29	鮎がさびるのに川公事まだすます	アユ	鮎
	30	きやつといふ禿ハ櫃の毛虫也	ケムシ	毛虫
	31	村中の嫁入へかす無事な馬	ウマ	馬
	32	いつそ蚊のくふもこらへるひき語ッ	カ	蚊
	35	喰イやうによつて黒鯛つみに成	クロダイ	黒鯛
	36	狼ハさい布斗を喰ひのこし	オオカミ	狼
	36	佐野ゝ馬下馬に置内人だかり	ウマ	馬
	37	しんぞうのうきがともにハ鼠也	ネズミ	鼠
	39	羽二重のしらみたいこがたけはじめ	シラミ	しらみ
	40	から馬で今年も帰ル下女がせな	ウマ	馬
	40	まけた猫鼠花火のやうに逃	ネコ	猫
	42	みゝづくのやな遣ッ手の身ごしらへ	ミミズク	みゝづく

## 8 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
8	3	みのしゝハおきると歌によまぬ也	イノシシ	みのしゝ
	5	よめまいとないら葉に馬を書	ウマ	馬
	5	もふ外に死に人なしかと鰻をかい	フグ	鰻
	6	ちやんころが無 <small>ィ</small> とみ <small>ゞ</small> ずを堀て居 <small>ル</small>	ミミズ	み <small>ゞ</small> ず
	7	帆じらみをしよつて来たかとおりやういひ	シラミ	帆じらみ
	10	鯛りやうるあたり入相程にちり	タイ	鯛
	10	まん月のせなかへあたるもどり牛	ウシ	牛
	11	ひなさまへやろう来て居る猫の番	ネコ	猫
	11	中条で下女黒鯛の事もいひ	クロダイ	黒鯛
	12	馬程なやつをおふくろつめるなり	ウマ	馬
	12	佐野の馬戸塚の差かで二度たおれ	ウマ	馬
	12	ひなづるハ千両にするつもりの名	ツル	ひなづる
	13	ほとゝきすもふひや飯もすへる頃	ホトトギス	ほとゝきす
	17	あれ馬がのやとおとり子笑ひ出し	ウマ	馬
	21	くらやみへ牛を引込 <small>ム</small> 長つほね	ウシ	牛
	22	おとり子ハおいらも鯛をつ <small>ゞ</small> もふや	タイ	鯛
	22	つけのぼせたばこの虫をとりにやり	ムシ	虫
	22	つけのぼせたばこの虫をとりにやり	トリ	鳥
	23	よし原を三うねり程にほとゝきす	ホトトギス	ほとゝきす
	24	おつかけて壹舛ふやす初かつほ	カツオ	初かつほ
	25	私をハ馬鹿にしやすとちんを抱き	チン	ちん
	28	ほとゝきすき <small>ゞ</small> んしたとハ年増也	ホトトギス	ほとゝきす
	30	町代ハ油むしさと大一座	アブラムシ	油むし
	32	卯木うり鰹のそばで貳文とり	カツオ	鰹
	33	目のすごい鳥だと車よけて居 <small>ル</small>	トリ	鳥
	33	狎を呵 <small>ツ</small> てけんきやうを座にしやうし	チン	狎
	34	あじのすふこはだのすふとにぎやかさ	アジ	あじ
	34	あじのすふこはだのすふとにぎやかさ	コハダ	こはだ
	34	羽二重を這 <small>ツ</small> たしらみに人だかり	シラミ	しらみ
	34	そう札を見て初鰹直が出来る	カツオ	初鰹
	36	おとり子も鮎と一所にさびる也	アユ	鮎
	36	灸の紙丸 <small>メ</small> てじやらすからす猫	ネコ	猫
	36	馬を買程でうけ出すかるい沢	ウマ	馬
	36	蛤ハため小便をたれてくい	ハマグリ	蛤
	38	柳ごり鮎くふ内にしてやられ	フナ	鮎
	39	はなれ馬かり豆屋にておさへたり	ウマ	はなれ馬
	40	はんぎりの中 <small>に</small> うなぎハのび上 <small>ッ</small>	ウナギ	うなぎ
	41	御手がらな事と礼者ハかもをくい	カモ	かも
	41	いつ用 <small>に</small> たつか芋虫つ <small>の</small> があり	イモムシ	芋虫

## 9 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
9	序	清らかな花水鳥の留守に咲	ミズドリ	水鳥
	2	都鳥どらの伝授をうける所	ミヤコドリ	都鳥
	3	けだものを壺疋まぜるくわいらいし	ケモノ	けだもの
	3	子どもよく湯づけにうなぎそへて喰	ウナギ	うなぎ
	6	うづらても能 <small>イ</small> と藪入よわく出る	ウズラ	うづら
	6	あを向てつき屋さんまをふつり喰	サンマ	さんま
	8	白魚ハ王子てくわぬうちの事	シラウオ	白魚
	9	どばの犬しちやの門 <small>ニ</small> に待つて居る	イヌ	犬
	9	初まぐろ根津へへなくかつぎこみ	マグロ	初まぐろ
	11	百人の中へ <small>一</small> 声ほと <small>と</small> きす	ホトギス	ほと <small>と</small> きす
	12	弁慶の使かさごでのんで居る	カサゴ	かさご
	13	御妾ハひつふのゆうでふぐも喰 <small>イ</small>	フグ	ふぐ
	13	古だぬきめがとちはやの寄手いひ	タヌキ	古だぬき
	14	お初尾をじろくと見て鶴ハ立	ツル	鶴
	14	玉川の鮎もちつとでみなごろし	アユ	鮎
	16	小やろうの使かつほは半くされ	カツオ	かつほ
	18	御近所へお世話をかけて鯨をやめ	フグ	鯨
	20	たいこもち前 <small>ニ</small> 世は土手の狐也	キツネ	狐
	20	祭にもけだものを出す糞町	ケモノ	けだもの
	20	馬ハ最ひらきめさいと仲人いひ	ウマ	馬
	20	てうちんで夜たかを見るハむこいこと	ヨタカ	夜たか
	21	しやうとうじ妻乞鹿はかへる也	シカ	鹿
	23	寝て聞 <small>ハ</small> ば野馬をうつたとやかましき	ウマ	野馬
	24	はなれ馬大手をひろげてハ逃る	ウマ	はなれ馬
	25	鶴も居る亀も居るしと乳母ハほめ	ツル	鶴
	25	鶴も居る亀も居るしと乳母ハほめ	カメ	亀
	26	大部屋へとや出のたかをつれてくる	タカ	たか
	26	そんでいに見なしと鯉ひつたてる	カツオ	鯉
	26	天狗すけ太刀に熊坂気かつかず	テング	天狗
	27	入かへに行なからきくほと <small>と</small> ぎず	ホトギス	ほと <small>と</small> ぎず
	27	ぬか袋犬のあたまへふちまける	イヌ	犬
	28	かんなくず蛙とならぶしほらしき	カエル	蛙
	30	帳面に鯛く鴨といそかしき	タイ	鯛
	30	帳面に鯛く鴨といそかしき	カモ	鴨
	31	鳥のはねすて所よりわきにあり	トリ	鳥
	33	時鳥より此事とりやうり人	ホトギス	時鳥
	33	初かつほぶつかけにする座頭の坊	カツオ	初かつほ
	33	高 <small>ッ</small> 足の下をこうもりついととび	コウモリ	こうもり
	35	黒鯛をたてもものにするにうり見せ	タイ	黒鯛
	35	たいくつの馬のりものをかいで居る	ウマ	馬
	38	ぬ <small>ゑ</small> 程にさわぐをきけハ毛虫なり	ヌエ	ぬ <small>ゑ</small>
	38	ぬ <small>ゑ</small> 程にさわぐをきけハ毛虫なり	ケムシ	毛虫
	40	ぶどう棚あれいたちがと目のうとさ	イタチ	いたち
	42	初かつほ十けんよんで壺本うれ	カツオ	初かつほ

## 10 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
10	3	大ばすに切て松魚を安くする	カツオ	松魚
	5	まつ白な犬合羽屋でゑとられる	イヌ	犬
	6	安かつほとく心つくでなやむ也	カツオ	安かつほ
	7	かな釘とめゝずと下女ハとりかわし	ミミズ	めゝず
	7	けころ見世地犬のやうなちんをだき	イヌ	地犬
	7	けころ見世地犬のやうなちんをだき	チン	ちん
	9	にけた鳥両手をひろげおつかける	トリ	鳥
	10	しらみ取ルそばではだかてまりをつき	シラミ	しらみ
	10	はなれ馬しいの木へ来てつき当リ	ウマ	はなれ馬
	10	四ツ手駕牛の小百もかけぬける	ウシ	牛
	11	鴨りやうるそばで懸取りぼうを引	カモ	鴨
	13	つるむ猫枕ぞうしておつちらし	ネコ	猫
	13	だん食 <sub>キ</sub> のかわり鼠に成てくい	ネズミ	鼠
	13	若との八馬のほねから御たん生	ウマ	馬
	13	取 <sub>リ</sub> たてのあわびハ四ツを聞て喰	アワビ	あわび
	15	ゑゝ鳥がとれて二階がどつしく	トリ	鳥
	16	例年のごとく田にしとどく酒也	タニシ	田にし
	17	能 <sub>イ</sub> 筆て蚯蚓を書 <sub>イ</sub> てしかられる	ミミズ	蚯蚓
	18	時鳥あくる日からハへしになき	ホトギス	時鳥
	18	初かつほかついだま <sub>マ</sub> で見せて居る	カツオ	初かつほ
	19	馬五六疋にお妾むかうなり	ウマ	馬子
	19	鼠くそ毛請に貳ツおしい事	ネズミ	鼠
	20	はなれ馬施主のやしきへ追て行	ウマ	はなれ馬
	20	初かつほつき屋呼ひつぐはかり也	カツオ	初かつほ
	21	鎌倉に鯉もくわ <sub>ズ</sub> 三とせ居る	カツオ	鯉
	21	しつかさハ屋も鼠がニツ三ツ	ネズミ	鼠
	21	壺足の蛸てくすす門 <sub>ト</sub> すゝみ	ホタル	蛸
	21	雪の晩鯿だんへいと藪医おき	フグ	鯿
	21	鶺鴒のつらハ凡慮の外な所へ出し	ウ	鶺鴒
	22	昼見せて馬をかぞへるひまな事	ウマ	馬
	23	黒猫が居ぬと鼠にひかれそう	ネコ	黒猫
	23	黒猫が居ぬと鼠にひかれそう	ネズミ	鼠
	23	蚊をやいた斗でていしゆすまぬなり	カ	蚊
	25	ほとゝきす下女ハ小袖でくるしそう	ホトギス	ほとゝきす
	26	山ねこをだまりくとかいに行	ネコ	山ねこ
	27	さのゝ馬はなれやまでも二度たおれ	ウマ	さのゝ馬
	36	かつほぶし喰にけにするかりた猫	ネコ	猫
	37	ひさしふりひつじを喰ふとていし龍	ヒツジ	ひつじ
	37	ねこのなわとくとしやくじやうふりたてる	ネコ	ねこ
	38	下女がせなくなくと馬にかきのせる	ウマ	馬
	38	名のる内馬ハしばらくいきをつき	ウマ	馬
	39	高 <sub>イ</sub> よと初てにおとかす初鯉	カツオ	初鯉
	41	鹿のふんよけて地諷かしこまり	シカ	鹿
	42	扱 <sub>ク</sub> ちなやからだと鯿やめに成	フグ	鯿

## 11 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
11	1	よべば蜘蛛行ッば風にて手におへず	クモ	蜘蛛
	2	そつと持出セ海鼠だと十三日	ナマコ	海鼠
	2	飯たきを鴨に仕立る松の内	カモ	鴨
	3	嫁の礼かしわめん鳥つれて出ル	ニワトリ	めん鳥
	4	馬の跡足ははねるかしうちなり	ウマ	馬
	4	直ッ針で釣ったハ鯛のつくりなり	タイ	鯛
	7	狼に衣てかけの御院ごう	オオカミ	狼
	8	なんぼじやときけば鯉の直ハ出来ず	カツオ	鯉
	9	かん馬東西にはせたる御本はら	ウマ	かん馬
	9	品川へしと狼毎夜出る	シシ	しと
	9	品川へしと狼毎夜出る	オオカミ	狼
	9	六郷にとまつて居るはなれ馬	ウマ	はなれ馬
	10	ぬゑをみた手きわに宮ハふわとのり	ヌエ	ぬゑ
	12	帰朝して一のはなしハ蜘蛛の事	クモ	蜘蛛
	16	おとり子がこそをかけると牛をぶち	ウシ	牛
	16	始皇帝雁をとらまへそうにする	カリ	雁
	17	初かつほ御用手を出しかられる	カツオ	初かつほ
	19	馬をしよつたが一生のふ人から	ウマ	馬
	20	御り縁の跡すゝむしのなく斗	スズムシ	すゝむし
	21	蚊にくわれたのもうらみの数の内	カ	蚊
	24	初かつほかと僧正ハむがで聞キ	カツオ	初かつほ
	25	かくれんぼかべのしどみを掘って居る	シジミ	しどみ
	25	御産婦を証人にするほとゝぎす	ホトトギス	ほとゝぎす
	28	鳥ハものかわとやめないまけたやつ	トリ	鳥
	28	初かつほ辻番いらぬのぞきごと	カツオ	初かつほ
	29	毛せんでさしきを払う油むし	アブラムシ	油むし
	30	おし鳥ハ夫婦けんくわの池へ来ず	オシドリ	おし鳥
	32	黒猫にとうくするめひかせたり	ネコ	黒猫
	33	花の山むかしハとらのすみかなり	トラ	とら
	33	雨やどりはるかむこふハせみの声	セミ	せみ
	33	こしをもむうち秋のゝを馬ハ喰イ	ウマ	馬
	35	けいせいの蛭にくわれるにきやかさ	ヒル	蛭
	37	鶺鴒か呑みこんておとり子ひきはしめ	ウ	鶺鴒
	38	ほへついた犬へ百両ぶつつける	イヌ	犬
	39	くつわ虫ぐらい新ぞうかんませず	クツワムシ	くつわ虫

## 12 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
12	2	山ざるのかむり女帝のおものずき	サル	山ざる
	4	はつかつほつらをしかめてよんで来る	カツオ	はつかつほ
	5	品川の女郎とんびのわけをき	トンビ	とんび
	5	向ふがわ無 <sub>ィ</sub> でうなぎがうれる也	ウナギ	うなぎ
	6	それもしやくのせいとげちくを捨る	ゲジゲジ	げちく
	7	べちやあねへむく犬だよとげんいひ	イヌ	犬
	7	あんこうにきんちやく切がニ三人	アンコウ	あんこう
	8	ひまな事せみのぬけるにニ三人	セミ	せみ
	9	むごい事うきが友にハ猫ばかり	ネコ	猫
	9	初かつほ客も台所のぞくなり	カツオ	初かつほ
	10	蜷を貳舛みんなにてもてあまし	シジミ	蜷
	10	下総につないだ馬のやかましき	ウマ	馬
	11	たてかけた長持へ来てせみがなき	セミ	せみ
	11	水鳥ハにげてひよ鳥さいごなり	ミズドリ	水鳥
	11	水鳥ハにげてひよ鳥さいごなり	ヒヨドリ	ひよ鳥
	12	ほと <sub>ィ</sub> きすもふ寺くてうむしたく	ホトギス	ほと <sub>ィ</sub> きす
	13	か <sub>ィ</sub> みにて見ればきつねの天下一	キツネ	きつね
	14	人なればとふに出て行きの <sub>ィ</sub> 馬	ウマ	馬
	15	駕がきハ帰るに牛ハひとつ所 <sub>コ</sub>	ウシ	牛
	18	黒猫のわんもやつはり片思い	ネコ	黒猫
	18	にうり見世みの無イがんやかもがとび	カリ	がん
	18	にうり見世みの無イがんやかもがとび	カモ	かも
	18	ひやめしハあるかと下戸の初かつほ	カツオ	初かつほ
	19	てんがいを笛でつつはるほと <sub>ィ</sub> きす	ホトギス	ほと <sub>ィ</sub> きす
	21	ちんばひきながらまちなを買に来る	ウマ	ちんば
	21	おかしきハ夫婦けんくわを狎がほへ	チン	狎
	28	ひたを直しながら鯛の先 <sub>キ</sub> へたち	タイ	鯛
	28	ほへる犬手桶をかぶり追ひ廻し	イヌ	犬
	28	一ツ宛蛙を仕廻ふ水の音	カエル	蛙
	28	はなれ馬門松吉本引っこぬき	ウマ	はなれ馬
	30	ぬけ参 <sub>ッ</sub> 片道虎のぬせい也	トラ	虎
	30	ねこにまたがつて妾のおやあるき	ネコ	ねこ
	30	初かつほはしをはなせとしかられる	カツオ	初かつほ
	31	鳥にだもしかず納豆汁ができ	トリ	鳥
	31	九州にはびこる鳥を鎌で切	トリ	鳥
	32	初の字が五百鰹が五百なり	カツオ	鰹
	34	ひきがたり中やすみして蚊をいぶし	カ	蚊
	34	安うぶきさぎとすつぼん舞遊ひ	サギ	さぎ
	34	安うぶきさぎとすつぼん舞遊ひ	スッポン	すつぼん
	35	鳥のはねすでに狐が喰ふところ	トリ	鳥
	35	鳥のはねすでに狐が喰ふところ	キツネ	狐
	37	馬になる役者は男二疋なり	ウマ	馬
	38	はづかしさいしやへ鰹の直か知る	カツオ	鰹
	39	ゐのし <sub>ィ</sub> やむじなのわきで工藤死 <sub>二</sub>	イノシシ	ゐのし <sub>ィ</sub>
	39	ゐのし <sub>ィ</sub> やむじなのわきで工藤死 <sub>二</sub>	ムジナ	むじな
	39	蛇のしたをてうせんなどてぬかれたり	ヘビ	蛇
	41	蛤を捨て命をひろふなり	ハマグリ	蛤
	41	大風の跡 <sub>ニ</sub> に伊兵衛と虎斗	トラ	虎
	41	在郷医者なんぞといふと騎馬で来る	ウマ	騎馬
	41	いのし <sub>ィ</sub> に笹りんどうのゑふを立 <sub>テ</sub>	イノシシ	いのし <sub>ィ</sub>

## 13 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
13	3	母の留守どじやうを買ってしらん顔	ドジョウ	どじやう
	5	定家の門にうくひすないて居る	ウグイス	うくひす
	5	小田原の魚をすそのへかつぎこみ	サカナ	魚
	5	かごかきがかえるてうしを一ツふち	ウシ	うし
	5	一にふじ二にたかの羽の夜討也	タカ	たか
	6	だいでこまり入ル鹿を鎌て切り	シカ	鹿
	8	蔵宿がかさめとだぼうはぜをつり	ダボハセ	だぼうはぜ
	9	鹿をどうくくとひくばからしさ	シカ	鹿
	10	じつとして目見へハちんにほへらるゝ	チン	ちん
	10	からしゝの方ハぞう程すいてなし	カラシシ	からしゝ
	10	からしゝの方ハぞう程すいてなし	ゾウ	ぞう
	10	わたつみハみの虫程の音をさせ	ミノムシ	みの虫
	11	もふゑんじゆひつじぐらひハしらん顔	ヒツジ	ヒツジ
	12	蟬をしばつて仕事のそばへ来る	セミ	蟬
	12	人魚を買って来て汐干不首尾なり	ニンギョ	人魚
	14	高ッの師直とかつほをわるくいひ	カツオ	かつほ
	14	女房ハすつぽん女郎お月さま	スッポン	すつぽん
	15	百八十四文さんまの膳へ出し	サンマ	さんま
	16	初かつほ一月むす子しかられる	カツオ	初かつほ
	17	つまを乞鹿がゑらみのしやまに成	シカ	鹿
	17	鶴の日に在かまくらハみんな出る	ツル	鶴
	17	しゝやさるまたいで二人ッしのひこみ	シシ	しゝ
	17	しゝやさるまたいで二人ッしのひこみ	サル	さる
	19	長つほねうしをやすめて馬に乗ッ	ウシ	うし
	19	長つほねうしをやすめて馬に乗ッ	ウマ	うま
	19	来べき宵也さくらから毛虫下ッ	ケムシ	毛虫
	20	魚店にかりに居にけりはつかつほ	カツオ	はつかつほ
	20	舟宿に禿ほたるを拝む也	ホタル	ほたる
	20	時鳥花嫁ものをいひはしめ	ホトトギス	時鳥
	20	馬のはるびがのびたのにどうに上	ウマ	馬
	21	きやつといふむすめの跡を蛙とび	カエル	蛙
	22	百人で九十九人はへびにおぢ	ヘビ	蛇
	22	なぶつても猫のやうなるちよくし也	ネコ	猫
	22	白魚を半ッちよぼ出して嫁拝み	シラウオ	白魚
	22	千本もきせるの出来る猫をくれ	ネコ	猫
	23	人くらい馬にすみ友口があひ	ウマ	馬
	24	京にすくない鳥百にきツなり	トリ	鳥
	24	いゝわけのやうに牛にもくらを置	ウシ	牛
	24	はなれ牛ぶらく行てとらまへる	ウシ	牛
	25	元馬の出入からさと茶師はなし	ウマ	馬
	25	気つかいの無ッのハ女たぬき也	タヌキ	たぬき
	25	此間鼠をたべてこのとをり	ネズミ	鼠
	25	二番鳥うたつてかえる田舎色	トリ	二番鳥
	26	はまくりをはらかなのやうに上る也	ハマグリ	はまくり
	27	日半日ねこをじやらして武歩とられ	ネコ	ねこ
	27	箸とぼん持てきれいな魚をうり	サカナ	魚
	27	ぬえが出来ますぞと二位どのたいき付	ヌエ	ぬえ
	28	はんじやうな見世きつね迄買に来る	キツネ	きつね
	29	坪皿を持ってかけ出すはなれ馬	ウマ	はなれ馬

	29	わたし場につなかれてゐはなれ馬	ウマ	はなれ馬
	31	春秋は池へおし鳥おる也	オシドリ	おし鳥
	31	人のすくかつほむね清きらひ也	カツオ	かつほ
	31	おきつねはたとへ化ケても高がしれ	キツネ	おきつね
	32	おいしい事きりんびつこをひいて出る	キリン	きりん
	32	白魚をかわゆいとゝと子にみせる	シラウオ	白魚
	32	白魚をかわゆいとゝと子にみせる	サカナ	とゝ
	33	見くびつてないら薬に馬を書	ウマ	馬
	35	けんきやうのかつほ三たん切てなし	カツオ	かつほ
	35	生馬の目をひでさとハぬひた人	ウマ	馬
	36	つる亀をなでると仕廻かゝみとぎ	ツル	つる
	36	つる亀をなでると仕廻かゝとみぎ	カメ	亀
	38	いろくなけだものゝの来る親の留守	ケモノ	けだもの
	41	袖留に牛のきわ迄つけとゝけ	ウシ	牛
	41	猫好も男の方ハ金がいり	ネコ	猫



## 14 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
14	1	座頭の坊山ほととぎす初かつほ	ホトトギス	山ほととぎす
	1	座頭の坊山ほととぎす初かつほ	カツオ	初かつほ
	1	こりやあ馬こりやあきりだとあきれた子	ウマ	馬
	2	太神楽仕廻ふとしをゞころし	シシ	しゝ
	2	鶯をかわいそうにと母ゑがい	ウグイス	鶯
	4	うしハものかわとかげまへつほねいひ	ウシ	うし
	5	うとん屋のばゝあくじらのはなしする	クジラ	くじら
	5	おちふれるものハかつほのねたん也	カツオ	かつほ
	5	やうたい書に猫などをしやらし候	ネコ	猫
	8	けい馬さい中々はなれ牛く	ウシ	はなれ牛
	9	一日にたらぬしごとへへびをませ	ヘビ	へび
	10	死馬に針きんつらがいいけんなり	ウマ	死馬
	11	馬の行方へのつてくにわか武士	ウマ	馬
	16	青そらのたしない時分ほととぎす	ホトトギス	ほととぎす
	16	大きなかわはなをゝ馬のけつへつけ	ウマ	馬
	17	きやつくとないたがぬゑハ本の事	ヌエ	ぬゑ
	17	ちとはやうあるきやいのふと牛を追	ウシ	牛
	18	ゑをかわけぬがたかの羽のおちとなり	タカ	たか
	19	そへ乳してたなにいわしが御座りやす	イワシ	いわし
	19	黒かもをはじめてつれてふりかえり	カモ	黒かも
	19	たま虫のはつてあるくをせなあくれ	タマムシ	たま虫
	25	舌つ三つゆすふつて置けよ夜のしゝ	シシ	しゝ
	27	馬の気で車にのつてわらハれる	ウマ	馬
	27	むづかしさ野馬を台にのせて出し	ウマ	野馬
	28	舌把ツゝ牛をいたわるくる木うり	ウシ	牛
	29	昼螢籠へふり袖かふせてる	ホタル	昼螢
	30	あんこうハきんたま斗残る也	アンコウ	あんこう
	30	あごで蠅追ふやうな馬常世持	ハエ	蠅
	30	あごで蠅追ふやうな馬常世持	ウマ	馬
	30	ほら貝は吉野の町をねせぬ也	ホラガイ	ほら貝
	30	よしのから猿に西瓜を投てやり	サル	猿
	32	しけかして鰹を式本半分くれ	カツオ	鰹
	33	俵のついでに鯛迄ぬすまれる	タイ	鯛
	35	夕たちのあした鰹と傘を下ヶ	カツオ	鰹
	36	池のみぎわに鶴を折待て居る	ツル	鶴
	38	牛の角もぐと女が二人出来	ウシ	牛
	39	はなしうなぎもふといのを姑ゑり	ウナギ	はなしうなぎ
	39	そゝうなみかんうりハねこをかつぎ出シ	ネコ	猫
	40	手のひらをなめてる上をほととぎす	ホトトギス	ほととぎす
	40	はなし鳥こしのぬけたハほうり上	トリ	はなし鳥
	41	蜘蛛も見たらよみそな三歩也	クモ	蜘蛛
	42	とぶ鳥もおち馬からも落る也	トリ	鳥
	42	とぶ鳥もおち馬からも落る也	ウマ	馬
	42	あま茶な錢じやあいかぬ初鰹	カツオ	初鰹
	43	源三位ぬゑとむほんはくもと川	ヌエ	ぬゑ
	43	持参金おはくろしゝのやうにつけ	シシ	しゝ

## 15 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
15	1	丸の内まとから犬をけしかける	イヌ	犬
	1	うづ巻が細引に成 <small>ル</small> はなれ馬	ウマ	はなれ馬
	1	はなれ馬片荷ずるのを引て行	ウマ	はなれ馬
	2	三みせんの干てうもはるねこをくれ	ネコ	ねこ
	3	すりばちへ悪魚を入れるかまぼこ屋	サメ	悪魚
	3	僧正は山ほと <small>ト</small> きす青葉なり	ホトギス	山ほと <small>ト</small> きす
	4	秋葉道寺にも鯉のあるところ	コイ	鯉
	4	初かつほ女房に小壺年いわれ	カツオ	初かつほ
	5	大きな虫けらの出 <small>ヲ</small> は近江なり	ムシ	虫けら
	5	傘はりのむすこと馬のつらへはり	ウマ	馬
	10	東寺あたりをはなれ馬く	ウマ	はなれ馬
	15	廻国ばなし猿が子をゆでました	サル	猿
	15	鳥のほねあるきを呼んでた <small>ト</small> かせる	トリ	鳥
	18	むしをおひ出して毛せん引っかける	ムシ	むし
	18	ニツめは子にねたられるはなし鳥	トリ	はなし鳥
	20	ほうわうのつばさは月に三度ぬれ	ホウオウ	ほうわう
	20	うかくとあそんでねこに小判也	ネコ	ねこ
	20	さんや通ひといふ頃は馬で来る	ウマ	馬
	24	まよい子は天狗について来たといふ	テング	天狗
	25	しやく馬にひたちの伯父御こいつかれ	ウマ	しやく馬
	25	出があるに早くと馬のあしをよひ	ウマ	馬
	26	ふかやぶハさすが蚊の出るお歌也	カ	蚊
	26	此ぬしなべとあるたら馬につけ	ウマ	馬
	27	みんな馬だといふ所へ国家老	ウマ	馬
	28	みせ馬だのと水茶やもけどる也	ウマ	みせ馬
	30	いぬをすて申をかつ込 <small>ム</small> 松が岡	イヌ	いぬ
	30	いぬをすて申をかつ込 <small>ム</small> 松が岡	サル	申
	30	みな先 <small>キ</small> へかけろと御使者馬に乗	ウマ	馬
	32	から樽をみんなおろすと馬に成	ウマ	馬
	34	瓜 <small>ウ</small> 坊を三疋つれて角兵衛し <small>ト</small>	ウリボウ	瓜 <small>ウ</small> 坊
	34	山うばの能 <small>キ</small> 金時が事ハなし	ヤマンバ	山うば
	35	ひげをぬき切 <small>ル</small> と辻番しらみ也	シラミ	しらみ
	35	ねこのぶんしなの度くことわれ	ネコ	ねこ
	36	ぬ <small>ヌ</small> ハへんなものならひに角兵衛し <small>ト</small>	ヌエ	ぬ <small>ヌ</small>
	37	犬もほうばいひやう定に口を出し	イヌ	犬
	37	せみがなき出すとお世話に成ました	セミ	せみ
	38	鯿を煮る門 <small>ト</small> をはせをは一人行	フグ	鯿
	39	鯉をた <small>ト</small> くと釣人は皆かえり	コイ	鯉
	41	黒猫のわんにはきざなあわび貝	ネコ	黒猫
	41	黒猫のわんにはきざなあわび貝	アワビ	あわび貝
	42	梅にうぐひす松の木に婆 <small>ヲ</small> ア也	ウグイス	うぐひす

## 16 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
16	1	はなれ馬りふじんに嫁かけ上 <sub>リ</sub>	ウマ	はなれ馬
	1	見めぐつて居る内きつねのりうつり	キツネ	きつね
	1	蠅ハにげたのにしづかに手をひらき	ハエ	蠅
	2	おかいこの下 <sub>ヲ</sub> におやぶん豆しぼり	カイコ	おかいこ
	2	相応な道具あわびで舂へ入 <sub>レ</sub>	アワビ	あわび
	2	ころもぜみ大序のやうにうなり出 <sub>シ</sub>	セミ	ころもぜみ
	3	きうな井戸かへ <sub>ト</sub> 長屋ねこをのみ	ネコ	ねこ
	4	はまぐりハみを入 <sub>レ</sub> かへて高くうり	ハマグリ	はまぐり
	5	まなづるの方 <sub>ウ</sub> へもひかりくとひ	ツル	まなづる
	5	はしる馬にもむちをうつ御目出たさ	ウマ	馬
	5	すぐな針鯛を半ぶんつり上る	タイ	鯛
	7	おかさりにつゝまれて行いなか馬	ウマ	いなか馬
	7	下の句八月へゆづつてほととぎす	ホトトギス	ほととぎす
	8	つるかめを道艸にして湯へは入	ツル	つる
	8	つるかめを道艸にして湯へは入	カメ	かめ
	9	ちんばひきくそれせめよそれかゝれ	ウマ	ちんば
	11	馬のつら傘やとすでに書ところ	ウマ	馬
	12	かつほよぶとなりはかりで金をかけ	カツオ	かつほ
	12	はじめにハはのたちかねるかたいうほ	サカナ	うほ
	12	山ざるのかむりさるしま郡なり	サル	山ざる
	14	うし馬をよけてひづんだかやをつり	ウシ	うし
	14	うし馬をよけてひづんだかやをつり	ウマ	馬
	14	はらい蔵すみに大きなひきがへる	ヒキガエル	ひきがへる
	14	おや分のにわに <sub>ト</sub> ばん牛をねせ	ウシ	牛
	15	馬の小へん二三げんわきを行	ウマ	馬
	15	ねこのこわいろでおつてるぶしやうもの	ネコ	ねこ
	16	あごの無 <sub>イ</sub> 男がさるをしよつて来る	サル	さる
	17	白鳥をくふた男を見ちかへる	シヲトリ	白鳥
	18	塩まぐるやけはありたけねこが寄	ネコ	ねこ
	20	足元 <sub>ト</sub> で鳥をた <sub>ト</sub> せる右大将	トリ	鳥
	20	くものふるまいを他人はしらぬ也	クモ	くも
	23	にげあしてぬえを見に出る美しさ	ヌエ	ぬえ
	23	かくてハはてしとほらかいふきたてる	ホラガイ	ほらかい
	24	きつねと袖をすりちかうおもしろさ	キツネ	きつね
	24	わか事しやないよとちんをなでさすり	チン	ちん
	25	梅に鶯とげげんハはいでり	ウグイス	鶯
	26	手かいの鼠手をくつた本能寺	ネズミ	鼠
	26	はなれ馬とまろう事か十三日	ウマ	はなれ馬
	26	まきぞへにすけとも犬にほへられる	イヌ	犬
	26	すつぽんに椀ハ御めんと女房い <sub>ハ</sub>	スツポン	すつぽん
	31	他人の馬だとめつたにすまぬ所	ウマ	馬
	33	嫁の礼鰹四歩一いた <sub>ト</sub> かせ	カツオ	鰹
	33	半けんくわすり鉢にふぐ二三はい	フグ	ふぐ
	34	にうりやてつまみぐいするあふらむし	アブラムシ	あふらむし
	34	だまつてるも <sub>ト</sub> んぢいたとおつふせる	モモンガ	も <sub>ト</sub> んぢい
	35	さあ取つて見おれと鴨て猫を追 <sub>イ</sub>	カモ	鴨
	35	さあ取つて見おれと鴨て猫を追 <sub>イ</sub>	ネコ	猫
	35	四ツ手無 <sub>イ</sub> 頃馬やろうく	ウマ	馬
	36	馬喰丁と <sub>ト</sub> でまんまを喰て居る	サカナ	と <sub>ト</sub>

	37	太刀の魚新田このかた出来る也	タチウオ	太刀の魚
	38	かり豆の中から馬は首を出し	ウマ	馬
	39	むすこのきよろう黒 <small>イ</small> 狐 <small>テ</small> 直 <small>リ</small>	キツネ	狐
	40	馬をひかせてあるくのが妾の兄	ウマ	馬
	41	弓 <small>ヲ</small> 持 <small>チ</small> 化 <small>シ</small> 鳥 <small>ヲ</small> 三 <small>ニ</small> 羽 <small>ツ</small> つ <small>レ</small> て出 <small>ル</small>	トリ	化鳥

## 17 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
17	1	女のすごさ蟹の足がありがり	カニ	蟹
	1	げびた鯉さしに通して沓本下ヶ	コイ	鯉
	1	なぐさみのかいこはちがい棚を這ィ	カイコ	かいこ
	3	おかみさんおめへだと鴨下ヶてくる	カモ	鴨
	5	ねこまたになりそうな三味庄屋出し	ネコマタ	ねこまた
	8	やうじ屋の間から白い馬か出ル	ウマ	馬
	10	犬や馬斗でけちな船ゆさん	イヌ	犬
	10	犬や馬斗でけちな船ゆさん	ウマ	馬
	12	ひだるかる馬にばくちを見せて置	ウマ	馬
	12	一ツ鉄な男ねつみをうちころし	ネズミ	ねつみ
	12	ほら貝もふくかと庄や下女に聞	ホラガイ	ほら貝
	12	おく家老さんりを出して馬にのり	ウマ	馬
	13	鼠見物でゑい山きつい人	ネズミ	鼠
	14	さあさあどうたゑゝといふとこへ蜘蛛	クモ	蜘蛛
	15	いゝさらさをちやにした鳥を書	トリ	鳥
	15	王子からくさいきつねかついて来る	キツネ	きつね
	17	時鳥ゆだんをすとなきたらず	ホトギス	時鳥
	17	うつくしい虫船はりへ出てまねき	ムシ	虫
	19	かこわれのちんやろうをばほへる也	チン	ちん
	20	門に馬たへぬがむらのはやりいしや	ウマ	馬
	20	三めぐりで日くらしのなくいゝ時分	ヒグラシ	日くらし
	21	猫に拾本多ィのがよめのげい	ネコ	猫
	23	絵に書た時鳥さへー羽ざり	ホトギス	時鳥
	30	あんこうハ口ひる斗のこる也	アンコウ	あんこう
	30	しゝが見へねへくにむこを取	シシ	しゝ
	30	鼠をよく取娘に母こまり	ネズミ	鼠
	30	れい年のことにたまける初かつほ	カツオ	初かつほ
	31	尾かしらの無ィかいせやの初かつほ	カツオ	初かつほ
	31	くものあるくのハしらすたまける	クモ	くも
	32	いわしにたなべハみのぶの時鳥	イワシ	いわし
	32	いわしにたなべハみのぶの時鳥	ホトギス	時鳥
	32	しやみなどのくふものでなし初鯉	カツオ	初鯉
	33	てへも無ィ所をあんかうしやうびする	アンコウ	あんこう
	34	さかなうりまちかね山のほとゝきす	ホトギス	ほとゝきす
	34	百両ハしまい見せると初かつほ	カツオ	初かつほ
	35	うぬからすめと梅の木へぼうを出ッ	カラス	からす
	37	さんまのひものくいさして鳥おひ	サンマ	さんま
	37	さんまのひものくいさして鳥おひ	カラス	鳥
	37	かけ取のかわつてたゝく鳥のほね	トリ	鳥のほね
	38	初かつほ女房あたまもくふ気也	カツオ	初かつほ
	38	十六本すると犬迄くひあきる	イヌ	犬
	39	ゑつの傘ひしこもついにそつて来ず	イワシ	ひしこ
	40	犬ハ目かあるのにつへてふちたがり	イヌ	犬
	42	よくおれに犬をけしかけたとしやべり	イヌ	犬
	45	金持を見くびつて行初かつほ	カツオ	初かつほ

## 18 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
18	3	こしらへるを見てすつぽん思ひ切	スッポン	すつぽん
	3	ふりうりの田地に一羽さきがおり	サギ	さき
	4	ちよくめんの跡で女とちどりなく	チドリ	ちどり
	5	うでけつかつてゑびことハ是たかへ	エビ	ゑび
	6	つるの来る事をさとつてひらく也	ツル	つる
	8	よバつても来ぬはつ禿蚊のゑしき	カ	蚊
	8	奥家老跡から馬につけて行	ウマ	馬
	9	三度笠犬におつけておがんでる	イヌ	犬
	11	風まけのする荷を牛は二日引	ウシ	牛
	11	江のしまへ黒かも斗三人	クロカモ	黒かも
	13	もろこしの弓矢でぬえハゐころされ	ヌエ	ぬえ
	14	すつぽんのかうらかぶつて鑓けいこ	スッポン	すつぽん
	15	ぶるくとするで三疋しゝが出る	シシ	しゝ
	16	きねをひつかつぎあわひをくいにより	アワビ	あわひ
	17	十七屋もめん合羽へ馬を入	ウマ	馬
	18	田舎馬でも来たよふなせんべい屋	ウマ	田舎馬
	18	むしが出たそうで新ぞうわらわねへ	ムシ	むし
	18	きつねの嫁いりちう王のとこへ来る	キツネ	きつね
	20	ちんかほへるぞと目あきをおこす也	チン	ちん
	21	おふかみをころしたやつがかいをなし	オオカミ	おふかみ
	24	鶴ハ下々亀ハ山ほと金をしよい	ツル	鶴
	24	鶴ハ下々亀ハ山ほと金をしよい	カメ	亀
	25	ぶちころしても金になるねこをくれ	ネコ	ねこ
	26	鳥さしのとんびをねらふ心あて	トンビ	とんび
	26	まつ黒なもちをたかにハ見せて置	タカ	たか
	26	梅にうくひすさくらに生酔なり	ウグイス	うくひす
	28	わたし舟ゆるりと馬の顔を見る	ウマ	馬
	29	かつほの生酔はち巻しめてねる	カツオ	かつほ
	30	追だきの下々へさんまをつつくべる	サンマ	さんま
	30	辻番と思へばうなぎやいて居る	ウナギ	うなぎ
	31	天狗ハ是をたへますとなべゐかけ	テング	天狗
	32	ねこもしやくしもよしはらのじやまをする	ネコ	ねこ
	32	一年と大きな魚を台にのせ	サカナ	魚
	32	うくいすとれん木が出るとおてん也	ウグイス	うくいす
	33	かもつがひかんきあたりの目がくぼみ	カモ	かも
	34	とんぼうハとびそうにしてよしにする	トンボ	とんぼう
	34	ぬす人ねこを豆からでくわせる	ネコ	ねこ
	38	いわし迄女房さかさに直をつける	イワシ	いわし
	40	さかなうりととんびを切つて人だかり	トンビ	とんび
	40	もちつとできつね王子をはらむとこ	キツネ	きつね
	40	あつい事あたまのかけた鳥が出る	トリ	鳥
	42	猫の出し入しさへせぬと九月いゝ	ネコ	猫

## 19 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
19	1	へらさぎとつるとて松のあなをほり	ヘラサギ	へらさぎ
	5	鶴のーこへ折かけてかふろたち	ツル	鶴
	5	犬にきうすへるとねこにばける也	イヌ	犬
	5	犬にきうすへるとねこにばける也	ネコ	ねこ
	6	あの馬ハのれますまいとさいみやうじ	ウマ	馬
	6	初かつほ女房日なしへいつつける	カツオ	かつほ
	6	はなれ馬二かいに居ても戸を立る	ウマ	馬
	8	馬ぐらいやつたがいとあやめい	ウマ	馬
	9	女郎かいたがるもむす子むしのせい	ムシ	むし
	9	馬のくら人のしよつてくばかななり	ウマ	馬
	9	いをつりがきたぜくと赤がしら	イヲ	いを
	10	とものいしやもりころしたに相違なし	ヤモリ	やもり
	11	駒のかしらも見へぬ程松をつけ	コマ	駒
	11	中条へ姫のかつ込はなれ馬	ウマ	馬
	12	こがらしに高野の蛇這うろこおち	ヘビ	蛇
	13	鯛をなめさせてさかなや寄つかず	タイ	鯛
	13	度く後家に成ったハ馬の内詩(侍)也	ウマ	馬
	13	唐しせんよむとくぢやくの尾かほしい	クジャク	くぢやく
	14	おしやうじか明とおし鳥きしへ寄	オシドリ	おし鳥
	14	きつねつりねこがかつてもちにつき	ネコ	ねこ
	14	はなれ馬よりさわがしいつなぎ馬	ウマ	馬
	16	百廿疋へひをいれせめるなり	ヘビ	へひ
	17	みらい記で見れば高ときさかななり	サカナ	さかな
	19	聖人の身にもかなわぬあがり鯉	コイ	鯉
	19	いたちをついにふらせるはわきになし	イタチ	いたち
	20	きつねさへしろうとでない所なり	キツネ	きつね
	20	ゑちこ屋のうへでーこへほととぎす	ホトトギス	ほととぎす
	21	白鳥ハさひしい池をにぎわせる	シラトリ	白鳥
	22	妻をさり鯛を半ぶんつり上る	タイ	鯛
	22	神風にぶたやひつじのへどをはき	ブタ	ぶた
	22	神風にぶたやひつじのへどをはき	ヒツジ	ひつじ
	22	丹波のねずみ京へ出て馬をくい	ネズミ	ねずみ
	22	丹波のねずみ京へ出て馬をくい	ウマ	馬
	23	うるしかきかすつてつばめ通る也	ツバメ	つばめ
	24	はなれ馬さいをにぎつておつかける	ウマ	馬
	26	石尊でかめのこ程にみへるなり	カメ	かめ
	27	声あつてかたちなしの馬く	ウマ	馬
	27	いらくらしへびを四五人遣ふ也	ヘビ	へび
	27	ふぐハききたいだねつこりもつたやつ	フグ	ふぐ
	28	女房にゆわせてめづほりに出る	ミミズ	めづ
	28	生鯛はつられたなりて臺へ乗	タイ	鯛
	ス1	三みせんで鈴むしの音をとめる也	スズムシ	鈴むし
	ス3	山鷺は雁のつるさりそうな屋ね	カリ	雁
	ス3	ひりくからいがい世やの鯉也	カツオ	鯉
	ス4	にこくとしても飛つ鳥が落る也	トリ	鳥
	ス5	句をほめるやうに蛙はなき出し	カエル	蛙
	ス5	番町をさかなのさがる程尋 <sub>子</sub>	サカナ	さかな
	ス9	初鯉かつかちめいて江戸へ出	カツオ	鯉
	ス9	いくらで直をしたか四ツ手牛のやう	ウシ	牛

	ス10	からすよりにくまれ口を尾長き	カラス	からす
	ス10	からすよりにくまれ口を尾長き	オナガ	尾長
	ス10	蚊の来るを蛇が待つて居る出合茶や	カ	蚊
	ス10	蚊の来るを蛇が待つて居る出合茶や	ヘビ	蛇



## 20 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
20	5	半平と名をかへさかなうつて来る	サカナ	さかな
	6	くろかねのはしをならして鯛をきる	タイ	鯛
	6	物干でけん馬のろうをふゆつくし	イヌ	けん
	6	物干でけん馬のろうをふゆつくし	ウマ	馬
	7	馬程なむすめハわるいとしむまれ	ウマ	馬
	7	源三位ありかた山のほとゝぎす	ホトギス	ほとゝぎす
	11	ほとゝぎす土用時分ハふるせ也	ホトギス	ほとゝぎす
	15	くものはうやうに太臣こしつける	クモ	くも
	15	魚鳥留せぬのハ甲斐のはかりこと	サカナ	魚
	15	魚鳥留せぬのハ甲斐のはかりこと	トリ	鳥
	16	釣た鯛直々な針ゆえ魚がおち	タイ	鯛
	16	釣た鯛直々な針ゆえ魚がおち	サカナ	魚
	18	はまぐりにひらめ女房ハふとくしん	ハマグリ	はまぐり
	18	はまぐりにひらめ女房ハふとくしん	ヒラメ	ひらめ
	19	はなれ馬もらいにこめてこまつてる	ウマ	はなれ馬
	19	こんにやくをなげ出して追ふはなれ馬	ウマ	はなれ馬
	19	ふんこつさいしんの玉むし母もち	タマムシ	玉むし
	19	牛のくそあわびつ貝は見てとおり	アワビ	あわびつ貝
	20	生鯛ハ糸を喰ひ切ルやうに見へ	タイ	生鯛
	21	はちハふくろへ納るとしづかなり	ハチ	はち
	22	馬の金困りに小袖ひとつ着せ	ウマ	馬
	23	ほつ句にもならぬかつほを伊世屋かい	カツオ	かつほ
	24	どつてもおとりなさいとまぐるうり	マグロ	まぐる
	24	となりあるきを馬でするつるが岡	ウマ	馬
	25	鯛のくいにげやるまいぞく	タイ	鯛
	26	にわか雨はるかむかふでせみの声	セミ	せみ
	29	将門をメたを童王へはなし	リュウ	童王
	30	放しうなきもふといのを撰て居る	ウナギ	うなき
	32	一ト声で五丁をなぐるほとゝぎす	ホトギス	ほとゝぎす
	32	狼を聞て鹿きゝこりはてる	オオカミ	狼
	32	狼を聞て鹿きゝこりはてる	シカ	鹿
	33	はなれ馬とらまへて来てしやへる也	ウマ	はなれ馬
	34	からあさり直段の出来た音かする	アサリ	からあさり
	38	龍神は歌と発句て二度撰	リュウ	龍神

## 21 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
21	2	足元 <small>を</small> ねつみのあるくあつい事	ネズミ	ねつみ
	3	げじく <small>を</small> すてるあふぎのいそかしさ	ゲジゲジ	げじく
	4	あぶらむし <small>らん</small> をさしてはい上 <small>り</small>	アブラムシ	あぶらむし
	5	とらのなきこへ <small>を</small> きかれてじゆしやこまり	トラ	とら
	5	とりしめて一だんかたりみそをつけ	トリ	とり
	5	夕たちに馬を半ぶんぬらす也	ウマ	馬
	6	いつ迄とないたハぬゑのいとこなり	ヌエ	ぬゑ
	6	ま <small>ゝ</small> おやハ紙 <small>て</small> 折 <small>たる</small> 夜 <small>る</small> のつる	ツル	つる
	7	げびた事 <small>たい</small> はきり <small>で</small> か無 <small>い</small> とい <small>ふ</small>	タイ	たい
	7	蚊 <small>の中</small> に新 <small>ぞう</small> いきがたへて居 <small>る</small>	カ	蚊
	8	きりよかなづちよ <small>とし</small> ろう <small>の</small> うなぎ	ウナギ	うなぎ
	9	金魚 <small>を</small> 片身 <small>上</small> ておくけちなひな	キンギョ	金魚
	9	はんめう <small>を</small> ひつじ <small>の中</small> へりよかういれ	ハンミョウ	はんめう
	9	はんめう <small>を</small> ひつじ <small>の中</small> へりよかういれ	ヒツジ	ひつじ
	11	鳥 <small>に</small> だもしかざるべきや四ツ谷とび	トリ	鳥
	11	一人子 <small>に</small> 草 <small>を</small> わか <small>つて</small> 赤 <small>か</small> へ <small>る</small>	アカカエル	赤かへる
	13	歌 <small>で</small> つき合 <small>へ</small> はいのし <small>ゝ</small> こわくなし	イノシシ	いのし <small>ゝ</small>
	16	百 <small>して</small> も鯛 <small>は</small> おごりのうちへいれ	タイ	鯛
	16	じやく馬 <small>に</small> 友 <small>か</small> 出来 <small>た</small> て事 <small>に</small> 成	ウマ	じやく馬
	17	花鳥 <small>に</small> ハ行 <small>が</small> 風月 <small>に</small> ハ行 <small>が</small> ず	トリ	花鳥
	17	目 <small>が</small> さめて居 <small>ると</small> あ <small>の</small> し <small>ゝ</small> おそろしい	イノシシ	あ <small>の</small> し <small>ゝ</small>
	18	石だ <small>のは</small> しだ <small>のと</small> 本所馬 <small>をと</small> め	ウマ	馬
	19	絵 <small>そ</small> ら <small>こと</small> ゝ <small>はい</small> われ <small>ない</small> ほ <small>と</small> ゝ <small>き</small> す	ホトギス	ほ <small>と</small> ゝ <small>き</small> す
	20	しりきつて居 <small>るに</small> せきれいばかなやつ	セキレイ	せきれい
	21	下女鴨 <small>を</small> なん <small>に</small> すべいと錢 <small>で</small> とり	カモ	鴨
	22	蚊 <small>が</small> 無 <small>い</small> と其角千両迄ハつけ	カ	蚊
	24	はまくりもそうく門 <small>を</small> 追 <small>ひ</small> 出 <small>され</small>	ハマグリ	はまくり
	25	しんこう <small>に</small> ねこの水 <small>の</small> む音 <small>が</small> する	ネコ	ねこ
	25	はさみ箱 <small>から</small> 万ざいやねづみ出 <small>る</small>	ネズミ	ねづみ
	27	納豆 <small>の</small> かみ <small>には</small> た <small>ゝ</small> きまける音	カモ	鴨
	28	兄さま御馬 <small>やり</small> もちハへこきなり	ウマ	御馬
	29	尾かしら <small>を</small> つけてまぐる <small>を</small> 三ッ井 <small>かい</small>	マグロ	まぐる
	30	雪打 <small>は</small> らい夏 <small>の</small> 魚見 <small>せる</small> なり	フグ	夏 <small>の</small> 魚
	ス1	あやふやな主 <small>と</small> り <small>を</small> する黒 <small>い</small> 猫	ネコ	猫
	ス2	はなし亀 <small>一</small> 日 <small>ち</small> う <small>を</small> およいで <small>る</small>	カメ	亀
	ス3	からだハ人間 <small>て</small> へ <small>の</small> こ <small>は</small> 馬 <small>なり</small>	ウマ	馬
	ス4	鹿 <small>を</small> 追 <small>ふ</small> りやうし <small>を</small> 四ツ手 <small>乗</small> てかけ	シカ	鹿
	ス4	おハリ町 <small>扱</small> い <small>ゝ</small> 魚 <small>の</small> つれる所	サカナ	魚
	ス5	一 <small>ゝ</small> 声 <small>を</small> 京江戸 <small>で</small> きくほ <small>と</small> ゝ <small>ぎ</small> す	ホトギス	ほ <small>と</small> ゝ <small>ぎ</small> す
	ス8	犬 <small>の</small> せわもなくこん屋ハ干 <small>て</small> 置	イヌ	犬
	ス8	時鳥 <small>ふ</small> ぐ <small>の</small> かた <small>の</small> やからより	ホトギス	時鳥
	ス8	おとなしさひつやつ <small>ら</small> を馬 <small>に</small> 付 <small>け</small>	ウマ	馬
	ス10	ころり行 <small>と</small> ころへ馬 <small>か</small> かけ <small>つ</small> ける	ウマ	馬

## 22 篇

巻	丁	句	動物	動物(原文)
22	1	よし原の狐女房を持ッとおち	キツネ	狐
	1	中の丁あかるくなるとほととぎす	ホトギス	ほととぎす
	2	から鮭をしごく古風な内義かい	サケ	から鮭
	3	四斗樽のなかへすつほり馬は入ッ	ウマ	馬
	3	むつかしい鳥でおぼつかなくとよみ	トリ	鳥
	4	内でくふ程いわしかう中の丁	イワシ	いわし
	4	いせやにかつほつんほうにほととぎす	カツオ	かつほ
	4	いせやにかつほつんほうにほととぎす	ホトギス	ほととぎす
	4	うなぎをつかまへるやうにこんやい	ウナギ	うなぎ
	9	手のひらで琴をおさへるほととぎす	ホトギス	ほととぎす
	10	くろねこをみじかい玉の緒でつなぎ	ネコ	くろねこ
	10	むこい事むす子のそはにからす猫	ネコ	からす猫
	10	二万石かわづとりまきないてゐる	カエル	かわづ
	11	はまぐりのからと息子をする也	ハマグリ	はまぐり
	11	妾っか兄すつぽんつきをもたせてく	スッポン	すつぽん
	14	ねこのしやくしもと楽天おどかされ	ネコ	ねこ
	14	ばからしさ馬にのつてゝ道をき	ウマ	馬
	14	時鳥さいたハ御徳大寺なり	ホトギス	時鳥
	15	魚ふちにおとる十日に人だかり	サカナ	魚
	16	時鳥左様ならばとないたやう	ホトギス	時鳥
	17	うるさくは初かりかねをすねで知ッ	カリ	初かりかね
	18	初かつほ高とき犬にくらハせる	カツオ	初かつほ
	18	初かつほ高とき犬にくらハせる	イヌ	犬
	18	たでくふむしもなく毎晩売れ残ッ	ムシ	むし
	18	山ざきをこうべをかゝへねつみにげ	ネズミ	ねつみ
	18	めつらしい魚鳥おつつかつつ出る	サカナ	魚
	18	めつらしい魚鳥おつつかつつ出る	トリ	鳥
	20	けだものや虫けらの中仁王泣	ケモノ	けだもの
	20	けだものや虫けらの中仁王泣	ムシ	虫けら
	20	せわしない猫かつぶしでくらわされ	ネコ	猫
	20	虫の知る事を唐人氣がつかず	ムシ	虫
	22	式三疋亀がなまずをうんだやう	カメ	亀
	22	式三疋亀がなまずをうんだやう	ナマズ	なまず
	24	とうふやハさるやねづみにいそかしい	サル	さる
	24	とうふやハさるやねづみにいそかしい	ネズミ	ねづみ
	25	子やす貝女だてらなみやけなり	コヤスガイ	子やす貝
	28	がさくといふととんぼはつるむ也	トンボ	とんぼ
	28	もぎどうな出かハリ馬でうつはしり	ウマ	馬
	28	きじつがいけんもほろゝの御あいさつ	キジ	きじ
	29	はまぐりをすんでに舛ではかるとこ	ハマグリ	はまぐり
	30	そこ爰をおさへて女+馬にのり	ウマ	馬
	31	鈴むしハ御寝間淋しく夜をふかし	スズムシ	鈴むし
	31	ごまめてもすむと鰯を安くつけ	イワシ	鰯
	33	御とうりう鳩やからすの声斗ッ	ハト	鳩
	33	御とうりう鳩やからすの声斗ッ	カラス	からす
	33	ほととぎす有明たづんのこつてる	ホトギス	ほととぎす
	34	関ン東へいたちハ道をきらぬなり	イタチ	いたち
	34	十年ハ蝶よ九年ハ花よなり	チョウ	蝶
	34	あごておふ蠅ハ六味へたかるなり	ハエ	蠅

	36	青そらに毛引かりかね四五十羽	カリ	かりかね
	36	秋葉から天狗がついて川をこし	テング	天狗
	37	はなし亀やつこをふつて日をくらし	カメ	はなし亀
	38	あま茶でハ喰へぬ鯉のはしりなり	カツオ	鯉
	38	三人で舌人リ魚くふあきのくれ	サカナ	魚
	38	つう仕立のねこかゝへてすへて居る	ネコ	ねこ
	38	風上ミへ廻ッてすてる鳥のはね	トリ	鳥
	39	はつかつほ女房の声で呼びたらず	カツオ	はつかつほ
	41	きついふちたはらが馬を引て行*	ウマ	馬
	41	道の記の口元てなくほとゝきす	ホトギス	ほとゝきす
	42	雲晴れて誠の空や蝉の声	セミ	蝉

## 23 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
23	3	握ッてゝたいじやうを乞ッ放し鳥	トリ	放し鳥
	5	夜ル見れハ目斗あるくからす猫	ネコ	からす猫
	6	駄ちん馬かゝし引ッてくさむい事	ウマ	駄ちん馬
	6	奈良の鹿座敷へ来ぬかめつけもの	シカ	鹿
	6	むね近ッハ狐がついて誉められる	キツネ	狐
	7	馬からりつばに落ッたハかね平	ウマ	馬
	7	馬をしからせてハマごも一人ッまへ	ウマ	馬
	7	喰ふものでないのハ花とほとゞぎす	ホトギス	ほとゞぎす
	8	化粧の間ふじに明ルともゞんぐわあ	モモンガ	もゞんぐわあ
	10	荒海へ千鳥の鳴ッはいなたりやう	チドリ	千鳥
	11	猪さるハ元ッぞうまである丁ッ	イノシシ	猪
	11	猪さるハ元ッぞうまである丁ッ	サル	さる
	11	猪さるハ元ッぞうまである丁ッ	ゾウ	ぞう
	11	ひざの猫ひざへ渡していとまごひ	ネコ	猫
	12	晴雨とも昼夜げんきなほとゞぎす	ホトギス	ほとゞぎす
	13	四郎兵へが関へも千鳥かよふ也	チドリ	千鳥
	16	十五疋早馬の出るふりよな事	ウマ	早馬
	20	亀で足休ッ鶴までまた送り	カメ	亀
	20	亀で足休ッ鶴までまた送り	ツル	鶴
	20	下女籠の鳥だと文へかきやあがり	トリ	鳥
	22	猫の恋ぶたれる時がわかれなり	ネコ	猫
	22	ちんころを帯ひろとけですてに出る	イヌ	ちんころ
	23	しらみにたとへかづのこてしかられる	シラミ	しらみ
	24	駒ハとめたが猪牙舟ハとまらねへ	ウマ	駒
	25	江戸見ッ物には雀が一ッ羽付ッ	スズメ	雀
	30	おいらならもうふかを着ルと初かつほ	カツオ	初かつほ
	31	天神を排ッし時鳥をたつね	ホトギス	時鳥
	33	百人の内ッ吾人ッ喰ふ初かつほ	カツオ	初かつほ
	34	まだ夜をこめて馬のなくハ品川	ウマ	馬
	34	初かつほそばで茶わんをかき廻ハし	カツオ	初かつほ
	34	鶴ハ古ッと入道ハ犬に金	ツル	鶴
	34	鶴ハ古ッと入道ハ犬に金	イヌ	犬
	37	馬の耳に風しうそうに春愁	ウマ	馬
	38	夕立にみめぐり牛のせをわける	ウシ	牛
	38	馬から落ッて腰折ッの名の高ッ	ウマ	馬
	38	馬の生酔をばくろう売ッ付ッる	ウマ	馬
	38	三ッみねの犬にも負ぬたいこなり	イヌ	犬
	40	なめくじのやうなへのこを下ッ逃ッ	ナメクジ	なめくじ
	41	大磯でやうく馬を取りかへし	ウマ	馬
	41	はつかつほ小半丁からげびた事	カツオ	はつかつほ
	41	穴あみだへびまで出たり入ったり	ヘビ	へび
	41	らんちうと号し蛙ッ子をあづけ	ランチュウ	らんちう
	41	らんちうと号し蛙ッ子をあづけ	カエル	蛙ッ子
	42	本阿弥ハ鰯ハ見れど鯨見ず	イワシ	鰯
	42	本阿弥ハ鰯ハ見れど鯨見ず	クジラ	鯨

## 24 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
24	序	つる亀をうつて女良にかいあきる	ツル	つる
	序	つる亀をうつて女良にかいあきる	カメ	亀
	1	だまかした大蛇て女房角かはへ	ヘビ	大蛇
	2	はらをせにかへて山猫かへるなり	ヤマネコ	山猫
	4	大象をぞろく引て馬喰丁	ゾウ	大象
	7	止 <sub>マ</sub> てから出口の柳蛇のごとし	ヘビ	蛇
	8	はなれ馬筆てとめたて高名し	ウマ	はなれ馬
	11	やろうの天狗子供にとりまかれ	テング	天狗
	12	あまい酢でくわれぬやつハはつ鯉	カツオ	はつ鯉
	12	ぬえ時分迄ハわる気のないおとこ	ヌエ	ぬえ
	14	魚店にこうまんらしい初かつほ	カツオ	初かつほ
	16	仕立屋にけだ物の有祭りまへ	ケモノ	けだ物
	16	初鯉玄関をふまぬざんねんさ	カツオ	初鯉
	18	玉むしハあぶない役をい <sub>ハ</sub> つかり	タマムシ	玉むし
	18	がたくとするとさんまを焼て置 <sub>キ</sub>	サンマ	さんま
	19	一日ハ蛇の道になり衣紋坂	ヘビ	蛇
	20	木に餅のなるほど目黒にてす <sub>ハ</sub> め	スズメ	す <sub>ハ</sub> め
	22	ゑぼし大紋でさんまをニ <sub>ッ</sub> 買い	サンマ	さんま
	23	一 <sub>ッ</sub> 子出家すれハ鳶しらみぬけ	トンビ	鳶
	23	一 <sub>ッ</sub> 子出家すれハ鳶しらみぬけ	シラミ	しらみ
	23	意地づくて女房鯉をなめもせず	カツオ	鯉
	24	素人にや横さけのするうなぎ也	ウナギ	うなぎ
	25	後家の内男の声て鰻をよび	フグ	鰻
	27	とうしなんしたとほたて貝へいれ	ホタテ	ほたて貝
	27	ア <sub>ハ</sub> しわくするのもしせ屋虫のわざ	ムシ	虫
	27	ねこも杓子もよし原の邪魔をする	ネコ	ねこ
	27甲	雁をいた其矢で化鳥射て落し	カリ	雁
	28甲	雁をいた其矢で化鳥射て落し	トリ	化鳥
	27乙	惣とうこふきかけて呼ぶ初かつほ	カツオ	初かつほ
	31	舟頭をまたせとうろふのあぶら虫	アブラムシ	あぶら虫
	32	ひなしかしうせたてまぐる買はぐり	マグロ	まぐる
	32	くろちりにひとはりぬきのしらみ也	シラミ	しらみ
	32	新枕からすがなくにのつて居る	カラス	からす
	33	ま <sub>ハ</sub> つ子にあてだつて置おしの蟬	セミ	蝉
	33	時鳥月をかすつてないて行 <sub>キ</sub>	ホトギス	時鳥
	34	ゑこういんねはん <sub>ハ</sub> にねこもみへる也	ネコ	ねこ
	36	ひつかりと鳥かげのさす雪のした	トリ	鳥かげ
	36	蚊にくわれくほたるでよんで居る	カ	蚊
	36	蚊にくわれくほたるでよんで居る	ホタル	ほたる
	37	じやと蚊の出るのハ駒込の六月	ヘビ	じや
	37	じやと蚊の出るのハ駒込の六月	カ	蚊
	37	猫におわれたで莊子ハうなされる	ネコ	猫
	37	狼に衣重忠見あらわし	オオカミ	狼
	38	狼へ犬のついでる御てん山	オオカミ	狼
	38	狼へ犬のついでる御てん山	イヌ	犬

## 25 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
25	2	あつちから喰付そな松魚也	カツオ	松魚
	2	盗人ハ虎と熊とで名が高し	トラ	虎
	2	盗人ハ虎と熊とで名が高し	クマ	熊
	2	蝶々かとりなむさんほうにする	チョウ	蝶々
	3	竈払したんだをふむ油虫	アブラムシ	油虫
	4	江戸の馬田舎芝居でつがもね糸	ウマ	ウマ
	4	どたばたを見れハかつほと猫と下女	カツオ	かつほ
	4	どたばたを見れハかつほと猫と下女	ネコ	猫
	4	黒猫と小判をむす子詠めてる	ネコ	黒猫
	4	はい軍の蛍扇の上を飛び	ホタル	蛍
	5	亀の子へきもをつぶしてうそをつき	カメ	亀
	6	うつかりとお咄のやむ時鳥	ホトギス	時鳥
	6	花の翌日御居間を毛虫一っはひ	ケムシ	毛虫
	7	初松魚直を聞てかう物でなし	カツオ	初松魚
	7	暑い事重 <sub>キ</sub> だんすて蝉が鳴 <sub>キ</sub>	セミ	蝉
	8	又貝を捨て行たと茶屋笑ひ	カイ	貝
	10	七月六日黄白の鯖が出る	サバ	鯖
	10	蛍飛ぶ下に哀な扇なり	ホタル	蛍
	11	おやちのハ猿むすこのハ猫にあひ	サル	猿
	11	おやちのハ猿むすこのハ猫にあひ	ネコ	猫
	11	虫の付ぬ内と桐の木をひかせ	ムシ	虫
	11	藪針医あたかも蜂のさすごとし	ハチ	蜂
	12	こんにやくも鴨に入れればひんかよし	カモ	鴨
	12	蝶くと千鳥を鶴が引あわせ	チョウ	蝶く
	12	蝶くと千鳥を鶴が引あわせ	チドリ	千鳥
	12	蝶くと千鳥を鶴が引あわせ	ツル	鶴
	13	蛇のみやげ女房も赤い舌を出し	ヘビ	蛇
	13	八十九日にきすをもう釣に出る	キス	きす
	14	割海老にたこ婚礼にい <sub>ハ</sub> 肴	タコ	たこ
	14	象の出た翌日まんしうの御拝領	ゾウ	象
	15	若死の鶴上下で料るなり	ツル	鶴
	15	外の木に泊鶯けびるなり	ウグイス	鶯
	16	神木の寝鳥のさわくおそろしさ	トリ	寝鳥
	16	ひとり娘だとかへつて犬か言 <sub>ハ</sub>	イヌ	犬
	16	藪いもの見舞張子の虎をやり	トラ	虎
	17	遅松魚短き足で伊勢屋買 <sub>ハ</sub>	カツオ	遅松魚
	18	鳥籠へ蟹を入とくめたかうり	カニ	蟹
	19	むさし野で虫をあきなふ繁昌さ	ムシ	虫
	19	尊とさハ無言でかわづ経を聞	カエル	かわづ
	19	是で蚊もなくなりますと其角言 <sub>ハ</sub>	カ	蚊
	20	百年跡に泣た日に魚類也	サカナ	魚類
	21	ふうわふわのれんに蛍来てじらし	ホタル	蛍
	22	結び直すたぼからとんぴからす出る	トンビ	とんぴ
	22	結び直すたぼからとんぴからす出る	カラス	からす
	22	闇仕合ひ冬も蛙がないて居る	カエル	蛙
	22	振袖を着たすつほんに引かへる	スッポン	すつほん
	24	振袖のほまれハ梅に時鳥	ホトギス	時鳥
	24	笹蟹の振舞膳をすへて待	クモ	笹蟹
	27	白たへの中をかすかにふぐの声	フグ	ふぐ

	27	能有扇富士でないやつハ鶴	ツル	鶴
	29	はね虫に妾まふたをすハせてる	ハネムシ	はね虫
	29	こしもとのいたづら狎に富士ひたい	チン	狎
	29	鶴に蔦こたつの上にニさつ	ツル	鶴
	30	たいまいを黒ちりめんで嫁つゝみ	タイマイ	たいまい
	31	鳴て行下て飛魚いせ屋かひ	トビウオ	飛魚



## 26 篇

篇	丁 序	句	動物	動物(原文)
	26	どさくくと猫の子に湯を浴せ	ネコ	猫の子
	2	ほだいじゆへあつまつて啼く衣蟬	セミ	衣蟬
	2	浅草ハ高し音羽ハふとい猿	サル	猿
	3	間違ひあらとうとなの御馬也	ウマ	御馬
	4	袖形て昼寝の顔の蠅を追	ハエ	蠅
	4	かい名を鳥に聞かせて放す也	トリ	鳥
	4	放生会ぬくめた方を鷹ハ見す	タカ	鷹
	5	一ト塩の鱸くし巻の女房干シ	キス	鱸
	6	鳩の豆楊家の娘売ッて居る	ハト	鳩
	7	薬師さまかわらけもありたこも有リ	タコ	たこ
	7	山伏へよなく見廻ふ大天狗	テング	大天狗
	8	ほととぎす愚案の所ヨへ珍魚来る	ホトトギス	ほととぎす
	8	ほととぎす愚案の所ヨへ珍魚来る	サカナ	珍魚
	8	笈の歌外の鳥だとつづられず	トリ	鳥
	10	黒犬をきやんといわせて四ッ手かけ	イヌ	黒犬
	11	しほふきや天狗水茶やにらんでる	テング	天狗
	12	鳥籠の中に髪切虫が居る	カミキリムシ	髪切虫
	12	そりや蛇と火縄ておどす野かけ道	ヘビ	蛇
	13	雁かねのそはを白魚かけまハリ	カリ	雁かね
	13	雁かねのそはを白魚かけまハリ	シラウオ	白魚
	13	数ならぬとハむつかしい時鳥	ホトトギス	時鳥
	13	功なり名とけて鱸やんく	スズキ	鱸
	14	不孝の罪て鰯引く天の網	イワシ	鰯
	16	若草を白魚の喰ふうらゝかさ	シラウオ	白魚
	16	たいまいで御庭の雪の寸シを取	タイマイ	たいまい
	16	すつぽんと鶯て赤子ハ喰はしめ	スッポン	すつぽん
	16	すつぽんと鶯て赤子ハ喰はしめ	ウグイス	鶯
	17	かんなくつ蛙と同気相もとめ	カエル	蛙
	17	高うハ御座りますと出る鳥と魚	トリ	鳥
	17	高うハ御座りますと出る鳥と魚	サカナ	魚
	17	ぬかるみへ娘を入れて螢にけ	ホタル	螢
	18	乳を貰ふ内栗虫を抱て居ル	クリムシ	栗虫
	18	真白な耳づくをよけ四ッ手かけ	ミミズク	耳づく
	19	鶺鴒が行と鷹か又来る間のわるさ	ウ	鶺鴒
	19	鶺鴒が行と鷹か又来る間のわるさ	タカ	鷹
	19	鹿に鞍置ても指のさし人なし	シカ	鹿
	20	鶴といふ字も舞ッて居るのどやかさ	ツル	鶴
	20	快晴さ筑波の麓都鳥	ミヤコドリ	都鳥
	20	琴の上毛虫が落ちてしばし止	ケムシ	毛虫
	22	太右エ門ハ獅子太郎兵衛ハ牛を飼	シシ	獅子
	22	太右エ門ハ獅子太郎兵衛ハ牛を飼	ウシ	牛
	22	猫がはらんで一家中まゆにしハ	ネコ	猫
	23	船頭ハ無雅ておしえる都鳥	ミヤコドリ	都鳥
	23	桃林て蛤のなくのとやかさ	ハマグリ	蛤
	24	生酔の麩の上を毛虫はい	ケムシ	毛虫
	24	欲の有たけ聞てとぶ放し鳥	トリ	放し鳥
	29	ひらめの干声より鰹の一ト声	ヒラメ	ひらめ
	29	ひらめの干声より鰹の一ト声	カツオ	鰹
	29	鳥籠のたかハ二羽ざり跡かたへ	タカ	たか

	29	罪てなひ虫を花よめころす也	ムシ	虫
	30	牛の刀で熊坂ハ料られる	ウシ	牛
	30	鳥の名も替り息子の気も替り	トリ	鳥
	31	夜や寒く白魚に出る佃嶋	シラウオ	白魚
	31	おちこちのたつきに猿を連れて出る	サル	猿
	33	蛇の出這入に賑ふ六あみた	ヘビ	蛇
	33	重箱を隣へ見せて猫をかり	ネコ	猫
	34	畜生にやおとりましたと乳を貰	ケモノ	畜生
	34	むぐらもち時く上へふみはつし	モグラ	むぐらもち
	34	舞鶴ハ空色に能ひ模様也	ツル	鶴
	34	つきまとふ狐を放す国家老	キツネ	狐
	34	畜生にやおとりましたと乳を貰	チクショウ	畜生
	35	鷹の羽で掃き庭にする本望さ	タカ	鷹
	36	狐にはかされ薄きをしよつて来る	キツネ	狐
	36	仏力で他人の馬にも踏れず	ウマ	馬
	36	御立身魚に帆かけて乗ッ付る	サカナ	魚
	36	しやちほこハ山と谷とに住ぬ也	シャチホコ	しやちほこ
	37	鷺の案内でひよ鳥をこへ給ひ	ワシ	鷺
	37	鷺の案内でひよ鳥をこへ給ひ	ヒヨドリ	ひよ鳥
	38	すつぽんの名ハ飛込んだ時に付ッ	スッポン	すつぽん
	41	猫もあり狸もあるて嫁が来す	ネコ	猫
	41	猫もあり狸もあるて嫁が来す	タヌキ	狸
	42	鹿の昼寝を埋むほと八重が散	シカ	鹿
	42	御立身目出たくへりし虫の声	ムシ	虫

## 27 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
27	1	たいこ持狎のぜけんで二分儲	チン	狎
	2	身ふるひに鼻のこぼるゝ裸牛	ウシ	裸牛
	2	時鳥一はん鑪うつつ来ル	ホトギス	時鳥
	2	屋啼と時鳥をものせぬ所コ	ホトギス	時鳥
	2	まんぢうハ鶴て茶飯ハ亀て喰	ツル	鶴
	2	まんぢうハ鶴て茶飯ハ亀て喰	カメ	亀
	3	つふぬれに成てげん気な時鳥	ホトギス	時鳥
	3	家根船のもく礼水馬しらぬ振リ	アメンボ	水馬
	3	太平の陳屋の上をほとゝきす	ホトギス	ほとゝきす
	3	鶯のこへに子の日の手かゆるみ	ウグイス	鶯
	3	賑やかさたかして鯉を洗ふ也	コイ	鯉
	4	白魚の日も其頃ハ物凄し	シラウオ	白魚
	4	新場から安針町へ鳩ハとひ	ハト	鳩
	5	初かつを下女ハ目で見て鼻てかき	カツオ	初かつを
	5	猫にかづける木娘の爪の跡	ネコ	猫
	5	裕をば鯉か為に縛せられ	カツオ	鯉
	5	精進のなまこを鉢へ植て置	ナマコ	なまこ
	5	ひらめをなめさせて肴屋寄ッ付す	ヒラメ	ひらめ
	6	水牛て若菜こてふの中の能ッ	スイギュウ	水牛
	6	鶴と亀とて蒲鉾をこしらへる	ツル	鶴
	6	鶴と亀とて蒲鉾をこしらへる	カメ	亀
	6	国家老五百匁付ッて猫を捨	ネコ	猫
	6	哉とめの名句狐の足をとめ	キツネ	狐
	7	御加増へ農具を持た魚か来ル	サカナ	魚
	7	爪音に藪蚊を払ひく聞キ	ヤブカ	藪蚊
	7	入婿の相談からす猫か聞キ	ネコ	からす猫
	7	蚊屋のこへ鯉の邪魔をして通リ	カツオ	鯉
	8	諏訪の池狐か馬をのせる也	キツネ	狐
	8	諏訪の池狐か馬をのせる也	ウマ	馬
	10	白なみにおとろき千鳥音を発し	チドリ	千鳥
	10	越後から羽根のはへてる獅子が出る	シシ	獅子
	11	鶴よりも化鳥の多い吉田町	ヌエ	鶴
	11	鶴よりも化鳥の多い吉田町	トリ	化鳥
	11	象ハ獸店からとしつたふり	ゾウ	象
	11	にくひ事鶏のそら音をはかる也	ニワトリ	鶏
	12	肴屋にたいより目たつニ三本	タイ	たい
	13	ほとゝきす手桶の籬のはねる音	ホトギス	ほとゝきす
	13	雉子斗世話のやけない桃太郎	キジ	雉子
	14	廻文の手傘葉の中を鶴ハ舞	ツル	鶴
	14	ニッこへときかぬハ梅にほとゝきす	ホトギス	ほとゝきす
	16	山形ハ蛙の声を遠く聞キ	カエル	蛙
	16	横笛に鈴虫の舞ふ神楽堂	スズムシ	鈴虫
	16	鋌打か続くと鳩ハ家根へ逃	ハト	鳩
	17	御局か付ッ鳩のまたさせ申シ	ハト	鳩
	17	野辺ハみな乱筆になり時鳥	ホトギス	時鳥
	17	其元ハ乱れ御局が牛をもち	ウシ	牛
	18	白妙の中へ山鳥おりる也	ヤマドリ	山鳥
	18	ほとゝきす口舌の腰を折て行	ホトギス	ほとゝきす
	18	はい水の陳をはつてる放し亀	カメ	亀

	20	夜の鳥時の鳥とで名を上る	ホトギス	夜の鳥、時の鳥
	20	三日月の光 <sub>リ</sub> 蛙ハおそれ入 <sub>リ</sub>	カエル	蛙
	22	しのふともいふへき所に蛸の足	タコ	蛸
	22	唐櫛にひらめの残る煮売みせ	ヒラメ	ひらめ
	22	耳ハ馬面 <sub>ラ</sub> ハ蛙て母こまり	ウマ	馬
	22	耳ハ馬面 <sub>ラ</sub> ハ蛙て母こまり	カエル	蛙
	22	片身こそ今ハ仇なれ安鯉	カツオ	安鯉
	23	暮らし能く成たハ安 <sub>ィ</sub> ほと <sub>ヽ</sub> きす	ホトギス	ほと <sub>ヽ</sub> きす
	25	鳳凰も筵へ下 <sub>リ</sub> て箸を取	ホウオウ	鳳凰
	25	書人よりよみ人のすごい時鳥	ホトギス	時鳥
	26	白魚かはねると古歌か一首減 <sub>リ</sub>	シラウオ	白魚
	27	蛤か三舁来たと嫁ふくれ	ハマグリ	蛤
	29	草草紙見料に嫁鶴を折	ツル	鶴
	29	涼台みんな立 <sub>メ</sub> せて螢逃 <sub>ケ</sub>	ホタル	螢
	30	都鳥つつかけさうに猪牙ハ行 <sub>キ</sub>	ミヤコドリ	都鳥
	30	子雀をねらふ鼠の恐しさ	スズメ	子雀
	30	子雀をねらふ鼠の恐しさ	ネズミ	鼠
	32	廿日過蜺を買 <sub>ッ</sub> てしかられる	シジミ	蜺

## 28 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
28	序	御広敷かわゆひ馬とぞうろぞろ	ウマ	馬
	序	鳳凰か一日鷺に化て出る	ホウオウ	鳳凰
	序	鳳凰か一日鷺に化て出る	サギ	鷺
	1	足を空にして夜鷹の鬧しさ	ヨタカ	夜鷹
	2	どこへくと猫の子湯をあびせ	ネコ	猫の子
	2	鯉の看板寺で出す向ふしま	コイ	鯉
	3	取替て下女ハ鯨を片身買	クジラ	鯨
	3	百へ入したのハ雀にならぬうち	スズメ	雀
	3	山くの真ッ青になるほとゝきす	ホトトギス	ほとゝきす
	4	芸者の窓に松虫の走ッ也	マツムシ	松虫
	4	新銀座鶴と鳳凰しりくらべ	ツル	鶴
	4	新銀座鶴と鳳凰しりくらべ	ホウオウ	鳳凰
	4	むらさきの鯉ハ濁らぬ橋の下	コイ	鯉
	5	蛤をつむ所九条あたりなり	ハマグリ	蛤
	6	式三疋狐を午に買て来る	キツネ	狐
	6	黒鯛をからしで旅の留守に喰	クロダイ	黒鯛
	7	鶏を握ッ拳て呼んで居る	ニワトリ	鶏
	7	六十のうちに虫けら五六疋	ムシ	虫けら
	9	伊セ屋の生酔酒だか鯉だか	カツオ	鯉
	9	獅子の下あごて家根飯を焚	シシ	獅子
	9	御しのびハ鈴の鳴る場へ蜘蛛か下ッ	クモ	蜘蛛
	9	月かけハ弓張ッ鳥ハ矢のことし	トリ	鳥
	9	ほとゝきすくつと末座て一人ッ聞	ホトトギス	ほとゝきす
	11	ありかたさたまさか井戸て鮎を汲	アユ	鮎
	11	まこと名鳥と万歳下ッに居る	トリ	名鳥
	11	後京極源氏にもれた虫を聞	ムシ	虫
	11	奥様の御くしにとんひ鳥なし	トンビ	とんひ
	11	奥様の御くしにとんひ鳥なし	カラス	鳥
	12	花の幕毛虫一ッて座か崩れ	ケムシ	毛虫
	13	白鳥の山田へ下ッる夏と秋	シラトリ	白鳥
	13	松竹の御門をくゝるかんこ鳥	カッコウ	かんこ鳥
	14	ほとゝきすうかと指身へ筆の軸	ホトトギス	ほとゝきす
	15	其下てすつほん首をおやしてる	スッポン	すつほん
	16	ひよつ子が二羽つく籠の鳥三分	ヒヨコ	ひよつ子
	16	ひよつ子が二羽つく籠の鳥三分	トリ	鳥
	17	子規不二の素顔を見て帰ッ	ホトトギス	子規
	18	サア牛も休みやと機を下ッ給ひ	ウシ	牛
	18	座敷牢出したさに母放し鳥	トリ	放し鳥
	20	色も酒もすきたが鯉ハきらい	カツオ	鯉
	20	ひやうたんを抱赤かいる買て居る	アカガエル	赤かいる
	21	馬ほとな牛を局ハ持て居ル	ウマ	馬
	21	馬ほとな牛を局ハ持て居ル	ウシ	牛
	22	藪入をのせてさんまを買て居	サンマ	さんま
	23	小便をたれく猿は臼を挽ッ	サル	猿
	23	蚯蚓のおんりやうちんぼうへ取付ッ	ミミズ	蚯蚓
	24	野かけ道人もきゞすの声ヲ出し	キジ	きゞす
	24	いそかしさ鮒正月ものを着セ	フナ	鮒
	24	蜜柑をも鹿へあたらぬやうに投	シカ	鹿
	24	黒猫をいちり代脈ひつかゝれ	ネコ	黒猫

	25	花盗人の肩先 <sup>キ</sup> を毛虫はい	ケムシ	毛虫
	25	けちな晩八畳敷に狸寝る	タヌキ	狸
	26	反古張 <sup>リ</sup> や似つらて虫追ッかける	ホタル	虫
	27	喰 <sup>ク</sup> つみの海老売店に残ッてる	エビ	海老
	27	山鳥や啼鹿も嫁手とらまへ	ヤマドリ	山鳥
	27	山鳥や啼鹿も嫁手とらまへ	シカ	鹿
	28	歌かるた膝の下からほとゝきす	ホトトギス	ほとゝきす
	28	かつを木を生かして絵馬の時鳥	ホトトギス	時鳥
	28	住の江につくと月落鳥か啼	トリ	鳥
	29	虫の音も売買にするはん昌 <sup>サ</sup>	ムシ	虫
	29	背中にも輿の付た御馬也	ウマ	御馬
	29	美しい狐男のまけを切り	キツネ	狐
	31	生 <sup>キ</sup> た雛おかんでかへる鶏合	ニワトリ	鶏合
	32	引こしの道具配料猫をたき	ネコ	猫
	32	猫に取らせると宗徒等も初手ハ言 <sup>イ</sup>	ネコ	猫
	33	獅子と蝶廿日あまりハ中のよさ	シシ	獅子
	33	獅子と蝶廿日あまりハ中のよさ	チョウ	蝶

## 29 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
29	序	兼題ハ鶴て当座ハほとゝきす	ヌエ	鶴
	序	兼題ハ鶴て当座ハほとゝきす	ホトギス	ほとゝきす
	序	鯉をねらつて切様に鐘馗見へ	コイ	鯉
	序	御太刀と御馬をもめた紙に書	ウマ	御馬
	2	千 <sub>ニ</sub> 一 <sub>ツ</sub> ハ蝶くと美人なり	チョウ	蝶
	2	うらゝかさ六位の服を毛虫はみ	ケムシ	毛虫
	3	御離縁の跡ハ猫またやしき也	ネコマタ	ねこまた
	3	延喜の代桜の方へ毛虫座し	ケムシ	毛虫
	3	見はくつて名句と成たほとゝきす	ホトギス	ほとゝきす
	3	かたひ紙鶴と金の札に成 <sub>リ</sub>	ツル	鶴
	4	根上 <sub>リ</sub> の松といふ身て蛸歩行	タコ	蛸
	4	ふたと心安くなつた薬取	ブタ	ふた
	6	矢車のやうに並へて鱒をやり	アジ	鱒
	6	狼ハなみたて出来る衣かへ	オオカミ	狼
	6	辻番の百ひろを出す放 <sub>レ</sub> 馬	ウマ	放 <sub>レ</sub> 馬
	6	おつばじけさうに苳豆馬へ付 <sub>ケ</sub>	ウマ	馬
	6	女房の我意を顕す煮た鯉	カツオ	鯉
	7	鶴の舞ふ度にゑぼしか動く也	ツル	鶴
	8	鶏とつがつて出来た角兵へじ <sub>ト</sub>	ニワトリ	鶏
	9	沖のかもめてハ伝授にならぬ也	カモメ	かもめ
	11	鳥の名をふたつに分る渡し守	トリ	鳥
	11	仲国か馬枝豆をふるまわれ	ウマ	馬
	11	引 <sub>ケ</sub> 過の廊下羊の反吐のよふ	ヒツジ	羊
	11	ふり上で待ふせをするむぐらもち	モグラ	むぐらもち
	12	虎の皮より恐ろしい緋ちりめん	トラ	虎
	12	牛馬も虎の匂ひをかいて居る	ウシ	牛
	12	牛馬も虎の匂ひをかいて居る	ウマ	馬
	12	牛馬も虎の匂ひをかいて居る	トラ	虎
	13	赤とんほもじかたきぬ=朱鞞ナリ	アカトンボ	赤とんほ
	13	真 <sub>ツ</sub> 直な雨にハぬれぬ時鳥	ホトギス	時鳥
	14	猫となり杓子と成るも孝の道	ネコ	猫
	15	お姫さま乞食仕立=貝をする	カイ	貝
	15	あい縞の魚裕より直高し	サカナ	魚
	15	蜘蛛 <sub>ツ</sub> 野中を歩行有かたさ	クモ	蜘蛛
	16	青空へひつ付さう=鶴ハ舞	ツル	鶴
	16	籠の鳥三度めからハ餌つく也	トリ	鳥
	16	甲に似せて水牛を下女ハさし	スイギユウ	水牛
	17	御立身ころはて鯛のあらをにる	タイ	鯛
	17	鈴虫庭籠の口へそふるく	スズムシ	鈴虫
	17	南州ハ牛北州ハ馬を越し	ウシ	牛
	17	南州ハ牛北州ハ馬を越し	ウマ	馬
	18	あくる日ハいざござ聞ん都鳥	ミヤコドリ	都鳥
	18	立 <sub>ツ</sub> 時二雀大きな羽音 <sub>ト</sub> させ	スズメ	雀
	18	初音をハ聞た斗 <sub>リ</sub> のほとゝきす	ホトギス	ほとゝきす
	19	鶯のま <sub>ト</sub> 子を一羽集 <sub>ニ</sub> 入れ	ウグイス	鶯
	20	堀の鶯聞て来 <sub>ル</sub> ねれた嫁	ウグイス	鶯
	21	鳥籠の口鶴がおり <sub>メ</sub> る也	ツル	鶴
	22	田ハ稻荷畑ハ狐て名句也	キツネ	狐
	22	鶯の冠を虫か着て光 <sub>リ</sub>	ウグイス	鶯

	22	鶯の冠を虫か着て光ッ	ムシ	虫
	23	蜂もとんぼも名の高ト勇士也	ハチ	蜂
	23	蜂もとんぼも名の高ト勇士也	トンボ	とんぼ
	23	御物入鶴のひつこか千羽出来	ツル	鶴
	24	御安産あし辺ニ田鶴ノ鳴時分	ツル	田鶴
	24	瓜畠狸ハゑんりよなしニ喰ィ	タヌキ	狸
	24	息子にハ竹娘はハ虎のくわし	トラ	虎
	25	はき溜の鶴鳥籠へせけん入レ	ツル	鶴
	26	女郎よりまたも鯉ノ女房言ィ	カツオ	鯉
	26	てんねんと鳥も慈悲ある御山也	トリ	鳥
	26	ほととぎすよりも奥さまお待かね	ホトトギス	ほととぎす
	27	精進のさかな朝夕たゞかれる	サカナ	さかな
	28	腹のいゝとんびこくふに高く舞ひ	トンビ	とんび
	28	狸寝入ッを狐来てつり起し	キツネ	狐
	28	さうじ下女たなびく蜘蛛を手で払ィ	クモ	蜘蛛
	30	ほのくと芝居も内ハからす飛ヒ	カラス	からす
	31	ほととぎすしこきの帯ノとける頃	ホトトギス	ほととぎす
	31	四十七つかへハ鯉も無常なり	コイ	鯉
	31	ふんはると籠いつはいのきりくす	キリギリス	きりくす
	32	いゝかと思ひ尻ッほを豕ハふり	ブタ	豕
	32	長髪へ鷺やかゝしを差て置キ	サギ	鷺
	32	いゝ鳥が来たぞと松のうへて言ィ	トリ	鳥



## 30 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
30	1	情にてうかむ瀬もなき井戸の鮒	フナ	鮒
	2	間夫ハ首を捨て蚊に喰れ	カ	蚊
	3	人宿でまだ聞て居るほとゝぎす	ホトトギス	ほとゝぎす
	3	日向むきいつもかわらぬ蠅たゝき	ハエ	蠅
	4	のしになる蛇の貝のふたおもひ	アワビ	蛇
	5	蚊をやいた跡ハ其場の出来心	カ	蚊
	5	鶯がよけれバ籠に欲が出る	ウグイス	鶯
	6	まつ黒に烏をつんだほしか舟	カラス	烏
	7	御亭主が留守で鯉お手負にし	カツオ	鯉
	7	残る蚊のはかなく顔へ行当り	カ	蚊
	8	虫の音に最冬の気が女房付	ムシ	虫
	8	鶏もなけ鐘も鳴れく振れた夜	ニワトリ	鶏
	8	鶉から土間へ仲人指をさし	ウズラ	鶉
	11	下女かごの鳥だと文へ書やあかり	トリ	鳥
	11	鹿を追ふ漁師にたいこつきまとひ	シカ	鹿
	13	まけおしみ骨と皮との馬を見せ	ウマ	馬
	13	傾城のせ話のないのがほとゝぎす	ホトトギス	ほとゝぎす
	13	はつ鯉どつさり来るとげびる也	カツオ	鯉
	17	よし原で雀といへハ恋に也	スズメ	雀
	19	傾城の尾羽打からすいゝ男	カラス	からす
	19	砂をはたいて居る内に馬見へず	ウマ	馬
	20	鮎ともろ共に踊子さびるなり	アユ	鮎
	22	鳥のない里で一ト声絵馬が鳴き	トリ	鳥
	22	馬付の花うりも来る雛まつり	ウマ	馬
	24	こがね虫よりはだかむしむすこよび	コガネムシ	こがね虫
	24	はまぐりハ桃のみやこをふいたやう	ハマグリ	はまぐり
	24	顔ハさるからだハぶたで持参なり	サル	さる
	24	顔ハさるからだハぶたで持参なり	ブタ	ぶた
	28	こんぴらの神酒をひらいてはぜを釣り	ハゼ	はぜ
	29	ひかえろくともくらもちねらい	モグラ	もくら
	30	鶏に牛をもちいぬてんま丁	ニワトリ	鶏
	30	鶏に牛をもちいぬてんま丁	ウシ	牛
	33	こわひ物立ぎへのした鼠なり	ネズミ	鼠
33	やつはり鶴のよわひ程御もの入	ツル	鶴	

## 31 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
31	2	びいどろの中でおよくをねこねらい	ネコ	ねこ
	2	時鳥なきつる方ハ北野なり	ホトギス	時鳥
	3	大黒をおがみ蛙のはなしする	カエル	蛙
	4	はきためへ鶴おめかけのおなかなり	ツル	鶴
	4	鶏てはじめほふわふ舞納め	ニワトリ	鶏
	6	あく筆のこふかい蝉やとんぼなり	セミ	蝉
	6	あく筆のこふかい蝉やとんぼなり	トンボ	とんぼ
	6	丸綿で黒ねこをなでいとまこみ	ネコ	黒ねこ
	6	鼠の外にのふのあるからすねこ	ネズミ	鼠
	6	鼠の外にのふのあるからすねこ	ネコ	からすねこ
	6	馬を飛びじやりをけとハす四ツ手籠	ウマ	馬
	6	かけこみの嫁もみに出るはなし鳥	トリ	はなし鳥
	7	鳥か九羽あやうい所へうろふ出る	トリ	鳥
	8	江戸のまつらがたに駒をとめる石	ウマ	駒
	8	子をもてバ白魚迄かまづなり	シラウオ	白魚
	8	天神を拝し時鳥をたつね	ホトギス	時鳥
	11	また夜をこめて馬のなくハ品川	ウマ	馬
	11	はつかつほそばて茶わんをかき廻し	カツオ	はつかつほ
	11	つるハ古ひと入道ハ犬に金	ツル	つる
	11	つるハ古ひと入道ハ犬に金	イヌ	犬
	16	したく金来てはきためを鶴ハ出ル	ツル	鶴
	17	蛤ハすう斗りだと母おしえ	ハマグリ	蛤
	18	かんじそこない犬のしりおかんでる	イヌ	犬
	19	猫をなでるを里の母見てかえり	ネコ	猫
	20	よふござりませうと馬くろこしをのし	ウマ	馬
	22	三味せんの干つてもはれそうな猫	ネコ	猫
	22	ニツミックしやみの上をほとゝきす	ホトギス	ほとゝきす
	23	のつつけてひらり下ると鳩ハにげ	ハト	鳩
	24	石亀の伽 <sub>キ</sub> になまつが二三疋	イシガメ	石亀
	24	石亀の伽 <sub>キ</sub> になまつが二三疋	ナマズ	なまつ
	25	ものゝふのくらにハ多 <sub>ク</sub> ほとゝきす	ホトギス	ほとゝきす
	26	夜をすてる外に猫迄すてたまひ	ネコ	猫
	27	かつほにていせや七十五日やみ	カツオ	かつほ
	28	白かねハ猫こかねをハ鶴へつけ	ネコ	猫
	28	白かねハ猫こかねをハ鶴へつけ	ツル	鶴
	28	西行ハしろねこむすめ黒 <sub>ク</sub> ねこ	ネコ	しろねこ
	28	西行ハしろねこむすめ黒 <sub>ク</sub> ねこ	ネコ	黒 <sub>ク</sub> ねこ
	28	こほりのわたり初ハ狐と御用なり	キツネ	狐
	29	うぬ猿めくとそまハひたるがり	サル	猿
	29	もんもふな蛙ハマじりく出る	カエル	蛙
	30	御霊山鳥も仏法たもつなり	トリ	鳥
	30	千代田村地形の度に鶴か下 <sub>リ</sub>	ツル	鶴
	30	桐の光 <sub>リ</sub> て鳳凰ハ籠を出る	ホウオウ	鳳凰
	31	義を結ふうへ <sub>ニ</sub> 毛虫がぶら下 <sub>リ</sub>	ケムシ	毛虫
	31	幾千代と思ひし蝨の時雨なり	クモ	蝨(蜘蛛)
	32	長異見鳩や鳥をませて言 <sub>フ</sub>	ハト	鳩
	32	長異見鳩や鳥をませて言 <sub>フ</sub>	カラス	鳥
	33	鹿の落角を喜撰ハ度々拾 <sub>ヒ</sub>	シカ	鹿
	34	文銭を六文夜鷹くやしかり	ヨタカ	夜鷹

	34	両頭の犬へ大せい人たかり	イヌ	犬
	34	霊山ハ鳥も仏法たもつなり	トリ	鳥
	34	ほととぎすしかも左りの大臣読み	ホトトギス	ほととぎす
	35	寺参り鶴のたつを見て通り	ツル	鶴
	36	山門を魚鳥のくる放生会	サカナ	魚鳥
	36	山門を魚鳥のくる放生会	トリ	魚鳥

## 33 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
33	1	お扇子も虎も五日の風おこす	トラ	虎
	1	おたやかにして鳳来へいらつしやり	ホウオウ	鳳
	1	出家侍かみなりと鶴に召し	ヌエ	鶴
	1	夜の鳥射た御ほうびに夜の伽	トリ	鳥
	2	八百に鯛四百ハつるきなり	タイ	鯛
	2	鈴虫ハペんく草で音を出さす	スズムシ	鈴虫
	2	藤つるかからみ鶯の巢おつことし	トンビ	鶯
	2	十三日梅へうぐひす籠をかけ	ウグイス	うぐひす
	3	猫か引あけて兄気ハなまりふし	ネコ	猫
	3	つれくに蛸の入道ひとり入ッ	タコ	蛸
	3	狼のふわけ狩人二歩ひろひ	オオカミ	狼
	3	油うり鼠の巢ほと持て来る	ネズミ	鼠
	5	鶯ハむかしのまゝの感応寺	ウグイス	鶯
	6	蝶よ花よと夢を見る十九年	チョウ	蝶
	6	早馬ハあんだんへいとすゞきうり	ウマ	早馬
	7	百疋の馬ハ質やて利をくらひ	ウマ	馬
	7	はたくの焼ものゝつく踏の平	ハタハタ	はたく
	8	との <sup>サマ</sup> の馬て乗出す御こし元	ウマ	馬
	8	歌かるた袋の鼠嫁ハとり	ネズミ	鼠
	8	川岸へなら舟のはづた <sup>ニ</sup> 馬をつれ	ウマ	馬
	8	桐に鳳凰通宝に夜たかなり	ホウオウ	鳳凰
	8	桐に鳳凰通宝に夜たかなり	ヨタカ	夜たか
	9	御安産田鶴ハ芦辺を立ッ時分	ツル	田鶴
	10	蛇の道を女の知るハ糸と針	ヘビ	蛇の道
	10	はた怪有な鳥の声だと御悩なり	トリ	鳥
	11	葎切の跡に鳳凰今ハ住 <sup>ニ</sup>	ヨシキリ	葎切
	11	葎切の跡に鳳凰今ハ住 <sup>ニ</sup>	ホウオウ	鳳凰
	11	針売を吞てうハばみ狂ひ死	ヘビ	うハばみ
	12	茶釜に化て狸ハこまるなり	タヌキ	狸
	12	石見の国に一疋もねづみなし	ネズミ	ねづみ
	12	馬の沓横に歩て名がのこり	ウマ	馬
	14	東海の波打ちハて蜘蛛ハきへ	クモ	蜘蛛
	14	ふち殺しても物を言ふ猫をくれ	ネコ	猫
	14	こつそりと呼ふ蛤のむし直し	ハマグリ	蛤
	14	あさり川岸磯辺の宮の川辺 <sup>ッ</sup>	アサリ	あさり
	15	筋隈の魚 <sup>ハ</sup> つかも無 <sup>イ</sup> 直段	サカナ	魚
	15	鬧しい時ハごまめもと <sup>ト</sup> 交 <sup>ッ</sup>	サカナ	と <sup>ト</sup>
	15	いかの腹鶯と鳥と鶯を産 <sup>ニ</sup>	イカ	いか
	15	いかの腹鶯と鳥と鶯を産 <sup>ニ</sup>	トンビ	鶯
	15	いかの腹鶯と鳥と鶯を産 <sup>ニ</sup>	カラス	鳥
	15	いかの腹鶯と鳥と鶯を産 <sup>ニ</sup>	サギ	鶯
	15	ひよ鳥をおつて柄杓の柄か抜る	ヒヨドリ	ひよ鳥
	16	しふつ柿よろこひ鳥門違 <sup>イ</sup>	カラス	鳥
	16	水犬のやうに前髪下女ハ切り	イヌ	水犬
	17	日本の誉れ智有虫義有虫	ムシ	智有虫
	17	日本の誉れ智有虫義有虫	ムシ	義有虫
	17	孝行のうつたへに鶏おとろかし	ニワトリ	鶏
	18	定紋に后上 <sup>ッ</sup> 羽の蝶をつけ	チョウ	蝶
	18	鯪ハはらふの笠へすき通 <sup>ッ</sup>	シャチホコ	鯪
	19	赤坂の虎ハ七里かかきりなり	トラ	虎

	19	唐人の紙くず拾ひ虎かほへ	トラ	虎
	19	勇しい鷹を雀か出てとがめ	タカ	鷹
	19	勇しい鷹を雀か出てとがめ	スズメ	雀
	19	牛に馬のりかへる内三ッふけ	ウシ	牛
	19	牛に馬のりかへる内三ッふけ	ウマ	馬
	20	越後の車に甲州の馬ハ逃ケ	ウマ	馬
	20	東海の道ハ唐ても蜘蛛か知リ	クモ	蜘蛛
	20	椎の実の下からもんぢいか出る	モモンガ	もんぢい
	21	虎の跡竹の園生の御座所 <sub>口</sub>	トラ	虎
	21	こん龍のひそまる程にひどく鳴リ	リュウ	龍
	21	突出しへ竹乗込 <sub>ニ</sub> へ虎をつみ	トラ	虎
	23	鯛日本人味御供に成るお寺	タイ	鯛
	23	だめをさす頃斧の柄を羽蟻立 <sub>チ</sub>	ハアリ	羽蟻
	23	下馬礼をした馬と読けひたやつ	ウマ	馬
	23	江戸町て売切ッて行初松魚	カツオ	初松魚
	23	松前のおとる拍子もおつとせい	オットセイ	おつとせい
	24	放れ馬両鎧取るふてへやつ	ウマ	放れ馬
	24	喰ふ蚊よりくわぬ蚊や迄ふち殺し	カ	蚊
	26	其当座母より熊を恋しかり	クマ	熊
	27	駒込ハ一不二鷹三茄子	タカ	鷹
	27	鬼も蛇も酒で取らる <sub>ニ</sub> 尻かしら	ヘビ	蛇
	27	田舎馬赤 <sub>イ</sub> 鼻緒を尻へすげ	ウマ	田舎馬
	27	おふような禿一歩て鶴を折り	ツル	鶴
	28	名聞な鳥ハ文武へ片身つ <sub>ニ</sub>	トリ	鳥
	28	鶴の頃扇ヶ谷も天地金	ツル	鶴
	28	雪かみをうつとしいほと龍へつけ	リュウ	龍
	29	ぼんのうほたい蜘蛛の糸蓮の糸	クモ	蜘蛛
	30	北ハ馬南ハ牛をこして行く	ウマ	馬
	30	北ハ馬南ハ牛をこして行く	ウシ	牛
	30	蛤の位光あハひハちつきよ也	ハマグリ	蛤
	30	蛤の位光あハひハちつきよ也	アワビ	あハひ
	31	金銀の馬は白木の台へ乗 <sub>セ</sub>	ウマ	馬
	31	夜遊の馬もくるのは近所也	ウマ	馬
	33	橋と田へ雁金おりる十三羽	カリ	雁金
	33	関守ハ手の有る鳥と気がつかず	トリ	鳥
	33	ほと <sub>ニ</sub> きすたハしのうへを鳴て行く	ホトトギス	ほと <sub>ニ</sub> きす
	33	北へ飛ふ御鳥 <sub>ニ</sub> 羽根か四枚はへ	トリ	御鳥
	34	蟻一ッ貞女下帯までほとき	アリ	蟻
	35	しら魚ハ御代に叶し御献上	シラウオ	しら魚
	35	手伝の伊達ハ牛迄舟かつき	ウシ	牛
	36	霍の地へ鶉の形 <sub>テ</sub> むちをうち	ツル	霍
	36	霍の地へ鶉の形 <sub>テ</sub> むちをうち	ウズラ	鶉
	36	橋もかけ船にも蜘蛛ハ乗て見る	クモ	蜘蛛
	37	御大家の馬とこんいなはなし也	ウマ	馬
	37	狐ハ榎唐人ハやしき也	キツネ	狐
	37	辰巳の咽ハ銭亀の水て濡れ	ゼニガメ	銭亀
	37	鳳凰ハ神のかうべにやとる也	ホウオウ	鳳凰
	38	しらはたと思ひ羽白に平家逃ケ	ハジロ	羽白
	39	雁のとふ下夕を岩城の初かつほ	カリ	雁
	39	雁のとふ下夕を岩城の初かつほ	カツオ	初かつほ
	39	はなれ馬のんて辻番はら太鼓	ウマ	はなれ馬
	39	芝居の馬ハちいさいか二本あり	ウマ	馬
	41	はらたちを猫ハ背中へたてる也	ネコ	猫

## 36 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
36	2	片身こそ今ハ煮つける安松魚	カツオ	安松魚
	2	二千九百九十九人ハ水牛	スイギュウ	水牛
	2	御太鼓に鳩おとろかぬおたやかさ	ハト	鳩
	3	聖代の鳥ハ五日の風 <sup>マ</sup> かまへ	トリ	鳥
	4	夜半の水龍も左かきいて呑	スイリュウ	水龍
	4	呑喰て龍と馬とハ名かたかし	リュウ	龍
	4	呑喰て龍と馬とハ名かたかし	ウマ	馬
	5	初花といふ新馬に娘乗り	ウマ	初馬
	6	猪の熊のやき筆にするざうにはし	イノシシ	猪
	6	猪の熊のやき筆にするざうにはし	クマ	熊
	6	舞さがり籠字の龍か水のみ	リュウ	龍
	6	魚の腹ふはこに遣ふ忠臣さ	サカナ	魚
	8	神と君麟と鳳とに召たまひ	キリン	麟
	8	神と君麟と鳳とに召たまひ	ホウオウ	鳳
	8	瓢箪でとんぼおさへたごうけつさ	トンボ	とんぼ
	9	鶯の片言梅ハ笑ひ出し	ウグイス	鶯
	10	真ッ黒になつてはたらく白鼠	ネズミ	白鼠
	10	旗色を湯出て顕す平家蟹	ヘイケガニ	平家蟹
	10	唐櫛を女房のしやぶる初かつほ	カツオ	初かつほ
	10	あら筵孔雀のおりる初紋日	クジャク	孔雀
	10	二番目が出ると天井馬ハする	ウマ	馬
	10	尤さ黒猫ほどにはへて居る	ネコ	黒猫
	11	八鷹が寄って雀の乱を聞 <sup>キ</sup>	タカ	鷹
	11	八鷹が寄って雀の乱を聞 <sup>キ</sup>	スズメ	雀
	11	鶯ハやハラか雀かたひ事	ウグイス	鶯
	11	鶯ハやハラか雀かたひ事	スズメ	雀
	12	孝行のやうにずぶ六蚊にくハれ	カ	蚊
	13	手負猪柳橋から走るなり	イノシシ	手負猪
	13	驚かぬ鷄ハ群衆の中を行	ニワトリ	鷄
	14	濡れた鼠に大黒を一本かし	ネズミ	鼠
	14	三疋の猿を心に嫁ハ飼ひ	サル	猿
	15	けいこのハ猫と馬程音かちがひ	ネコ	猫
	15	けいこのハ猫と馬程音かちがひ	ウマ	馬
	15	男よりひつさきよいと天狗言 <sup>イ</sup>	テング	天狗
	16	みんな鶺鴒て居るに鶺鴒馬鹿 <sup>マ</sup> やつ	ウ	鶺鴒
	16	みんな鶺鴒て居るに鶺鴒馬鹿 <sup>マ</sup> やつ	セキレイ	鶺鴒
16	仏法と慈悲心鳥も知つて住 <sup>ミ</sup>	ブッポウソウ	仏法	
16	仏法と慈悲心鳥も知つて住 <sup>ミ</sup>	ジュウイチ	慈悲心鳥	
16	ふだらくと瑠璃ハ龍虎の御山也	リュウ	龍	
16	ふだらくと瑠璃ハ龍虎の御山也	トラ	虎	
17	義経の褥五爪 <sup>メ</sup> の龍て出来	リュウ	龍	
17	下の句て御意の螢ハ光るなり	ホタル	螢	
17	鶯も蛙もおなし歌のとも	ウグイス	鶯	
17	鶯も蛙もおなし歌のとも	カエル	蛙	
18	天草を喰ちらしたハ女馬なり	ウマ	女馬	
18	来るたびに命の親と馬をほめ	ウマ	馬	
18	精進か十二八九魚類	サカナ	魚類	
19	やハラかな国て狐ハかたくなり	キツネ	狐	
19	極こんい生 <sup>マ</sup> て肴を二百遣 <sup>リ</sup>	サカナ	肴	
19	茶ふくろをしよつて飛出す籠の鳥	トリ	鳥	

	20	すいなさいどハ象をやめハ文字	ゾウ	象
	20	蛇が入れハやはり蚊の出る江戸の富士	ヘビ	蛇
	20	蛇が入れハやはり蚊の出る江戸の富士	カ	蚊
	21	龍燈は雀と亀との間いへあけ	ツル	雀
	21	龍燈は雀と亀との間いへあけ	カメ	亀
	21	一人もの二人になつてかんこ鳥	カッコウ	かんこ鳥
	21	竹婦人冬ハ鼠の子をはらみ	ネズミ	鼠
	22	文武のほまれ時の鳥夜の鳥	ホトギス	時の鳥
	22	文武のほまれ時の鳥夜の鳥	トリ	夜の鳥
	23	のべ小さくちんく鴨の火をあおき	カモ	鴨
	23	鶯の初音で龍も眼をさまし	ウグイス	鶯
	23	鶯の初音で龍も眼をさまし	リュウ	龍
	24	赤貝の味いハ蛸のあしがする	アカガイ	赤貝
	24	赤貝の味いハ蛸のあしがする	タコ	蛸
	24	通し矢の数ハ京でもほととぎす	ホトギス	ほととぎす
	25	八の字で九の鳥を書く御神号	トリ	鳥
	25	秋の雪鰻もいつはい付て出る	フグ	鰻
	26	世の中の早いハ兎からす也	ウサギ	兎
	26	世の中の早いハ兎からす也	カラス	からす
	26	とのさまも下女もお馬ハ鳥居きり	ウマ	お馬
	26	面白く牛の引出すとらの巻	ウシ	牛
	28	地ごくにハ虎たくさんあると見へ	トラ	虎
	28	すつほんのやうにちりけへーしづく	スッポン	すつほん
	28	辻番の八兵へが出て馬をのみ	ウマ	馬
	29	蓮の茶や首をおやして亀覗キ	カメ	亀
	29	駒くるみにきつてどつかどうたれる	ウマ	駒
	30	桐一葉ちると鳳凰くろうかり	ホウオウ	鳳凰
	30	梅に鳥水に蛙の鳴わかれ	トリ	鳥
	30	梅に鳥水に蛙の鳴わかれ	カエル	蛙
	31	月の輪へ上人熊をつれたまふ	クマ	熊
	31	鳥の名もニッにわかる隅田川	トリ	鳥
	31	野暮て無い方へ飛ゆく赤とんぼ	アカトンボ	赤とんぼ
	32	ひよ鳥ハ鷺の尻尾に付て行キ	ヒヨドリ	ひよ鳥
	32	ひよ鳥ハ鷺の尻尾に付て行キ	ワシ	鷺
	33	茶と鹿て喜撰たひぐ寝そびれる	シカ	鹿
	34	尉と姥とでつるかめを磨てる	ツル	つる
	34	尉と姥とでつるかめを磨てる	カメ	かめ
	36	そんな事そんじませぬと雀を折	ツル	雀
	36	御引馬半分白くあハれなり	ウマ	御引馬
	37	御入滅時候にもれた虫の声	ムシ	虫
	37	鯰から鯉をお寺へしんせられ	ナマズ	鯰
	37	鯰から鯉をお寺へしんせられ	コイ	鯉
	37	清僧もいわしの鍋ハのぞく也	イワシ	いわし
	38	仏敵ハ旧(窮?)鼠かへつて経をはみ	ネズミ	旧鼠
	40	馬が関止たか関ハやふられた	ウマ	馬
	41	仲国が馬ハ枝豆くつて居る	ウマ	馬
	42	新造と白牛酪に入あける	ウシ	白牛
	42	相の山馬のしつほて猫か鳴き	ウマ	馬
	42	相の山馬のしつほて猫か鳴き	ネコ	猫
	43	麴町狐を馬にのせて来る	キツネ	狐
	43	麴町狐を馬にのせて来る	ウマ	馬
	43	五十町馬ハゆるしてのせもする	ウマ	馬

## 41 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
41	1	大黒をすてゝとんほをおさへたり	トンボ	とんほ
	1	唐獅子と鹿に甲陽へちを巻	シシ	唐獅子
	1	唐獅子と鹿に甲陽へちを巻	シカ	鹿
	3	蜘蛛の子のよふに松永ぶちこわし	クモ	蜘蛛
	3	木像の鳩ハ隠居のぬくめ鳥	ハト	鳩
	3	木像の鳩ハ隠居のぬくめ鳥	トリ	鳥
	6	八丁を犬馬の労て築上る	イヌ	犬
	6	八丁を犬馬の労て築上る	ウマ	馬
	8	鎌倉からの早乗りハ初松魚	カツオ	初松魚
	9	新馬を娘しんまくしかねてる	ウマ	新馬
	11	あれなるハ鶺鴒で候と渡し守	ウ	鶺鴒
	11	鳥のすね一本で城を持こたへ	トリ	鳥
	11	茗荷畑から名馬が一度出る	ウマ	馬
	11	命と魚をうけやつて鰻をうり	サカナ	魚
	11	命と魚をうけやつて鰻をうり	フグ	鰻
	11	北風に勇むハ胡馬とはた息子	ウマ	胡馬
	12	おへ馬よ爰たくと下女わらひ	ウマ	馬
	12	下坐をした天狗ハ鼻にどろが付キ	テング	天狗
	13	山鳥とあしか寝ているけちな晩	ヤマドリ	山鳥
	13	山鳥とあしか寝ているけちな晩	アシカ	あしか
	14	蝶花を詠めせしまに娘ふけ	チョウ	蝶
	15	鶴と亀寿命と足ハつり合ず	ツル	鶴
	15	鶴と亀寿命と足ハつり合ず	カメ	亀
	16	高はごに鳶がかゝつてもちにつき	トンビ	鳶
	17	おくるはづそこが狼女郎なり	オオカミ	狼
	18	海邊たけ牛に迄帆をかけて出ル	ウシ	牛
	19	御座敷の畳は鶴とおないとし	ツル	鶴
	19	其あした青菜を献し鶴て候	ツル	鶴
20甲		おく山は仏法僧かおかをひき	ブッポウソウ	仏法僧
20甲		みす紙で狐狸のかほをなて	キツネ	狐
20甲		みす紙で狐狸のかほをなて	タヌキ	狸
20甲		なきますハ虫のせいさと下女ハ云ヒ	ムシ	虫
20乙		桃のない時は蛙を鶴ハくひ	カエル	蛙
20乙		桃のない時は蛙を鶴ハくひ	ヌエ	鶴
	23	猪ハ仁田にけつの毛をぬかれ	イノシシ	猪
	23	馬喰ハ三人よると馬をのみ	ウマ	馬
	23	赤貝ハ近目の鼻くらひ付キ	アカガイ	赤貝
	25	鷹司鶴御披露の御家柄	ツル	鶴
	25	其猫をくれさつせへと村子供	ネコ	猫
	26	御拝領戸びらも鶴の声を上ケ	ツル	鶴
	27	時鳥弓張月に矢のごとし	ホトギス	時鳥
	27	鳳凰ハ三分孔雀ハ十二文	ホウオウ	鳳凰
	27	鳳凰ハ三分孔雀ハ十二文	クジャク	孔雀
	27	猫の目によくにた顔に嫁くろう	ネコ	猫
	29	四會目ハ三とせなじみし猫のやう	ネコ	猫
	30	江戸馬が来たと見に出る雪の下	ウマ	馬
	32	鳳凰ハ燕雀をつれ仲の町	ホウオウ	鳳凰
	32	鳳凰ハ燕雀をつれ仲の町	ツバメ	燕
	32	鳳凰ハ燕雀をつれ仲の町	スズメ	雀



	33	吉原の道を蛇の知るあつい事	へび	蛇
	34	其当座あやめハ鶴にうなされる	又エ	鶴
	35	やかた舟どじやうがはせを釣っている	ドジョウ	どじやう
	35	やかた舟どじやうがはせを釣っている	ハゼ	はせ
	35	馬のけつ覗 <small>キ</small> このきれハいくらだ	ウマ	馬
	37	狩場出たハ大 <small>キナ</small> かハづの子	カエル	かハづ
	38	兄ハ竹妹ハ虎を喰つて居る	トラ	虎

## 47 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
47	1	車馬往来にかまひすしい女	ウマ	馬
	5	桐に鳳凰よしづにハ夜鷹也	ホウオウ	鳳凰
	5	桐に鳳凰よしづにハ夜鷹也	ヨタカ	夜鷹
	6	留守をよく仕たと娘ハ猫をなで	ネコ	猫
	7	鼠鳴きするはづ客ハ猫のやう	ネコ	猫
	8	つれぐの牛ハ男が売りそこね	ウシ	牛
	8	唐茄子や猿を抱てる薬取	サル	猿
	9	蛍のそばに論語だの孟子だの	ホタル	蛍
	9	雨乞もしたり鸚鵡の真似もする	オウム	鸚鵡
	9	けいせいに蛭の取つく神事也	ヒル	蛭
	11	其魚ハうれて居ますと忠臣さ	サカナ	魚
	12	暁きは丘隅へかへる夜ルの鷹	ヨタカ	夜の鷹
	16	蜜々にばかり継子ハ蜂はらい	ハチ	蜂
	16	迷ひ子札ついでる犬に人だかり	イヌ	犬
	22	飛鳥も馬をも下る入木道	トリ	飛鳥
	22	飛鳥も馬をも下る入木道	ウマ	馬
	26	妻乞ふ鹿ハ紅葉からかへるなり	シカ	鹿
	27	じやく馬にはねられ国香さいご也	ウマ	じやく馬
	28	鳳凰の羽たき雀手にのらず	ホウオウ	鳳凰
	28	鳳凰の羽たき雀手にのらず	スズメ	雀
	28	又蛸に引たくられるかぶと形々	タコ	蛸
	31	鶴ぎりで雷上動のさたもなし	ヌエ	鶴
	31	両親の手にハとまらぬ蝶や花	チョウ	蝶
	31	兄さまお馬尻もちハ妾なり	ウマ	馬
	31	長つぼね馬のやうなが牛で出来	ウマ	馬
	31	長つぼね馬のやうなが牛で出来	ウシ	牛
	32	魚と水尻目にかけておかんきん	サカナ	魚
	33	時鳥なし鯉さへまなかつほ	ホトギス	時鳥
	33	時鳥なし鯉さへまなかつほ	カツオ	鯉
	33	時鳥なし鯉さへまなかつほ	マナガツオ	まなかつほ
	33	造酒やハ功成しさかな売	サカナ	さかな
	34	かんじそこなひ尼犬のうしろ向	イヌ	犬
	34	つれくに鯉ハ喰ふな鯉ハ喰へ	カツオ	鯉
	34	つれくに鯉ハ喰ふな鯉ハ喰へ	コイ	鯉
	34	文使御犬をふつてしかられる	イヌ	御犬
	34	九太夫ハかうろぎなどをふみつぶし	コオロギ	かうろぎ
	34	根継のばちで馬をひく安げいしや	ウマ	馬
	35	鳥の名も人の心もかわる所	トリ	鳥
	37	其咄聞てうなぎがいやになり	ウナギ	うなぎ
	38	蛤をどんとかついだ一やしき	ハマグリ	蛤
	38	玉川がかむろに千鳥ハきつい事	チドリ	千鳥
	39	蓬萊ハ錢かめの背にそびへてる	ゼニガメ	錢かめ
	39	鯛をつる迄しんぼうのできぬ妻	タイ	鯛

## 49 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
49	序	お茶の水竹に雀がひとりあび	スズメ	雀
	序	ふくら雀へちよつくと婆どアくる	スズメ	ふくら雀
	1	りゑん状いぬとさるとが言いつのり	イヌ	いぬ
	1	りゑん状いぬとさるとが言いつのり	サル	さる
	1	文金で干両が買う籠の鳥	トリ	鳥
	1	歩行でゆく女房小戻に馬ハあれど	ウマ	ウマ
	1	まだ目が舞ふと蛤をくつている	ハマグリ	蛤
	2	鯨から腹わたの出るいくじなき	クジラ	鯨
	2	蚊のすねを姑のいふすむごい事	カ	蚊
	2	鮫鯨の片身へ手紙いれて遣り	アンコウ	鮫鯨
	3	鶯の夢見た夜娘をさらわれる	トンビ	鶯
	3	馬道で心の駒をついそらし	ウマ	駒
	4	股引キハ鶺鴒目で鷹をすへて行	ウ	鶺鴒
	4	股引キハ鶺鴒目で鷹をすへて行	タカ	鷹
	4	らくくとこぶしへ杖の鳩をすへ	ハト	鳩
	5	白鼠猫の皮をも止メにさせ	ネズミ	白鼠
	5	白鼠猫の皮をも止メにさせ	ネコ	猫
	5	平蜘蛛をこなにしたので名がよこれ	クモ	平蜘蛛
	5	石持キといへどもかるい肴なり	イシモチ	石持ち
	6	大内の雀ハ陸奥の歌まくら	スズメ	雀
	6	田の鼠化して雲井へのぼる也	ネズミ	鼠
	6	いざ事を問れて鳥の名が替リ	トリ	鳥
	6	鳳凰ハ三步で鷹ハはら四文	ホウオウ	鳳凰
	6	鳳凰ハ三步で鷹ハはら四文	タカ	鷹
	6	菜の花ハ蝶山吹ハごまの蠅	チョウ	蝶
	6	菜の花ハ蝶山吹ハごまの蠅	ハエ	蠅
	7	耳塚へあぶの出さうな草がはへ	アブ	あぶ
	7	隣リへハ音をふる廻ふ鳥の骨	トリ	鳥
	9	むねうちに皿をころして猫ハにげ	ネコ	猫
	9	帆立貝火鉢の中で破舟する	ホタテ	帆立貝
	10	一向かまはず鯛鯉台にのせ	タイ	鯛
	10	一向かまはず鯛鯉台にのせ	コイ	鯉
	11	鳩の杖礼義ハいらぬすがたなり	ハト	鳩
	13	ゑり元へつくがとしまの狐なり	キツネ	狐
	14	床カ下におし鳥の住池の茶や	オシドリ	おし鳥
	14	放し鳥うれしの森へとんで行キ	トリ	放し鳥
	15	鳳凰の中カに反哺の孝も有り	ホウオウ	鳳凰
	15	嫁の手で取るのハ飛ハぬきりぐす	キリギリス	きりぐす
	15	めでたさハ盆に魚類を喰通し	サカナ	魚類
	16	鳥より三声はやいがしうとば	カラス	鳥
	16	紋日まへ硯リ海を鹿がのみ	シカ	鹿
	16	道ふしん鶯につかハる鶴ツぱし	トンビ	鶯
	16	道ふしん鶯につかハる鶴ツぱし	ツル	鶴
	17	下女の文籠の鳥とハぬかしたり	トリ	鳥
	17	長かけの蝶ハおいどの上へを舞ヒ	チョウ	蝶
	18	死せる鶴活る人馬をわしらしむ	ツル	鶴
	18	死せる鶴活る人馬をわしらしむ	ウマ	馬
	18	猿だ虎だとしはらくハ鳴リ止ず	サル	猿
	18	猿だ虎だとしはらくハ鳴リ止ず	トラ	虎

	18	相づちはいなり山から喰かよひ	キツネ	いなり
	18	蚊のやうに姑やいたりいぶしたり	カ	蚊
	20	ころばして喰ふハ狼親父なり	オオカミ	狼
	20	田舎いしや七をなげてハ馬で逃	ウマ	馬
	21	雲に龍月にハ虎の御在城	リュウ	龍
	21	雲に龍月にハ虎の御在城	トラ	虎
	21	竹林へ虎をかり出す賑かさ	トラ	虎
	21	鯨の百ひろはなれ馬をとめ	シャチホコ	鯨
	21	鯨の百ひろはなれ馬をとめ	ウマ	はなれ馬
	22	藤沢の鼠大黒きらひなり	ネズミ	鼠
	22	ちんぼうへどく氣を残 <sub>シ</sub> み <sub>ト</sub> ず死 <sub>ス</sub>	ミミズ	み <sub>ト</sub> ず
	24	我せこへおだ巻となる蜘蛛の糸	クモ	蜘蛛
	24	西陣の龍玉簾の雲に入り	リュウ	龍
	24	丸綿を取ると一番鶏が啼 <sub>キ</sub>	ニワトリ	一番鶏
	25	鯨の作り斗 <sub>リ</sub> の御門なり	シャチホコ	鯨
	25	からすねこめでたく喰ふハするめ也	ネコ	からすねこ
	25	すて <sub>ト</sub> 置琴へ笹蟹糸をかけ	クモ	笹蟹
	27	啼くほたる尻を結んで御意に入り	ホタル	ほたる
	27	鶺鴒ハ人より先へ色気づき	セキレイ	鶺鴒
	28	草市ハ千鳥小蝶の放生会	チドリ	千鳥
	28	草市ハ千鳥小蝶の放生会	チョウ	小蝶
	29	編笠を袴へはさむ猿廻し	サル	猿廻し
	30	むなくらをうなぎのやう <sub>ニ</sub> つかむ也	ウナギ	うなぎ
	30	よふくと狐を放し嫁を取り	キツネ	狐
	30	敷初 <sub>メ</sub> にみ <sub>ト</sub> ずのやうなへどをはき	ミミズ	み <sub>ト</sub> ず
	30	目くら馬蓑をくわへてしかられる	ウマ	馬
	31	紙でさへ鶴ハかくべつ折目高	ツル	鶴
	32	呉にまさる蚕のわざも桑の国	カイコ	蚕
	32	鶺鴒ハ極秘を神に伝授也	セキレイ	鶺鴒
	32	おし鳥の放生会するい <sub>ト</sub> しうと	オシドリ	おし鳥
	34	蜘蛛つかむやうな詩を出す毛唐人	クモ	蜘蛛
	35	蜘蛛つかむやうな詩を出す毛唐人	クモ	蜘蛛
	35	長久手を出して猿猴持 <sub>テ</sub> あぐみ	サル	猿猴
	35	水鶏にも母ハ出て見る物あんじ	クイナ	水鶏
	37	干ものがぬれますなぞと猿ハ泣	サル	猿
	37	ひき習ひ犬馬の勞をつくす也	イヌ	犬
	37	ひき習ひ犬馬の勞をつくす也	ウマ	馬
	37	猫ではりたがる娘ハしやれ下地	ネコ	猫
	38	虎の威を三成既に呑ところ	トラ	虎
	40	かへる所を知らんとて馬をつけ	ウマ	馬
	40	安南の鳥を的に書て置 <sub>キ</sub>	トリ	鳥
	40	巻わらの雁をにうりや的にかけ	カリ	雁
	40	下 <sub>ニ</sub> 妻の上茶とんびの爪くらい	トンビ	とんび
	41	どれ見ごろ見せなど馬の皮をはき	ウマ	馬
	42	折助へ鳶の羽虫がのりうつり	トンビ	鳶
	42	折助へ鳶の羽虫がのりうつり	ハムシ	羽虫
	42	三世相見ればおうばハ穴の熊	クマ	熊

## 50 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
50	1	三鳥は勇士鸚鵡は官女也	トリ	三鳥
	1	三鳥は勇士鸚鵡は官女也	オウム	鸚鵡
	1	宇治の蛭がそれて来て巻に成	ホタル	蛭
	1	三日月に蛙一句も出ばこそ	カエル	蛙
	3	藪医者の家根に虎猫さかつてる	ネコ	虎猫
	3	鳥の目を折助鷹に取りほされ	タカ	鷹
	3	御拳になるのは鶴の千年目	ツル	鶴
	6	鶯で繪のケンがおそなわり	ウグイス	鶯
	7	鳳凰のあたへは桐が三ツなり	ホウオウ	鳳凰
	8	鶯と梅は鳴ひたり笑つたり	ウグイス	鶯
	8	牛は牛連れ仕てやつて仕てもらい	ウシ	牛
	8	きん玉も入しなど女房烏賊を買し	イカ	烏賊
	9	いゝ日和梅から亀へおし廻し	カメ	亀
	9	彼岸中蛇をつかつて嫁は楽ッ	ヘビ	蛇
	10	龍宮の武具は鉄砲飛の魚	トビウオ	飛の魚
	10	子を捨る藪に住む虎にごる也	トラ	虎
	10	馬の引解しいなゝいて時が知れ	ウマ	馬
	10	水牛で梅がえはつ音中のよさ	スイギュウ	水牛
	13	女房が蛸で亭主がうなり出し	タコ	蛸
	13	女房の化猫亭主とグルニヤア	ネコ	化猫
	13	鶺鴒の振り付で子の初舞台	セキレイ	鶺鴒
	13	ごんざうをはいた千鳥の愛らしさ	チドリ	千鳥
	14	鷹の子を産んだ鶯は羽子をのし	タカ	鷹
	14	鷹の子を産んだ鶯は羽子をのし	トンビ	鳶
	14	鯨の子取れて賑ふ三さと半	クジラ	鯨
	15	馬の模様ではね廻る田舎ッ子	ウマ	馬
	15	毛がはへて文をくわへる鼠ッ子	ネズミ	鼠ッ子
	15	狸の子はやきん玉も四畳半ッ	タヌキ	狸
	16	鳳凰の羽音に禿目を覚し	ホウオウ	鳳凰
	17	品切しで真菰の馬を百で買ひ	ウマ	馬
	17	小はだ小平治肴屋と下女思ひ	コハダ	小はだ
	17	牛ほどに角がこうじて時参り	ウシ	牛
	17	にわ鳥があくびをすと聾言ひ	ニワトリ	にわ鳥
	18	御誕生アレ時鳥ッかつを	ホトギス	時鳥
	18	御誕生アレ時鳥ッかつを	カツオ	かつを
	18	門ちがひ蜂風鈴をのぞひて見	ハチ	蜂
	19	名月は牽頭しめこの兔なり	ウサギ	兔
	20	長局お馬が済むと牛を出し	ウマ	お馬
	20	長局お馬が済むと牛を出し	ウシ	牛
	21	亀の子を万ッ放したき霊地也	カメ	亀の子
	21	浪の上こへて一声ほとゝぎす	ホトギス	ほとゝぎす
	21	蛤が吹たよふなる宮居也	ハマグリ	蛤
	21	うらゝかさ汐干潟にもさくら貝	サクラガイ	さくら貝
	21	烏帽子着て神を守護する夏の魚	フグ	夏の魚
	22	日帰りに鶴亀へ行きつい事	ツル	鶴
	22	日帰りに鶴亀へ行きつい事	カメ	亀
	23	蛸取り寝て赤貝は塩を吹キ	アワビ	蛸
	23	蛸取り寝て赤貝は塩を吹キ	アカガイ	赤貝
	24	林では鶴も無常につかわれる	ツル	鶴

	24	しら鷺の一 <small>ト</small> むれ下る墓 <small>カ</small> 参り	シラサギ	しら鷺
	24	蛤を座敷で拾ふひんのよさ	ハマグリ	蛤
	25	夜も昼も不如帰と鳴て暮す也	ホトギス	不如帰
	25	時鳥寝言に云て名が高し	ホトギス	時鳥
	25	夜 <small>ル</small> と昼となく啼あかす郭公	ホトギス	郭公
	26	あす咲と思ふ蒼に根切虫	ネキリムシ	根切虫
	26	嫁の狼談議がきつい好 <small>キ</small>	オオカミ	狼
	28	富士は孝鷹ハ忠義の夜討也	タカ	鷹
	28	富士と鷹これ忠孝の夜討也	タカ	鷹
	28	鷹のさわぎに雀まで出る所	タカ	鷹
	28	鷹のさわぎに雀まで出る所	スズメ	雀
	28	御馳走は上へ見ぬ鷺の武蔵也	ワシ	鷺
	28	しつづりが鷹と雀でむづかしい	タカ	鷹
	28	しつづりが鷹と雀でむづかしい	スズメ	雀
	29	主従で四十八鷹名を残し	タカ	鷹
	31	主 <small>ツ</small> の命 <small>イ</small> 金て買ひ取る白鼠	ネズミ	白鼠
	31	黒 <small>ロ</small> 吉の口へ喰 <small>ハ</small> せる蛸 <small>ガ</small> かな	タコ	蛸
	32	蜂の子の飛ぶよふに散る一家中	ハチ	蜂
	32	鷹の羽を網へぶち込 <small>ム</small> 不慮な事	タカ	鷹
	32	鮒のたとへに鯉口をぬき放し	フナ	鮒
	32	鷹の羽の越度は餌 <small>バ</small> をかわぬゆへ	タカ	鷹
	33	蛸の意趣いわしではらす心地よさ	タコ	蛸
	33	蛸の意趣いわしではらす心地よさ	イワシ	いわし
	34	一 <small>マ</small> カで性根をさぐる犬と鷺	イヌ	犬
	34	一 <small>マ</small> カで性根をさぐる犬と鷺	サギ	鷺
	34	了竹は娘を餌 <small>バ</small> に犬と成り	イヌ	犬
	34	侍の犬もやつぱり縁の下	イヌ	犬
	35	くるしきは蛸の交 <small>ツ</small> た反吐をはき	タコ	蛸
	36	大星をすつぽんにする七段目	スッポン	すつぽん
	37	鰻に当 <small>ツ</small> て死 <small>シ</small> だのは定九郎	フグ	鰻
	38	九太夫は手の裏へ踏む猫のふん	ネコ	猫
	38	鰻に当 <small>ツ</small> て即死と八天の網	フグ	鰻
	39	だなはんを取 <small>ツ</small> たくと猫が来た	ネコ	猫
	40	子に迷ふ鶴の巢籠 <small>リ</small> 吹て来 <small>ル</small>	ツル	鶴
	40	鷺のまねする鷺坂がつかみづら	ワシ	鷺
	41	猿松が能くよし松をあそバせる	サル	猿松

## 59 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
59	1	鶴へ乗る馬ハ翅の如く也	ツル	鶴
	1	鶴へ乗る馬ハ翅の如く也	ウマ	馬
	1	手にハ鷹足にハ鶺の目返し也	タカ	鷹
	1	手にハ鷹足にハ鶺の目返し也	ウマ	鶺
	2	鷗見てあれにして置 <sub>テ</sub> 都鳥	カモメ	鷗
	2	鷗見てあれにして置 <sub>テ</sub> 都鳥	ミヤコドリ	都鳥
	2	鶯も蛙もよみし大和文	ウグイス	鶯
	2	鶯も蛙もよみし大和文	カエル	蛙
	5	白鼠穴を明るかきらひ也	ネズミ	白鼠
	5	郭公月を去る事矢のことし	ホトギス	郭公
	6	年玉て目差の鶴を尋出し	ツル	鶴
	6	てんほふにたかる風の運強さ	シラミ	虱
	6	傘の引ときを着るむこひ猪 <sub>ノ</sub>	イノシシ	猪
	7	更衣の閨御馳走時鳥	ホトギス	時鳥
	7	幾足も百足のつゝく惣登城	ムカデ	百足
	7	鉄砲を廻ると鯨に引入れ	フグ	鯨
	8	おめへの気猫の目玉と下女しやれる	ネコ	猫
	8	柳の下の御事ハ夜鷹也	ヨタカ	夜鷹
	8	勝負附鼠にはねかはへて飛	ネズミ	鼠
	9	名山と茄子 <sub>ト</sub> を猿ハ味しらす	バク	猿
	9	水鶏より和漢の鳥てた <sub>ト</sub> かれる	クイナ	水鶏
	9	水鶏より和漢の鳥てた <sub>ト</sub> かれる	トリ	鳥
	10	耳と鼻きくハ鯉とほと <sub>ト</sub> きす	カツオ	鯉
	10	耳と鼻きくハ鯉とほと <sub>ト</sub> きす	ホトギス	ほと <sub>ト</sub> きす
	11	鳥影の客ハ大 <sub>キナ</sub> すゞめ也	スズメ	すゞめ
	11	富士ハ雪すそ野あた鷹花茄子	タカ	鷹
	12	しら波におどろき千鳥音を発し	チドリ	千鳥
	12	猫と馬黄色 <sub>ナ</sub> 声でいがみ合	ネコ	猫
	12	猫と馬黄色 <sub>ナ</sub> 声でいがみ合	ウマ	馬
	14	山路を鹿ハ見事にあゆむ也	シカ	鹿
	15	蛇の病氣此節蚊さへ通りかね	ヘビ	蛇
	15	蛇の病氣此節蚊さへ通りかね	カ	蚊
	15	三の夢猿一口にしてやる氣	バク	猿
	16	殿さまハ我のせ兄を馬にのせ	ウマ	馬
	17	御衣に似る羽色ハ鳥の冥加也	トリ	鳥
	17	歌の徳時鳥まで梅で啼 <sub>キ</sub>	ホトギス	時鳥
	17	一 <sub>ト</sub> こへハ鶴にも増るほと <sub>ト</sub> きす	ツル	鶴
	17	一 <sub>ト</sub> こへハ鶴にも増るほと <sub>ト</sub> きす	ホトギス	ほと <sub>ト</sub> きす
	19	榊より猿の先たつ小牧山	サル	猿
	19	蜘蛛あつて苦もなく読る妙智力	クモ	蜘蛛
	20	御祐筆画師よりはれ <sub>ナ</sub> 馬を書 <sub>キ</sub>	ウマ	馬
	20	初かつほ跡先を見て喰はくり	カツオ	初かつほ
	22	桜からかへれハ女房雉子の声	キジ	雉子
	22	ながし眼て鴨の見ている後家あひる	カモメ	鴨
	22	ながし眼て鴨の見ている後家あひる	アヒル	あひる
	22	鶴の後 <sub>ナ</sub> ゆくへの知れぬ猪 <sub>ノ</sub> 早太	ヌエ	鶴
	23	りんびやうと号して馬に乗りたがり	ウマ	馬
	24	麟鳳も出よ直く成君か御代	キリン	麟
	24	麟鳳も出よ直く成君か御代	ホウオウ	鳳

	25	鶴の雲逃て行跡に郭公	又エ	鶴
	25	鶴の雲逃て行跡に郭公	ホトギス	郭公
	25	燕のやうに大名子を拵へ	ツバメ	燕
	25	神に九頭龍里芋にハッ頭	リュウ	九頭龍
	25	灰吹の蛇ハ龍王の煙て出来	ヘビ	蛇
	25	灰吹の蛇ハ龍王の煙て出来	リュウ	龍王
	26	小道具や見入た鮫にけふも来ル	サメ	鮫
	26	陸士衛厂的便を狗てする	イヌ	狗
	26	客を釣る文に蚯蚓をのたくらせ	ミミズ	蚯蚓
	27	鯉の手紙三月と書て消し	カツオ	鯉
	27	女房かわたを抜てる初鯉	カツオ	初鯉
	28	白イ鶴規矩準繩の上を舞	ツル	鶴
	28	鶺鴒も家老も片目無て済	セキレイ	鶺鴒
	28	虎の半てんて御国迄一と走	トラ	虎
	29	閑子鳥とふふを買ふも小半道	カッコウ	閑子鳥
	30	梅ヶ枝に鶯松ヶ枝に盗人	ウグイス	鶯
	31	はね蚯蚓ひとり角カ取て居	ミミズ	蚯蚓
	33	茶に螢宇治ハ寝られぬ御馳走也	ホタル	螢
	33	魚淵に踊る十日の御縁日	サカナ	魚
	33	亀にてハいかと秩父申上	カメ	亀
	33	亀ならハ万放しても高か知し	カメ	亀
	34	横ッつらはるやうに蠅生ッとられ	ハエ	蠅
	35	花に馬繫て七日淋しく寝	ウマ	馬
	36	引越した先もとなりに轡虫	クツワムシ	轡虫
	36	鶴ほとに首を伸して母ハ待	ツル	鶴
	37	大病の猿ハ躰もなめかねる	バク	猿
	37	馬にハちつとおとり人にハ並はつれ	ウマ	馬
	37	のらくらとした子に鱧薬也	ウナギ	鱧
	38	蠅か陳引ヶハ又蚊かときの声	ハエ	蠅
	38	蠅か陳引ヶハ又蚊かときの声	カ	蚊
	38	いふされる嫁蚊のすねのやうにやせ	カ	蚊



## 63 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
63	1	一羽ても三羽ても鴛鴦あわれ也	オシドリ	鴛鴦
	1	盗喰するなど猫に当こすり	ネコ	猫
	1	当違ひ蛤二升桃の花	ハマグリ	蛤
	1	虱をとるハ常躰のまなこ也	シラミ	虱
	1	白鼠かちるもひくもきらい也	ネズミ	白鼠
	2	中の丁道を作ると時鳥	ホトギス	時鳥
	2	蛤の出る迄まくる汐干狩	ハマグリ	蛤
	2	器に随て牛の角を買	ウシ	牛
	2	さとの馬引て質草かりに行	ウマ	馬
	3	蝶くの酒を露ほと嫁ハ呑	チョウ	蝶く
	3	鳥迄も見附ハ礼を知て住	トリ	鳥
	3	三鳥を雲井に伝ふ和歌の家	トリ	三鳥
	4	白鼠かちるも引くもきらい也	シロネズミ	白鼠
	5	山寺の馬の吊里へ出し	ウマ	馬
	5	鎌倉の魚も黄金の札を付	サカナ	魚
	6	大名を入替にする時鳥	ホトギス	時鳥
	6	古今集序に出ますか鳥と虫	トリ	鳥
	6	古今集序に出ますか鳥と虫	ムシ	虫
	6	鯪と鬼をおそれて水ハ逃	シャチホコ	鯪
	6	悪筆ハ蟬やとんほを後悔し	セミ	蟬
	6	悪筆ハ蟬やとんほを後悔し	トンボ	とんほ
	7	太郎冠者有るかと鯉を喰に来ル	コイ	鯉
	8	鯪をにらむ産湯ハ玉の水	シャチホコ	鯪
	8	江戸ッ子ハわたもぬかずに初鯉	カツオ	初鯉
	8	花とろほ蝶ハ無言て追かける	チョウ	蝶
	8	堅イ魚小判の端を喰ふよふた	カツオ	堅イ魚
	9	馬の立身花道て申上	ウマ	馬
	9	燕ハみんな引越し女房也	ツバメ	燕
	9	鯨から腹わたの出る下女か帯	クジラ	鯨
	10	蜘蛛の巣を三とせ払はぬ孝の道	クモ	蜘蛛
	10	仏師屋ハ仏の肉て蚊をいぶし	カ	蚊
	10	いふされて嫁蚊のすねのやうに瘦	カ	蚊
	10	小児いしや狝の脈から先へ見る	チン	狝
	12	日の丸の扇になひくはたの魚	カジキ	はたの魚
	13	虎の目か抜て密柑に疵もなし	トラ	虎
	13	散る花も胡蝶のやうな飛鳥山	チョウ	胡蝶
	14	影膳を飼犬の喰ふ不届さ	イヌ	飼犬
	14	八畳の座敷に狸そら寝入	タヌキ	狸
	15	天冠のしハし傾く時鳥	ホトギス	時鳥
	15	天に虫有て地に咲く人の花	ムシ	虫
	15	人肌てとける氷の鯉と恋	コイ	鯉
	15	結構な宝ハ鯛の三ッ道具	タイ	鯛
	15	老木に成て花咲く松の魚	カツオ	松の魚
	15	郭公修南山の上て啼	ホトギス	郭公
	16	一町て一声囀と時鳥	ホトギス	時鳥
	17	喰たのハ蝮喰ハせたハ赤ゆわし	タコ	蝮
	17	いゝ天氣他行のならぬ蝸牛	カタツムリ	蝸牛
	19	青龍に乗て親子ハ暑氣見廻	リュウ	青龍
	19	ほうわうの切売わつか指斗	ホウオウ	ほうわう

	19	あたらしい魚夕方に参る也	サカナ	魚
	20	仏店うなきの身にハ地獄店	ウナギ	うなき
	20	錦する山に墨絵の鳥か住	トリ	鳥
	20	千鶴八万里へ光りく飛	ツル	千鶴
	21	疵にした蚊も押流す名句也	カ	蚊
	21	吹殻て狸尻尾を見付られ	タヌキ	狸
	22	狛返 <sup>ス</sup> 手紙喰付申候	チン	狛
	22	新しい墓てひつくり土龍	モグラ	土龍
	22	赤貝ハ強く見やすのやうに明 <sup>キ</sup>	アカガイ	赤貝
	23	鯛の片身を釣 <sup>ツ</sup> た時女房悔 <sup>イ</sup>	タイ	鯛
	24	切 <sup>レ</sup> 文のしハをのしてる閑子鳥	カッコウ	閑子鳥
	24	鶏にしめし籠とハうはか知恵	ニワトリ	鶏
	25	唾に付狐骨折そんをする	キツネ	狐
	25	名ハ猿て馬のやうたと勅 <sup>詔</sup>	サル	猿
	25	名ハ猿て馬のやうたと勅 <sup>詔</sup>	ウマ	馬
	26	題目を背負て浮 <sup>ム</sup> ハ佐渡の魚	ウオ	魚
	26	アノ芸者人魚を喰 <sup>タ</sup> かもしれず	ニンギョ	人魚
	26	清盛のやうにつ <sup>ゞ</sup> 立鍋の蛸	タコ	蛸
	26	口篇に空啼をする籠の鳥	トリ	鳥
	26	日か入ると息子蝙蝠着て出かけ	コウモリ	蝙蝠
	26	柀落しかたり隣の猫をかり	ネコ	猫
	27	馬の足のかれやうく申上	ウマ	馬
	27	い <sup>ゞ</sup> 役者すかして馬に刎られる	ウマ	馬
	28	田のほとり鳥てにこさぬ和歌の徳	トリ	鳥
	28	鶏をさくに出刃包丁用ひ	ニワトリ	鶏
	29	犬の小屋あかさ堂程寄て立	イヌ	犬
	29	しれた子の鼻をつまめハ蟬しくれ	セミ	蟬

## 65 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
65	1	国家老猫を封じて爪を出し	ネコ	猫
	1	真黒な牛を引てる白太夫	ウシ	牛
	1	言ウ口のうへて鳴たハほとゝきす	ホトトギス	ほとゝきす
	2	業平蜺有りそふな芥川	シジミ	蜺
	2	馬の目ハ江戸けつの毛ハ京て抜	ウマ	馬
	4	手のひらをなめさせて行時鳥	ホトトギス	時鳥
	4	小原女をなふれハ牛を一ツぶち	ウシ	牛
	4	小便ハ牛も叶わぬ孔雀茶や	ウシ	牛
	5	初午ハ狸冷にてあをつきり	タヌキ	狸
	5	下女が馬どたりくとはかどらず	ウマ	馬
	5	あやうさハ鳩豊さハ鶴の頃	ハト	鳩
	5	あやうさハ鳩豊さハ鶴の頃	ツル	鶴
	5	水ハ箱鮎ハ籠にて江戸へ出る	アユ	鮎
	5	馬の皮たゞくも午の日の祭り	ウマ	馬
	6	摺子木て鳥やあひるをおひ廻し	トリ	鳥
	6	摺子木て鳥やあひるをおひ廻し	アヒル	あひる
	6	鶏のよろけかゝるを嫁わらひ	ニワトリ	鶏
	6	しわい所たとへかつをか有たとて	カツオ	かつを
	7	喰ふ蚊より喰わぬかや迄ぶちころし	カ	蚊
	7	其外の庭ハ池鯉鮒の駆斗り	コイ	鯉
	7	其外の庭ハ池鯉鮒の駆斗り	フナ	鮒
	8	蚊の声の拍子木て止むいゝ普請	カ	蚊
	8	気の永さ蛩て宇治の茶を煎	ホタル	蛩
	8	狂歌師ハあわびの貝を書いて居る	アワビ	あわび
	8	水鶏からついでたゞく火打箱	クイナ	水鶏
	8	蜺変して舞つたりの足と成り	シジミ	蜺
	9	ひつじの尻たしかにきなつくさかるふ	ヒツジ	ひつじ
	9	人の馬盗三千疋とられ	ウマ	馬
	9	めくらへび娘承知て穴をかし	ヘビ	へび
	10	上下てうち虫も出る鶏合セ	ウジムシ	うち虫
	10	耳も気も長く臥竜へ三度行	リュウ	臥竜
	11	三味線をかちる鼠ハ敵討	ネズミ	鼠
	11	はりつめた上を狐が馬をのせ	キツネ	狐
	11	はりつめた上を狐が馬をのせ	ウマ	馬
	12	蚊に恐れ袋へ這入二合半	カ	蚊
	14	苗代に蛙の種はまかなくに	カエル	蛙
	14	鉞とぎ鶺のはしに巻ている	イスカ	鶺
	14	ぼうふりも天上すれば人を喰イ	カ	ぼうふり
	15	初鯉女房差出て直か出来ず	カツオ	初鯉
	15	村角力蜂にさされて勝負なし	ハチ	蜂
	16	夜鷹のしれもの鼻塚をきづく所	ヨタカ	夜鷹
	16	つれく成る儘に風を下女ひろい	シラミ	虱
	18	又鯛が見せなど二百つんでる	タイ	鯛
	18	ふじひたいつくば鼠に下女つくり	ネズミ	鼠
	18	市川の鯉つがもねへ風味也	コイ	鯉
	20	白魚のやうに玄猪の供ハまち	シラウオ	白魚
	20	蜘蛛の巣を笏てはらつて御幸也	クモ	蜘蛛
	21	高輪のねこハ杓子のまねをする	ネコ	ねこ
	22	ちやんころがないと狐のそはをほり	キツネ	狐

	22	猿の尻ハ寝言のやうな音がする	バク	猿
	24	花ある里へ夜毎飛ふ雁の声	カリ	雁
	24	君ハ今横か夜食か郭公	ホトギス	郭公
	25	白象となる気か禿船を漕キ	シロゾウ	白象
	26	木兎引のやうに夜鷹へ人だかり	ミミズク	木兎引
	26	木兎引のやうに夜鷹へ人だかり	ヨタカ	夜鷹
	26	鉄砲を山家の猿におつばなし	サル	猿
	26	籠の鳥足跡作る八文字	トリ	鳥
	27	鳳凰ハしばし並木ではねを伸シ	ホウオウ	鳳凰
	27	鳳凰の羽虫を遣り人取て捨	ホウオウ	鳳凰
	27	鳳凰の羽虫を遣り人取て捨	ハムシ	羽虫
	28	夜鷹の眉毛けして行ッ通り雨	ヨタカ	夜鷹
	29	はやる鷹やたらに鳥の目を掴ミ	タカ	鷹
	29	ゆき先キハ鹿ともいへずまづ紅葉	シカ	鹿
	29	来なんしの夕べにさがる女郎蜘蛛	ジョロウグモ	女郎蜘蛛
	30	鼠啼キいゝ口うらを引たやつ	ネズミ	鼠
	31	仮宅の見世鳳凰も目白おし	ホウオウ	鳳凰
	32	ふられてる心もしらす子規	ホトギス	子規

## 67 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
67	1	ふけて妻戸に御手の鳴時鳥	ホトギス	時鳥
	1	打敷ハ目に持ッ波に千鳥なり	チドリ	千鳥
	3	困ても虫が筑広の鍋ニツ	ムシ	虫
	3	下女ひひき及はぬ鯉の瀧登り	コイ	鯉
	4	野良出合びつくりしたハきじの声	キジ	きじ
	4	いくよ寝覚メにアサまた時鳥	ホトギス	時鳥
	5	御祭式穢れぬ耳へほととぎす	ホトギス	ほととぎす
	5	原の跡虫を商ふ御神徳	ムシ	虫
	5	拝領ハ其味じ重きすのを	キス	きすのを
	5	ぴんくとして居て海老にならぬ腰	エビ	海老
	6	鶴の声千とせを伸すつくしかり	ツル	鶴
	7	らんどめの後ヲ高安で鹿の声	シカ	鹿
	7	橘鳥も一ト声をなつかしみ	ホトギス	橘鳥
	8	鶴と亀桃を盗んだ程違ひ	ツル	鶴
	8	鶴と亀桃を盗んだ程違ひ	カメ	亀
	8	捨てられた馬の耳へも寒念仏	ウマ	馬
	8	さアきたといふ身で素ごら馬を書	ウマ	馬
	9	本来喰ふと悟ッたて海老をとり	エビ	海老
	10	さざいの殻へ御詠歌を百首つめ	サザエ	さざい
	11	御ねはんに猫の出て来る回向院	ネコ	猫
	11	味噌うしほ八重に吸せる桜鯛	サクラダイ	桜鯛
	11	闇の夜ハ何か鳴たかほととぎす	ホトギス	ほととぎす
	12	猩くに天人こまる花の山	シウジョウ	猩く
	12	鶯や鶉をつまむ鷹の爪	ウグイス	鶯
	12	鶯や鶉をつまむ鷹の爪	ウズラ	鶉
	12	鶯や鶉をつまむ鷹の爪	タカ	鷹
	12	そこが下戸おしひ珍魚を鍋へ入レ	サカナ	珍魚
	13	小狸ハよふく数寄屋程広げ	タヌキ	小狸
	13	みじかなおあしであひる追に行キ	アヒル	あひる
	13	慈悲と仏法鳥分テ難有し	ブッポウソウ	仏法鳥
	14	生キた鯉をぶち殺す銭て喰ひ	カツオ	鯉
	14	稲荷の即死黒幕へうせにけり	キツネ	稲荷
	15	百年忌日頃の水に魚が寄り	サカナ	魚
	16	気のきいたからし鯉の妻になり	カツオ	鯉
	16	精進の蛸僧正の御手に出来	タコ	蛸
	17	狸の遺言茶釜にハ化するなよ	タヌキ	狸
	18	なからへて又此なつもほととぎす	ホトギス	ほととぎす
	18	和歌の徳鳴ぬ田長に鳴く蛍	ホトギス	田長
	18	和歌の徳鳴ぬ田長に鳴く蛍	ホタル	蛍
	20	目の前でうかむ礼義の放し亀	カメ	放し亀
	20	福祿寿みすくあたま蚊の糸じき	カ	蚊
	20	鮭ハ内ぶところへへそを入れ	ボラ	鮭
	20	初鯉恥しからぬ片身わけ	カツオ	初鯉
	21	吉原ハ鳳凰四ツ谷とんびなり	ホウオウ	鳳凰
	21	吉原ハ鳳凰四ツ谷とんびなり	トンビ	とんび
	21	ぼふふりハ蚊と化し布団蚊屋と化し	カ	ぼふふり
	21	ぼふふりハ蚊と化し布団蚊屋と化し	カ	蚊
	23	とまる蚊も只吹て置く親の墓	カ	蚊
	24	松虫ハ野宿の笈の側て鳴キ	マツムシ	松虫

	24	仕合さかつぎ人になる鰻の友	フグ	鰻
	25	糸だてを敷くハ夜鷹の魂祭り	ヨタカ	夜鷹
	25	五丁でも二丁でも馬けちな役	ウマ	馬
	25	毛せんを稲荷ハ死後に引っかぶり	キツネ	稲荷
	26	消なんとするあんどんへ犬を呼び	イヌ	犬
	27	湯くわん場の所作にハ猫かふりを付	ネコ	猫
	27	気味わるさ墓所の脇にむぐらもち	モグラ	むぐらもち
	27	初ッ七日墓でびつくりむぐらもち	モグラ	むぐらもち
	30	鳥さしに似合ぬ笠のかむりやう	トリ	鳥
	32	食過て蛸ハあたまをくちくする	タコ	蛸

## 69 篇

篇	丁 序	句	動物	動物(原文)
	69	金竜ハさすが京都の目貫也	リュウ	金竜
		1 神力ハ風仏カハ蜘蛛となり	クモ	蜘蛛
		1 白象ハ普賢百ぞふ苦げん也	シロゾウ	白象
		3 かたひ後家立派に馬を乗通し	ウマ	馬
		3 やゝしばし御冠傾く沓手鳥	ホトギス	沓手鳥
		3 千把の青菜を献し鶴で候	ツル	鶴
		4 犬よりも猿がりきんだ焼香場	イヌ	犬
		4 犬よりも猿がりきんだ焼香場	サル	猿
		4 夜るの鶴柳の下で水を向ヶ	ツル	鶴
		4 魚の骨一家のひろふ百年忌	サカナ	魚
		5 子ハ父のもし頼りをと沓手鳥	ホトギス	沓手鳥
		5 百年忌客に魔をさす猫を出し	ネコ	猫
		5 犬骨を折って高野ゝ霊地也	イヌ	犬
		5 新豆の豆腐が寺の初鯉	カツオ	初鯉
		6 目出度 <sup>サハ</sup> 蜘蛛の巣かける無常門	クモ	蜘蛛
		8 雪も消へ虫も消へて秦の闇	ホタル	虫
		9 経を誦鳥に蛙ハ啼く斗り	トリ	鳥
		9 経を誦鳥に蛙ハ啼く斗り	カエル	蛙
		9 喰ものも海老とははねた和尚也	エビ	海老
		10 龍宮の吊蛸が迎僧	タコ	蛸
		10 青イ子の為に忠義な赤蛙	アカガエル	赤蛙
		11 犬の声今捨子を抱 <sup>キ</sup> ける	イヌ	犬
		11 日の長さ鶯ほふと息 <sup>キ</sup> をつき	ウグイス	鶯
		11 和の孝子鯉も及ぬ瀧の酒	コイ	鯉
		12 時鳥田植の笠にゆびの跡	ホトギス	時鳥
		12 初鯉やわか在家におとるべき	カツオ	初鯉
		13 見はぐつて名句と成し時鳥	ホトギス	時鳥
		14 蛤できんまでぬらす汐干狩	ハマグリ	蛤
		15 罪でないむしを花嫁ころす也	ムシ	むし
		16 鴻鶴ハ御堂下タてハ御こふずり	オオトリ	鴻
		16 鴻鶴ハ御堂下タてハ御こふずり	ツル	鶴
		16 小人嶋我子を思ふ昼の鶴	ツル	鶴
		16 精進の寺で魚類をたゝき立テ	サカナ	魚類
		19 本堂の蛸はしんばで施主につき	タコ	蛸
		19 松緑の墓へのろりと来る蛙	カエル	蛙
		20 百ヶ日過て松魚を片身わけ	カツオ	松魚
		22 時鳥しかも啼出しそうな空	ホトギス	時鳥
		24 魂魄ハ和漢で蟹とほとゝぎす	カニ	蟹
		24 魂魄ハ和漢で蟹とほとゝぎす	ホトギス	ほとゝぎす
		24 時鳥釜をぬかれた晩に聞 <sup>キ</sup>	ホトギス	時鳥
		25 吊を見ると尾を振る寺の犬	イヌ	犬
		26 仏店うなぎへ山の芋が出来	ウナギ	うなぎ
		27 虫の音も大般若伽藍跡	ムシ	虫
		28 有りやうハ手向 <sup>テ</sup> て見度 <sup>キ</sup> 初鯉	カツオ	初鯉
		30 鴻の鳥びんぼう寺へ屁もひらず	オオトリ	鴻
		32 世の中を悟つて見れば猿の屎	バク	猿

## 70 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
70	1	一ト声であまる佃のほとゝきす	ホトギス	ほとゝきす
	2	船虫を川へ手練の撥の先キ	フナムシ	船虫
	2	しら魚の火ハ見通しの夕けしき	シラウオ	しら魚
	2	木枯の落葉に蟹の穴まどい	カニ	蟹
	3	白魚ハ実を持藤ハ花をもち	シラウオ	白魚
	3	安くなりましたと鰹千ギで買イ	カツオ	鰹
	3	尾遣イも神慮に叶ふおしへ鳥	セキレイ	おしへ鳥
	4	迷子も泣く蛍ひつつかみ	ホタル	蛍
	5	濡鷺の羽をほす形も前朱雀	サギ	鷺
	5	かもめだといふと名所にならぬとこ	カモメ	かもめ
	6	小田原評定一本の初鰹	カツオ	初鰹
	6	花の頃一ツハゆるせ三ツの猿	サル	猿
	6	長鯨のこことく佃の新酒船	クジラ	長鯨
	6	鷹の碑を社の馬手で居て置キ	タカ	鷹
	6	初鰹百貫しても売れ足らず	カツオ	初鰹
	6	時鳥追手のやうに鰹舟	ホトギス	時鳥
	7	包丁の齒も磨て待はつ鰹	カツオ	はつ鰹
	9	夜や寒しとて鰹木に鷺の霜	サギ	鷺
	10	短冊の雲間に歌の時鳥	ホトギス	時鳥
	10	梅もちり桜もちりて松の魚	カツオ	松の魚
	10	榎の仇名三度目ハ蛙すみ	カエル	蛙
	10	初物て直も高砂の松の魚	カツオ	松の魚
	11	片そきの身ハあつけないはつ鰹	カツオ	はつ鰹
	12	魚淵に踊る佃の御祭礼	サカナ	魚
	12	白魚をとるハ氏子の御垣守	シラウオ	白魚
	13	鷺愛神の氏子ハ鶉のごとし	ウ	鶉
	13	御祭礼魚もその頃出世する	サカナ	魚
	13	御社ハ鳥さへ五位のつかハしめ	トリ	鳥
	13	白魚の笹ちよぼく沖に見へ	シラウオ	白魚
	14	龔に暮ハかたれたり時鳥	ホトギス	時鳥
	16	御すかたハ蜘蛛とけしても多イ御手	クモ	蜘蛛
	16	らんとウハ藪蚊がくふとおせいふ	ヤブカ	藪蚊
	18	たんぽからすつほんに呼ぶ河岸の客	スッポン	すつほん
	19	中直り猫を壱疋苞にする	ネコ	猫
	20	白鳥ウをかんこ鳥だと根津で言イ	ハクチョウ	白鳥
	20	白鳥ウをかんこ鳥だと根津で言イ	カッコウ	かんこ鳥
	21	ほとゝきす土手でと口がついすべり	ホトギス	ほとゝきす
	22	なでつけの馬を天皇御てう愛	ウマ	馬
	23	田舎うはいもりを干たのだといひ	イモリ	いもり
	23	初かつほ座頭二三度たへました	カツオ	初かつほ
	26	やうし見世せんたい無理な鳥を追ヒ	トリ	鳥
	29	内蔵介くじらを売りに行々といふ	クジラ	くじら
	29	鼻唄で来てしやちほこにおとかされ	シャチホコ	しやちほこ
	30	腹のたつ下女猫などをひぼしにし	ネコ	猫
	31	半分ハ千住の客ハ犬てきれ	イヌ	犬
	32	鳳凰も琴とハちつと馴染也	ホウオウ	鳳凰
	34	扱ひかる魚と三人初手ハいひ	サカナ	魚



## 71 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
71	序	御代静納めた弓に鳩のふん	ハト	鳩
	序	うたぐつた斗でなかぬ時鳥	ホトトギス	時鳥
	序	罪でない虫を殺して御意に入	ムシ	虫
	序	下戸か箸とるとあらしの桜鯛	サクラダイ	桜鯛
	序	鮫鯨のやうに船にて御手料理	アンコウ	鮫鯨
	1	鶯ハ天の岩戸の梅をまち	ウグイス	鶯
	1	御具足へとふすといふハ虫斗	ムシ	虫
	1	鯉と恋中をへたてる隅田川	コイ	鯉
	1	白魚の目ハ楊貴妃のほくろ也	シラウオ	白魚
	1	千金の鯉玉川へはなし飼	コイ	鯉
	1	蝶くや千鳥に化る蛙の子	チョウ	蝶く
	1	蝶くや千鳥に化る蛙の子	チドリ	千鳥
	1	蝶くや千鳥に化る蛙の子	カエル	蛙
	1	毒虫か薬と変し五八霜	ムシ	毒虫
	1	白魚も一寸八分宮戸川	シラウオ	白魚
	1	籠を出る鳳皇桐の光也	ホウオウ	鳳皇
	1	とんぼうを殺して蜘蛛ハ酒を呑	トンボ	とんぼう
	1	とんぼうを殺して蜘蛛ハ酒を呑	クモ	蜘蛛
	1	目出たさハさくやの夢に鷹を見ル	タカ	鷹
	1	いざさらバ鯉から恋のわたし船	コイ	鯉
	1	異国から来ても鸚鵡ハ江戸言葉	オウム	鸚鵡
	1	蟋蟀のやうな子のくふ赤墓	コオロギ	蟋蟀
	1	蟋蟀のやうな子のくふ赤墓	ヒキガエル	赤墓
	2	野かけ道生酔蝶になぶられる	カレイ	蝶
	2	めてたさハ御座敷を舞ふ蝶ニツ	チョウ	蝶
	2	はへかゝる豆のもやしに虫が付	ムシ	虫
	2	蜂か巢を作る仁王の鼻の下	ハチ	蜂
	2	鳥追と礼者の千鳥行違	チドリ	千鳥
	2	鶯も蛙も同じ哥のとも	ウグイス	鶯
	2	鶯も蛙も同じ哥のとも	カエル	蛙
	2	玉川の水清らかに鮎の色	アユ	鮎
	2	国くへとんたはのきく宇治の鷹	タカ	鷹
	3	初蚕にいちられて聞時鳥	ノミ	初蚕
	3	初蚕にいちられて聞時鳥	ホトトギス	時鳥
	2	麟鳳も出る聖代の御船蔵	キリン	麟
	2	麟鳳も出る聖代の御船蔵	ホウオウ	鳳
	3	初蚕にいちられて聞時鳥	ノミ	初蚕
	3	初蚕にいちられて聞時鳥	ホトトギス	時鳥
	3	鶴亀の間牛に乗楽な旅	ツル	鶴
	3	鶴亀の間牛に乗楽な旅	カメ	亀
	3	鶴亀の間牛に乗楽な旅	ウシ	牛
	3	篝火のもとへ源氏の魚が寄リ	シラウオ	源氏の魚
	3	大手柄雀の辻で鷹をとめ	スズメ	雀
	3	大手柄雀の辻で鷹をとめ	タカ	鷹
	3	身ひとつを諸国へ配るいせ鯨	クジラ	鯨
	3	策を見てなくなる原の油虫	アブラムシ	油虫
	3	花より団子初音よりはつ鯉	カツオ	はつ鯉
	3	牛の背で啼てる八瀬のきりくす	ウシ	牛
	3	牛の背で啼てる八瀬のきりくす	キリギリス	きりくす

	3	大鵬の鳥もおとろく飴海老	タイホウ	大鵬
	3	大鵬の鳥もおとろく飴海老	エビ	海老
	3	寝忘れて唐土の鳥か起す也	ウブメ	唐土の鳥
	3	乳の葉里から魚を見舞也	サカナ	魚
	3	霜月の鳥から息子はごをしよひ	トリ	鳥
	4	妾か母とんひか鷹を産た夢	トンビ	とんひ
	4	妾か母とんひか鷹を産た夢	タカ	鷹
	4	鳥を二羽たゝいて常の門にする	トリ	鳥
	4	鴨なとかつゞく物かと又百匆	カモ	鴨
	4	きりくす背中に膝をしよつてゐる	キリギリス	きりくす
	4	樟のふのない箱入に虫かつき	ムシ	虫
	4	武蔵野の蛭合戦大晦日	ホタル	蛭
	4	うるめなら買ふと按摩呼翹	イワシ	うるめ
	4	うるめなら買ふと按摩呼翹	イワシ	翹
	4	いとこ煮を鴨の味たと大田分	カモ	鴨
	4	燕も巢から逃出す二階の屁	ツバメ	燕
	4	鶴遊ふ千秋楽な御名城	ツル	鶴
	4	向イ合ふ鳩八幡の御一字	ハト	鳩
	4	余の鳥と違ひ包丁迄ゑらみ	トリ	鳥
	4	年よれハ鶴もあたまか赤くなり	ツル	鶴
	5	日の丸の扇をしたふはたの魚	カジキ	はたの魚
	5	蜘蛛の巣にかゝて莊子うなされる	クモ	蜘蛛
	5	検校ハ手引かあつて蛇におじ	ヘビ	蛇
	5	鴨たてハ行脚もしハ立とまり	シギ	鴨
	5	伊勢海老をかさと三河者かくる	イセエビ	伊勢海老
	5	目黒道蛸も頭香を焚てゐる	タコ	蛸
	5	からすと鳩かいつもでる長談義	カラス	からす
	5	からすと鳩かいつもでる長談義	ハト	鳩
	5	橋ひとつへたてハかもめ都鳥	カモメ	かもめ
	5	橋ひとつへたてハかもめ都鳥	ミヤコドリ	都鳥
	5	虫目鏡最初御らんに蚤ッ	ノミ	蚤
	5	暑イ事たらいの中て鰻をよひ	アジ	鰻
	5	色事をせぬ身も鯉て指を切	コイ	鯉
	5	兼好といせ屋か嘗ぬはつ鯉	カツオ	はつ鯉
	5	蚊になつて金魚売をくつてやる	カ	蚊
	6	鳩や鶏さすやうなやうじみせ	ハト	鳩
	6	鳩や鶏さすやうなやうじみせ	ニワトリ	鶏
	6	鰻の味毒て有まいものならば	フグ	鰻
	6	蚊をやいて跡ハ其場の出来心	カ	蚊
	7	権兵衛とおはつ鴉を苦勞がり	カラス	鴉
	9	おし鳥のみれんを笑ふ明からす	オシドリ	おし鳥
	9	おし鳥のみれんを笑ふ明からす	カラス	明からす
	9	鳥の羽を縫御地服を御拝領	トリ	鳥
	9	五月雨に狸も腹の音がわるし	タヌキ	狸
	10	狐の子出来て二月かはつ幟	キツネ	狐
	10	蛤の風味しらせて里帰	ハマグリ	蛤
	10	ひんのいゝ猫土佐節や河東節	ネコ	猫
	11	牛に馬乗替宮ハ落給ふ	ウシ	牛
	11	牛に馬乗替宮ハ落給ふ	ウマ	馬
	11	おぶさつたやつか養ふ猿廻し	サル	猿

	11	うぬが身に当り夫から来ぬ狐	キツネ	狐
	11	猫ハ魔のもの沈んでる気をうかし	ネコ	猫
	11	瞽女が猫袋て諸国あるいてる	ネコ	猫
	12	死んでさへまだ狼ハ高まくら	オオカミ	狼
	12	三日咲桔梗をちらす猿のちゑ	サル	猿
	13	ごろ付がくると雷獣騒出し	ライジュウ	雷獣
	13	草枯に芽の出る草へ馬を画キ	ウマ	馬
	13	乗もせぬ馬に小金の轡虫	ウマ	馬
	13	乗もせぬ馬に小金の轡虫	クツワムシ	轡虫
	13	跡足で馬のじやくばる村芝居	ウマ	馬
	13	和の羊おもに上総で出生し	ヒツジ	羊
	13	酒なくて見れハさくらも河童の屁	カッパ	河童
	13	馬斗持て入王将こまり果	ウマ	馬
	13	車前草で命をつなぐひき墓	ヒキガエル	ひき墓
	14	いゝさかり牛も涎を天の川	ウシ	牛
	14	御神馬ハやうじ屋の豆見る斗	ウマ	御神馬
	14	霊獣を獲たハ魯国の西の狩	ケモノ	霊獣
	15	駒とめてひざ打払ふちんこ切	ウマ	駒
	15	濡鼠猫背中にて軒伝ひ	ネズミ	鼠
	15	濡鼠猫背中にて軒伝ひ	ネコ	猫
	15	子のやうに猫をもりする日影妻	ネコ	猫
	15	馬鹿な事犬を猫たと三味線屋	イヌ	犬
	15	馬鹿な事犬を猫たと三味線屋	ネコ	猫
	16	うどんの粉鼠いらすてねこに成	ネコ	ねこ
	16	寝て斗ある材木ハウしに成	ウシ	うし
	16	いゝ姑鶴から亀へ嫁をつれ	ツル	鶴
	16	いゝ姑鶴から亀へ嫁をつれ	カメ	亀
	18	猩々の子をとめ糟で飼ておき	ショウジョウ	猩々
	18	まゝ事ハ蜆ツ貝にとוגらし	シジミ	蜆ツ貝
	18	河童の子畑て生れ川へ入り	カッパ	河童
	19	寝そびれた子ゆへに夜の鶴を折	ツル	鶴
	20	初雁に追まられる針仕事	カリ	初雁
	20	猫撫の姑時く眼かかハリ	ネコ	猫
	21	鎌倉の魚で裕ハ土の牢	サカナ	魚
	21	一月に七日黒木を馬で売り	ウマ	馬
	22	白魚の火ハ住吉の常夜燈	シラウオ	白魚
	22	水鶏とハおもへど明る恋の間	クイナ	水鶏
	22	せめて銅の札でもと亀おもひ	カメ	亀
	23	火の側もいやと駝鳥の食もたれ	ダチョウ	駝鳥
	24	人化す狐も土の団子喰ひ	キツネ	狐
	25	金銀の魚でほろ蚊帳目を覚し	サカナ	魚
	27	若死の鶴ハ文武へかたみわけ	ツル	鶴
	28	御両山末世にひゝく龍と鐘	リュウ	龍
	30	なめくじで眉毛を作る石地藏	ナメクジ	なめくじ
	33	極楽へ落ても鼠地獄なり	ネズミ	鼠
	34	死せる鶴生けるか如く走らしめ	ツル	鶴
	36	大キな栄螺観音か百這入リ	サザエ	栄螺
	38	鶺鴒も仏法僧もおしえ鳥	セキレイ	鶺鴒
	38	鶺鴒も仏法僧もおしえ鳥	ブッポウソウ	仏法僧

## 72 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
72	1	猿一ツ鬼ともいし浅草寺	サル	猿
	2	扇の芝へ敗軍の蛭来る	ホタル	蛭
	3	飛蛙鏡が池を曇らせる	カエル	蛙
	4	鞍馬から虎の尻尾の牛が出る	トラ	虎
	4	鞍馬から虎の尻尾の牛が出る	ウシ	牛
	4	よしきりハ伊勢も難波も同じ声	ヨシキリ	よしきり
	4	本町の鯛下物売ぬ見せ	イワシ	鯛
	4	鷺とからすが泊つてる馬喰町	サギ	鷺
	4	鷺とからすが泊つてる馬喰町	カラス	からす
	4	日本橋とよでまんまを喰ふ所	サカナ	とよ
	5	かわつの三郎大磯のすけん也	カエル	かわつ
	5	廣イ事馬も乗込うバがもち	ウマ	馬
	5	月れいに見へず裕が魚と化し	サカナ	魚
	6	幾度か千鳥の通ふ爛直し	チドリ	千鳥
	7	蚊屋へ蚊をいれる娘の髪の出来	カ	蚊
	8	さくや姫蝶と千鳥の裾もやう	チョウ	蝶
	8	さくや姫蝶と千鳥の裾もやう	チドリ	千鳥
	9	葛の葉の袂から出る馬の骨	ウマ	馬
	9	きのふ象けふまんぢうの供となり	ゾウ	象
	10	もんぢいなぞも喰ますこわい嫁	モモンガ	もんぢい
	10	かみ合てあるうち外の犬が喰イ	イヌ	犬
	10	葉リながらこの鶴と彦左エ門	ツル	鶴
	10	燈籠の月へかすみをくもがかけ	クモ	くも
	11	吹キ竹の風に浪たつ帆立貝	ホタテ	帆立貝
	11	一ツ鳥ウの伝が神代の祭り初メ	トリ	鳥
	12	評判ハばつと廣がる孔雀の尾	クジャク	孔雀
	12	大久保の鶴飼附は小まつ川	ツル	鶴
	12	子を捨る鬼も心は夜の鶴	ツル	鶴
	13	式台へ武士をおろして鶴あがり	ツル	鶴
	14	千鳥の似せて明々そうな須磨の関	チドリ	千鳥
	14	月卿雲客猿だろう虎だろう	サル	猿
	14	月卿雲客猿だろう虎だろう	トラ	虎
	14	鳶の啼やうに虚無僧恩を謝し	トンビ	鳶
	14	蛤と団子をかつぐ一家中	ハマグリ	蛤
	15	御披露の御馬ハ鷹に乘て出る	ウマ	御馬
	15	御披露の御馬ハ鷹に乘て出る	タカ	鷹
	15	鳥ハ物かハと賞するゆきの鯨	トリ	鳥
	15	鳥ハ物かハと賞するゆきの鯨	フグ	鯨
	15	玄宗の鷹をとりまくすゞめがた	タカ	鷹
	16	命毛は妻こふ鹿のなれのはて	シカ	鹿
	16	鳳凰ハ道具に怪我ハさせぬ也	ホウオウ	鳳凰
	17	かびくさみ布団引あふ鹿のこへ	シカ	鹿
	17	鳳凰も孔雀の嘶し籠できよ	ホウオウ	鳳凰
	17	鳳凰も孔雀の嘶し籠できよ	クジャク	孔雀
	20	明からす栄花の夢のさめる頃	カラス	明からす
	20	川たけのま事を虎ハ世につたへ	トラ	虎
	21	たんすから禿引キ出す車海老	クルマエビ	車海老
	21	丸山ハぶたのうま煮で一歩しめ	ブタ	ぶた
	21	こてくと床へ狸のをきみやげ	タヌキ	狸

	22	鳳凰へかよふ衛が雁の声	ホウオウ	鳳凰
	22	鳳凰へかよふ衛が雁の声	チドリ	衛
	22	鳳凰へかよふ衛が雁の声	カリ	雁
	23	鳳凰の買人も出る鳥の町	ホウオウ	鳳凰
	24	間夫や来る又寝の床の下蜘蛛	クモ	蜘蛛
	24	伽羅くべに来る薄雲が座敷の蚊	カ	蚊
	26	あひるさへ鳶 <small>トビ</small> ほどの張 <small>ハ</small> りハもち	アヒル	あひる
	26	其時の大守よし原す <small>す</small> めなり	ヨシキリ	よし原す <small>す</small> め
	26	はん昌さ江戸の目貫で鮫もうり	サメ	鮫
	27	塔を組 <small>く</small> 大工ハ蟻のやうに見へ	アリ	蟻
	27	けしからぬ武士北国の馬を引 <small>キ</small>	ウマ	馬
	27	やく鯛もないいせやの蛭子講	タイ	鯛
	27	ぞろくといわしの鍋へそばぶくる	イワシ	いわし
	27	狸ほど箔屋ハきんをのばすなり	タヌキ	狸
	28	飛ぶ鳥も落るハ武威の御拳	トリ	鳥
	28	目にたつ矢とらずに敵鳥の海	トリ	鳥
	29	猫豚を退治てかへる国家老	ネコマタ	猫豚
	31	硯 <small>すずめ</small> た鷹の蒔絵にす <small>す</small> めやき	タカ	鷹
	32	下女犬を追て戸ばりの花をふき	イヌ	犬
	33	雁に文つけて末世に名をのこし	カリ	雁
	33	忠くと嘗て雀が粥を出し	スズメ	雀
	33	江戸の馬田舎ではねた役廻 <small>り</small>	ウマ	馬
	34	番づけの声ハ娘にはつかつを	カツオ	はつかつを
	35	はね蚯蚓一人角力をとる気なり	ミミズ	蚯蚓
	36	白魚に螺の負る拳角力	シラウオ	白魚
	36	白魚に螺の負る拳角力	タニシ	螺

## 73 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
73	序	百万の身はへも初ては鳩か飛 <small>ヒ</small>	ハト	鳩
	序	鶯に二の足をふむ諏訪の池	ウグイス	鶯
	1	鳴や立沢にけろりと墨衣	シギ	鳴
	1	学寮で <small>メル</small> 魯智深鳩ぽつぽ	ハト	鳩
	1	月になく鳥も子ゆへのやみになき	トリ	鳥
	1	鳥にたに鹿猿鰻と山鯨	トリ	鳥
	1	鳥にたに鹿猿鰻と山鯨	シカ	鹿
	1	鳥にたに鹿猿鰻と山鯨	サル	猿
	1	鳥にたに鹿猿鰻と山鯨	フグ	鰻
	1	鳥にたに鹿猿鰻と山鯨	イノシシ	山鯨
	1	所 <small>ロ</small> でハやつはり都鳥とい <small>ハ</small>	ミヤコドリ	都鳥
	1	黒馬の節会行ふ相馬御所	クロウマ	黒馬
	1	大 <small>キイ</small> といつて新造呼子鳥	カッコウ	呼子鳥
	2	打 <small>チ</small> 出て見れハ左右に鳥と鹿	トリ	鳥
	2	打 <small>チ</small> 出て見れハ左右に鳥と鹿	シカ	鹿
	2	ひよ鳥の声に栄花の夢ハ覚 <small>メ</small>	ヒヨドリ	ひよ鳥
	2	安針で諸鳥ハみんな目を縫れ	トリ	諸鳥
	2	横たてに啼くクハ雲雀時鳥	ヒバリ	雲雀
	2	横たてに啼くクハ雲雀時鳥	ホトトギス	時鳥
	2	稲舟に雀の群る最上川	スズメ	雀
	3	鳳凰がかん首を出す格子先 <small>キ</small>	ホウオウ	鳳凰
	3	衣くの鶏は二句めの恋はなれ	ニワトリ	鶏
	3	銅あみの窓へ鳥追引ツカ <small>ハ</small> リ	トリ	鳥追
	3	網笠の鳥は霞の名所也	トリ	鳥
	3	ほふわふの初夢鷹は気 <small>ハ</small> かり	ホウオウ	ほふわふ
	3	ほふわふの初夢鷹は気 <small>ハ</small> かり	タカ	鷹
	3	野良出合 <small>イ</small> 上て雲雀がくぜつてる	ヒバリ	雲雀
	4	化鳥てハない獣たと上達部	トリ	化鳥
	4	化鳥てハない獣たと上達部	ケモノ	獣
	4	通人の世に鳳凰は仲の丁	ホウオウ	鳳凰
	5	鯉て春 <small>メ</small> るハ権三権之助	コイ	鯉
	5	ないてえは人をまよハせる籠の鳥	トリ	鳥
	5	願の筋も聞て飛ふ放し鳥	トリ	鳥
	5	むく鳥も毎年来ると江戸雀	ムクドリ	むく鳥
	5	年礼の鼠松後に糊をなめ	ネズミ	鼠
	7	追込んだ鼠ながしの桶狭間	ネズミ	鼠
	9	飯櫃へ鼠まんまとしのび込 <small>ミ</small>	ネズミ	鼠
	10	時知らぬ蟬の啼出す嫁の椀	セミ	蟬
	10	蛇も鱗を震ふ高野のつむし風	ヘビ	蛇
	10	皿の月かくすさしみの松の魚	カツオ	松の魚
	12	汐先に鯨にらむ吾妻 <small>ツ</small> 子	シャチホコ	鯨
	12	千両の地にハ餅屋も竹に虎	トラ	虎
	13	歌や句て出家もほめる初鯉	カツオ	初鯉
	13	鰻の師匠にゆるされた山鯨	フグ	鰻
	13	鰻の師匠にゆるされた山鯨	イノシシ	山鯨
	13	お箱たと鯉をさかなに遣ハせる	コイ	鯉
	13	お箱たと鯉をさかなに遣ハせる	サカナ	さかな
	13	極さつな女房子猫を貰うやう	ネコ	子猫
	13	葛飾の鯉魚にこりたとけちな儒者	コイ	鯉

14	丑の日に箆でのり込む旅うなぎ	ウナギ	旅うなぎ
14	鎌倉の早うちに来るとびの魚	トビウオ	とびの魚
14	平ハ落皿へハはたの魚をもり	カジキ	はたの魚
14	看板の滝にも水のひやつ鯉	コイ	鯉
14	琴高ハいそくと鯉にかくを入	コイ	鯉
14	大病の鯨ひしこもとをりかね	クジラ	鯨
14	大病の鯨ひしこもとをりかね	イワシ	ひしこ
14	鬧しさ鮒も昆布の衣配り	フナ	鮒
14	蚊ハ出たか屋の字か出ぬと女房攻	カ	蚊
15	御相手に鯰四五疋いきのひる	ドジョウ	鯰
15	鮎鯛の棟にたえぬハ鯉の癖	アユ	鮎
15	鮎鯛の棟にたえぬハ鯉の癖	タイ	鯛
15	鮎鯛の棟にたえぬハ鯉の癖	コイ	鯉
15	駒込の巾着馬かつて来る	ウマ	馬
16	伊勢守様へハ召さぬゑぼし魚	カツオ	ゑぼし魚
16	琴高ハ急ぐと鯉にかくを入	コイ	鯉
16	江戸近く成るほど鮎も酔ひに成	アユ	鮎
16	鶴ハ餅亀ハだんごて名か高し	ツル	鶴
16	見せ金魚嗽茶碗の龍田川	キンギョ	金魚
16	竜王ハ虎鯨の皮敷て座し	リュウ	竜王
16	梅桜散り行頃に松の魚	カツオ	松の魚
17	蛤と丈イくらべする松ふぐり	ハマグリ	蛤
17	字引から色くな魚見付出し	サカナ	魚
17	鯨の客又死たいと礼に来る	フグ	鯨
17	惣菜に鮎ハ紺屋の奢つた日	アユ	鮎
18	つるむ蛸雲かく縄十文字	タコ	蛸
18	寒ひ時おまへ鯉か着られるか	カツオ	鯉
18	鳳凰も秋一日ハ鷺にばけ	ホウオウ	鳳凰
18	鳳凰も秋一日ハ鷺にばけ	サギ	鷺
18	来る人を虫かしらせる草の庵	ムシ	虫
20	草をはむ野馬の口に轡むし	ウマ	野馬
20	草をはむ野馬の口に轡むし	クツワムシ	轡むし
20	下細工猿か仕上る寅の神	サル	猿
21	青鷺の茶碗て化す料理茶屋	アオサギ	青鷺
22	卵の花に捨る鰯のしやれかうべ	イワシ	鰯
23	坊か細工に猫の髭みんな切り	ネコ	猫
24	御貝桶虫を合せる御手遊び	ムシ	虫
25	夜に入ると見附の海老ハひんと刎	エビ	海老
25	谷大根坂ハ蜜柑で川浮亀	カメ	亀
25	合の手の撥て舟虫はねかへし	フナムシ	舟虫
25	かりの名ハ伝坊実ハ油むし	アブラムシ	油むし
26	餓鬼大将か討とつた兜むし	カブトムシ	兜むし
26	強気たせ烏賊のやうだと虫眼鏡	イカ	烏賊
26	是二題なるそ鈴むし鋏虫	スズムシ	鈴むし
26	是二題なるそ鈴むし鋏虫	ハサミムシ	鋏虫
26	夜桜へ巢をかけて待女郎蜘蛛	ジョロウグモ	女郎蜘蛛
27	蜻蛉か出ると蜘蛛の子ちらす也	トンボ	蜻蛉
27	蜻蛉か出ると蜘蛛の子ちらす也	クモ	蜘蛛
27	蟋蟀ハ虫の内ても世帯染み	コオロギ	蟋蟀
27	蟋蟀ハ虫の内ても世帯染み	ムシ	虫

	27	吉原ハ蝶新宿ハ蛇か舞ひ	チョウ	蝶
	27	吉原ハ蝶新宿ハ蛇か舞ひ	ヘビ	蛇
	28	はさむからはさんて捨る鉄虫	ハサミムシ	鉄虫
	18	咄すのか口を吸ふのか蟻の道	アリ	蟻
	29	虫のせいかと道鏡の母あんじ	ムシ	虫
	29	なくの蛭尻を結んで御意に入ッ	ホタル	蛭
	19	万国の渡海自由も虫の智慧	ムシ	虫
	29	虫のせいかと道鏡の母あんじ	ムシ	虫
	29	返り字も渡海も元ハ虫の智慧	ムシ	虫
	29	君や来る庭に啼止む虫の声	ムシ	虫
	29	神田川またいて通る猪の頭	イノシシ	猪
	29	大きな掃溜うじ虫がたとと住	ウジムシ	うじ虫
	30	飽られて秘蔵な蟹の片はさみ	カニ	蟹
	30	碑の銘に蝶々とまつて不審紙	チョウ	蝶々
	30	虫気かと母の案する知恵ほとり	ムシ	虫
	30	床の間の古池ほめる身も蛙	カエル	蛙
	30	芳村と蚯蚓を誉る虫仲間	ミミズ	蚯蚓
	30	芳村と蚯蚓を誉る虫仲間	ムシ	虫
	30	西行ハ猫の鼻つらこすつて見	ネコ	猫
	31	長むしにこまるハ産をする蛙	ヘビ	長むし
	31	長むしにこまるハ産をする蛙	カエル	蛙
	31	蜻蛉ハ蟹三足て飛んで行キ	トンボ	蜻蛉
	31	蜻蛉ハ蟹三足て飛んで行キ	カニ	蟹
	31	すねおしを一番きやときりくす	キリギリス	きりくす
	32	吾妻橋近所鳥さへ都なり	トリ	鳥
	32	猿の毛を入れて三本道具也	サル	猿
	33	よく化す狐天窓に北斗星	キツネ	狐
	34	古狐身の毛もよたつ文を書キ	キツネ	古狐
	34	孝行をかみわけ虎も喰ハぬ也	トラ	虎
	35	おてみせに猫より鹿ハ品ッかよし	ネコ	猫
	35	おてみせに猫より鹿ハ品ッかよし	シカ	鹿
	35	犬の惣下座飯焚の他行也	イヌ	犬
	35	吸付て捨子へ出すも狐ッ火	キツネ	狐ッ火
	35	お亀八目となりからどろぼう	カメ	亀
	36	花より外にしる人そなき落馬	ウマ	落馬
	36	馬にかけ威あつて猛き虎ノ皮	ウマ	馬
	37	外科へ行鼎ハ犬に取まかれ	イヌ	犬
	37	さゞ浪を背中へうたせ毛虫かけ	ケムシ	毛虫
	38	鯨の百ひろを出すはなれ馬	シャチホコ	鯨
	38	鯨の百ひろを出すはなれ馬	ウマ	はなれ馬
	38	豆の味忘れたやうな佐野の馬	ウマ	馬



## 74 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
74	1	寝て居る鹿に朝起ハひつくりし	シカ	鹿
	1	鶴を射た跡であやめを又射とめ	ヌエ	鶴
	1	我内の鮓ハ海老に成た親	エビ	海老
	1	不工面ナ天狗箸屋に内を売	テング	天狗
	2	売物になると毛をひく籠の鳥	トリ	鳥
	2	継竿で髭をはやすか鮓海老	エビ	海老
	2	諏訪の湖狐ハ馬の猿田彦	キツネ	狐
	2	諏訪の湖狐ハ馬の猿田彦	ウマ	馬
	3	初松魚箸を放せとしかられる	カツオ	初松魚
	3	毛のはへて居るをこハがる河童の子	カッパ	河童
	3	柘榴口蛙啼なり毛切ッ石	カエル	蛙
	3	白鳥の千代田にむれる初登城	シラトリ	白鳥
	3	蝶か来て戸張の衣へひとつ紋	チョウ	蝶
	4	鶯の啼頃庭の梅わらひ	ウグイス	鶯
	4	氏神ハ狐氏子ハ化スなり	キツネ	狐
	4	虫ハ啼艸ハ芽をふくねはん頃	ムシ	虫
	4	蓬萊に積バや伊勢のかざり海老	エビ	かざり海老
	4	鶏の羽風左の花がちり	ニワトリ	鶏
	7	鶯のどもりハ啼か笑ふやう	ウグイス	鶯
	7	初午に穴の狸の思案顔	タヌキ	狸
	7	冠と兜の間に糸ぼし魚	カツオ	糸ぼし魚
	8	油断して猿にとられる袖が飯	サル	猿
	8	鶯を聞ながら喰ふ藪のそば	ウグイス	鶯
	9	蝶を放すも楊貴妃で止メになり	チョウ	蝶
	9	栄花の夢もばく飯で息子覚	バク	ばく
	10	大わらひ鼠に猫の画を喰れ	ネズミ	鼠
	10	大わらひ鼠に猫の画を喰れ	ネコ	猫
	10	高德ハ鯉に酔たふりで書キ	カツオ	鯉
	11	知盛が長刀鮫ハ呑こまず	サメ	鮫
	12	てんかんのよふまを蟹ハ焚	カニ	蟹
	12	鹿の子もきぬたも並ぶ餅やみせ	シカ	鹿の子
	12	浅草を喰たとみへてつなぎ馬	ウマ	つなぎ馬
	14	恐しさ七ツに見へるつなぎ馬	ウマ	つなぎ馬
	14	甲子に鼠鳴して置ざん	ネズミ	鼠
	14	猫の恋に鼠に飯をみなくわれ	ネコ	猫
	14	猫の恋に鼠に飯をみなくわれ	ネズミ	鼠
	16	似た鶏を閑守一度うまく喰ひ	ニワトリ	鶏
	16	三猿に四民の恥る穴五ツ	サル	三猿
	16	十かへりも来ると下直な松の魚	カツオ	松の魚
	17	蚊屋へ蚊をいれる娘の髪が出来	カ	蚊
	18	あつい事狐を片身井戸へつけ	キツネ	狐
	18	其金で鯨を買といせやい	クジラ	鯨
	18	草をわけせんぎされてるきりぐす	キリギリス	きりぐす
	18	蚊ハ出たが屋ハモシ旦那どふなさる	カ	蚊
	19	不二でない筑波鼠に下女つくり	ネズミ	鼠
	19	住鳥も神慮に叶ふ慈悲の声	トリ	鳥
	19	鶏と読そふな字を時鳥	ニワトリ	鶏
	19	鶏と読そふな字を時鳥	ホトトギス	時鳥
	20	花落の柚青鷺の口に入れ	アオサギ	青鷺

	20	蚊に喰れ虎に喰れぬ孝の徳	カ	蚊
	20	蚊に喰れ虎に喰れぬ孝の徳	トラ	トラ
	21	折ふしハ神馬もかぐら太鼓うち	ウマ	神馬
	22	神鳴と天狗になりし御鬱憤	テング	天狗
	22	かわい子たゞくもにくい蚊の仕わざ	カ	蚊
	22	きりぐす立ひざをして腹ん這ィ	キリギリス	きりぐす
	22	鷺草をからすだろふと水を打	カラス	からす
	23	橋詰でせりあふている初蛩	ホタル	初蛩
	23	初鯉猫には火吹竹をくれ	カツオ	初鯉
	23	初鯉猫には火吹竹をくれ	ネコ	猫
	23	初松魚いふにや及ぶあらハ煮ろ	カツオ	初松魚
	23	まちがつて蚊にくわれてる恋の闇	カ	蚊
	24	ほら貝の一ト村ひゞく鹿嶋	ホラガイ	ほら貝
	24	啼ぞんハ庚申塚のほとゞぎす	ホトギス	ほとゞぎす
	24	月も笠着ると啼出ス雨蛙	アマガエル	雨蛙
	26	水に米つかせ風にハ鳥追せ	トリ	鳥
	26	狐でも無筆でハなし瓜ばたけ	キツネ	狐
	26	乗かけで来る嫁馬の爪をさし	ウマ	嫁馬
	26	馬がをやして乗兼る田舎嫁	ウマ	馬
	27	水鳥の狂ひ満シ月ゆり崩し	ミズドリ	水鳥
	27	珍らしさ閏三月ほとゞぎす	ホトギス	ほとゞぎす
	27	蛙啼キ止んで待夜のむなさハぎ	カエル	蛙
	29	虫喰ぬみさほを母のゆつり雛	ムシ	虫
	29	蛤と汐吹出すな雛の前	ハマグリ	蛤
	30	雁の面雲井に乱す十三羽	カリ	雁
	30	蒼海の手しほて育ッ小蛤	ハマグリ	小蛤
	31	身を尽す禿のまぶハ鼠なり	ネズミ	鼠
	32	乳もらひの見るそらハなき時鳥	ホトギス	時鳥
	32	夏ならば常世ハ蚊でもいぶす所	カ	蚊
	32	ないてさへ笑ハバいかにはほとゞぎす	ホトギス	ほとゞぎす
	33	頭を切つて鴨の鉦ふく芹の藁	カモ	鴨
	33	鰻のひらきを友達の娘やき	ボラ	鰻
	35	鯉の背へ客をならべる料理人	コイ	鯉

## 76 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
76	1	齒のぬけたばくく獅子は独り来ル	シシ	獅子
	5	犬の契りに折介ハ時が切レ	イヌ	犬
	5	猫も齒のたゝぬ鼠ハ経をくひ	ネコ	猫
	5	猫も齒のたゝぬ鼠ハ経をくひ	ネズミ	鼠
	5	龍王のさし料になる太刀の魚	リュウ	龍王
	5	龍王のさし料になる太刀の魚	たちウオ	太刀の魚
	6	手の長イ海老が釣師のゑさをとり	エビ	海老
	6	長せりふせつなかつてる馬の足	ウマ	馬
	7	うしの居る所がらとて十八丁	ウシ	うし
	7	丸薬てころげるしやくの虫をとめ	ムシ	しやくの虫
	7	唐の牛三里が間たれる也	ウシ	牛
	8	其魚は潮煮しろと安芸守	サカナ	魚
	8	年寄の武者ハ八嶋で海老になり	エビ	海老
	8	宗盛ハまぐろのやうに扱れ	マグロ	まぐろ
	8	子に灸をすへて山姥里を見せ	ヤマンバ	山姥
	9	猿がねて居ると橋番初手ハいゝ	サル	猿
	10	聞れては儒者もうそむく虎の声	トラ	虎
	10	八畳の座敷狸ふられてる	タヌキ	狸
	12	舞鶴を石垣亀の甲のやう	ツル	鶴
	12	舞鶴を石垣亀の甲のやう	カメ	亀
	12	くやしいといふつらで這ウ平家がに	ヘイケガニ	平家がに
	12	聞た事かいだ事なし河童の屁	カツパ	河童
	14	あふひ坂登れバ茶屋で時鳥	ホトトギス	時鳥
	14	天狗とハあちらこちらの吉田町	テング	天狗
	14	亀の子のおこしに酔た十日の日	カメ	亀
	16	楊枝見せ四五軒笑ふ神馬の屁	ウマ	神馬
	16	宵ハ駕籠今ハ大門馬て出る	ウマ	馬
	17	餌まきの戸水鶏のやうに鶴たゝき	クイナ	水鶏
	17	餌まきの戸水鶏のやうに鶴たゝき	ツル	鶴
	17	寒竹も鯉も江戸でハ骨おらず	コイ	鯉
	18	其内で十七人は鶴をくひ	ツル	鶴
	18	両眼は氷やぶつた魚があげ	サカナ	魚
	18	鯪といふ晩でござると常世いゝ	フグ	鯪
	18	鳥の町むかし着類の飛んだとこ	トリ	鳥
	19	紅葉傘破れてぞ鹿の包紙	シカ	鹿
	20	白妙の中をかすかに鯪やく	フグ	鯪
	20	狼の高枕する麴町	オオカミ	狼
	20	十月のひるねハ猫と夜そば売	ネコ	猫
	21	顔見世に顔を見せぬハ馬のあし	ウマ	馬
	21	雪ふれバむく鳥江戸へ喰に出る	ムクドリ	むく鳥
	21	初雪に取出す箕ハ鼠の巢	ネズミ	鼠
	22	さるの暁夜なへハ熊手売斗り	サル	さる
	23	三ツの猿教へ守れハ直くな道	サル	猿
	23	目や口へ塩がしみると猿おさへ	サル	猿
	23	三ツに猿一ツハゆるせ花ざかり	サル	猿
	24	庚申の日にハ蛤ほうれぬなり	ハマグリ	蛤
	24	正直象の頭に神やどる	ゾウ	象
	24	啼鹿の我身につみて義婦か歌	シカ	鹿
	25	狐来て猫なで声で狸さん	キツネ	狐

	25	狐来て猫なで声で狸さん	タヌキ	狸
	25	またくらの毛物狼よりこハシ	オオカミ	狼
	25	山の奥にも馬の啼秦の御代	ウマ	馬
	25	御膝脇金銀の猫居所	ネコ	猫
	26	熊手下ッ息子ハ犬に朝かへり	イヌ	犬
	26	馬の足出世をすと首がとび	ウマ	馬
	26	枝六つ下りてとまる鳩の孫	ハト	鳩
	26	はんくわの地鳥を追にもしたんさほ	トリ	地鳥
	27	宇治のたか東の鶴ハをりのぼり	タカ	たか
	27	宇治のたか東の鶴ハをりのぼり	ツル	鶴
	28	天に口あり鳥鳴さとり下女	カラス	鳥
	28	蛤ハ千鳥茄子ひハ鳴となり	ハマグリ	蛤
	28	蛤ハ千鳥茄子ひハ鳴となり	シギ	鷺
	28	家内留守犬の足跡梅の花	イヌ	犬
	28	摺子木て何の鳥だか二羽たゞき	トリ	鳥
	29	亀戸へ蝶のむらかる初卯ノ日	チョウ	蝶
	29	芝海老を飾りに遣ふ小人しま	シバエビ	芝海老
	30	松の内鼠も赤イ帯をメ	ネズミ	鼠
	30	お厩を出るとお猿とついな顔	サル	猿
	31	すゞはらひ水牛ころげて主知れず	スイギュウ	水牛
	32	鯨で中仕切する長イ町	シャチホコ	鯨
	32	狐つきとんちの医師が犬のふん	イヌ	犬
	32	白くぬる後家に番頭黒鼠	クロネズミ	黒鼠
	32	白鼠旦那が死ぬと黒鼠	シロネズミ	白鼠
	32	白鼠旦那が死ぬと黒鼠	クロネズミ	黒鼠
	33	赤兎馬に七日乗るのではね付る	ウマ	赤兎馬
	33	桜田に駒のいなゞく初登城	ウマ	駒
	35	冨ヶ岡鳩はあひるを笑ッてる	ハト	鳩
	35	冨ヶ岡鳩はあひるを笑ッてる	アヒル	あひる
	35	猫背中ろの字のなりにかしこまり	ネコ	猫
	35	雀さへよむに愚鈍な坊主也	スズメ	雀

## 79 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
79	1	請出して見れば屋間の蛩なり	ホタル	蛩
	1	馬道で聳只一騎引かへし	ウマ	馬
	3	かごの鳥どうしんせうと鳴て居る	トリ	鳥
	3	うなぎの油てうちんがよくとぼり	ウナギ	うなぎ
	4	白皮へしぐれはまぐりけんじかへ	ハマグリ	はまぐり
	4	野の道て耳うつりする虫の声	ムシ	虫
	4	鷹狩のあめハ風雅の道しるべ	タカ	鷹
	4	宇治ハ鷹江戸でハ鶴の御献上	タカ	鷹
	4	宇治ハ鷹江戸でハ鶴の御献上	ツル	鶴
	4	だんの浦磯に太刀魚かぶと貝	タチウオ	太刀魚
	4	だんの浦磯に太刀魚かぶと貝	カブトガイ	かぶと貝
	5	馬道を聳唯一騎引かへし	ウマ	馬
	5	藪針医とて藪蚊のさすごとし	カ	蚊
	6	猪小屋へ間夫を引込ム村のぬれ	イノシシ	猪
	6	夕の戸 娘水鶏にまぎらかし	クイナ	水鶏
	7	道草を喰ふのに馬は油断せず	ウマ	馬
	8	月ペリがすると兎も最ふつかず	ウサギ	兎
	10	けしの花危く蝶ハ羽を休ム	チョウ	蝶
	11	寒そふに雀ふくれる雪の朝	スズメ	雀
	10	蝶よ花よと見る夢も十九年	チョウ	蝶
	11	虎の尾も臥龍もいとふ春の風	トラ	虎
	12	蓼くわぬ虫て毎ばんお茶を引	ムシ	虫
	12	飯蛸とみゆる禿のちゝれがみ	イイダコ	飯蛸
	13	ふたまたのめかけ猫なで声で化ケ	ネコ	猫
	13	ぼうふらハ蚊にばけふとん蚊屋に化ケ	カ	蚊
	14	茶がまにゆつたかみさんハふる狸	タヌキ	狸
	15	ごろつきて居る内大蛇うち給ふ	ヘビ	蛇
	16	牛と化たる鬼をうる市原野	ウシ	牛
	16	山の芋うなぎに化る百年忌	ウナギ	うなぎ
	16	赤貝にだんく化る小蛤	アカガイ	赤貝
	16	赤貝にだんく化る小蛤	ハマグリ	小蛤
	16	おかしさは狸をばかす油つぎ	タヌキ	狸
	17	地にあらバあひるの鳥と下女誓ひ	アヒル	あひる
	17	地にあらバあひるの鳥と下女誓ひ	トリ	鳥
	17	長つぼね牛をのんでるもゝんぢい	ウシ	牛
	17	虎化して竹から世くへ御継セ	トラ	虎
	17	安徳帝ハ豆蟹に化し給ひ	カニ	蟹
	18	桃の御所ねづみに王妃ほどさハぎ	ネズミ	ねづみ
	18	狸の聳入月が出て雲がふり	タヌキ	狸
	18	お竹がきたで此ごろの犬のやせ	イヌ	犬
	18	牛と化たる鬼をうつ市原野	ウシ	牛
	19	姫の下女ねづみ純子(どんす)を猫じやらし	ネズミ	ねづみ
	19	姫の下女ねづみ純子(どんす)を猫じやらし	ネコ	猫
	20	きん玉を狸夜着にもふとんにも	タヌキ	狸
	20	うなぎの死霊ゑて吉がよみがへり	ウナギ	うなぎ
	20	庵の庭身も反橋でほとゝぎす	ホトトギス	ほとゝぎす
	20	大咄し山をつきぬくほらの貝	ホラノカイ	ほらの貝
	21	蠅壹ツ須磨の盆画に磯千鳥	ハエ	蠅

	21	蠅壺ツ須磨の盆画に磯千鳥	チドリ	磯千鳥
	21	又水鶏めかと待つ夜の御むづかり	クイナ	水鶏
	21	鹿を追ふ漁師も子にハ灸の山	シカ	鹿
	21	泣寝入り背中にとまる飴の鳥	トリ	鳥
	21	鳳凰を買ふに息子は鶯を売り	ホウオウ	鳳凰
	21	鳳凰を買ふに息子は鶯を売り	ワシ	鶯
	21	神躰の八品霊鳥くわえて来	レイチョウ	霊鳥
	22	鶴の子に札をつけてる水くわしや	ツル	鶴
	22	柿つぶて猿蟹の目をとび込ませ	サル	猿
	22	柿つぶて猿蟹の目をとび込ませ	カニ	蟹
	22	鳥が餌をひろふ身で売るこう慶子	トリ	鳥
	22	犀角でやつと持参の面 <small>ヲ</small> になり	サイ	犀
	22	両頭の獅子に羅漢の <small>ニ</small> がわらひ	シシ	獅子
	22	鶺鴒のおしへで知れた鴨の味 <small>ヲ</small>	セキレイ	鶺鴒
	22	鶺鴒のおしへで知れた鴨の味 <small>ヲ</small>	カモ	鴨
	22	聖人の夢には熊に羽根が有り	クマ	熊
	22	大当り御免の日数霍が舞	ツル	霍
	22	弘前の牡丹は霍の気にあはず	ツル	霍
	22	白頭の鳥がかへすつばめの子	カラス	鳥
	22	白頭の鳥がかへすつばめの子	ツバメ	つばめ
	22	戸張する姫舞霍を見つけ出し	ツル	霍
	23	犬骨を折らせ高時見物し	イヌ	犬
	23	鎌倉時代浅草へ遠馬なり	ウマ	馬
	23	忠臣にかけても強い鳥のすね	トリ	鳥
	23	裏に出す文も伝受のよふこ鳥	ヨブコドリ	よふこ鳥
	23	白鷺の中に鳥の奥家老	シラサギ	白鷺
	23	白鷺の中に鳥の奥家老	カラス	鳥
	23	只には通さぬはづなれど鶏の声	ニワトリ	鶏
	23	たがかぞへたか山王の猿の数	サル	猿
	24	正法のふしぎ狐の渡りそめ	キツネ	狐
	24	むじなの風に合づりハ狐なり	ムジナ	むじな
	24	むじなの風に合づりハ狐なり	キツネ	狐
	24	窮鳥はふところねらふ紋日まへ	トリ	鳥
	24	そりや猫といふ間焼物九人前	ネコ	猫
	24	鶏の啼頃やつと来て一 <small>ト</small> 番	ニワトリ	鶏
	24	伯母の目をぬすんで鴨のつまみ喰	カモ	鴨
	25	山鳩は賊が手業の冥加也	ヤマバト	山鳩
	25	のつきつた筆意屏風へ馬の沓	ウマ	馬
	25	猿にふくろをかぶせたハ新左工門	サル	猿
	25	趙高が劔をかけとく馬の角	ウマ	馬
	25	越後の虎ハ青竹を杖につき	トラ	虎
	25	正法のふしぎきつねのわたり初 <small>メ</small>	キツネ	きつね
	25	忠くとすゝめかんずる雪の朝	スズメ	すずめ
	26	平家の栄花ひよ鳥の声でさめ	ヒヨドリ	ひよ鳥
	26	うせた金猿のつら迄をしてみる	サル	猿
	26	四十雀老會の森へとんでゆき	スズメ	雀
	26	かなめ石ゆるんだ頃に雉子のこゑ	キジ	雉子
	26	象くしやみふげんぼさつをはねおとし	ゾウ	象
	26	ほととぎす大名風に子をそだて	ホトトギス	ほととぎす
	26	虎の子の小屋は唐子がよつてたて	トラ	虎
	27	いわしやを又引て来る猫の臍	イワシ	いわし

	27	いわしやを又引て来る猫の臍	ネコ	猫
	27	女猫ある鍛冶やハすてぬみかん籠	ネコ	猫
	27	には鳥と獅子の間が角兵衛なり	ニワトリ	には鳥
	27	には鳥と獅子の間が角兵衛なり	シシ	獅子
	27	鳥が餌をひらふ身でうるか慶子	トリ	鳥
	27	門番へ貳百は鳥のそらね也	トリ	鳥
	27	面倒な猿にしてをけ路次の鍵	サル	猿
	27	蓑を喰ってしかられる目くら馬	ウマ	馬
	27	これもゑん夜鷹になじむ屋とんび	ヨタカ	夜鷹
	27	これもゑん夜鷹になじむ屋とんび	トンビ	とんび
	27	泥坊をかいだばかりでぶたハねる	ブタ	ぶた
	27	両頭の獅子に羅漢ののが笑ひ	シシ	獅子
	27	鳳凰はわが手わが手をむしる也	ホウオウ	鳳凰
	27	鍋釜の尻をむじなの尻で直し	ムジナ	むじな
	27	鹿の居ぬ紅葉ハ山のめうが也	シカ	鹿
	29	鳥ハさておきにごろぬハ名にめで	トリ	鳥
	29	駒形でたつた一声ほとゝぎす	ホトトギス	ほとゝぎす
	29	寝むい眼を千鳥で覚す袖ヶ浦	チドリ	千鳥
	29	ほしほどに天文原に飛ぶほたる	ホタル	ほたる
	29	駒とめた石は東都のまつらかた	コマ	駒
	30	鸞替へハ萩より女房油断せず	ウソ	鸞
	31	本阿弥もかまわぬ鯖ハ鮎斗ッ	アユ	鮎
	31	道草を喰ず馬道いそいでく	ウマ	馬
	32	霍のまふ下に竹橋ときハ橋	ツル	霍
	32	ほしほどに天文原を飛ッほたる	ホタル	ほたる
	32	本阿弥もかまハぬ鯖は鮎ばかり	アユ	鮎
	32	鸞替は萩より女房ゆだんせず	ウソ	鸞
	33	釣上ッるよふに蛙と糸柳	カエル	蛙
	34	龍宮の飛脚に走る飛の魚	トビウオ	飛の魚
	34	其頃に蟹をバ喰ぬ下モの関	カニ	蟹
	35	馬も引出ス牛込のたんす町	ウマ	馬
	35	龍宮の飛脚に走る飛トの魚	トビウオ	飛トの魚
	35	月花を両羽根にもつ時鳥	ホトトギス	時鳥
	35	鳳凰の羽音に千鳥目を覚し	ホウオウ	鳳凰
	35	鳳凰の羽音に千鳥目を覚し	チドリ	千鳥
	37	髭て蠅追ッ唐人のじんきよ也	ハエ	蠅

## 82 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
82	序	世の人を助けに廻ル卵と烏	ウサギ	卵
	序	世の人を助けに廻ル卵と烏	カラス	烏
	1	のみよりも蚊にハこまると車胤いゝ	ノミ	のみ
	1	のみよりも蚊にハこまると車胤いゝ	カ	蚊
	2	ぬくめ鳥一夜の恩もその日限リ	トリ	鳥
	2	いゝまだと猫の引だす車ゑび	ネコ	猫
	2	いゝまだと猫の引だす車ゑび	クルマエビ	車ゑび
	3	人肌で氷の解る鯉と恋	コイ	鯉
	3	そこに蚊ハいないと火そくひつたくり	カ	蚊
	4	栗ハ笑み鹿は啼てる秋の山	シカ	鹿
	5	御安産馬の耳にも風をきり	ウマ	馬
	5	鹿の声聞心にハ角はなし	シカ	鹿
	6	甲斐犬にくわれそこなふ雀の子	カイヌ	甲斐犬
	6	甲斐犬にくわれそこなふ雀の子	スズメ	雀
	6	足がらで熊を投しも御意に入り	クマ	熊
	6	魚と役者の親玉ハ目玉なり	サカナ	魚
	7	松虫のしらべも嵯峨で鉦たゝき	マツムシ	松虫
	7	松虫のしらべも嵯峨で鉦たゝき	カネタタキ	鉦たゝき
	7	吾妻にて見ればかすかな都鳥	ミヤコドリ	都鳥
	7	袖が子の無礼を鳩ハ笑つてる	ハト	鳩
	8	耳ほつたてる勧学の雀ツ子	スズメ	雀ツ子
	8	いゝ姑わが身を守る三ツの猿	サル	猿
	8	鳥や鳩を誉られるつらい事	カラス	鳥
	8	鳥や鳩を誉られるつらい事	ハト	鳩
	8	お忍びの夜は蜘蛛までがかへ名也	クモ	蜘蛛
	9	皿の月隠すさし身の松の魚	カツオ	松の魚
	10	蜘蛛が下りたら読よふか下女が文	クモ	蜘蛛
	10	夫婦別あり鷹と成りぎうと成り	タカ	鷹
	11	頓ンだ事鼠が三日てんになり	ネズミ	鼠
	11	飛 <small>ト</small> 出さぬやうに蝶く祝ひ附 <small>ケ</small>	チョウ	蝶く
	11	合戦ハ虫に譲つて茶に暮し	ムシ	虫
	12	乙姫は蟹の鉗で爪をとり	カニ	蟹
	13	夜構から犬のほへつく猿胴着	イヌ	犬
	13	夜構から犬のほへつく猿胴着	サル	猿
	13	引込んだかつば二文で尻を吞セ	カツパ	かつば
	14	妻を乞ふ鹿に寝兼る嵯峨の奥	シカ	鹿
	14	鮮 <small>ニ</small> 鯨のつく城わたし	シャチホコ	鯨
	15	いゝ魚だみねへと尻を出して見せ	サカナ	魚
	16	秋風に声もさびつくつわむし	クツワムシ	くつわむし
	16	かつほより秋はさしみの一きわだ	カツオ	かつほ
	18	腰縄で昏 <small>ニ</small> 闇へ行智慧の蟻	アリ	蟻
	18	利休が庵に小夜更て茶立 <small>ニ</small> 虫	チャタテムシ	茶立 <small>ニ</small> 虫
	19	さび鮎を下女帷子と早合点	アユ	さび鮎
	20	蓑虫も鳴はづ月も笠を召 <small>シ</small>	ミノムシ	蓑虫
	20	蛤を桑名此頃生 <small>マ</small> で売	ハマグリ	蛤
	21	相槌に来る狐ハ天からか	キツネ	狐
	21	天罰と身ハしらなみに啼千鳥	チドリ	千鳥
	22	春べりハ十六夜から兎いひ	ウサギ	兎
	22	賢人が出来ぬと藪蚊やせて見へ	ヤブカ	藪蚊



	23	御鷹所の廻り一村かんこ鳥	カッコウ	かんこ鳥
	23	蛙迄艸へ手をつく芭蕉塚	カエル	蛙
	23	紅毛の字をよだれんて牛ハかき	ウシ	牛
	23	藍瓶へ落て鼠の色をあげ	ネズミ	鼠
	24	赤にしの子を持ち親に癩ハなし	アカニシ	赤にし
	24	其とうざ鶴てかゞやく金亀山	ツル	鶴
	25	目の明も鳥のなくのも和歌の徳	トリ	鳥
	26	猿の宮しりハ赤坂やつこ也	サル	猿
	26	しんくと利休の耳に茶たて虫	チャタテムシ	茶たて虫
	26	河岸といふはづ鯪も有蜻も有り	フグ	鯪
	26	河岸といふはづ鯪も有蜻も有り	タコ	蜻
	27	釣り上った魚も投出す赦免状	サカナ	魚
	28	猪に乗りそふな牡丹花牛=乗り	イノシシ	猪
	28	猪に乗りそふな牡丹花牛=乗り	ウシ	牛
	30	鳩が二羽額に弓矢の御一文	ハト	鳩
	30	箕虫ハ笠を忘れた姿なり	ミノムシ	箕虫
	30	見言はず聞す三疋四国猿	サル	猿
	30	機嫌よきとき八角出すかたづむり	カタツムリ	かたづむり
	32	天草を喰名馬にハ乳母がのり	ウマ	名馬
	33	一朱判家鷺脚絆の釣を出し	アヒル	家鷺
	34	黒鴨と家鴨をつれるいゝ羽白	クロガモ	黒鴨
	34	黒鴨と家鴨をつれるいゝ羽白	アヒル	家鴨
	34	黒鴨と家鴨をつれるいゝ羽白	ハジロ	羽白
	35	馬の字ハ跨ッて書く御右筆	ウマ	馬
	35	蚊の喰ぬ所ハろせい顔斗り	カ	蚊
	37	桑原で聞バ恐ろし雉子の声	キジ	雉子
	38	御代ゆたか駱駝くと繁昌し	ラクダ	駱駝
	38	らくだとハ此事喰て寝る斗り	ラクダ	らくだ
	39	馬でもやられずと婚礼延す也	ウマ	馬

## 89 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
89	序	蝶の寄る燈火の花も菜種也	チョウ	蝶
	1	鳴鹿で角突合のつのが折れ	シカ	鹿
	1	樹とならん鳥とならんと魚と水	トリ	鳥
	1	樹とならん鳥とならんと魚と水	サカナ	魚
	1	鳳凰のやうにきり戸のしたれ萩	ホウオウ	鳳凰
	2	手習ハ蚯蚓ハツから土ほじり	ミミズ	蚯蚓
	4	鳳凰の足跡からも文字か出来	ホウオウ	鳳凰
	4	初雁ハまだ引足らぬ琴の峯	カリ	初雁
	5	くら替も籠から籠へ籠の鳥	トリ	鳥
	5	よく化す狐兎も苦にならず	キツネ	狐
	5	よく化す狐兎も苦にならず	ウサギ	兎
	6	天狗の産着丸むきの鶯の皮	テング	天狗
	6	天狗の産着丸むきの鶯の皮	トンビ	鶯
	6	おばさまの部屋へお犬に娘上ケ	イヌ	犬
	7	お祭りに牛を引出す長つぼね	ウシ	牛
	7	骨も身もひとつに成よ鴨の味	カモ	鴨
	8	老ぬれど麒麟にもなを増する小レ弟	キリン	麒麟
	10	銭亀に浦島に乗る小人島	ゼニガメ	銭亀
	10	脇差の鮫を嘗れバツ吹き	サメ	鮫
	10	ぶどう籠塩をおろした戻り馬	ウマ	戻馬
	10	天狗の音楽こまつてる簫の笛	テング	天狗
	11	荒馬もころりと蚤に負	ウマ	荒馬
	11	荒馬もころりと蚤に負	ノミ	蚤
	11	女河童ハ柳葉などを腰へ巻	カッパ	女河童
	12	極ずいのたわけ地虫を釣ている	ジムシ	地虫
	12	遣り手の綾いく度取ても猫又	ネコマタ	猫又
	12	黒犬の昇殿をする御不勝手	イヌ	黒犬
	12	小人鳶へびの玉子で鞠稽古	ヘビ	蛇
	12	牛で夜軍木曾殿と長局	ウシ	牛
	13	芭蕉葉の文鎮かるし蝸牛	カタツムリ	蝸牛
	14	大小の鰐ハ日月鮫ハ星	サメ	鮫
	15	河童の食傷おかわへ尿を吐	カッパ	河童
	16	猫の齒ハ立ぬ御国の鯉ぶし	ネコ	猫
	18	龍宮の盛り場蟹が屋とんび	カニ	蟹
	18	唐の居酒屋ねき豕で矢大臣	ブタ	豕
	19	放れ馬いざり討死する覚悟	ウマ	放れ馬
	20	水鳥を恋路の的に生田川	ミズドリ	水鳥
	21	鷺のうへに蛙ハたゝん事	サギ	鷺
	21	鷺のうへに蛙ハたゝん事	カエル	蛙
	22	懐手ふところ足で亀屋寝	カメ	亀
	23	芳町の起請熊野でとんび死	トンビ	とんび
	23	初ざんま春屋半てんぶち殺シ	サンマ	初ざんま
	24	湯屋の赤貝覗てるさるぼうめ	アカガイ	赤貝
	24	ぢゝいの天狗花までがぶふにやぐにや	テング	天狗
	24	懐にいけまじくと馬の屎	ウマ	馬
	24	衣通りハお馬の時を苦勞がり	ウマ	馬
	24	鬼ヶ島小便で犬度々おくれ	イヌ	犬
25乙		巢ごもりの鶴竹になく一子月寺	ツル	鶴
	26	出棺の跡縹緋の猫赦免	ネコ	猫

	27	陰中の陰律院のかんこ鳥	カンコドリ	カッコウ
	27	御陵の松に来てなくかんこ鳥	カンコドリ	カッコウ
	28	遺言に牛が三疋すでの事	ウシ	牛
	28	角落て鹿も坊主の興福寺	シカ	鹿
	29	アノ鐘へ隠したらうと蛇すゐ也	ヘビ	蛇
	29	いわし煮た鍋でかたみのくじら帯	イワシ	いわし
	31	狼に衣妾の御院号	オオカミ	狼
	31	友達の日をおもひ出す初松魚	カツオ	初松魚
	32	猫の魔がさして息子は踊る也	ネコ	猫
	32	吊を見て初松魚の直が出来る	カツオ	初松魚
	36	院号の付た天狗は雲の上	テング	天狗
	36	小仏におけづまつきやんな甲斐の駒	ウマ	駒
	37	猿の綿ぬいてあわしま着物にし	サル	猿
	37	つまづいて犬にほうしやの送り膳	イヌ	犬
	38	新豆のとうふは寺の初松魚	カツオ	初松魚
	39	白ツ子を産んで猩々泣てゐる	ショウジョウ	猩々
	39	藜堂ほどに出来たハ犬の小屋	イヌ	犬
	39	うかと時宜ならぬ河童と福祿寿	カッパ	河童
	40	薄命の胡蝶身なげの油さし	チョウ	胡蝶
	41	ほととぎすころしてなけ手向時	ホトトギス	ほととぎす
	41	蝉もなけ夏の柳を手向草	セミ	蝉

## 92 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
92	1	鉄ほう垣もおそれずに兜むし	カブトムシ	兜むし
	1	待 <sup>テ</sup> と来ず蚊の生贄に備へられ	カ	蚊
	3	鸞鳥へ神酒を備へるぬり担子	ウソ	鸞鳥
	3	巢をかけて芒をからむ女郎蜘蛛	ジョロウグモ	女郎蜘蛛
	3	張貫の月蜘蛛の巢の絶間より	クモ	蜘蛛
	4	青鷺と化すハ五位の安茶わん	アオサギ	青鷺
	4	おいらんがいつちよくな <sup>ク</sup> 轡虫	クツワムシ	轡虫
	4	鹿でなし駱駝でもなし佐野の馬	シカ	鹿
	4	鹿でなし駱駝でもなし佐野の馬	ラクダ	駱駝
	4	鹿でなし駱駝でもなし佐野の馬	ウマ	馬
	4	八百膳の寮へおいでも江戸狐	キツネ	狐
	5	常盤町ゆく猪牙の臍い雁のこゑ	カリ	雁
	5	狐に化され中田甫度々通り	キツネ	狐
	5	獅子身 <sup>ン</sup> 中を火鉢か <sup>ト</sup> 下女おもひ	シシ	獅子
	6	鶴と号してうくひすを献上し	ツル	鶴
	6	鶴と号してうくひすを献上し	ウグイス	うくひす
	6	可愛子を叩てにくひ蚊をころし	カ	蚊
	7	作者でも鶴ハ小がねの札が付 <sup>キ</sup>	ツル	鶴
	7	包丁でまぐろの土手へ棹を入レ	マグロ	まぐろ
	7	鶉一 <sup>ハ</sup> 群鳥から支度なり	ウズラ	鶉
	7	鶉一 <sup>ハ</sup> 群鳥から支度なり	カラス	鳥
	7	枝豆とうさぎ八月を見てはねる	ウサギ	うさぎ
	8	山水天狗のしこしの山に住ミ	テング	天狗
	9	蚊にならぬ棒ふりやはりさした人	カ	蚊
	9	桃ならて牛に尊とき梅の御衣	ウシ	牛
	10	虫気づく稲とりあげにほねがをれ	ムシ	虫
	11	吉原すゞめ <sup>チヨック</sup> と笹の雪	スズメ	すゞめ
	12	このしろの首数をとる蛇の目鮓	コノシロ	このしろ
	13	羊どろ坊とつさんだく	ヒツジ	羊
	13	頬白にぬつた夜鷹ハ四十から	ホオジロ	頬白
	13	頬白にぬつた夜鷹ハ四十から	ヨタカ	夜鷹
	13	頬白にぬつた夜鷹ハ四十から	シジュウカラ	四十から
	13	柴折して行犬とこぞでハぶたれ	イヌ	犬
	13	かへる所をしらんとて馬を附 <sup>ケ</sup>	ウマ	馬
	13	羊どろ坊とつさんだく	ヒツジ	羊
	15	きく岡ハねこにかぶせる紙 <sup>ン</sup> ぶくろ	ネコ	ねこ
	16	はしり馬かゝる山ちでけつまずき	ウマ	はしり馬
	16	ちく生野良又馬をつれかへり	ウマ	馬
	17	もみち傘やぶれて鹿のつみ紙	シカ	鹿
	18	そこが廓ふぐても人をよく殺し	フグ	ふぐ
	18	憚も恐ず彦三鶴をほめ	ツル	鶴
	20	時分がら海老水引のたすきがけ	エビ	海老
	20	鼠算ちうぐくでかぞへてる	ネズミ	鼠算
	21	間男とぐるにやアでいる猫あがり	ネコ	猫
	21	蜀紅の床へアイ引と千鳥くる	チドリ	千鳥
	23	蝙蝠ハ菜漬のやうな羽根で飛 <sup>ト</sup>	コウモリ	蝙蝠
	23	穴熊をねらい巨燵の山を越 <sup>シ</sup>	アナグマ	穴熊
	24	腰をもむうち馬の喰ふ女郎花	ウマ	馬
	24	寒苦鳥和名を聞 <sup>ケ</sup> ばくるし雁	カンクチョウ	寒苦鳥

	24	寒苦鳥和名を聞ケばくるし雁	カリ	雁
	26	牡丹灯笼門へ出し猪を売	イノシシ	猪
	26	龍婦す剣もひそまる法恩寺	リュウ	龍
	26	相鎚に拍子の狂ふ犬の声	イヌ	犬
	27	観音の置狸の赤子なり	タヌキ	狸
	27	馬上でハ傭を廻る女武者	ウマ	馬
	27	声有てかたちのしれぬ雪の鷺	サギ	鷺
	28	鳥の子を十ッ十八苞玉子	トリ	鳥
	28	背びらきの鰻に寝る夜の面白さ	ボラ	鰻
	29	賑かな狐片腕しられる	キツネ	狐
	30	鐘四ッも鯨の四ッも聞つらさ	クジラ	鯨
	30	ひやうきんな男の腕に鰻命	フグ	鰻
	30	猿利口では伝授せぬ呼子鳥	ヨブコドリ	呼子鳥
	31	けし炭を五爪の龍の手で抓み	リュウ	龍
	32	燕に夜明けを白頭の鳥つけ	ツバメ	燕
	32	燕に夜明けを白頭の鳥つけ	カラス	鳥
	32	袖の蜂さすが継母のはかりこと	ハチ	蜂
	33	たゝかひの為に毛虱放火され	ケジラミ	毛虱
	33	危さハ鳩豊さハ鶴の頃	ハト	鳩
	33	危さハ鳩豊さハ鶴の頃	ツル	鶴
	34	禿にハ負じと鶴を干はなし	ツル	鶴
	35	妾がたこ兄に糸目を付てひき	タコ	たこ
	35	鳥ハおしへ虫ハ地球の囀に残り	トリ	鳥
	35	鳥ハおしへ虫ハ地球の囀に残り	ムシ	虫
	36	三綱で意馬心猿をつなぎ留	ウマ	馬
	36	三綱で意馬心猿をつなぎ留	サル	猿
	37	鶴のはし鳶ハ長しとせずつかひ	ツル	鶴
	37	鶴のはし鳶ハ長しとせずつかひ	トンビ	鳶
	37	送り船そこか狼女郎なり	オオカミ	狼
	38	つれくの欺しそくない犬と馬	イヌ	犬
	38	つれくの欺しそくない犬と馬	ウマ	馬
	39	花見ごろ西行庵へ小屋の猫	ネコ	猫

## 97 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
97	1	石垣を登る亀の子ぬき衣紋	カメ	亀
	2	江戸の水三馬玉川猪の頭	ウマ	馬
	2	江戸の水三馬玉川猪の頭	イノシシ	猪
	2	鳩烏をし鳥嫁の三伝授	ハト	鳩
	2	鳩烏をし鳥嫁の三伝授	カラス	烏
	2	鳩烏をし鳥嫁の三伝授	オシドリ	をし鳥
	3	きせるがなんぼ出来 <sup>ベイヤ</sup> 此猫で	ネコ	猫
	3	鍵よ馬よと草市に時のこゑ	ウマ	馬
	3	月毎に巴ハかげの馬に乗り	ウマ	馬
	4	提灯はじれつてへよと夜鷹言ヒ	ヨタカ	夜鷹
	5	置つぎじや呑 <sup>ぬ</sup> めと大蛇初手ハしやれ	ヘビ	大蛇
	5	もの言へバ皆口あけるつばめの子	ツバメ	つばめ
	5	鴨焼をのがれ仏の馬に成り	ウマ	馬
	6	牛の背に官位ハ重き権の帥	ウシ	牛
	7	生た目も抜のは馬のくされ市	ウマ	馬
	7	負背中立つてかみ合猫げんくわ	ネコ	猫
	7	そつ首を烏賊ハ牽丸までぬかれ	イカ	烏賊
	7	工面のいゝ蛸あたまツぷくれなり	タコ	蛸
	8	鳳の御代桐て万民高まくら	ホウオウ	鳳
	8	鳳は桐松には鷹の御座所	ホウオウ	鳳
	8	鳳は桐松には鷹の御座所	タカ	鷹
	8	勝れたる道に動かぬ二蛇の橋	ヘビ	蛇
	8	恐ある御忌を鱒裂く指て折	アジ	鱒
	9	犬と書文字も清水も弓の徳	イヌ	犬
	10	落泪数行照君ハ胡馬に乗り	コバ	胡馬
	10	飛出した鳩で三土のご相談	ハト	鳩
	10	孝行の橋がいすかのはしとなり	イスカ	いすか
	10	九鳥は御難十ぶん鶴の頃	トリ	九鳥
	10	九鳥は御難十ぶん鶴の頃	ツル	鶴
	11	鯪から潮の間 <sup>い</sup> が二十年	シャチホコ	鯪
	11	窮鼠かへつて猫をはむくわりん胴	ネズミ	窮鼠
	11	窮鼠かへつて猫をはむくわりん胴	ネコ	猫
	12	我朝の知恵を引出す蟻の道	アリ	蟻
	12	藪鶯とあなどつて梅を出し	ウグイス	藪鶯
12	遺勅の誉れ鶯に八重ざくら	ウグイス	鶯	
12	丸角の蔵にもひそむ五爪龍	リュウ	五爪龍	
12	さしもしらじな蛤になるふとは	ハマグリ	蛤	
13	読かけし胡蝶の巻を夢の苦	チョウ	胡蝶	
14	陸へ恐れ多くも鳥の糞	トリ	鳥	
14	鼠日はかられたるか升落し	ネズミ	鼠	
15	二ツ子の魂金魚をつかみ出し	キンギョ	金魚	
15	蟻の戸渡り這て行逆の峯	アリ	蟻	
16	左迂の曆に雁やほとゝぎす	カリ	雁	
16	左迂の曆に雁やほとゝぎす	ホトギス	ほとゝぎす	
16	さすらひの曆に雁やほとゝぎす	カリ	雁	
16	さすらひの曆に雁やほとゝぎす	ホトギス	ほとゝぎす	
16	呼子鳥親方首尾ハなとゝ啼	ヨブコドリ	呼子鳥	
17	稲光り夜たかの皺を一寸見せ	ヨタカ	夜たか	
18	淋病の薬り馬にも乗って見ろ	ウマ	馬	

	18	白魚と虱臍腑がすき通り	シラウオ	白魚
	18	白魚と虱臍腑がすき通り	シラミ	虱
	18	尾鱗有ル男鯨見てそだち	シャチホコ	鯨
	19	合槌に出る番新も古ル狐	キツネ	古狐
	19	えほし魚いくらくらいでめされ候	カツオ	えほし魚
	20	蛭をあつめむし売ハ銭をよみ	ホタル	蛭
	21	青柳へ寄る蝙蝠の羽織連	コウモリ	蝙蝠
	21	美しい狐が人に尾を出させ	キツネ	狐
	21	へんな時蛙の鳴た村芝居	カエル	蛙
	22	唐人の悪事ハ虎とかけつくら	トラ	虎
	22	河童空腹屎船へ飛上り	カッパ	河童
	23	御太鼓の音に羽をのす巴鴨	トモエガモ	巴鴨
	24	名乗りの焼印のつ切た馬の意趣	ウマ	馬
	24	其武勇的を鮑のやうに打	アワビ	鮑
	25	堅しまの道だと蟹ハ子を叱り	カニ	蟹
	25	松の鱸を出したのも左慈加減	スズキ	鱸
	25	松宵にさしこむ癩が下り蜘蛛	クモ	蜘蛛
	26	蟹の腹形り越中の後 <sub>コ</sub> 向 <sub>キ</sub>	カニ	蟹
	27	足跡で鷺と烏の道が知レ	サギ	鷺
	27	足跡で鷺と烏の道が知レ	カラス	烏
	27	ひまゆく駒にありたきハ帰る鞭	ウマ	駒
	27	長鯨の猪牙を呑か <sub>ト</sub> と高瀬舟	クジラ	長鯨
	28	ともし火で鹿とも見えぬ内に起 <sub>キ</sub>	シカ	鹿
	28	蠅をうつへらも末世に名を残 <sub>シ</sub>	ハエ	蠅
	29	蛭の尻で読 <sub>メ</sub> 兼るかしら書	ホタル	蛭
	29	初松魚より初牡丹羽根か生え	カツオ	初松魚
	30	稲負背より曲鳥と名付たし	トリ	稲負背
	32	堪忍の虫をころすハ罪でなし	ムシ	虫
	33	鶴もしやれ背中をだしてのんなせへ	ツル	鶴
	34	魚死が出来て鯨の大喧嘩	サカナ	魚
	34	魚死が出来て鯨の大喧嘩	クジラ	鯨
	34	面部ともはゞからす蠅めがつるみ	ハエ	蠅
	35	吉原野牛は心に角をもち	ウシ	牛
	35	血の道も治る御代の鶴の功	ツル	鶴
	36	化物に狐狸くとする無ちや修行	キツネ	狐
	36	化物に狐狸くとする無ちや修行	タヌキ	狸
	36	どうしても泣 <sub>ク</sub> のが売 <sub>ル</sub> 籠の鳥	トリ	鳥
	37	古戦場馬おひ虫に鑢 <sub>ン</sub> ほう	ウマオイ	馬おひ虫
	37	水入の鶏も巢につくハ下り	ニワトリ	鶏
	38	かんしやくの虫ハ額へ這 <sub>ツ</sub> て出る	ムシ	虫
	38	しんじうの虫いもりさと知 <sub>ツ</sub> たふり	ムシ	虫
	38	婚礼を御馬て延 <sub>ス</sub> 使者に行	ウマ	御馬

## 106 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
106	1	蛙なく見れば名のたつ沢もなし	カエル	蛙
	1	お猿がお守りで渡天する三蔵主	サル	お猿
	2	沢蟹ハどくろの目から鼻へぬけ	サワカニ	沢蟹
	2	木曾殿ハ田螺平家ハ蟹と化シ	タニシ	田螺
	2	木曾殿ハ田螺平家ハ蟹と化シ	カニ	蟹
	4	おろち程棺の瓶に龍頭ヲ	ヘビ	おろち
	4	蚊屋つり草に広く寝る虫の後家	ムシ	虫
	4	狼の反吐へ雲水回向をし	オオカミ	狼
	4	流れくわんじやう腹へはる小荷駄馬	ウマ	小荷駄馬
	6	蝶こゝにあらずや法りの花筵	チョウ	蝶
	7	海老喰ふと聞ヶハ恐シテ和尚	エビ	海老
	7	湯かん場の反吐ハいせやか時鳥	ホトトギス	時鳥
	8	客人の寝はん座敷の猫を下ヶ	ネコ	猫
	8	虹の経よむハ障子のさかひなり	アブ	虹
	8	和尚ちへ匏へ土砂を掛るとハ	アワビ	匏
	10	魚をたゝいて精進の門へたち	サカナ	魚
	11	虎の皮はいで祐成度々かよひ	トラ	虎
	11	鯛煮た鍋へかたみの鯨帯	イワシ	鯛
	12	牛で毛まんを撫て見る長局	ウシ	牛
	12	下女枕蚤や虱のされかうべ	ノミ	蚤
	12	下女枕蚤や虱のされかうべ	シラミ	虱
	15	御霊廟住鳥さへも孝と慈悲	トリ	鳥
	16	碁の時分蜘蛛天上に這てゐる	クモ	蜘蛛
	17	かわずの子四郎五郎に生捕られ	カエル	かわず
	17	東門の開キ牝蝶ハ手を招キ	チョウ	蝶
	18	たる事をしらず蜻だに六あみだ	タコ	蜻
	19	蝶一ツ花に浮世を跡となし	チョウ	蝶
	20	三羽でも一羽でも鴛鴦あはれ也	オシドリ	鴛鴦
	20	塔を組蟻浄蔵を見て笑ひ	アリ	蟻
	20	お猿が守りで渡天する三蔵王	サル	猿
	20	まぼろしの世は今さめて夢の蝶	チョウ	蝶
	20	狢も鈴とられる奥の物さびし	チン	狢
	21	善を知る鳥ハ平砂へ入定し	トリ	鳥
	21	飛込んで火屋に胡蝶の知死期時	チョウ	胡蝶
	21	蓮のうれなにはがくれし蝶一ツ	チョウ	蝶
	21	蟹の足ほど太刀をさす金輪寺	カニ	蟹
	22	在世ならさぞと泣せるはつ鯉	カツオ	はつ鯉
	22	蟬がなきますと石碑へいとま乞	セミ	蟬
	22	世にあればなぐさむ鳥を死出ノ山	トリ	鳥
	23	帰命頂礼蛇の反吐でこりとり	ヘビ	蛇
	23	雨龍が死ンでとかげが施主に立ち	リュウ	雨龍
	23	雨龍が死ンでとかげが施主に立ち	トカゲ	とかげ
	23	神さげ虫をせいばいハ釈迦破戒	ウジ	神さげ虫
	24	鳥のまさに死んとする時唐からし	トリ	鳥
	24	幽霊と思や人魚の立すがた	ニンギョ	人魚
	25	こいつ蘇鉄と思つたら死んだ馬	ウマ	馬
	25	山寺の時計ハ庭の納め鶏	ニワトリ	納め鶏
	25	しゞみ貝海へかくした二位の尼	シジミ	しゞみ貝
	26	物しらず松魚に殺す袈裟衣	カツオ	松魚



	26	蟹の後家寝起に穴の広 <sup>ッ</sup> 哉	カニ	蟹
	26	羊の反吐をあび給ふ仁王尊	ヒツジ	羊
	27	涅槃像屁っひり虫もないてゐる	ヘヒリムシ	屁っひり虫
	27	花飛で驚く蝶の名残かな	チョウ	蝶
	28	刑鞭の螢政事にやみハなし	ホタル	螢
	28	杣が子の名ハ猿松とよぶ子鳥	サル	猿松
	28	杣が子の名ハ猿松とよぶ子鳥	ヨブコドリ	よぶ子鳥
	29	白黒の馬で宇治川先手後手	ウマ	馬
	29	料理番にがした鳥をあみぢやくし	トリ	鳥
	31	流人蜆 <sup>ッ</sup> 貝でひげをぬき	シジミ	蜆 <sup>ッ</sup> 貝
	32	鳥の名ハ仏法賊ハ数珠つなぎ	トリ	鳥
	32	鯨と大根で尾張味噌をあげ	シャチホコ	鯨
	32	あと足を団扇につこふ夏の馬	ウマ	馬
	32	金時を喰てる熊ハハッ下り	クマ	熊
	32	利根川の鯉ハ武総の珍味なり	コイ	鯉
	33	うさぎほと遠野に雪の消残り	ウサギ	うさぎ
	33	鱧好初手一皿ハ筋むちう	ウナギ	鱧
	33	おしまれて海月にされるいゝ団扇	クラゲ	海月
	33	あくる日ハいざこざきかん都鳥	ミヤコドリ	都鳥
	34	おいしい事壺ハ蛸だ <sup>が</sup> はだ <sup>が</sup> さめ	タコ	蛸
	34	おいしい事壺ハ蛸だ <sup>が</sup> はだ <sup>が</sup> さめ	サメ	さめ
	34	神ハ鳥が囲 <sup>ィ</sup> 入 <sup>レ</sup> ハ雀形	カラス	鳥
	34	御名君臣ハ鯉喰 <sup>ふ</sup> 忠 <sup>ッ</sup> 腹	コイ	鯉
	35	御安産千鳥の声を近く聞	チドリ	千鳥
	36	其後ハ稻田大蛇を丸でのみ	ヘビ	大蛇
	37	鳳凰の凧からみ付きけんとう	ホウオウ	鳳凰
	37	山鳥ハ寝て詠嶋ハ起て詠	ヤマドリ	山鳥
	38	鸞の売初亀井戸と息子出る	ウソ	鸞
	38	襟元の浮世と虱喰 <sup>ら</sup> つてる	シラミ	虱
	39	天へゆび松の御膝に眠る猿	サル	猿
	40	大鳥の諸侯ハ鷺の御杉戸	トリ	大鳥
	40	大鳥の諸侯ハ鷺の御杉戸	ワシ	鷺
	40	鶴の声薄を茹 <sup>て</sup> 水を盛り	ツル	鶴
	40	遠乗りの駒をつなひだ桜もち	ウマ	駒
	40	から腹をかゝへて杣ハさるを追 <sup>ィ</sup>	サル	猿
	41	犬きらい身投のやうに袖に石	イヌ	犬
	43	戦の為に毛虱放火され	シラミ	毛虱

## 110 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
110	序	拍子木に鶉もひそむ御狩の場	ウズラ	鶉
	序	駒留て膝打はらふちんこきり	ウマ	駒
	1	かまぐらの土地ハ鰈もほし月夜	カレイ	鰈
	1	赤簀へ牛久利伽羅と寒の紅	ウシ	牛
	1	新造が漕で破船の帆たて貝	ホタテ	帆たて貝
	2	會陰を蟻にさゝれる村出合	アリ	蟻
	2	お茶を挽く身にしみくと雁の声	カリ	雁
	2	己が荷に肩のしびれる白日鼠	ネズミ	鼠
	3	蜂ハ鐘蜘蛛ハ巢の綱わたり	ハチ	蜂
	3	蜂ハ鐘蜘蛛ハ巢の綱わたり	クモ	蜘蛛
	3	あやみちのやうに生海鼠の腸を出シ	ナマコ	海鼠
	4	鮑を取らせ腰蓑をねだり出し	アワビ	鮑
	4	舟底の流れを留る鮫はがし	サメ	鮫
	4	お袋ハ入れる気ねこは跡へさり	ネコ	ねこ
	5	世をせまくらす蓑虫ふくろ蜘蛛	ミノムシ	蓑虫
	5	世をせまくらす蓑虫ふくろ蜘蛛	フクログモ	ふくろ蜘蛛
	5	手ぜまでは出来ぬ狸の無礼講	タヌキ	狸
	7	寝鳥の側を白鷺のしのび足	トリ	鳥
	7	寝鳥の側を白鷺のしのび足	シラサギ	白鷺
	8	螺の息あなまた穴を穴めぐり	カイ	螺
	8	顔見世もかつはも皿へ鮓を盛り	カツパ	かつは
	8	天狗の時服替紋にやつでの葉	テング	天狗
	9	狸のやけど兎の耳をかきな	タヌキ	狸
	9	狸のやけど兎の耳をかきな	ウサギ	兎
	9	秋草の吸物椀にむしの声	ムシ	むし
	11	白魚の雲丹田楽はひで楊枝	シラウオ	しら魚
	11	湯の内は水鶏外ではかはず啼	クイナ	水鶏
	11	湯の内は水鶏外ではかはず啼	カエル	かはず
	11	一本齒下駄の銀杏も虫を除ケ	ムシ	虫
	11	蠅を取るひやうし親父をはり倒シ	ハエ	蠅
	12	中ウの字で鉢巻をする安ス鯉	カツオ	安ス鯉
	13	毛虫羽織折ハ飛んで帳に付	ケムシ	毛虫
	13	緒メのふとん緋鹿の子に跡が付	シカ	鹿
	13	どぶ店で猫も杓子もましなはれ	ネコ	猫
	13	出て三日人ならいかに猫のこひ	ネコ	ねこ
	14	客を占どうかんざしも亀の甲	カメ	亀
	16	女馬引くやうに檜柑のくゞり猿	ウマ	馬
	16	なめくじを無宿と笑ふ蝸牛	ナメクジ	なめくじ
	16	なめくじを無宿と笑ふ蝸牛	カタツムリ	蝸牛
	17	鯛の引物お祭りの先へ出し	タイ	鯛
	18	蚤負の虎枸橘のもりに住み	ノミ	蚤
	18	蚤負の虎枸橘のもりに住み	トラ	虎
	18	肥後ずいきおさん泣すな馬こやせ	ウマ	馬
	18	伊勢海老を覚範にするよし野鮓	イセエビ	伊勢海老
	19	猫といふ火鉢に穴の小判形	ネコ	猫
	19	鶯かへりよりも鶯でいゝ神事	ウソ	鶯
	19	鶯かへりよりも鶯でいゝ神事	ウグイス	鶯
	19	埋火燧是も猫とハのかぬ中	ネコ	猫
	19	雪降の熊綿よれのくろつむぎ	クマ	熊

19	虎の瀧より龍の瀧高く落ち	トラ	虎
19	虎の瀧より龍の瀧高く落ち	リュウ	龍
19	四にからんで白魚も目を眠り	シラウオ	白魚
20	蛤は絞り赤貝とくさ染メ	ハマグリ	蛤
20	蛤は絞り赤貝とくさ染メ	アカガイ	赤貝
20	巻帯の中も鯨て五寸見世	クジラ	鯨
20	鮑貝玉むし海気とうし裏	アワビ	鮑貝
20	鮑貝玉むし海気とうし裏	タマムシ	玉むし
21	紋も瓢箪大坂で当る猿	サル	猿
21	犬の国だけ高麗くとめし給ふ	イヌ	犬
21	爪で猫いきな女三のあらひ髪	ネコ	猫
21	借り気ぬと晒落片身の烏帽子魚	カツオ	烏帽子魚
22	山参り九紋龍が太刀を持ち	リュウ	龍
22	お針の部屋に栗しまの忍ひ駒	ウマ	駒
22	水鳥の羽音でメる東国や	ミズドリ	水鳥
23	蝶と蝶心中に出るあぶらさら	チョウ	蝶
24	あつい湯は水鶏女湯行々子	クイナ	水鶏
24	ひふれるハ蜀黍船のきりくす	キリギリス	きりくす
24	紙をもむ音でとんぼハつるむなり	トンボ	とんぼ
24	金魚の鯪水鉢もおわりやき	キンギョ	キンギョ
24	金魚の鯪水鉢もおわりやき	シャチホコ	鯪
24	姫氏国のキノ字やつはり蜻蛉形ッ	トンボ	蜻蛉
25	あら壁の裏ハ鼠の碁盤嶋	ネズミ	鼠
26	蓋茶碗尺とり虫が上へを這ひ	シャクトリムシ	尺とり虫
26	婚礼の犬へ稚市の水祝ひ	イヌ	犬
26	白旗の鶴はこがねの札につき	ツル	鶴
27	嶋の股引藪ツ蚊はきやり声	ヤブカ	藪ツ蚊
28	文字で座敷の落を取る蜘蛛の糸	クモ	蜘蛛
28	旅鱧化粧につける江戸の水	ウナギ	旅鱧
28	鯨の具足夏御陣以後はやり	クジラ	鯨
29	氷より狐のこせぬ秋の雪	キツネ	狐
30	鴛鴦一羽胸に火をたく水燈籠	オシドリ	鴛鴦
30	とゞハ繻つまりハ何が成だるふ	トド	とゞ
30	とゞハ繻つまりハ何が成だるふ	ボラ	繻
31	いなご程飛出す胡麻の煎り加減	イナゴ	いなご
32	路台を出して羊に飯をやり	ヒツジ	羊
32	浦しまに酒手を亀ハねたつて居	カメ	亀
32	嗅ぐふりで鼻人形を象つかひ	ゾウ	象
33	篠原の夜露で洗ふ虫の髭	ムシ	虫
34	鶺鴒の咽で鱧辞世を考へる	ウ	鶺鴒
34	鶺鴒の咽で鱧辞世を考へる	ウナギ	鱧
34	白公ハ小屋が重いと蚤仲間	ノミ	蚤
34	古猫てやみくも踊る安メ奢	ネコ	古猫
35	雲雀毛も月毛も雲にのぼる駒	ウマ	駒
36	厂がね額い襟足は燕の尾	カリ	雁がね
36	厂がね額い襟足は燕の尾	ツバメ	燕
37	鶺鴒でさへも早のみこみハ尻へぬけ	ウ	鶺鴒
37	お犬の朋輩雉子丁に猿屋町	イヌ	犬
37	鳥さしハ生た雀の帯をしめ	スズメ	雀
39	文武の師柳に蛙簀に蝸	カエル	蛙

	39	文武の師柳に蛙籠に蠅	ハエ	蠅
	40	忍ふ身でなぜたか鷺の白出立	サギ	鷺
	40	はりひぢで格子をのぞきりくす	キリギリス	きりくす
	40	夏の鳴春の狐も同じ骨	シギ	鷗
	40	夏の鳴春の狐も同じ骨	キツネ	狐
	41	手足八本で抱キ付く夜蜘蛛教へ	クモ	蜘蛛

## 112 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
112	序	蛭でよんだ学問ハ世に光り	ホタル	蛭
	1	血の道に呑ば治る御代の鶴	ツル	鶴
	1	ふぐを釣る船の向ふが鉄砲洲	フグ	ふぐ
	2	美しい狐が人に尾を出させ	キツネ	狐
	2	覚書へがした跡にひらた蜘蛛	ヒラタゲモ	ひらた蜘蛛
	2	置 <sub>キ</sub> 物のやうに馬士の子横に乗り	ウマ	馬士
	2	氣を付ろ手長海老だと魚仲 <sub>ケ</sub> 間	テナガエビ	手長海老
	2	氣を付ろ手長海老だと魚仲 <sub>ケ</sub> 間	サカナ	魚
	3	夕烏供奉の烏帽子と入かわる	カラス	烏
	3	千年も活る気でゐる鶴の番	ツル	鶴
	3	氣にかゝりいすくらがへに鷹の夢	タカ	鷹
	3	猿の子は親に死なれて木から落	サル	猿
	4	鯉の汁おもいれ喰て腹をすへ	コイ	鯉
	4	士卒皆舌を巻てる龍の口	リュウ	龍
	4	利と虫の喰のハ御代の具足也	ムシ	虫
	5	亀遊ふ池の汀にほうらいや	カメ	亀
	6	すばらしく魚も参宮除夜の海	サカナ	魚
	6	飛鳥をメて帰府する国家老	トリ	飛鳥
	6	馬場先の御堀で鴨ハ輪乗をし	カモ	鴨
	8	荒馬がはねて棧敷へ砂がふり	ウマ	荒馬
	8	江戸ならハ江戸にして置 <sub>キ</sub> 安鱧	ウナギ	鱧
	8	賃餅の取粉ハねこの鼠米	ネコ	ねこ
	8	鐘木橋鷹の峙の近所なり	タカ	鷹
	9	弓は猶尾まで袋に御代の馬	ウマ	馬
	10	小網町蛙啼音の貝杓子	カエル	蛙
	10	さるにても古今稀なる御立身	サル	さる
	11	盗人の生胆をとる狢の声	チン	狢
	12	客ニツつふして夜鷹三ツ喰	ヨタカ	夜鷹
	13	黒犬ハよふかん色に年を経る	イヌ	黒犬
	13	労して功なし沙魚一ツたに釣れず	ハゼ	沙魚
	13	熊の糞丸延してもたとんほど	クマ	熊
	13	毛虱を焼くが狸のたゝみ替へ	ケジラミ	毛虱
	13	毛虱を焼くが狸のたゝみ替へ	タヌキ	狸
	14	梅雨日和屋も水鶏の火口箱	クイナ	水鶏
	14	人馬とも信濃ハ雪の土龍	ウマ	馬
	14	人馬とも信濃ハ雪の土龍	モグラ	土龍
	15	慈悲心鳥も知って住日の御山	ジュウイチ	慈悲心鳥
	15	初松魚飛がことくに通町	カツオ	初松魚
	15	飛ふほたる雨夜に凄き寺の門	ホタル	ほたる
	15	釈迦如来似合ぬ連しハ初松魚	カツオ	初松魚
	15	わだかまり龍のことくに谷の松	リュウ	龍
	16	財を喰如しと儒者の初松魚	カツオ	初松魚
	16	闇仕合冬に成ても蛙なき	カエル	蛙
	17	桃山は猿の住家にうつて付 <sub>ケ</sub>	サル	猿
	18	夜 <sub>ル</sub> の鷹寝ぐらへ帰る吉田町	ヨタカ	夜の鷹
	19	木から落た猿ハ過分の出世なり	サル	猿
	20	野の馬の手綱は蜘蛛が引て行	ウマ	馬
	20	野の馬の手綱は蜘蛛が引て行	クモ	蜘蛛
	20	鹿を追ふ獵師ハ山を向ふ見ず	シカ	鹿

21	帆立貝懸取膳のうまい中	ホタテ	帆立貝
21	飯の上の蠅昼斗りに住	ハエ	蠅
21	塩水でくつきり洗ふ海家鴨	ウミアヒル	海家鴨
21	山鷄を追つた時分ハひな若衆	ヤマドリ	山鷄
22	玄寶も秋は山田の鳥を追ひ	トリ	鳥
22	馬だからよしなど女房尻を向ヶ	ウマ	馬
23	穢多町の軽子ハ犬に吼へられる	イヌ	犬
24	安鱧の沓を土橋で客へ出し	アンコウ	安鱧
24	馬追ふ虫も啼てゐる箱根山	ウマオイ	馬追ふ虫
26	秋葉の猿をちらしてる日の長さ	サル	猿
27	一指を切て金にする籠の鳳	ホウオウ	鳳
28	黒白に見ゆる日照りの磯千鳥	チドリ	磯千鳥
28	姥が餅馬で乗り込三度笠	ウマ	馬
29	旅衣きつゝなれにし東虫	シラミ	東虫
29	神慮に叶ふ奈良の鹿土師の鷄	シカ	鹿
29	神慮に叶ふ奈良の鹿土師の鷄	ニワトリ	鷄
30	朝起きの土地に寝ている奈良の鹿	シカ	鹿
30	歩行やつ馬の尻をかく軽井沢	ウマ	馬
30	蝶の夢書たハ平家物がたり	チョウ	蝶
31	箱根の湖水沢山な山椒魚	サンショウウオ	山椒魚
32	稲舟へ雀乗り来る最上川	スズメ	雀
32	牛と馬行合川で乗かへる	ウシ	牛
32	牛と馬行合川で乗かへる	ウマ	馬
32	青海原に遠山が鯨の背	クジラ	鯨
33	蟻も気を揃へて塔を組上ル	アリ	蟻
33	江戸川ハ鯉小松川ハ鶴の御場	コイ	鯉
33	江戸川ハ鯉小松川ハ鶴の御場	ツル	鶴
34	難波江の長短芦と鶴の足	ツル	鶴
36	御神馬を引て神主朝帰り	ウマ	御神馬
36	かわらけのすへ膳鳩に蒔て遣り	ハト	鳩
37	ひへ蒔の田中へおろるいかの鶴	ツル	鶴
37	湯上りの猫羽子板で爪をとぎ	ネコ	猫
37	時のとつての高名は鶴の声	ツル	鶴
39	虫の天麩羅行燈の皿へ出来	ムシ	虫
39	馬の首あたりに多イ轡むし	ウマ	馬
39	馬の首あたりに多イ轡むし	クツワムシ	轡むし
39	蛇を呑みかけこまつてる近眼の鵜	ヘビ	蛇
39	蛇を呑みかけこまつてる近眼の鵜	ウ	鵜
39	天窓の水をしぼられるどら河童	カッパ	河童
39	姑のせき鴛鴦の襖越し	オシドリ	鴛鴦
40	両目ぬつとおやかして蝸牛	カタツムリ	蝸牛

## 116 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
116	序	芙蓉の間から連立て赤蜻蛉	アカトンボ	赤蜻蛉
	序	手塚のやうに生烏賊を洗てる	イカ	生烏賊
	1	三筋の鳴子編笠の鳥がひき	トリ	鳥
	1	千羽鳩だと豆銀ですむところ	ハト	鳩
	1	品川の芸者ハ蟹の鯛羹盃	カニ	蟹
	2	具足の餅へ緋おどしの魚をそへ	サカナ	魚
	2	羽虱で土器になる迦陵頻	ハジラミ	羽虱
	2	蝶千鳥飛びたつ富士の裾もよふ	チョウ	蝶
	2	蝶千鳥飛びたつ富士の裾もよふ	チドリ	千鳥
	2	娘の食かけ丹頂の鶴餅	タンチョウ	丹頂の鶴
	2	鶏の蹴合といふ身へで御使者うけ	ニワトリ	鶏
	3	初夢がモッサめますと獺の妻	バク	獺
	3	噴鼻して猫も逃出す火燵の屁	ネコ	猫
	3	鴛鴦の床を烏がひつぱなし	オシドリ	鴛鴦
	3	鴛鴦の床を烏がひつぱなし	カラス	烏
	4	盗み客よぶに千鳥の口をとめ	チドリ	千鳥
	4	熊笹に雪がつもつて烏賊の甲	イカ	烏賊
	5	膝へ来ぬ猫へ手を出しひつかれ	ネコ	猫
	5	蛸のわび足も六十四重におり	タコ	蛸
	5	地下も腹赤の贅学ぶ鮭の魚	ハラカ	腹赤
	5	地下も腹赤の贅学ぶ鮭の魚	サケ	鮭
	7	かこわれの親父は土の猫をだき	ネコ	猫
	7	弁慶にしよはれぬものハ太刀の魚	タチウオ	太刀の魚
	7	白魚も花にうハ手へ浮て来る	シラウオ	白魚
	9	羅生門河岸でまごつく放れ馬	ウマ	放れ馬
	9	三拳で武松手もなく虎にかち	トラ	虎
	9	臭いぜへ鰹もほうの赤いやつ	カツオ	鰹
	10	腐つても犬だと烏目をほじり	イヌ	犬
	10	腐つても犬だと烏目をほじり	カラス	烏
	10	我朝の武将の虎の威も高し	トラ	虎
	10	火が悪イそうでお七は馬にのり	ウマ	馬
	10	八の字といふ身蛞蝓夫婦づれ	ナメクジ	蛞蝓
	10	聖堂の鳥バアくと鳴て居る	カラス	鳥
	11	異香馥郁たり霊猫の最期屁	ジャコウネコ	霊猫
	11	螢火で見る書好みに色好み	ホタル	螢
	11	くさがりがきれてさし込の猿がにげ	サル	猿
	11	気にいらぬ味もあらうに鱶かな	ウナギ	鱶
	12	花も蚊もある本所の弥生尽	カ	蚊
	14	猩々に下戸なし象に上戸なし	ショウジョウ	猩々
	14	猩々に下戸なし象に上戸なし	ゾウ	象
	14	家内安全初かつを煮てくらひ	カツオ	初かつを
	14	鯉の肩に金瘡のヤスのきず	カレイ	鯉
	14	眼ニツで面ぢうふさぐ鬼蜻蛉	オニヤンマ	鬼蜻蛉
	15	心太棧橋にする猿の釣	サル	猿
	15	龍宮の惣太人魚かどわかし	ニンギョ	人魚
	15	素馬鹿より少しまじらの猿利口	サル	まじら
	16	極下卑た物は鮑の貝杓子	アワビ	鮑
	16	鶏の口説横からぶつつかり	ニワトリ	鶏
	17	さいかち虫も本供で願ほどき	カブトムシ	さいかち虫

	17	雲雀とハ鳥居の上で翁よみ	ヒバリ	雲雀
	17	他の穴へ決て入れぬ聳ぎつね	キツネ	聳ぎつね
	18	稲の神児の田虫もよけたまい	ムシ	田虫
	19	濡し鷺のやうに蓑着た筏のり	サギ	鷺
	19	鷺といふ身て立聞ハ足をかき	サギ	鷺
	20	ハツ目鱧ハ駕かきのすね灸	ヤツメウナギ	ハツ目鱧
	20	硝子の虫を目鏡て見付出し	ムシ	虫
	21	小社がへ蚯蚓をくばる穴つゞき	ミミズ	蚯蚓
	22	三町の伝授何鳥でもトヒヨ	トリ	鳥
	22	畜生め家根でフウク江戸の猫	ネコ	猫
	22	拍手をのかれて蠅ハおかんでる	ハエ	蠅
	23	牝鶏の夕部するのは腎虚させ	ニワトリ	牝鶏
	23	油断して御手打になる天窓の蚊	カ	蚊
	25	子を連て舩虫も来る御神前	フナムシ	舩虫
	26	年を経て鍛冶屋の見世の黒狐	キツネ	黒狐
	26	春過て屋根にも猫のさかり時	ネコ	猫
	26	小柳の帯に蝙蝠飛んで居る	コウモリ	蝙蝠
	26	猿喰へハ唇寒し富士の夢	バク	猿
	27	白狐の守護て瑜伽の神宇賀の神	キツネ	白狐
	27	家彫の鶏にそら音の小道具屋	ニワトリ	鶏
	28	紗の蝙蝠が青柳の河岸へ付ケ	コウモリ	蝙蝠
	29	神鏡に移る八月の蜀魂	ホトギス	蜀魂
	30	さゝ蟹の糸一筋の釣しのふ	クモ	さゝ蟹
	30	袋蜘蛛の文字のふしんかみ	クモ	袋蜘蛛
	31	鈴虫ハ見せ松むしハ仲の町	スズムシ	鈴虫
	31	鈴虫ハ見せ松むしハ仲の町	マツムシ	松むし
	32	羽虫程氏子のたかる御神轡	ハムシ	羽虫
	32	頼政を鼠にほしき御所おこし	ネズミ	鼠
	33	時鳥呑で足まで赤くなり	ホトギス	時鳥
	33	鳥居の笠木しつほりと鳩のぬれ	ハト	鳩
	33	菅笠の下地蜘蛛の巣軒へ掛ケ	ジグモ	地蜘蛛
	34	東海の蜘蛛唐人の目に見へず	クモ	蜘蛛
	35	初音 <small>ヤアアイ</small> と対の金衣鳥	ウグイス	金衣鳥
	35	衣屋の小猫がしやれる鈴の音	ネコ	小猫
	35	松虫の音に綴衣さす嵯峨の奥	マツムシ	松虫
	36	弁舌の水て持せる安 <small>ス</small> 松魚	カツオ	安 <small>ス</small> 松魚
	37	結納の鶴の羽青き今年藁	ツル	鶴
	37	勘弁が出てハ喰うれぬ初松魚	カツオ	初松魚
	40	同じ毛の兜を着し熊を売り	クマ	熊
	41	丸山へ来て馬をまく鎧坂	ウマ	馬



## 121 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
121	2	早乙女に負じと蛙声限り	カエル	蛙
	2	日限りの三度早馬で船をこぎ	ウマ	早馬
	3	蠅日光る天窓ハ谷中道	ハエ	蠅
	4	草刈も鎌懸ケ兼る虫の声	ムシ	虫
	6	画の鶴ハ九号の山の上を飛	ツル	鶴
	6	口うらを趙高馬と鹿て引	ウマ	馬
	6	口うらを趙高馬と鹿て引	シカ	鹿
	6	子心で駒て覚た親父橋	ウマ	駒
	7	高砂信三口元トに松の魚	カツオ	松の魚
	8	稻荷山五位の出仕ハ赤狐	アカギツネ	赤狐
	9	神主ハ人のあたまの蠅を追ひ	ハエ	蠅
	9	御無沙汰の狐鳥居が高く成り	キツネ	狐
	10	蜘蛛の巣を取るかとおもや干住札	クモ	蜘蛛
	11	猫でごうもん重忠と政要記	ネコ	猫
	11	夜の柳燕似たる蚊喰鳥	ツバメ	燕
	11	夜の柳燕似たる蚊喰鳥	コウモリ	蚊喰鳥
	11	松魚迄生かしてハ喰流行医者	カツオ	松魚
	11	鹿は笛狸ハつゞみ馬太鼓	シカ	鹿
	11	鹿は笛狸ハつゞみ馬太鼓	タヌキ	狸
	11	鹿は笛狸ハつゞみ馬太鼓	ウマ	馬
	11	蛤ハしほり赤貝木賊そめ	ハマグリ	蛤
	11	蛤ハしほり赤貝木賊そめ	アカガイ	赤貝
	11	蚊屋越の美女ハ人魚を打たやう	ニンギョ	人魚
	11	鳥居坂狐鰻の近所なり	キツネ	狐
	11	鳥居坂狐鰻の近所なり	ウナギ	鰻
	12	手を合せるとふん廻す蠅の音	ハエ	蠅
	12	おもしろ狸おきなんしく	タヌキ	狸
	12	田の鳥に一首残せしあじろ笠	トリ	鳥
	13	群レ蠅のうかと留らぬ飴の餅	ハエ	蠅
	13	川明キの舟に旅人の村鳥	カラス	鳥
	14	味イ名物蛤ととろゝしる	ハマグリ	蛤
	14	御関所てすつほんを出ス大若衆	スッポン	すつほん
	14	道中の虎ハよふく七里行	トラ	虎
	15	籠の鳥花に一度の放生会	トリ	鳥
	16	白狐ても名は九郎助や烏森	キツネ	白狐
	16	七々紐の猫かしやらつく五間見世	ネコ	猫
	18	油より高きハ江戸の初蛸	ホタル	初蛸
	19	地と空をかけるゑぼしと沓手鳥	ホトトギス	沓手鳥
	20	白魚は実に太平の御簀	シラウオ	白魚
	22	御代豊結構と啼納め鳥	ニワトリ	納め鳥
	23	七左エ門とのと東へ呼子鳥	ヨブコドリ	呼子鳥
	24	銭亀の反吐深川の茶二も合	ゼニガメ	銭亀
	24	日千両鬼と河童の出る所	カッパ	河童
	24	魚ひさく土地打寄る人の波	サカナ	魚
	25	真ツくらで下女蝙蝠の紋を付	コウモリ	蝙蝠
	25	嶋一羽立つ所コもなし江戸の秋	シギ	嶋
	26	芝海老へ大鵬の気て蠅留り	シバエビ	芝海老
	26	芝海老へ大鵬の気て蠅留り	タイホウ	大鵬
	26	芝海老へ大鵬の気て蠅留り	ハエ	蠅

	26	濁りなき都の鳥か隅田川	ミヤコドリ	都の鳥
	27	上ヶ汐の猪牙にさハ立ツ都鳥	ミヤコドリ	都鳥
	27	千本も一ト夜に河岸へ松の魚	カツオ	松の魚
	28	白魚ハ龍の都の布衣以上	シラウオ	白魚
	28	白魚ハ龍の都の布衣以上	リュウ	龍
	28	藪鶯ハ香をしらぬ袖の梅	ウグイス	藪鶯
	28	初鯉百貫しても飯のさい	カツオ	初鯉
	29	鶯の森すくんで通る鯨売	ウグイス	鶯
	31	墨水を石摺りにする白イ魚	サカナ	白イ魚
	31	鯨の地へはねこんた初鯉	シャチホコ	鯨
	31	鯨の地へはねこんた初鯉	カツオ	初鯉
	33	龍王に雨をも祈る煙草畑	リュウ	龍王
	33	鳩に三士の論をするふし木落	ハト	鳩
	33	張交せの屏風羊の五もく飯	ヒツジ	羊
	33	養生に鳥の子を喰ふ老羊	トリ	鳥
	33	養生に鳥の子を喰ふ老羊	ヒツジ	老羊
	33	めん鳥すゝめて玉子湯て地黄丸	ニワトリ	めん鳥
	34	旅雀チヨツく泊る羽根沢や	スズメ	雀
	34	のんた蛙長虫を苦勞かり	カエル	蛙
	34	のんた蛙長虫を苦勞かり	ヘビ	長虫
	34	無判の鴨を売に来るちぬ笹田	カモ	鴨
	35	春日墨馴の鹿に巡り逢	シカ	鹿
	35	ちよぼの白魚さいの目にうとを切	シラウオ	白魚
	35	いせ海老の瀧登りめくしめ飾	イセエビ	いせ海老
	35	猩々の亡者額にとそふくろ	シヨウジョウ	猩々
	36	猫の年玉爪とびハおもひつき	ネコ	猫
	37	猫通ふ発句ハ又の五元集	ネコ	猫
	37	日当りへ出す鶯と鉢の槓	ウグイス	鶯
	37	馬の焼鉄て豆州はあつく成り	ウマ	馬
	37	室の津て饅頭を買象参り	ゾウ	象
	39	川魚のせんたく賃に一分遣り	カワザカナ	川魚
	40	鳶の子が鷹になつてる吉田町	トンビ	鳶
	40	鳶の子が鷹になつてる吉田町	タカ	鷹

## 129 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
129	序	鬼鹿毛も猫に扱ふ金ぐつわ	ネコ	猫
	1	初雪や鹿の足跡割り胡桃	シカ	鹿
	1	まぐろの土手揚まけをれまけませい	マグロ	まぐろ
	1	隅田の土手雪見の足も都鳥	ミヤコドリ	都鳥
	1	土器を虫が気ざすと与吉喰イ	ムシ	虫
	2	手遊ひの熨斗に虻の島土産	アワビ	虻
	3	羊の伯母が花道へちいたく	ヒツジ	羊
	4	水の字にうつる蜻蛉のカゲボフシ	トンボ	蜻蛉
	4	すつぽんの味鰻とお月さま	スッポン	すつぽん
	4	すつぽんの味鰻とお月さま	ウナギ	鰻
	4	結納の鶴の羽青き今年藁	ツル	鶴
	5	雪の鰻あに一命をおしまんや	フグ	鰻
	5	赤隈に漬込ム海老の三升鮓	エビ	海老
	5	鼻黒でござると猫の仲人口	ネコ	猫
	6	星鮫の砧しんじよの月が出来	ホシザメ	星鮫
	7	誰が身の上か馬の背に白卒塔婆	ウマ	馬
	7	蟹杯に目をくれるなど青砥下知	カニ	蟹
	7	面白さ杵屋で狂ふ猫と象	ネコ	猫
	7	面白さ杵屋で狂ふ猫と象	ゾウ	象
	8	頭巾をひろふ気黒犬に喰付れ	イヌ	黒犬
	8	黄色な声でツイ蜆ミク	シジミ	蜆
	8	竹を書くからハ猫でハないと見へ	ネコ	猫
	9	中堂に放生会めく廓雀	スズメ	雀
	10	饅頭を見ると小僧ハ土龍起	モグラ	土龍
	10	鷺の足ひと針ぬきに綾瀬川	サギ	鷺
	12	意気な会席人魚の向ふ付け	ニンギョ	人魚
	12	細川で啼た蜚が世に聞え	ホタル	蜚
	13	鼠の素見覗いている網戸棚	ネズミ	鼠
	13	鼠の素見覗いてる網戸棚	ネズミ	鼠
	13	馬の尻がみけんをかする小侍	ウマ	馬
	14	松竹を度々越え腰が海老に成り	エビ	海老
	14	鳳凰を放生会する馬鹿もあり	ホウオウ	鳳凰
	15	松の枝切り口馬の灸の跡	ウマ	馬
	17	喰初の椀に鳥羽絵の鶴と亀	ツル	鶴
	17	喰初の椀に鳥羽絵の鶴と亀	カメ	亀
	18	百社連レ馬で羊の朝帰り	ウマ	馬
	18	跡足で前を取ってる小荷駄馬	ウマ	小荷駄馬
	18	芭蕉葉で尺取虫の女房ねれ	シャクトリムシ	尺取虫
	19	陸奥の子を鼠ミあぶなく引ク所	ネズミ	鼠
	19	芳町の馬八宗を欠け歩行	ウマ	馬
	20	馬の背へつなぐ桜の炭俵	ウマ	馬
	21	馬に乗てるひまもなき苦界の身	ウマ	馬
	21	馬の脊揃ひ御羽織脱せられ	ウマ	馬
	21	かけて来てお犬がならず鈴の音	イヌ	お犬
	22	ひとせの手力雄なり初鳥	カラス	初鳥
	22	若草にまだ馬の齒のとゞきかね	ウマ	馬
	22	上品な馬ハ足袋まではいて居る	ウマ	馬
	23	寝に戻る野馬のそばにくつわ虫	ウマ	野馬
	23	寝に戻る野馬のそばにくつわ虫	クツワムシ	くつわ虫

	23	初蛩ほどに黒紹へ銀こじり	ホタル	初蛩
	24	王子から天窓へ狐付て来る	キツネ	狐
	24	豕の気ハ君子か馬鹿かよいくか	ブタ	豕
	25	かの音ハ猫とも見へぬ下女が部屋	ネコ	猫
	25	ヨツデにちらり白魚の二日月	シラウオ	白魚
	25	納豆だ鴨だと隣り論ンが干ず	カモ	鴨
	25	飛込んで蛙八月の早替り	カエル	蛙
	27	干網にこぼれるやうに遠千鳥	チドリ	千鳥
	27	献上の鯛ハ白木に角兵衛獅子	タイ	鯛
	27	波作り手際まばゆき朝日鯉	ボラ	鯉
	28	螻螂の馬手ハ鳥羽絵の木賊苺	カマキリ	螻螂
	28	小よりの沙汰に狸どの飛起る	タヌキ	狸
	28	神の庭おひねり程な夕乙鳥	ツバメ	乙鳥
	28	初蛩にいびられて聞く時鳥	ノミ	初蛩
	28	初蛩にいびられて聞く時鳥	ホトギス	時鳥
	28	鳥羽絵の抜けて出たやうな佐野の馬	ウマ	馬
	29	舜の田らしい稗時へ飼ヒ鼠	ネズミ	飼ヒ鼠
	29	千鳥ほど穂波にむれる稲すゞめ	チドリ	千鳥
	29	千鳥ほど穂波にむれる稲すゞめ	スズメ	すゞめ
	30	嫁の襟足白壁に乙鳥の尾	ツバメ	乙鳥
	30	今ハ名の文字に叶ひし都鳥	ミヤコドリ	都鳥
	30	瓜田へおりぬ文国の杓手鳥	ホトギス	杓手鳥
	31	凱陣に飛び立つ思ひ夜の鶴	ツル	鶴
	31	鳥獣に右幕下物を入れ給ふ	トリ	鳥獣
	31	鳥獣に右幕下物を入れ給ふ	ケモノ	鳥獣
	31	文字及び規矩準繩も鳥の跡	トリ	鳥
	32	おし鳥を放生会するいゝしうと	オシドリ	おし鳥
	32	野暮で無イ勝手道具ハ帆立貝	ホタテ	帆立貝
	33	蟹の女ス住む泥水を下の関	カニ	蟹
	35	道行の付迄寮に放れ鴛鴦	オシドリ	鴛鴦
	35	道中ハ鶉だとむぐつて宿を取	ウズラ	鶉

## 138 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
138	序	山鳩の御衣にかなひし弓矢紙	ヤマバト	山鳩
	序	人中の龍天拝の雲に入り	リュウ	龍
	1	種ふくべ白鳥の寝た身のひねり	シラトリ	白鳥
	2	虫のせへ葉罐土器なめたかり	ムシ	虫
	3	前立 <sub>テ</sub> の龍五爪織 <sub>ル</sub> 国へ落 <sub>テ</sub>	リュウ	龍
	3	大蛇ごろまだ若女子の稲田姫	ヘビ	大蛇
	4	犬角力みる切張りの破れ口	イヌ	犬
	4	六波羅大路を踏 <sub>ミ</sub> あらず鞍馬牛	ウシ	牛
	5	蚊呑友達尋ねてる隠居墓	カ	蚊
	5	蚊呑友達尋ねてる隠居墓	ヒキ	墓
	5	鴨とかも伯父を伍子胥にして番 <sub>ヒ</sub>	カモ	鴨
	5	廻廊に蛸の吸つく厳しま	タコ	蛸
	6	挑灯の弓にハ鯨よりうなぎ	クジラ	鯨
	6	挑灯の弓にハ鯨よりうなぎ	ウナギ	うなぎ
	6	虻不慮な最期ハ馬の腹太鼓	アブ	虻
	6	虻不慮な最期ハ馬の腹太鼓	ウマ	馬
	6	和漢の良禽雨冠り風せ構へ	トリ	禽
	7	御不興の鯉が忠義のうま味也	コイ	鯉
	9	葭切のねぐらをあばく御立身 <sub>ン</sub>	ヨシキリ	葭切
	10	奈良の町ちよろく歩行く鹿 <sub>ツ</sub> ころ	シカ	鹿
	11	御扇子のさへ鳶の巢を打落 <sub>シ</sub>	トンビ	鳶
	12	諸麻へ蠱飛つく御立身	イナゴ	蠱
	12	鮭弓に酒たづさえて蝦夷の秋	サケ	鮭
	13	雁が双ぶと乙鳥の爪を出し	カリ	雁
	13	雁が双ぶと乙鳥の爪を出し	ツバメ	乙鳥
	13	和歌の神生 <sub>マ</sub> 貝海老を交ぜ肴	カイ	貝
	13	和歌の神生 <sub>マ</sub> 貝海老を交ぜ肴	エビ	海老
	13	立 <sub>ッ</sub> 派な御寝間鳶が子の小便所	トンビ	鳶
	13	御名君藪蚊のかゆひ所まで	ヤブカ	藪蚊
	14	おめづ臆せず兼房の肩へ蠅	ハエ	蠅
	15	鯪に似た鶏も淀屋飼ひ	シャチホコ	鯪
	15	鯪に似た鶏も淀屋飼ひ	ニワトリ	鶏
	15	搔ひてから爪判を押す蚤 <sub>ツ</sub> 喰 <sub>ヒ</sub>	ノミ	蚤
	16	化鳥の啼 <sub>キ</sub> 声能く聞けバサイデイ	トリ	化鳥
	16	四 <sub>ツ</sub> 足の御破却犬の位も挫 <sub>ケ</sub>	イヌ	犬
	3	九郎兵衛が寝覚メまじく聞千鳥	チドリ	千鳥
	16	三人で寝て居る竜を起しに来	リュウ	竜
	16	窮鳥の石田へ重い御仁徳	トリ	窮鳥
	17	濡れてるが証拠と竜に人だかり	リュウ	竜
	17	犬を殺して産をするきつい後家	イヌ	犬
	18	かじる齒も引く手も持ぬ白鼠	シロネズミ	白鼠
	18	喜三太様ハこなたか猿廻し	サル	猿
	18	鳥籠に同じ苦界の放し亀	カメ	放し亀
	19	連 <sub>シ</sub> 弾も師匠ハ猫に弟子ハ犬	ネコ	猫
	19	連 <sub>シ</sub> 弾も師匠ハ猫に弟子ハ犬	イヌ	犬
	19	胴背中小枕元の遮羅鶏の雌	シャモ	遮羅鶏
	19	白犬の脾腹蹴上る下手の鞠	イヌ	白犬
	20	御赤面 <sub>シ</sub> 妾へ内廬を鸚鵡真似	オウム	鸚鵡
	20	雨夜雁啼く読 <sub>ミ</sub> やうで変 <sub>ヒ</sub> に聞 <sub>キ</sub>	カリ	雁

20	有そうな事サ鞠場に猫の糞	ネコ	猫
21	関白ハ狒となるべき頃勅許	ヒビ	狒
21	雀の早速鶺鴒の仰訳 <small>ケ</small>	スズメ	雀
21	雀の早速鶺鴒の仰訳 <small>ケ</small>	セキレイ	鶺鴒
22	犬を猫だと馬鹿にする三味線や	イヌ	犬
22	犬を猫だと馬鹿にする三味線や	ネコ	猫
22	蛸殻ハ住居でいへバ江戸の町	カキ	蛸
22	喰てへ歎見ろと御堀の鯉ハはね	コイ	鯉
22	だれか喰ふ鱧を野暮が買せられ	ウナギ	鱧
23	蜘蛛の巣に木犀散つて竹屋町	クモ	蜘蛛
23	また呑など女房蛇をいさめ	ヘビ	蛇
24	列座皆鹿と答へぬ馬に角	シカ	鹿
24	列座皆鹿と答へぬ馬に角	ウマ	馬
24	世界ハ三分と臥竜から息子それ	リュウ	臥竜
24	鐘の音に小鳥をこぼす峯の寺	トリ	小鳥
25	乙姫の針箱蟹に鈴を付け	カニ	蟹
25	類ハ友齒白が寄つて鴨の鍋	カモ	鴨
25	雁くのやふに豎田の田植笠	カリ	雁く
25	九尾ほど那須野に残る枯尾花	キュウビ	九尾
25	狸ら八月に寝にきつばらきぬた	タヌキ	狸
25	似てひなり鳩の浮巢と置巨燧	ニオ	鳩
26	洒落た女三ハ糸でひく猫の皮	ネコ	猫
26	女衞のひるてん掃溜の鶴が取れ	ツル	鶴
26	鸚鵡当惑はや言の法性寺	オウム	鸚鵡
26	鴛鴦のねぐらをかくす雀形 <small>ヲ</small>	オシドリ	鴛鴦
27	一ツ天の重 <small>ニ</small> 冥加な牛の襟 <small>リ</small>	ウシ	牛
28	耐 <small>ヘ</small> よや三寸の舌五分の虫	ムシ	虫
28	たとへ眼ハ蛸でも甲斐の柱なり	カキ	蛸
29	銭亀も居る千貫のこぼれ水	ゼニガメ	銭亀
29	痛かろふ達摩の耳と牛の鼻	ウシ	牛
30	手足みな懐中をして亀屋寝	カメ	亀
30	ハッロへ首を仕廻つて鴨寝入 <small>リ</small>	カモ	鴨
30	まづなたのむね打を喰う鴨の骨	カモ	鴨
31	ゑんだ栗猿のあくびの横 <small>ツ</small> 面 <small>ヲ</small>	サル	猿
32	鳳凰の泣声も知るどら息子	ホウオウ	鳳凰
32	巨燧布団へなめくじがいつ這 <small>ツ</small> た	ナメクジ	蛞蝓
33	恋の虫五疳の他の余の病 <small>ヒ</small>	ムシ	虫
34	五ツ六ツ小猿産着の余り裁 <small>シ</small>	サル	小猿
36	茶にうかれ喜撰まじく鹿を聞	シカ	鹿
37	桓武帝九代の後ハみんな蟹	カニ	蟹
38	質屋から丸腰で出て馬に酒	ウマ	馬
38	羊を釣るす長安 <small>ノ</small> の居酒見世	ヒツジ	羊
40	雪の屋根鯉から鯉へ無分別	コイ	鯉
40	牛を牽く子に角文字を御教へ	ウシ	牛
42	竹の皮足袋献上の雁や鴨	カリ	雁
42	竹の皮足袋献上の雁や鴨	カモ	鴨
42	佐殿の足元千羽鳥が立 <small>チ</small>	トリ	鳥
43	お祭りに鴨の毛を引く従弟同士	カモ	鴨
43	奥御殿雀ハ炊だ餌で生立	スズメ	雀

## 143 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
143	序	鳥獸も孝の徳にハ能クなつき	トリ	鳥
	序	鳥獸も孝の徳にハ能クなつき	ケモノ	獸
	1	砂利の上へ鳥はからず鷺ハさき	カラス	鳥
	1	砂利の上へ鳥はからず鷺ハさき	サギ	鷺
	1	蛤を見て気さした八国性爺	ハマグリ	蛤
	2	先非を水鷄勘当か戸を叩キ	クイナ	水鷄
	2	馬鹿な下女虱の絶る願を懸	シラミ	虱
	2	銀の猫只の僧なら鼠なき	ネコ	猫
	2	銀の猫只の僧なら鼠なき	ネズミ	鼠
	2	忠臣ハ菜を鶴妄者馬を鹿	ツル	鶴
	2	忠臣ハ菜を鶴妄者馬を鹿	ウマ	馬
	2	忠臣ハ菜を鶴妄者馬を鹿	シカ	鹿
	4	一蝶の婦嶋黒江のやうな形リ	チョウ	蝶
	5	亀四疋鶴か六羽の御縁日	カメ	亀
	5	亀四疋鶴か六羽の御縁日	ツル	鶴
	6	拾った鷺梅もとき忤て啼	ウグイス	鷺
	6	運の能さ跡黒波と烏賊ハ逃	イカ	烏賊
	6	アレ魚籃観音さまか鯉を提	コイ	鯉
	6	乙姫ハ蟹の鉢へ鈴を付ケ	カニ	蟹
	6	唐の子ハ虎うそむいて風をあげ	トラ	虎
	6	鷺の手に附紉斗りの運の能サ	ワシ	鷺
	7	谷汲へ虱を納メたてまつり	シラミ	虱
	8	蜘蛛の糸観音草の善の綱	クモ	蜘蛛
	8	初鯉女房兼好程とゝめ	カツオ	初鯉
	9	夜もすから宰予ハ虱に責られる	シラミ	虱
	9	片腕になれと鳶に天狗言	トンビ	鳶
	9	片腕になれと鳶に天狗言	テング	天狗
	9	難波池魚類も三年仏を得	サカナ	魚類
	9	鯁て鰐足龍宮の持参金	フグ	鯁
	10	畑荒す鳥に鳴子の咳はらい	トリ	鳥
	10	弓形りの月に矢を射る時鳥	ホトギス	時鳥
	11	猫の足より踏んはつた蝶の足	ネコ	猫
	11	猫の足より踏んはつた蝶の足	チョウ	蝶
	13	行燈て山雀をする荒レ鼠	ヤマガラ	山雀
	13	行燈て山雀をする荒レ鼠	ネズミ	鼠
	13	口ふさき鰻を奢る筋かあり	ウナギ	鰻
	13	突当る迄ハ静は犬の腰	イヌ	犬
	15	毛虫をはたく南朝の簾屏風	ケムシ	毛虫
	16	何の時入るか芋虫角か有り	イモムシ	芋虫
	17	相模ても虎ハかむりを横に振り	トラ	虎
	17	野ら出会物わかれする手負猪	イノシシ	猪
	17	蜺に松茸釣合ぬ急養子	シジミ	蜺
	19	御舞台の松に景そふ鷺三ンば	サギ	鷺
	19	落るかりがね書山に仮名をふり	カリ	かりがね
	19	蚊ばしらを削る煙りの匏脣	カ	蚊
	20	蜘蛛の巣で仕つけをかける藤袴	クモ	蜘蛛
	22	蚊ハ逃したがそつぼうハはりたおし	カ	蚊
	22	嫁は狎下女まけぬ気で猫を抱	チン	狎
	22	嫁は狎下女まけぬ気で猫を抱	ネコ	猫

23	天狗の音楽扱こまる簫の笛	テング	天狗
23	馬の耳題目を聞く鳴子みち	ウマ	馬
23	熊坂もとんびの屎に度々こまり	トンビ	鳶
24	獅子の尾ハ馬の足より間かわるし	シシ	獅子
24	獅子の尾ハ馬の足より間かわるし	ウマ	馬
23	末席で虫が鳴いてる御順盃イ	ムシ	虫
24	つるむ犬見れば水馬の乗ならひ	イヌ	犬
24	つるむ犬見れば水馬の乗ならひ	アメンボ	水馬
24	かげ膳に蠅さへよせぬ夫マ思ひ	ハエ	蠅
24	母親の慈悲追つて居る飯の蠅	ハエ	蠅
24	五六貫しても鮪八句にならず	マグロ	鮪
25	茅の葺がへ雉子猫の屋根が出来	ネコ	猫
26	芋畑の鳴子コイツハ蛸おどし	タコ	蛸
27	猩々の掛地酒より茶で好ミ	ショウジョウ	猩々
27	嫁蛾眉をひそめ鯰のおつけかへ	ドジョウ	鯰
28	石山のゆかり鮒にも源語の名	フナ	鮒
28	余吾の海惟茂が釣る紅葉鮒	フナ	紅葉鮒
28	生マ利の雀錦袋圓で啼	スズメ	雀
28	焼鉄を頬へ鯰と了然尼	ドジョウ	鯰
29	きしやごより家作手薄い蝸牛	キサゴ	きしやご
29	きしやごより家作手薄い蝸牛	カタツムリ	蝸牛
29	四ツ谷雑談のへうしを鼠喰イ	ネズミ	鼠
32	蛇と猿虎のさいごに順死する	ヘビ	蛇
32	蛇と猿虎のさいごに順死する	サル	猿
32	蛇と猿虎のさいごに順死する	トラ	虎
32	山椒魚竜宮城の別支配	サンショウウオ	山椒魚
33	当テにハならず売居に燕の巢	ツバメ	燕
34	錐を買ふ顔を見ている放し亀	カメ	放し亀
34	うわばみを清丸竜にする所	ヘビ	うわばみ
34	うわばみを清丸竜にする所	リュウ	竜



## 145 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
145	1	胼に軟膏の熊冬籠り	クマ	熊
	1	計られる物かと鼠がたり逃げ	ネズミ	鼠
	1	鯉うらめしヲと寒ひ猪の目鍋	カツオ	鯉
	2	大社八幡様ハ通し馬	ウマ	通し馬
	3	打て見て狸ハ腹へ調子紙	タヌキ	狸
	3	どうだ又死のふかと来る鰻の友	フグ	鰻
	3	しかし気性と大黒ハ猿を誉	サル	猿
	4	孕んだ鼠すへた飯喰たがり	ネズミ	鼠
	4	馬から落馬いたしたと妾が兄	ウマ	馬
	5	雪の朝雀と鷹が出たならバ	スズメ	雀
	5	雪の朝雀と鷹が出たならバ	タカ	鷹
	5	春も角有ル寿老人さまの鹿	シカ	鹿
	6	鯛鼠鶴鹿唐子蛇百足	タイ	鯛
	6	鯛鼠鶴鹿唐子蛇百足	ネズミ	鼠
	6	鯛鼠鶴鹿唐子蛇百足	ツル	鶴
	6	鯛鼠鶴鹿唐子蛇百足	シカ	鹿
	6	鯛鼠鶴鹿唐子蛇百足	ヘビ	蛇
	6	鯛鼠鶴鹿唐子蛇百足	ムカデ	百足
	6	御殿場の鼠鶉の前で化シ	ネズミ	鼠
	6	御殿場の鼠鶉の前で化シ	ウズラ	鶉
	6	鶯もまだ気の附ぬ冬至梅	ウグイス	鶯
	7	よく見れば鼠ハみんな猫背中	ネズミ	鼠
	7	居酒見せ帯ひろ解の鰻を提げ	フグ	鰻
	8	牛の背に相丞の身で濱七里	ウシ	牛
	8	そもく酒の始りハライ鰻よ	フグ	鰻
	9	小人嶋国中さわぐ手追イ蟻	アリ	蟻
	10	こぼれ酒土蜘蛛らしくなめて居る	ツチクモ	土蜘蛛
	11	闇迷を照らす熊野の牛の王	ウシ	牛
	11	我名にハ似ず松虫ハ霧に枯レ	マツムシ	松虫
	12	鯪をナアと名古屋の大三十日	シャチホコ	鯪
	13	すかし尻で育ツ河童の母無し子	カッパ	河童
	14	其当座式部が夢に鳩の月	カイツブリ	鳩
	14	其当座式部が夢に鳩の月	カイツブリ	鳩
	15	其石ハ虎と見られて不慮な怪我	トラ	虎
	17	きりぐす啼や押へる歌がるた	キリギリス	きりぐす
	19	燕は二番子を産む嫁の礼	ツバメ	燕
	20	やはり手で蠅を追ってる強イ聾	ハエ	蠅
	20	猫を小判でころはした面白サ	ネコ	猫
	20	君子国御衣の礼有る鳥の色	トリ	鳥
	21	桜にも鳳凰の舞別世界	ホウオウ	鳳凰
	22	蝸牛らしい捨子の轆轤くび	カタツムリ	蝸牛
	23	山姥ハ熊の機嫌も不断取り	ヤマンバ	山姥
	23	山姥ハ熊の機嫌も不断取り	クマ	熊
	23	しら雲の上へ鰻ハ天上ウシ	ドジョウ	鰻
	23	轆ろ首お辞義尺取虫のやう	シャクトリムシ	尺取虫
	25	鹿ハ落芦ハ角くむ春の野辺	シカ	鹿
	25	春ハまだ犬かと思ふ奈良の町	イヌ	犬
	27	下前で蜺ふいてる女の子	シジミ	蜺
	28	牛を売るたとへ引く場を袴腰	ウシ	牛

	29	惣身から雲雀ハ声をふるひ出し	ヒバリ	雲雀
	29	花に蝶酒に猩々雪に犬	チョウ	蝶
	29	花に蝶酒に猩々雪に犬	シヨウジョウ	猩々
	29	花に蝶酒に猩々雪に犬	イヌ	犬
	30	危ハ鳩豊さハ鶴の頃	ハト	鳩
	30	危ハ鳩豊さハ鶴の頃	ツル	鶴
	30	水中でガチリ栄螺のつるむ音	サザエ	栄螺
	31	ちんぼうへ田螺ぶらさげ泣て来る	タニシ	田螺
	31	鏡から見れハ狐の天下一	キツネ	狐
	32	手心で打ツ拝領の馬の鞭	ウマ	馬
	33	武の誉レ其日に鶴を見て帰り	ツル	鶴
	32	猿に小判は嘉平次がちとぬかり	サル	猿
	33	舞ふ内に花を見立てとまる蝶	チョウ	蝶
	34	どふ縫か天狗着物の上に羽	テング	天狗
	35	世に極たわけ鯨を買ふ錢を貸し	フグ	鯨
	35	山鳥とあしか寝て居るけちな晩	ヤマドリ	山鳥
	35	山鳥とあしか寝て居るけちな晩	アシカ	あしか
	35	血だらけな鰻の側に折した錐	ウナギ	鰻

## 146 篇

篇	丁	句	動物	動物(原文)
146	1	鶯ハ鳳鈴虫は麟と啼	スズムシ	鈴虫
	1	鶯ハ鳳鈴虫は麟と啼	ウグイス	鶯
	1	和国の恥と念ずれハ蜘蛛ばかり	クモ	蜘蛛
	1	啜て越 <sup>ス</sup> 晦日の関に鶏の絵馬	ニワトリ	鶏
	1	栄螺尻り内藤さまハわたの所	サザエ	栄螺
	1	枇杷の実のやうに孝子へ蚊かたかり	カ	蚊
	2	極楽が有るに地獄へ夢の虫	ムシ	虫
	2	口説かれて空虱取る娘猿	サル	猿
	2	冷飯を膝へ夜鷹の買切しや	ヨタカ	夜鷹
	3	蛸は腹蟬 <sup>ニ</sup> は小鬢にある眼玉	タコ	蛸
	3	蛸は腹蟬 <sup>ニ</sup> は小鬢にある眼玉	セミ	蟬
	3	泥亀うぬぼれ月だつておれだつて	スッポン	泥亀
	3	御拳 <sup>ニ</sup> へ土 <sup>ニ</sup> ですわる鷹の規模	タカ	鷹
	3	棒鶏 <sup>ニ</sup> で関を越たハ和漢の智	ニワトリ	鶏
	3	恋の道さまたげはせぬ土師の鶏	ニワトリ	鶏
	4	鴛鴦は水に羅綾の裾を引	オシドリ	鴛鴦
	4	鸚鵡の返し口真似も出来バこそ	オウム	鸚鵡
	4	去られてく女房からまる猫に愚智	ネコ	猫
	4	ニ <sup>ツ</sup> 巴に水鳥のちわ狂ひ	ミズドリ	水鳥
	5	善も子の愛から起る放し鳥	トリ	鳥
	5	楠へ鷺ハテナおやハテナ	キツツキ	鷺
	5	蛤も茄子も鰹も焼ば鳥	トリ	鳥
	5	蛤も茄子も鰹も焼ば鳥	カツオ	鰹
	5	蛤も茄子も鰹も焼ば鳥	ハマグリ	蛤
	5	泥亀うぬ惚 <sup>レ</sup> おれだ <sup>ツ</sup> て月だ <sup>ツ</sup> て	スッポン	泥亀
	5	持荷付 <sup>キ</sup> 蜻蛉飛得ぬ棹の先	トンボ	蜻蛉
	5	か <sup>ラ</sup> らねへ晩と夜鷹ハ河岸を替 <sup>エ</sup>	ヨタカ	夜鷹
	5	鼻眉毛鬢 <sup>ニ</sup> 取り置に夜鷹付 <sup>ケ</sup>	ヨタカ	夜鷹
	6	雑兵は船虫と成る壇の浦	フナムシ	船虫
	7	松山ハ昔千鳥のないた所	チドリ	千鳥
	7	小作りな夜鷹六十迄嶋田	ヨタカ	夜鷹
	7	唾の子に鸚鵡喰せる親ご <sup>ラ</sup> ろ	オウム	鸚鵡
	7	鶺鴒を見ておつ立つふた柱	セキレイ	鶺鴒
	8	御官服召 <sup>ス</sup> 日は空を鶴が舞 <sup>ヒ</sup>	ツル	鶴
	8	奥山の紅葉文武の猿 <sup>ノ</sup> 猿	サル	猿
	8	景親も <sup>ト</sup> ハ思ふ内鳩が <sup>ヒ</sup> ヒョイ	ハト	鳩
	8	牛に迄世事も織女の夫マ思ひ	ウシ	牛
	8	猿飛で <sup>一</sup> 枝青 <sup>ニ</sup> 雪の松	サル	猿
	8	二疋めハ子 <sup>ニ</sup> ねだられる放し鳥	トリ	鳥
	9	こぼれ萩程雨落のし <sup>ニ</sup> み殻	シジミ	し <sup>ニ</sup> み
	9	大奥へ籠で乗込きりくす	キリギリス	きりくす
	9	マツムシの籠へ琴柱 <sup>ニ</sup> 餌を狭み	マツムシ	松虫
	9	雨の鶏つのひよふへの首かげん	ニワトリ	鶏
	9	立客をしばし押へ <sup>ス</sup> 鷹の爪	タカ	鷹
	9	こまつたぢや身ども熊の脳持参せぬ	クマ	熊
	9	物着星いつそ氣にする猿の親	サル	猿
	9	袋蜘蛛立 <sup>テ</sup> 灸入用と見へ	クモ	蜘蛛
	10	牛だの馬だの鳴だのと茄子変化	ウシ	牛
	10	牛だの馬だの鳴だのと茄子変化	ウマ	馬

	10	牛だの馬だの鴨だのと茄子変化	シギ	鴨
	10	かつぐとんぼで喰っている旅の蜘蛛	クモ	蜘蛛
	10	かつぐとんぼで喰っている旅の蜘蛛	トンボ	とんぼ
	10	とぼえた鼻十五夜に高鼻	フクロウ	鼻
	11	百足旅立 <sup>テサア</sup> 事だ足袋脚絆	ムカデ	百足
	11	虱の本店背筋町上ル所	シラミ	虱
	11	夜鷹の道中波銭の六文字	ヨタカ	夜鷹
	11	犬も尻 <sup>ツ</sup> 尾をふり損ハ絵の具皿	イヌ	犬
	12	曾てなし虱取目に豕 <sup>ツ</sup> 花	シラミ	虱
	12	曾てなし虱取目に豕 <sup>ツ</sup> 花	ブタ	豕
	12	美な夜鷹おり助部屋を傾 <sup>ム</sup> ける	ヨタカ	夜鷹
	12	其時の女の形ハく <sup>ツ</sup> 猿	サル	猿
	12	毛虱の曰 <sup>ツ</sup> 素人のが味ひ	シラミ	虱
	12	取 <sup>ツ</sup> た蛍に蠅てうのかし座舗	ホタル	蛍
	12	取 <sup>ツ</sup> た蛍に蠅てうのかし座舗	ハエ	蠅
	12	聾 <sup>ツ</sup> ハ鶏の欠ひで時を知り	ニワトリ	鶏
	13	口でチウク蛸かいな味しのよさ	タコ	蛸
	13	夜鷹の面ラへ的(敵)葉ハさへた月	ヨタカ	夜鷹
	13	毛虱も鼻つまんでるくさい下女	シラミ	虱
	13	象の寝た風情に雪の竹生嶋	ゾウ	象
	14	松虫は六部鈴むし五丁町	スズムシ	鈴虫
	14	松虫は六部鈴むし五丁町	マツムシ	松虫
	14	木枯らしに落葉の光るほたる沢	ホタル	ほたる
	14	蚊の焼打ハ平野屋の廻し部屋	カ	蚊
	14	鐘楼の蜂の素こんとつきやわんと立	ハチ	蜂
	15	馬鹿学者貳歩が蛍でまだくらい	ホタル	蛍
	15	寝むるとき蝶ハ着ものを袖置	チョウ	蝶
	16	鼻息に虫の音も有持参金	ムシ	虫
	16	猿曳の子ハやつかんで跡を追イ	サル	猿
	16	秋の蠅とろ <sup>ツ</sup> で足を引 <sup>ツ</sup> くじき	ハエ	蠅
	17	加賀絹の二布へ蛇ハむぐり込	ヘビ	蛇
	17	覺寿程鶏を苦にするもてた晩	ニワトリ	鶏
	17	<sup>ヒヤリ</sup> ぶたれて礼をいふ天窓の蚊	カ	蚊
	17	友狐御在穴 <sup>ツ</sup> 敷と遊びに来	キツネ	狐
	18	蚊に喰れ虎に喰われぬ孝の徳	カ	蚊
	18	蚊に喰れ虎に喰われぬ孝の徳	トラ	虎
	18	孝の徳しとふ白象 <sup>ツ</sup> 逃る虎	ゾウ	象
	18	孝の徳しとふ白象 <sup>ツ</sup> 逃る虎	トラ	虎
	19	七賢ンの衣服雀の屎だらけ	スズメ	雀
	19	猿の惣領十本穂毛が足らず	サル	猿
	19	まいらぬハなしと鱒へらず口	イワシ	鱒
	19	鼻屎に蝙蝠の出る留舎那仏	コウモリ	蝙蝠
	19	逆上烏賊鼻墨が出てなりません	イカ	烏賊
	19	獅子しんちうを火鉢たと下女思ひ	シシ	獅子
	20	助言なら碁盤の裏に蜘蛛の首	クモ	蜘蛛
	20	月に蜘蛛の巢霞立ツ石燈籠	クモ	蜘蛛
	21	胴穴に熊籠にからず猫	クマ	熊
	21	胴穴に熊籠にからず猫	ネコ	猫
	21	屎蠅ハ昼間蛍は夜光り	ホタル	蛍
	21	屎蠅ハ昼間蛍は夜光り	ハエ	蠅

	21	鶺鴒の女房月たから休ミなね	ウ	鶺鴒
	22	御援兵をむしる猿を追ひ	サル	猿
	22	勅詔の鳥で罎の籠を抜ケ	トリ	鳥
	22	殷の臣孔雀を見てもおじ恐レ	クジャク	孔雀
	23	鶴の絵が藁に巢籠る瀬戸物や	ツル	鶴
	23	家鴨の脚絆淡嶋の灸へはき	アヒル	家鴨
	23	おかしさわ鸚鵡も五人扶持ねだり	オウム	鸚鵡
	24	御残念ぱつと世に立ツ濱千鳥	ハマチドリ	濱千鳥
	25	荒磯へ千鳥追込ム小夜嵐	チドリ	千鳥
	26	女仙が術も待人に蝦蟇を折	ガマ	蝦蟇
	27	まけた黒木に這て出る八瀬の虫	ムシ	虫
	27	草の庵下ケた燈籠は虫づくし	ムシ	虫
	27	拝殿に鶏もぬかづくこぼれ米	ニワトリ	鶏
	28	雀には喰へぬ紅葉に附た虫	ムシ	虫
	28	雀には喰へぬ紅葉に附た虫	スズメ	雀
	28	塔の沢長温泉して聞鹿の声	シカ	鹿
	28	するどき早瀬鯖鮎も太刀作り	アユ	鮎
	28	殷の臣孔雀見てもおじ恐れ	クジャク	孔雀
	29	とまり木へ椋鳥並ふ春米屋	ムクドリ	椋鳥
	29	売付る胆は山家の猿の智慧	サル	猿
	29	質草に飛ふかたひらも秋の蝶	チョウ	蝶
	29	長者が丸に沢山なこがね虫	コガネムシ	こがね虫
	29	筏師の小鬢をあわる鶺鴒の羽風	ウ	鶺鴒
	30	草の花蝶の重たきほどたわみ	チョウ	蝶
	31	馬鹿学者二歩が蛍でまだくらい	ホタル	蛍
	31	こふるぎの閑居仁王の土ふまず	コオロギ	こふるぎ
	31	菊の虫朝飯まへに箸をとり	ムシ	虫
	31	栗虫の乳をこふるぎが来て貰ひ	クリムシ	栗虫
	31	栗虫の乳をこふるぎが来て貰ひ	コオロギ	こふるぎ
	32	白鷺ハ首をたゝんで飛仕度	シラサギ	白鷺
	32	小夜更て利休が墓に茶立虫	チャテテムシ	茶立虫
	32	虫の音をばらふに残す馬草刈	ムシ	虫
	32	子の虫に虫を喰せる親心	ムシ	虫
	33	船虫のもやしらしひハじゝい虫	フナムシ	船虫
	33	船虫のもやしらしひハじゝい虫	ジジイムシ	じゝい虫
	33	すくないと百足が笑ふ蛸の足	ムカデ	百足
	33	すくないと百足が笑ふ蛸の足	タコ	蛸
	33	的の絵に安南国の鳥を書キ	トリ	鳥
	33	射落したやう虎猫が蛇を取り	ネコ	猫
	33	射落したやう虎猫が蛇を取り	ヘビ	蛇
	33	鷺艸を鯀ふむ身の竹草履	ドジョウ	鯀
	33	八年目猿が見にくる柿の庭	サル	猿
	34	いか栗て鼠をふせくけちな蔵	ネズミ	鼠
	34	旅衣西行こまるあづま虫	アズマムシ	あづま虫
	34	のこる蚊の昼住居する釣し蓑	カ	蚊
	34	道中ハ鶺鴒だとむぐつて宿をとり	ウ	鶺鴒
	34	くひりと鶺鴒を真似困てる勘左衛門	ウ	鶺鴒
	34	虫の音に足音盗みくゆき	ムシ	虫
	34	身籠りし鹿ハ酸草を尋てる	シカ	鹿
	35	眠る時蝶ハ着物を袖だゝみ	チョウ	蝶

	35	馬鹿鳶ふのりだ物を驚つかみ	トンビ	トンビ
	36	糸り元に付て蜻蛉つるんでる	トンボ	蜻蛉
	36	さいかち虫に手を突せばつた逃ヶ	カブトムシ	さいかち虫
	36	すかしても枯野あふなき駄(駝)鳥の屁	ダチョウ	駄鳥
	36	御守殿の年明キ味ヲハ秋鯉	カツオ	鯉
	36	流星のやうに駄(駝)鳥のくだり腹	ダチョウ	駄鳥
	37	猿曰ッかさひハ類の白ィやつ	サル	猿
	37	進退速極なれた夜鷹買	ヨタカ	夜鷹
	37	のら出合蜂にさゝれて泣わかれ	ハチ	蜂
	37	なめくじと思や夜這の逃た跡	ナメクジ	なめくじ
	37	鯉の胆苦きを耳で御聞分	コイ	鯉
	38	御歌一首に舌を巻土師の鶏	ニワトリ	鶏
	38	文にかしこく武をしめす磯千鳥	チドリ	磯千鳥
	38	猿がなくなり戸を建ぬ御代となり	サル	猿
	38	色鳥も渡る呉羽の祭りどき	イロドリ	色鳥
	38	鳶を好む義之より鷹で果た武士	ガチョウ	鳶
	38	鳶を好む義之より鷹で果た武士	タカ	鷹
	38	月蛍文武で啼た和歌の妙	ホタル	蛍
	38	鴨が書ても短のない海道記	カモ	鴨
	38	虫にさわつた御柱も菅原や	ムシ	虫
	38	邪の道を蛇で言せる加賀の国	ヘビ	蛇
	39	鶴放す手際も鳩の恩がへし	ツル	鶴
	39	鶴放す手際も鳩の恩がへし	ハト	鳩
	39	小督が庵に忍ひ音の響むし	クツワムシ	響むし
	39	苦き意味有て忠臣鯉を喰	コイ	鯉
	40	千里余は遠く遊ばぬ孝の虎	トラ	虎